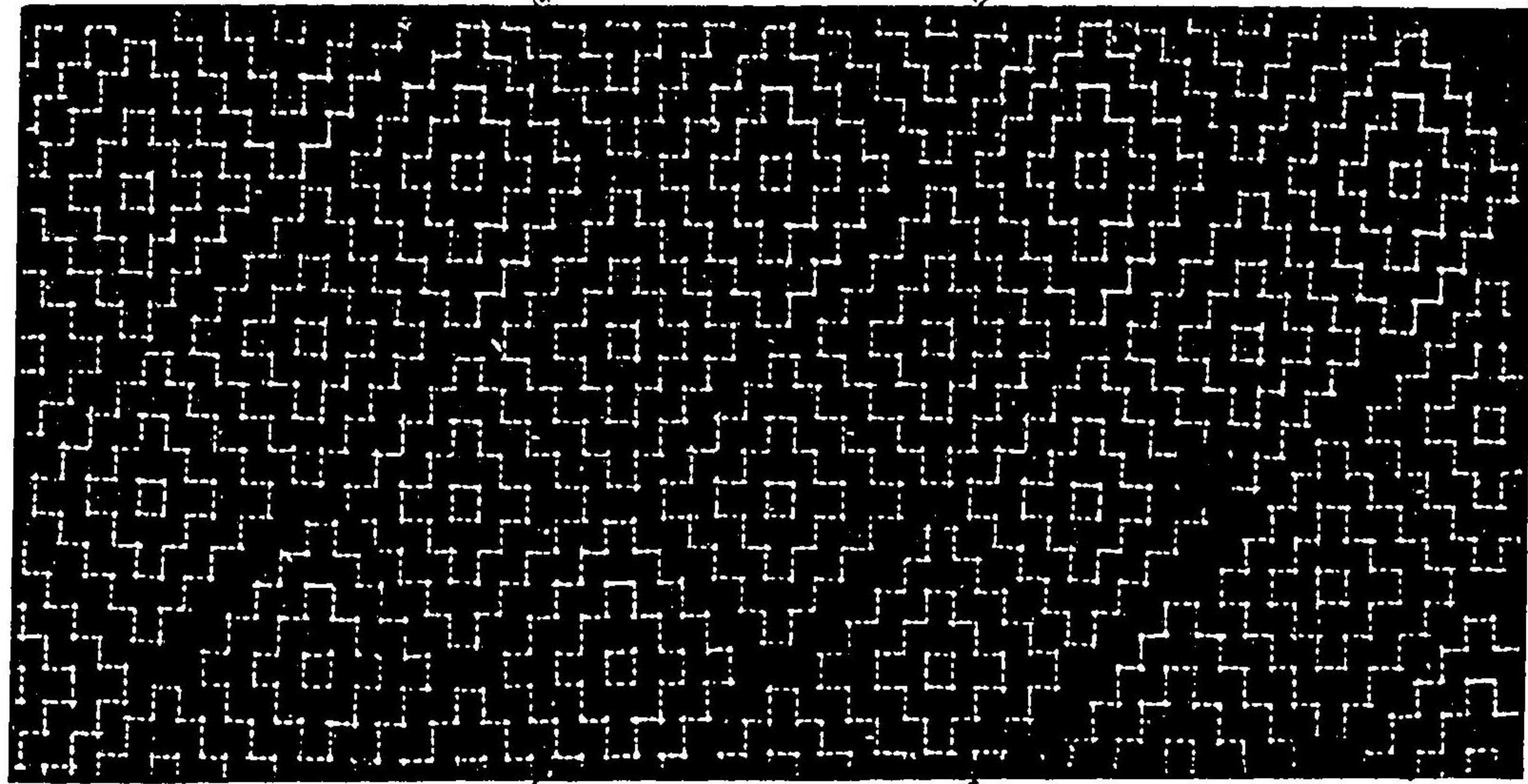
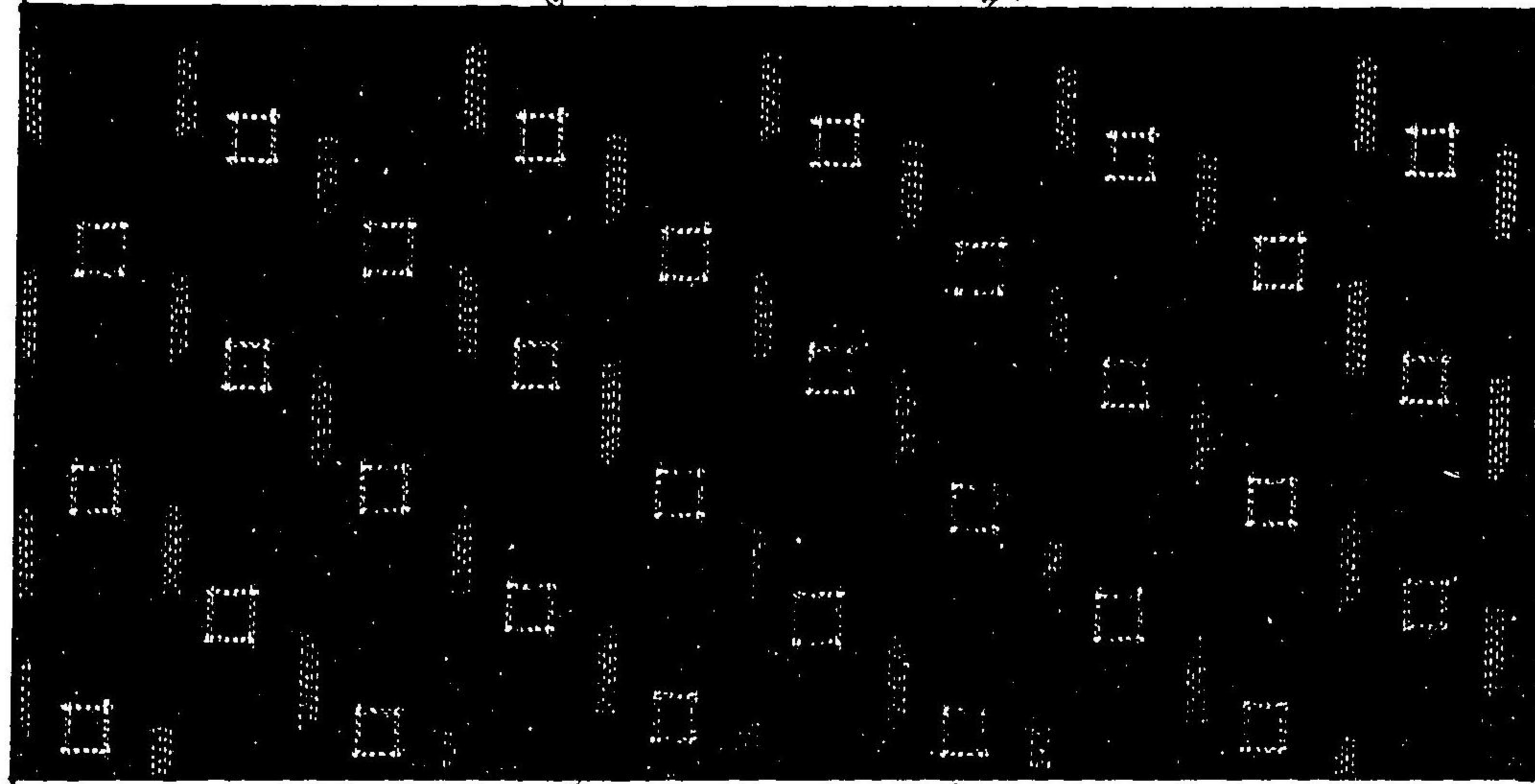


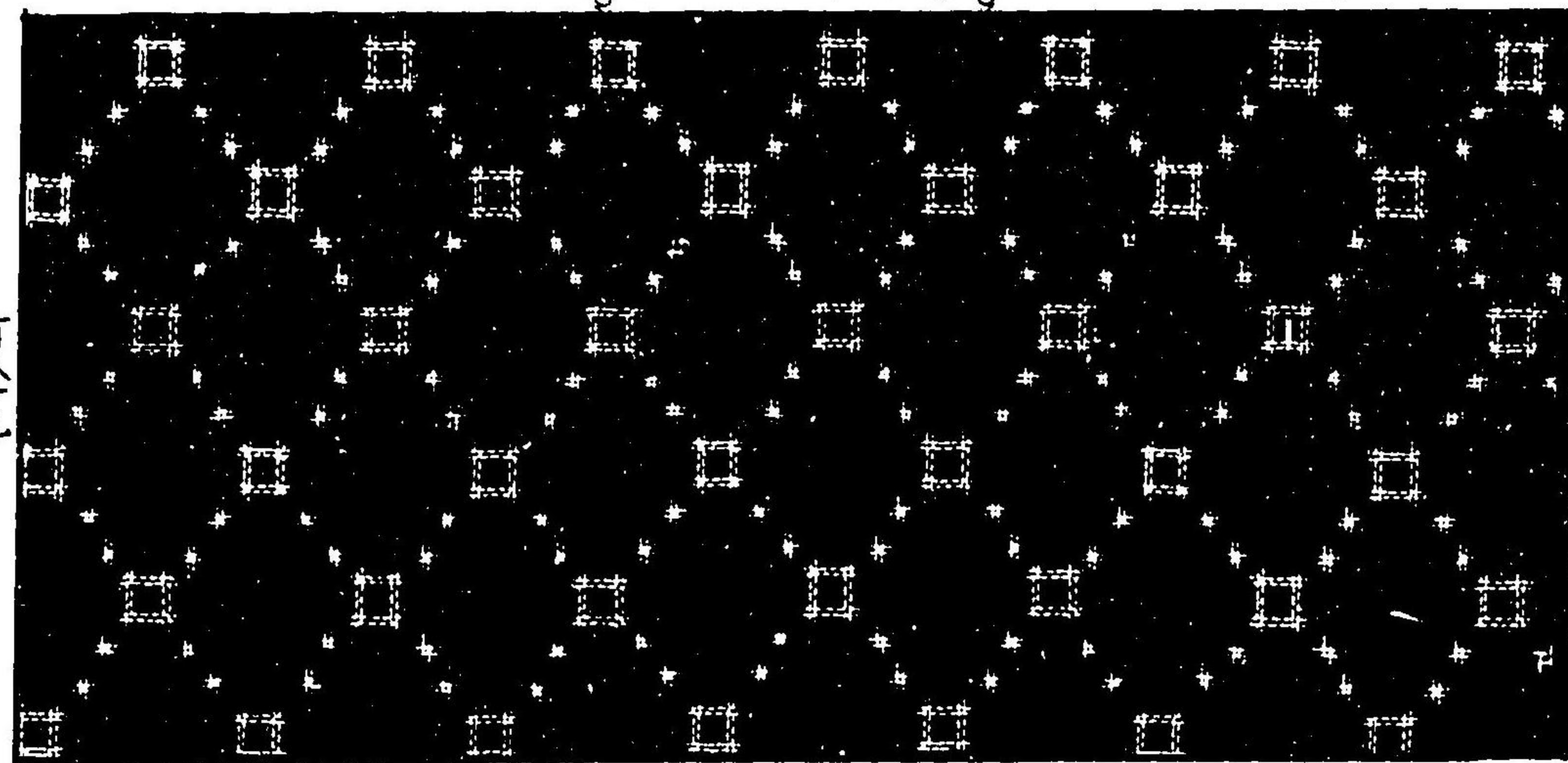
伊勢崎織 第四百四十八號



近江麻絲 第四百四十九號

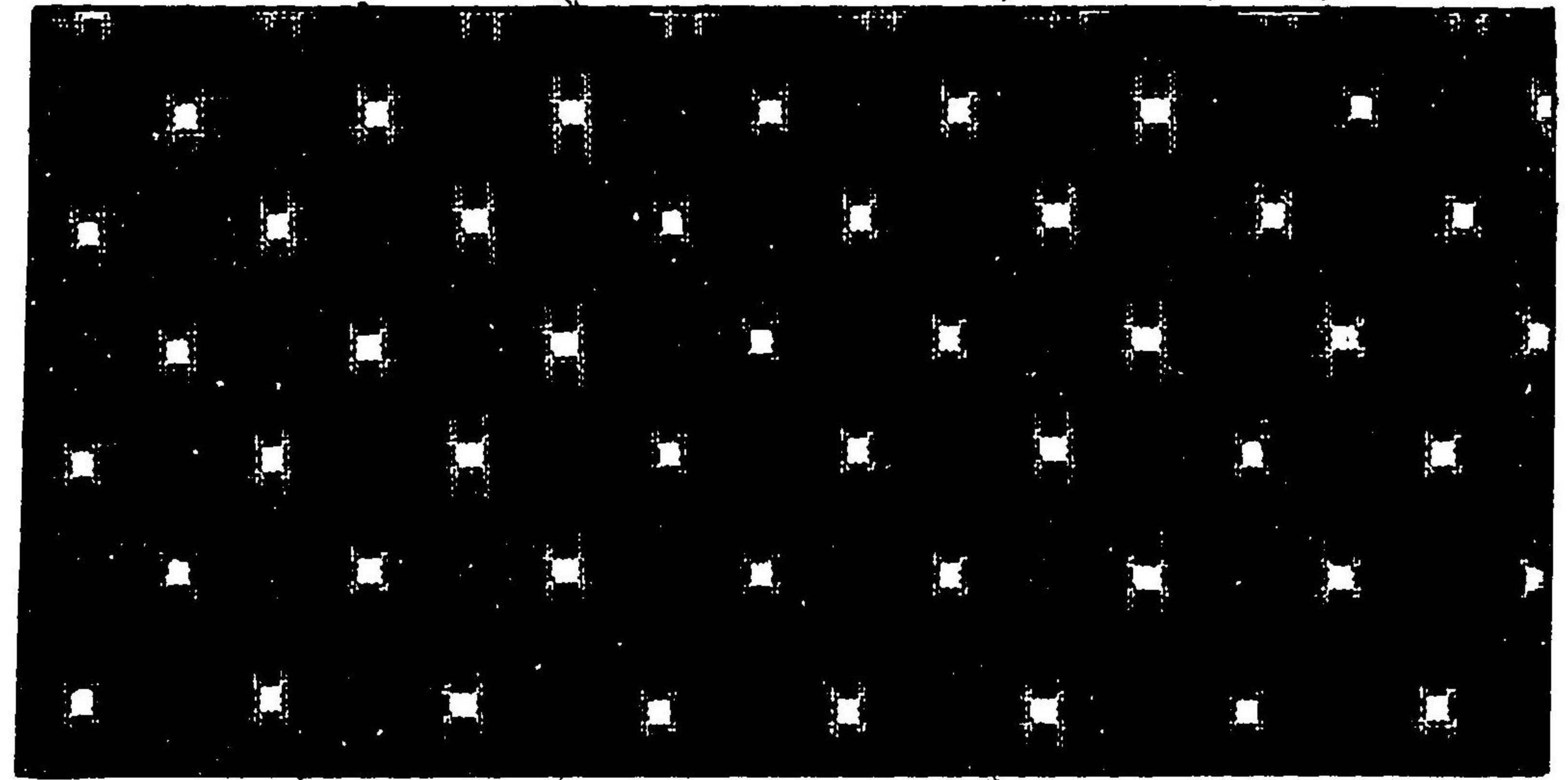


伊豫絲 第四百五十五號

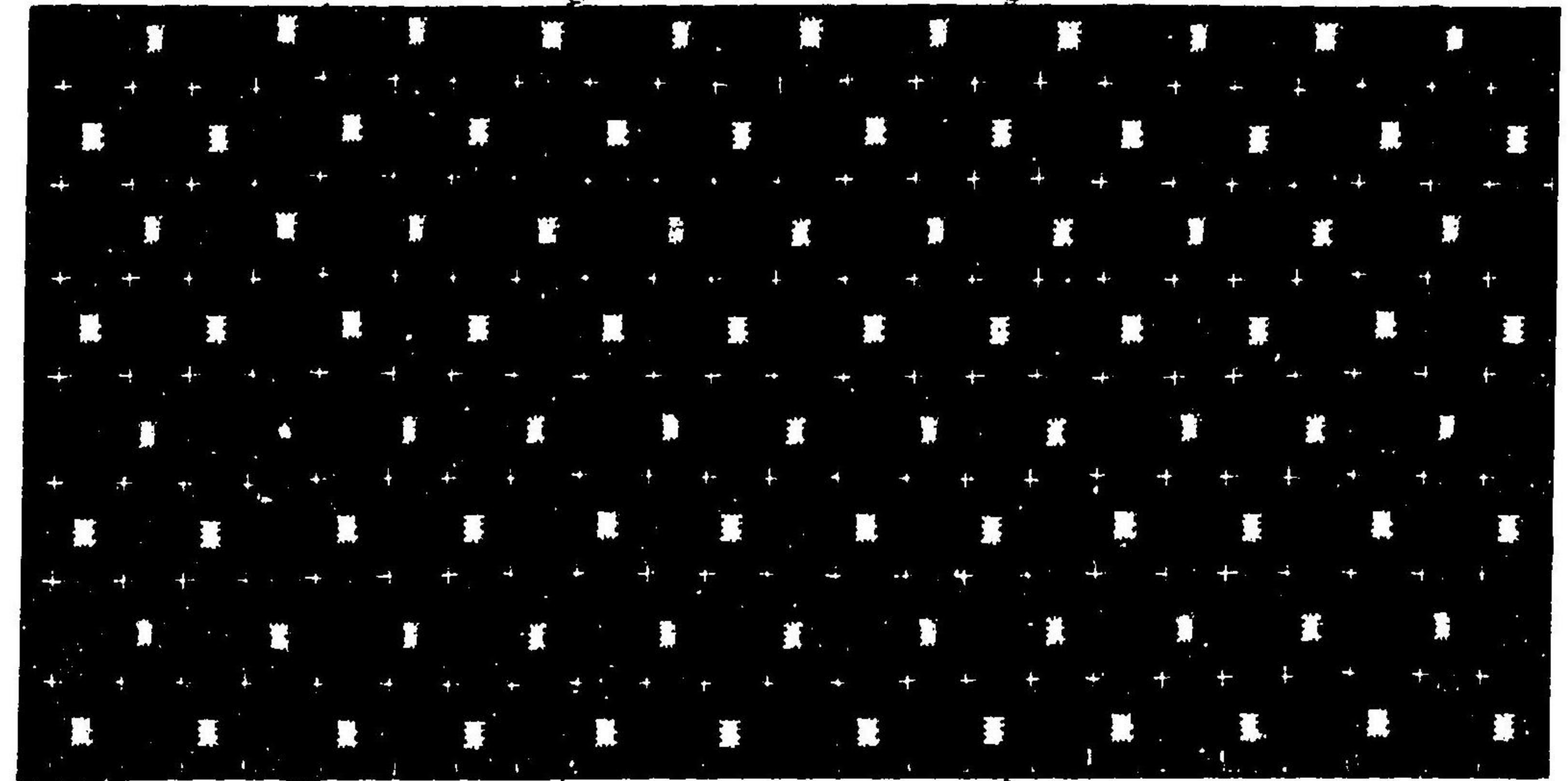


百八十九

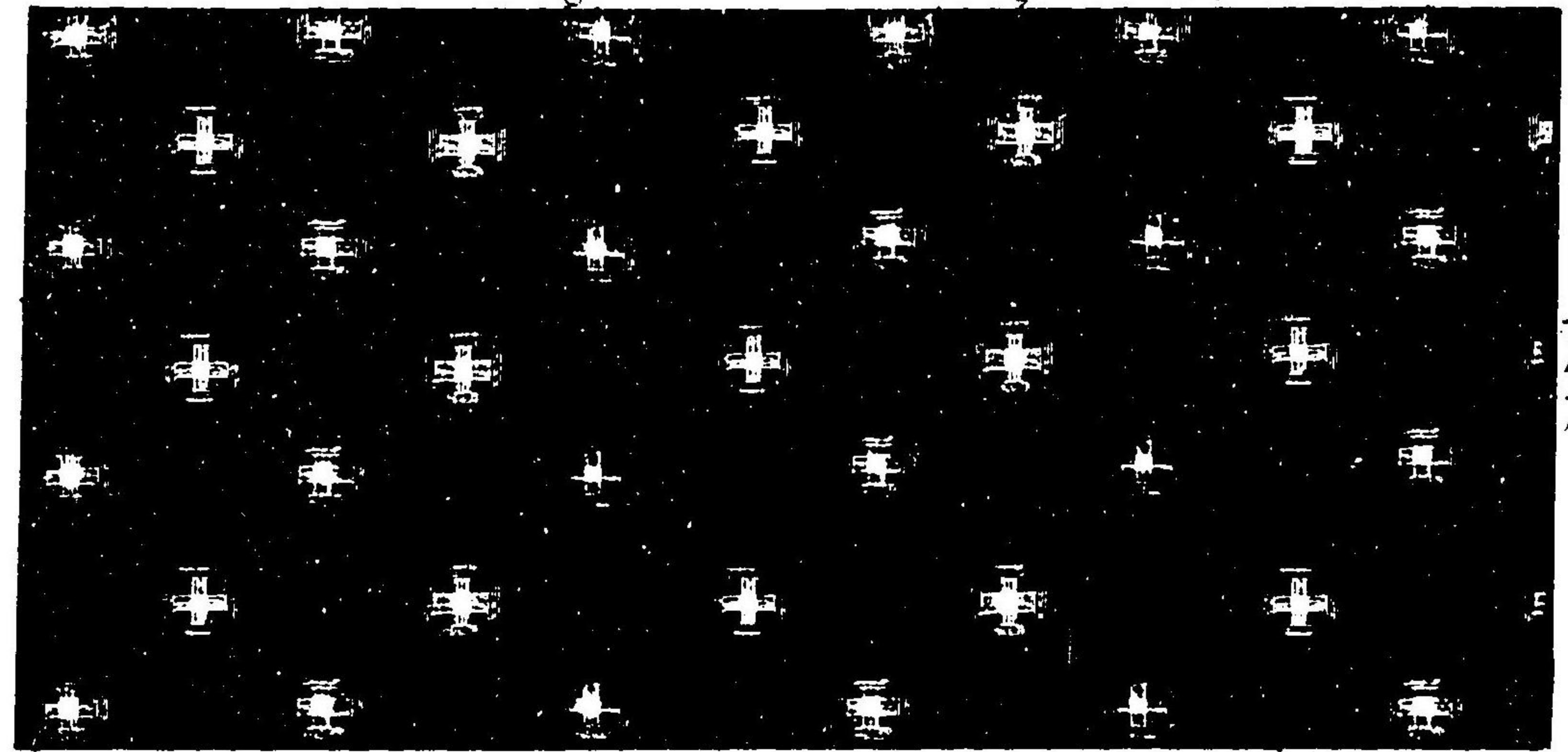
伊豫絲 第四百四十五號



久留米絲 第四百六十六號

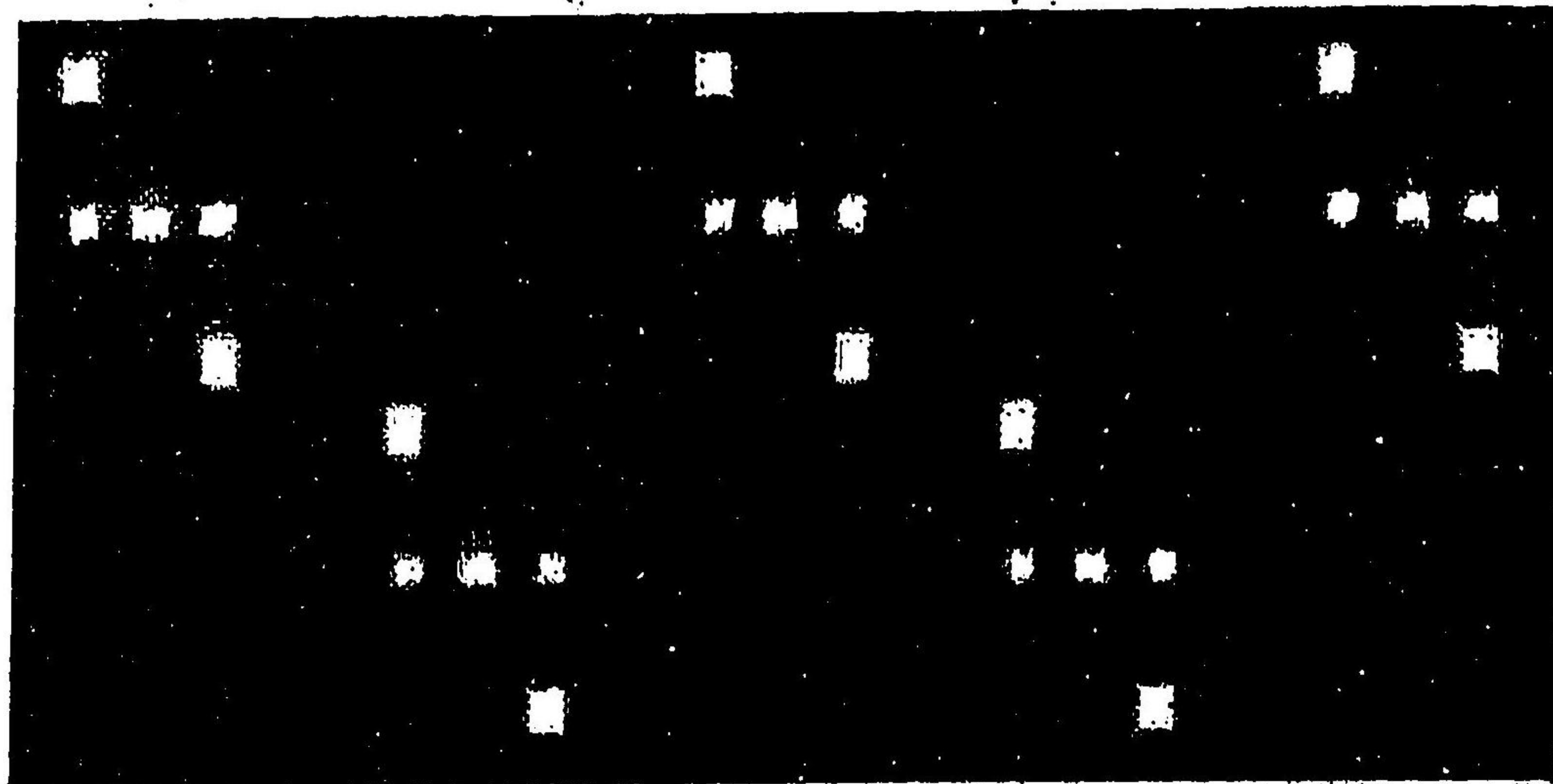


久留米絲 第四百七十四號

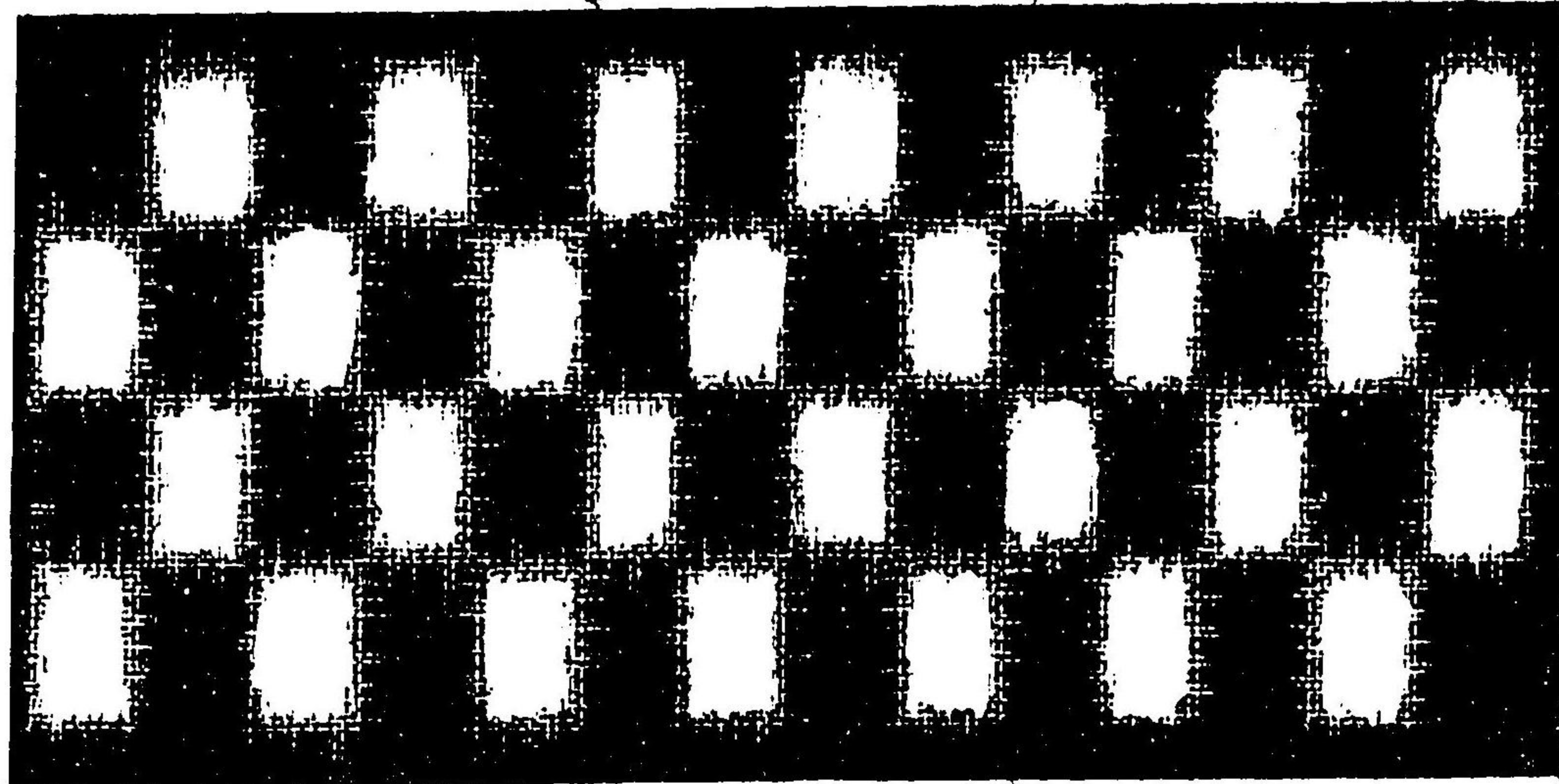


百八十八

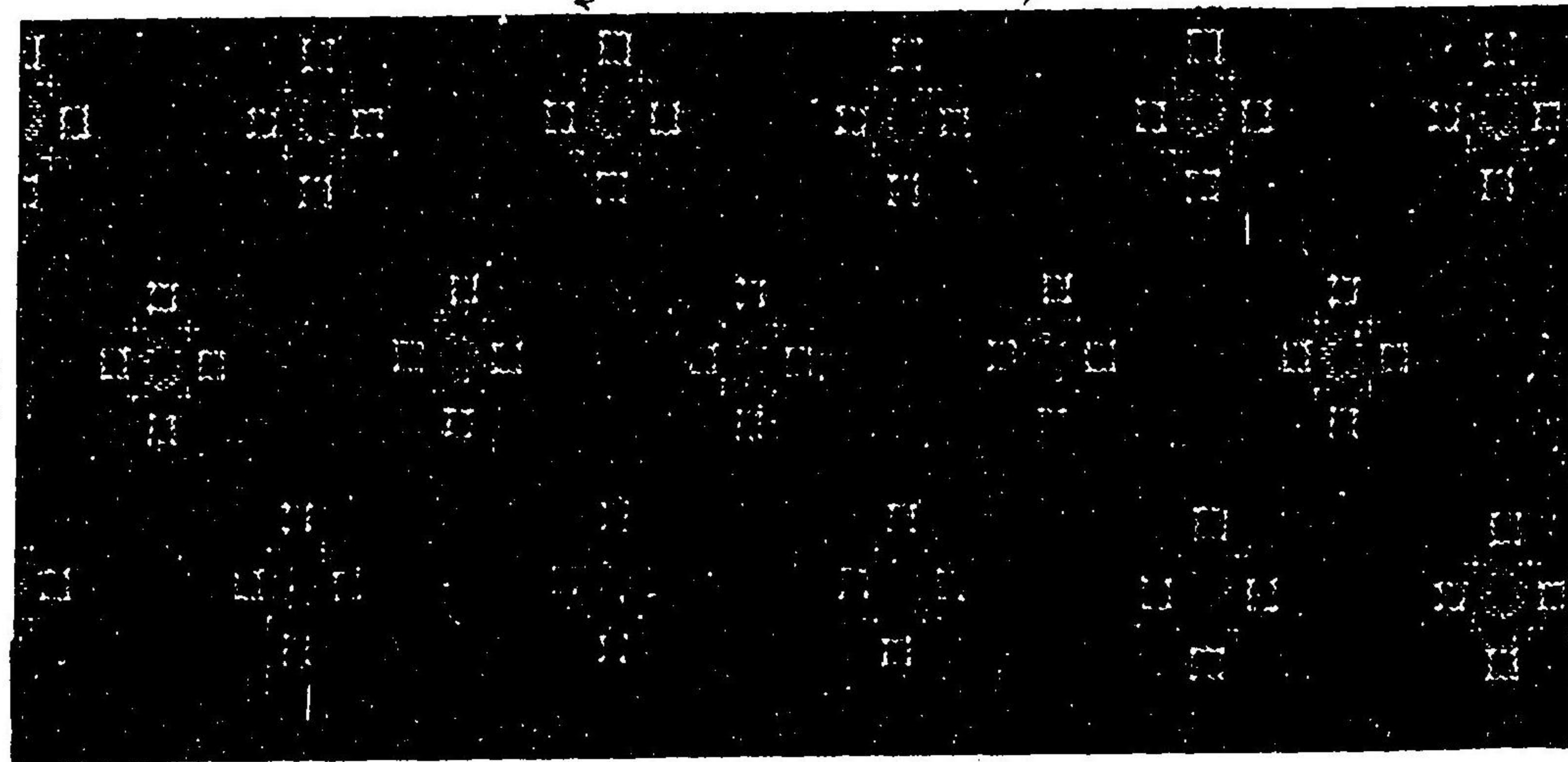
社管式球物織山松市山松 號四十五百四第 (賞等一) 緋豫伊



號五十五百四第 緋摩薩

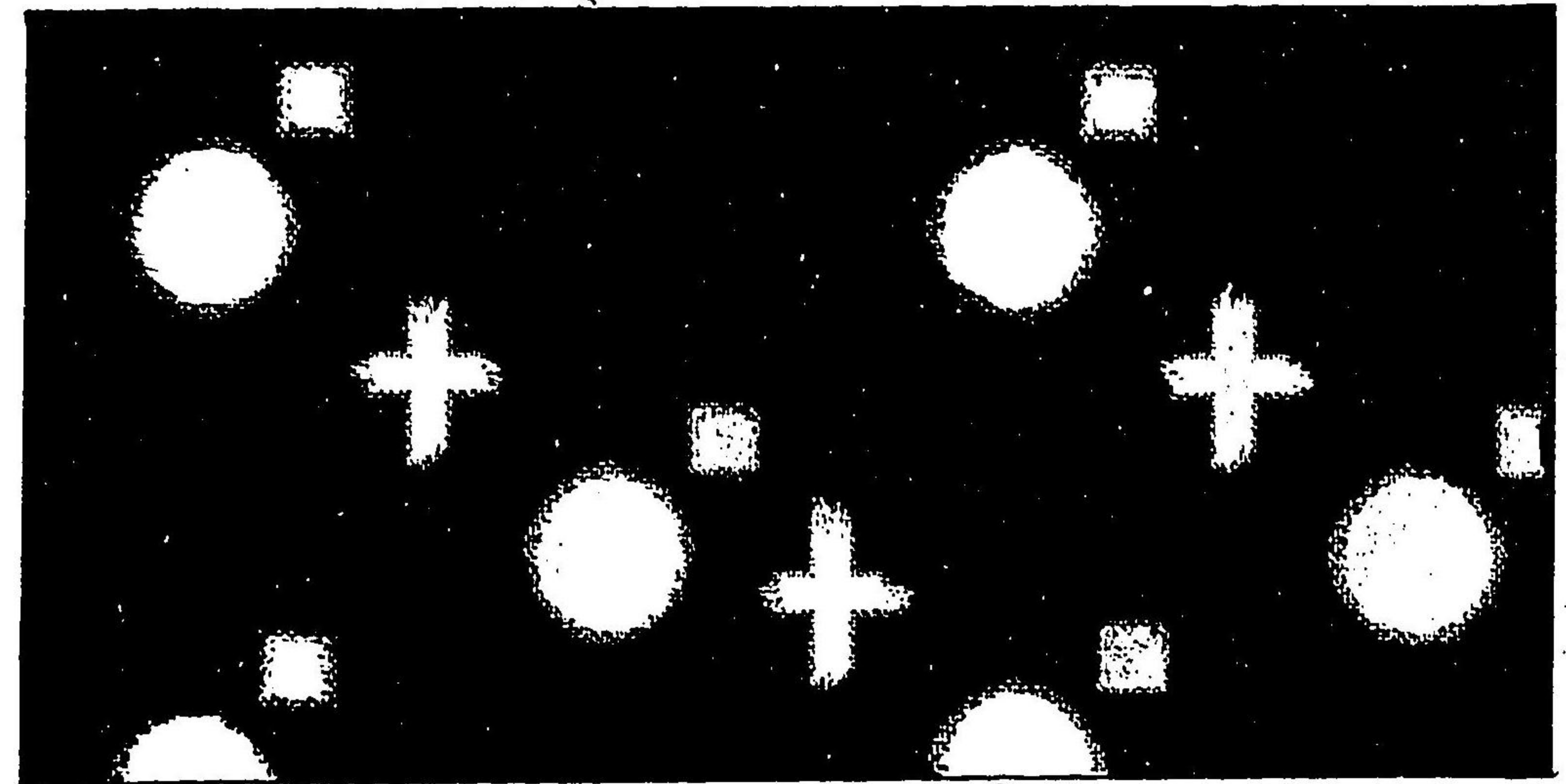


號六十五百四第 緋球琉

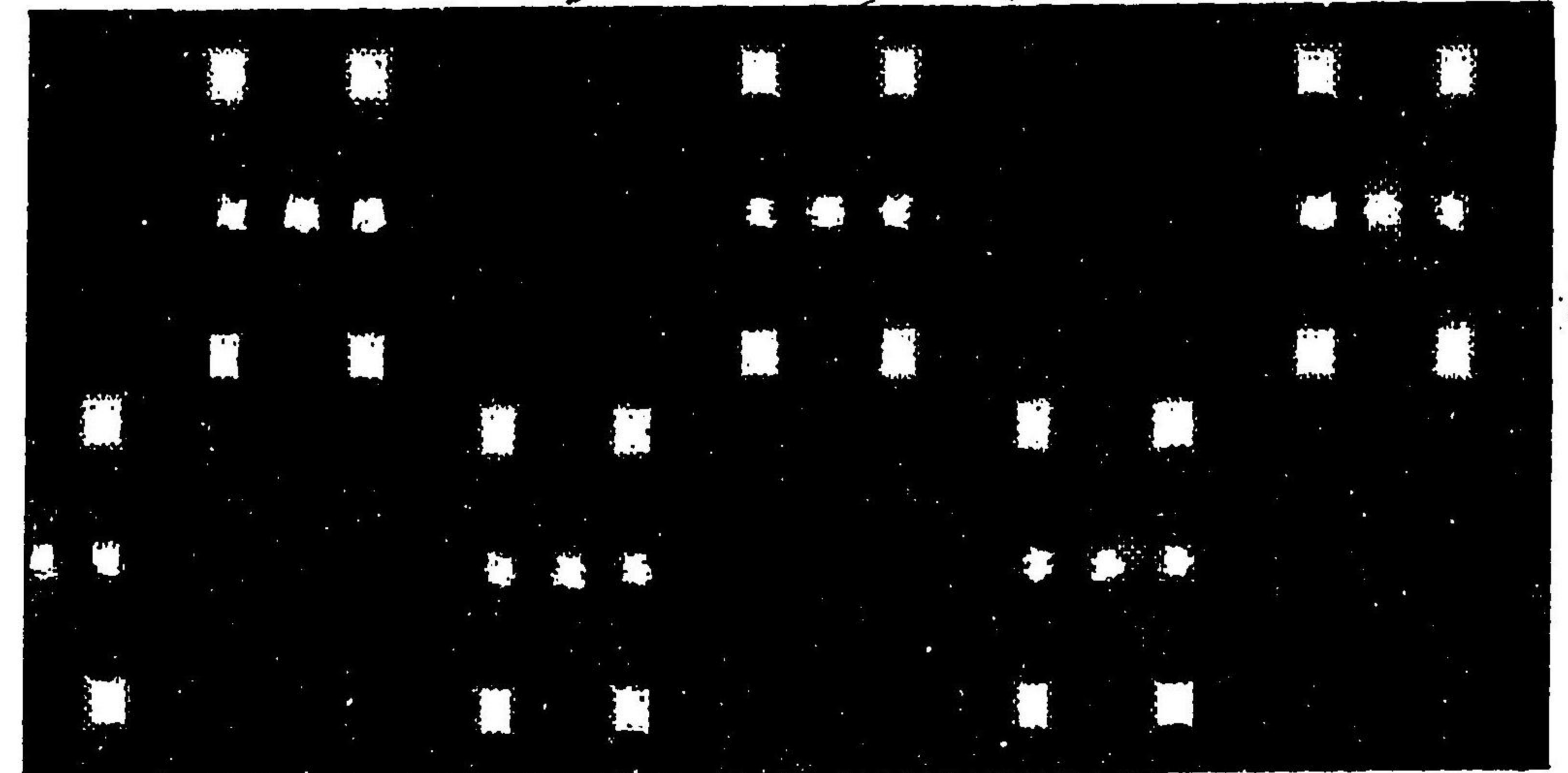


百九十一

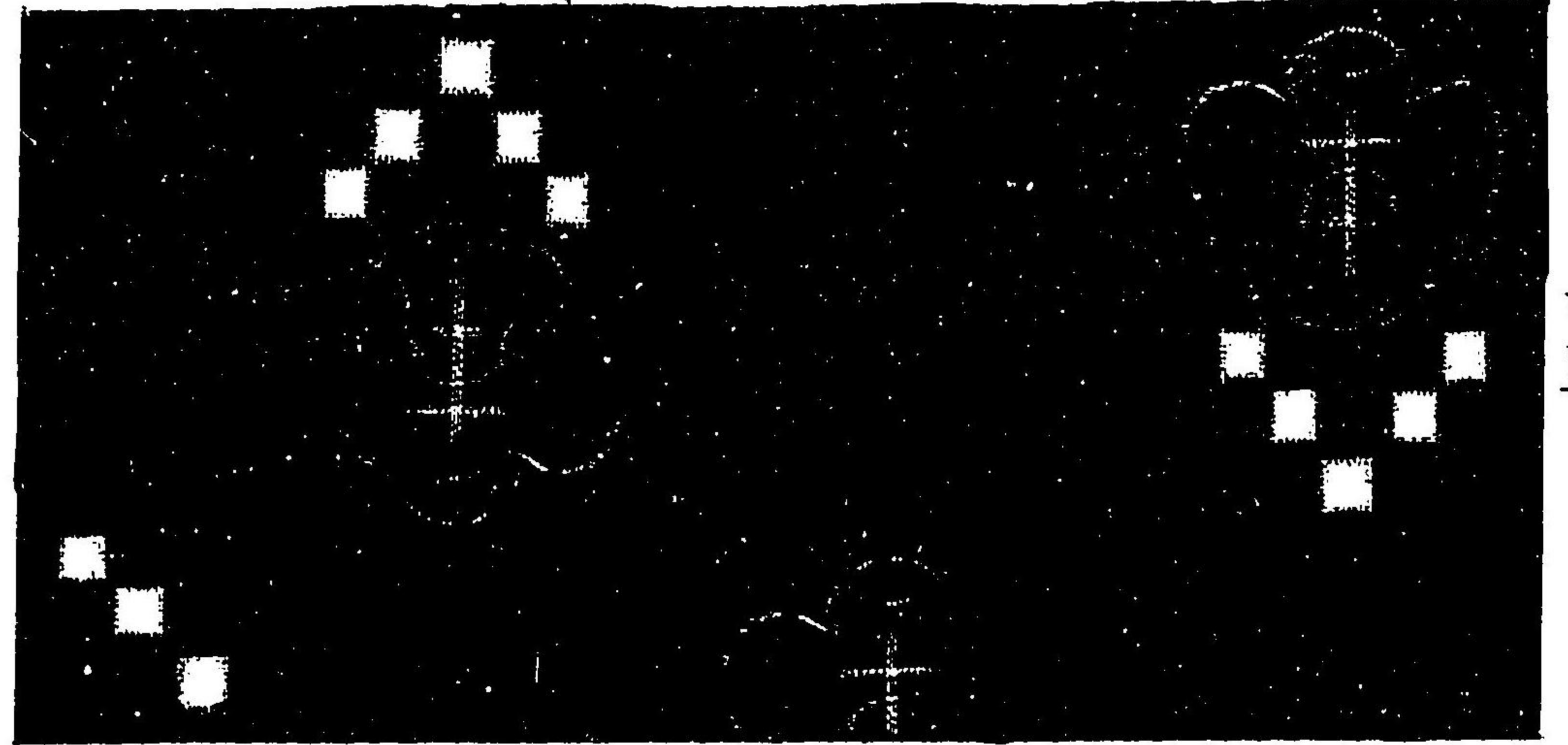
氏吉久西大田黒北郎豫伊 號一十五百四第 (賞等三) 緋豫伊



號二十五百四第 緋摩薩

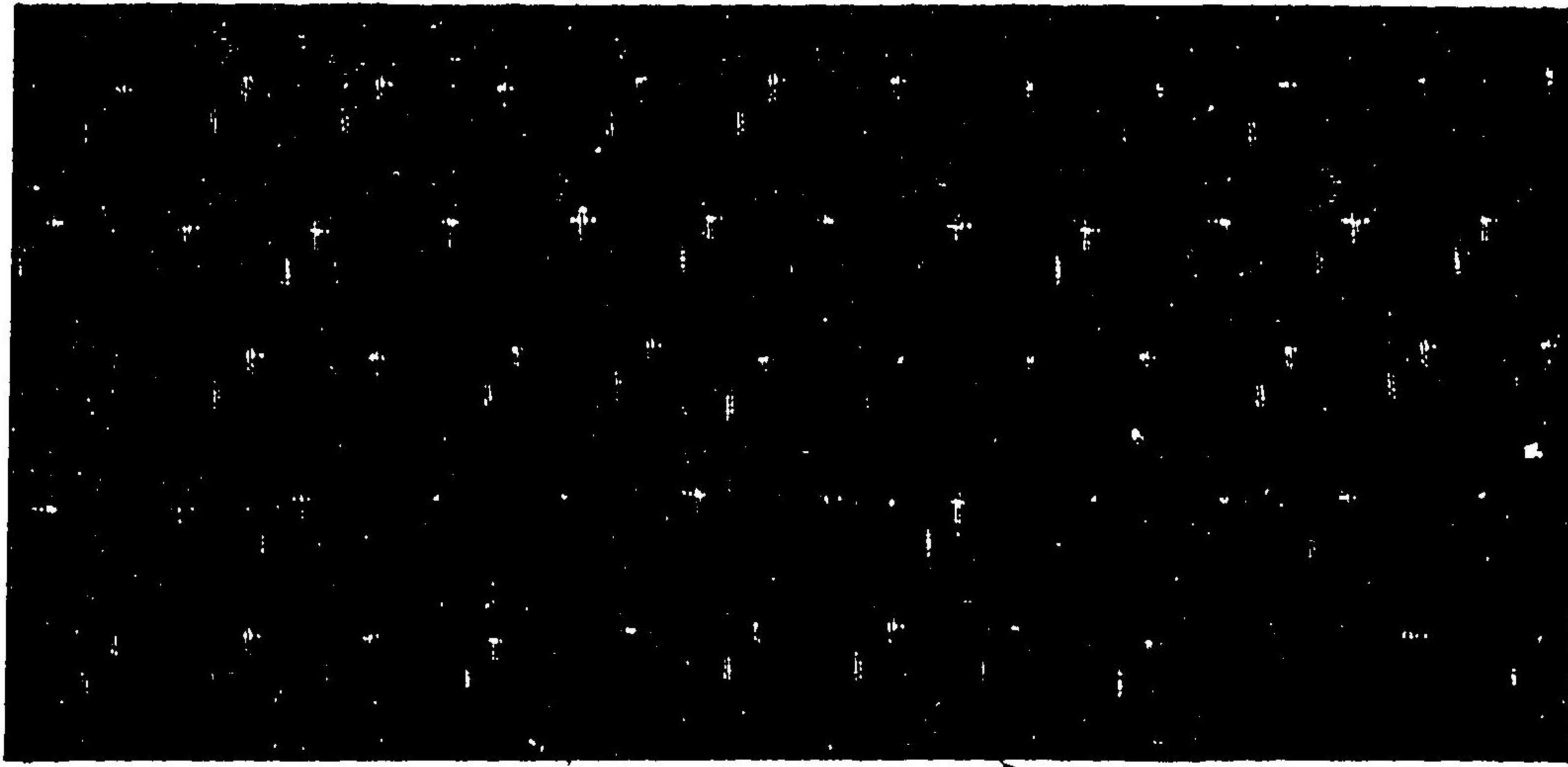


氏吉源田坪村地甘郎好神 號三十二百四第 (狀猥) 緋庫兵

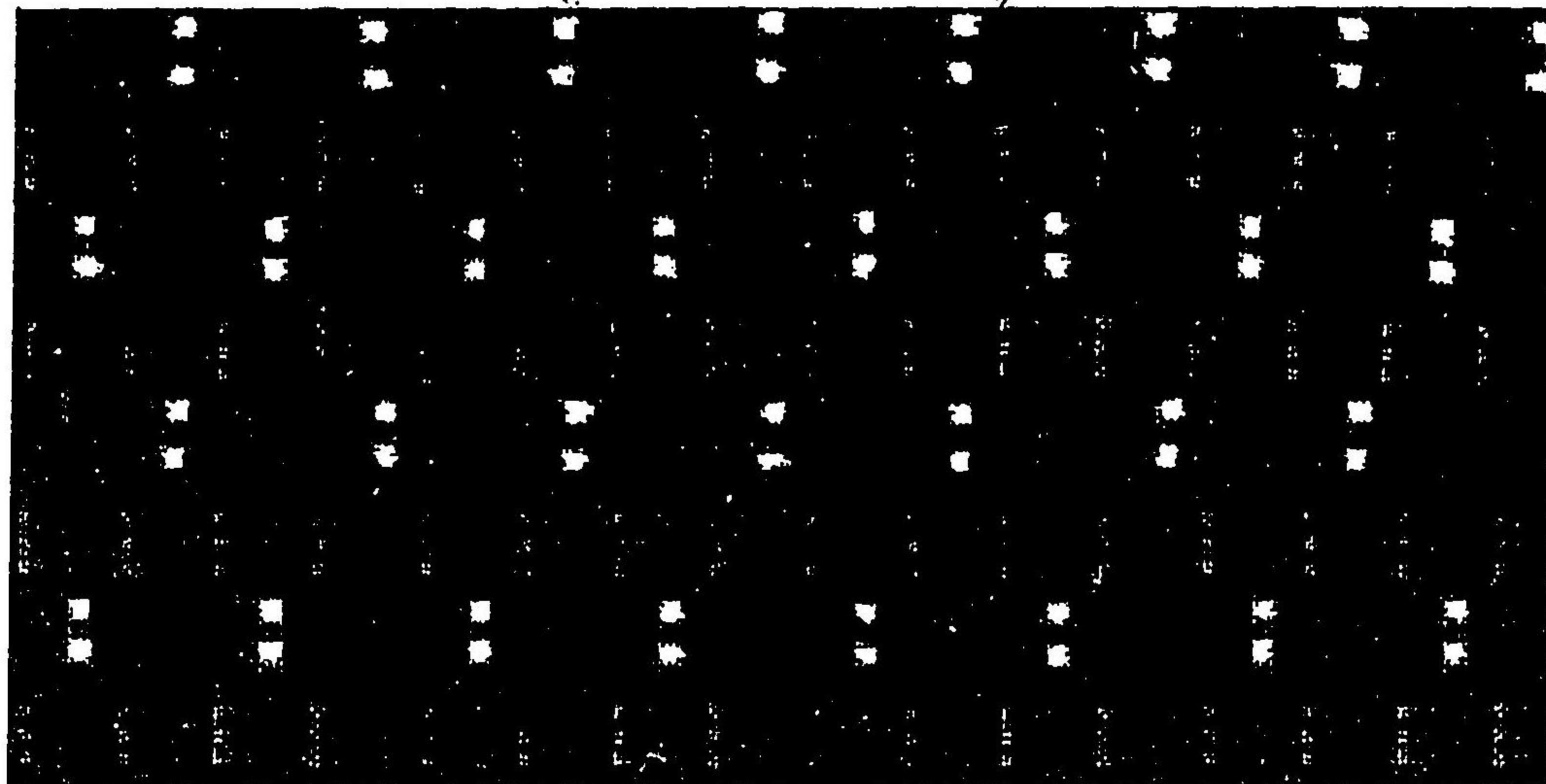


百九十

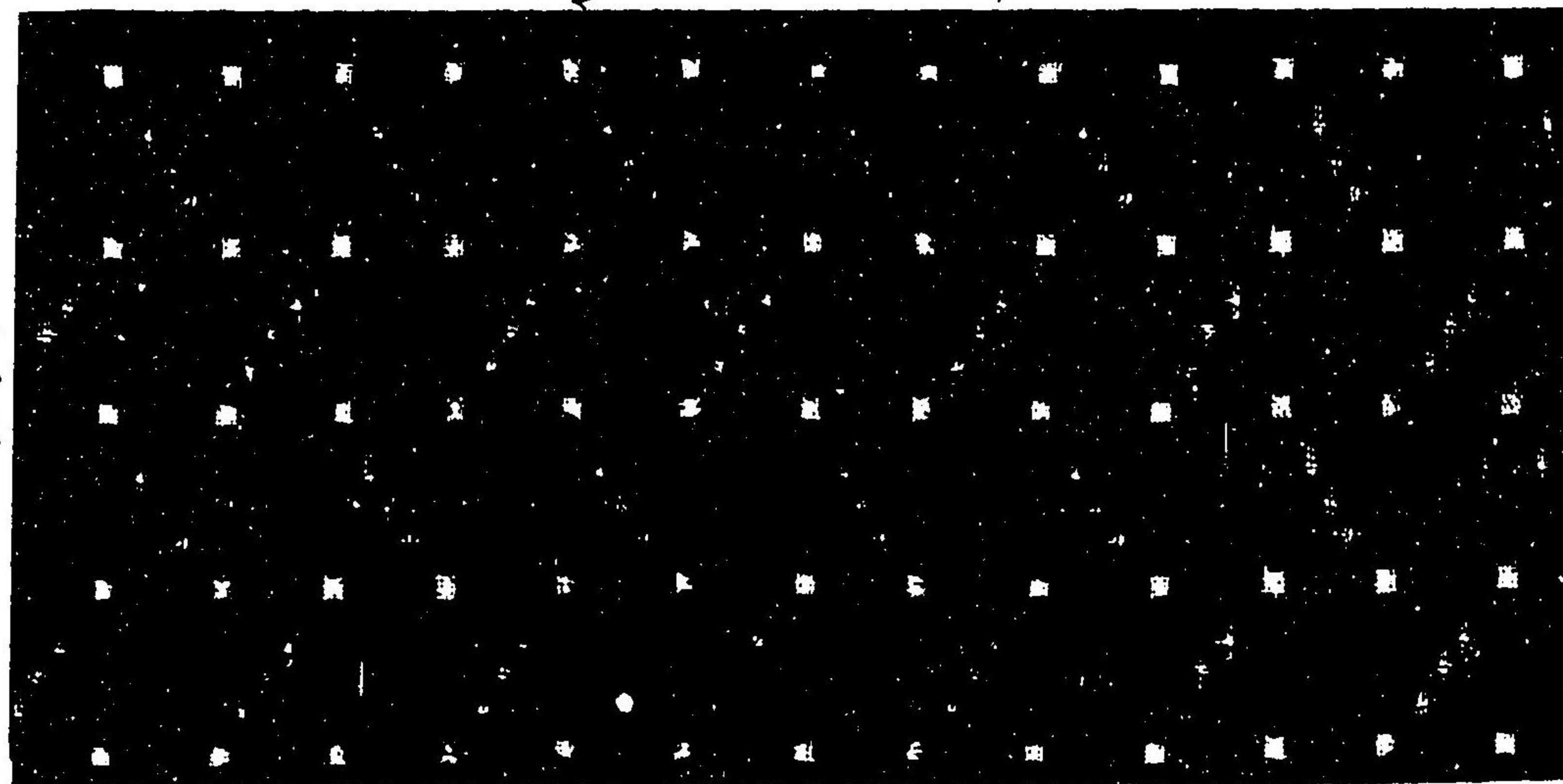
大和緋(賞等貳) 第四百六十六號 御所吉川小七郎



久留米緋(賞等參) 第四百六十一號 八女廣川村阪田二氏

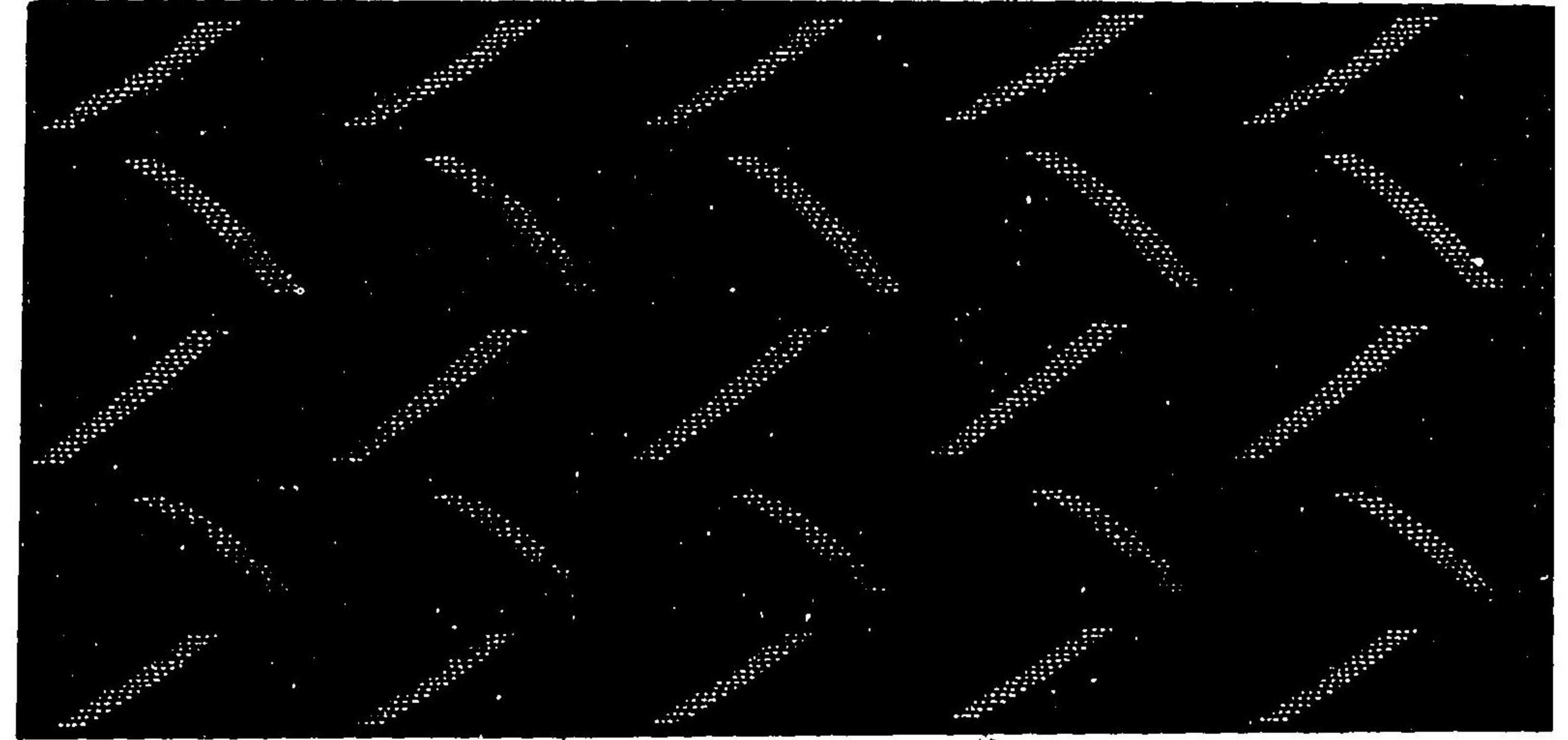


久留米緋(賞等參) 第四百六十二號 三井山川岡大氏



百九十三

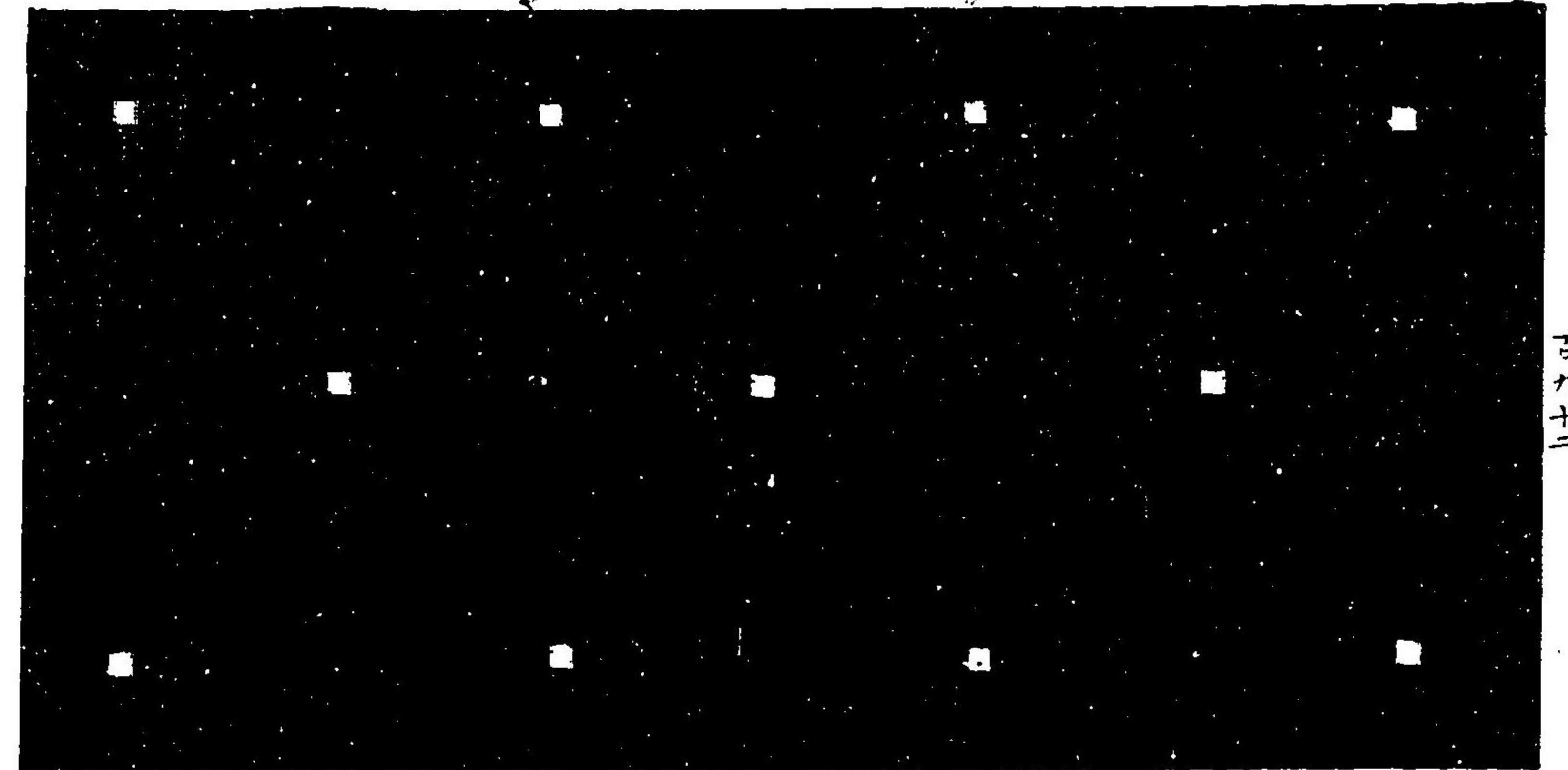
琉球上布 第四百七十五號



伊豫 第四百八十五號

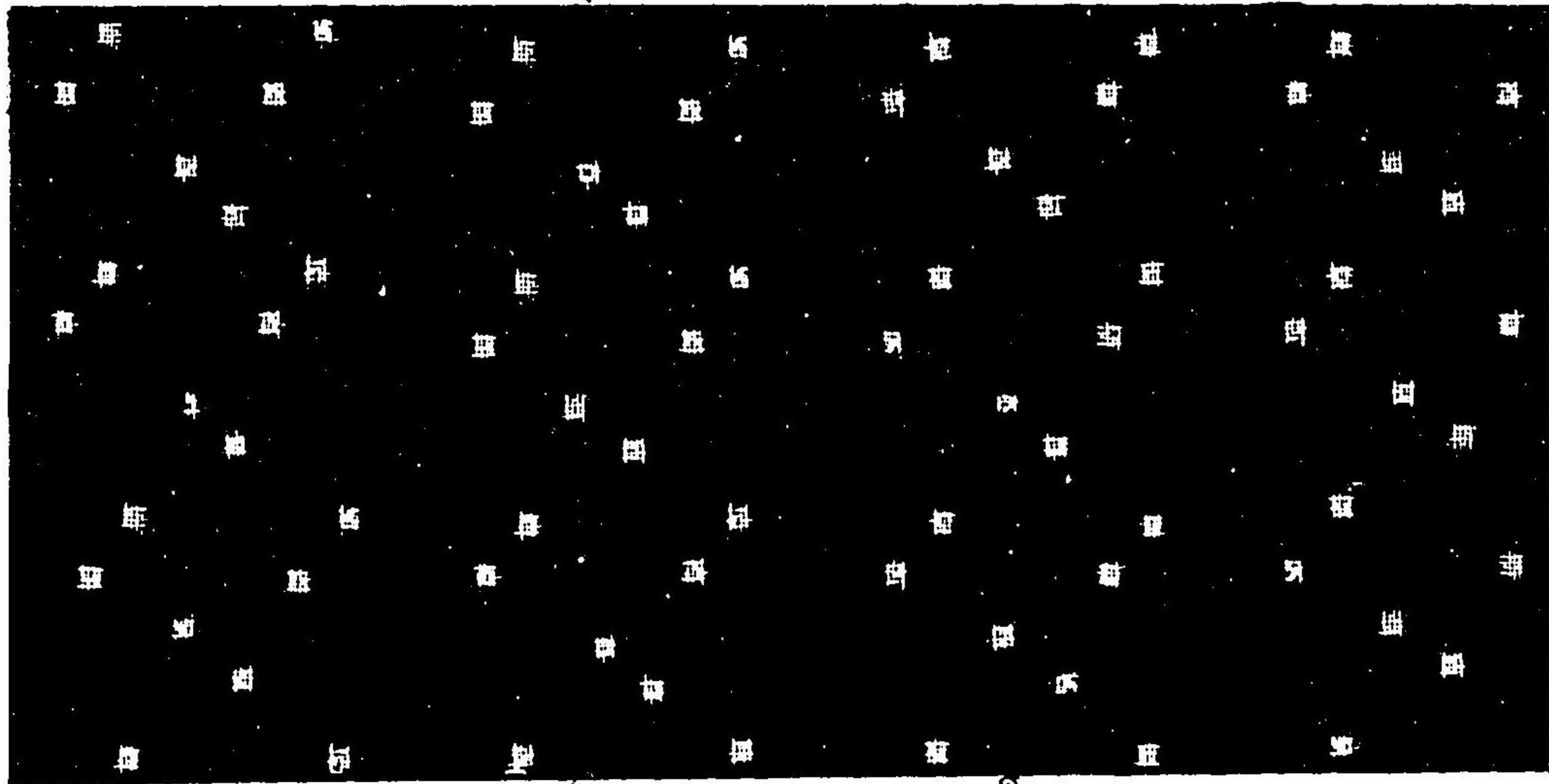


越後上布 第四百九十五號

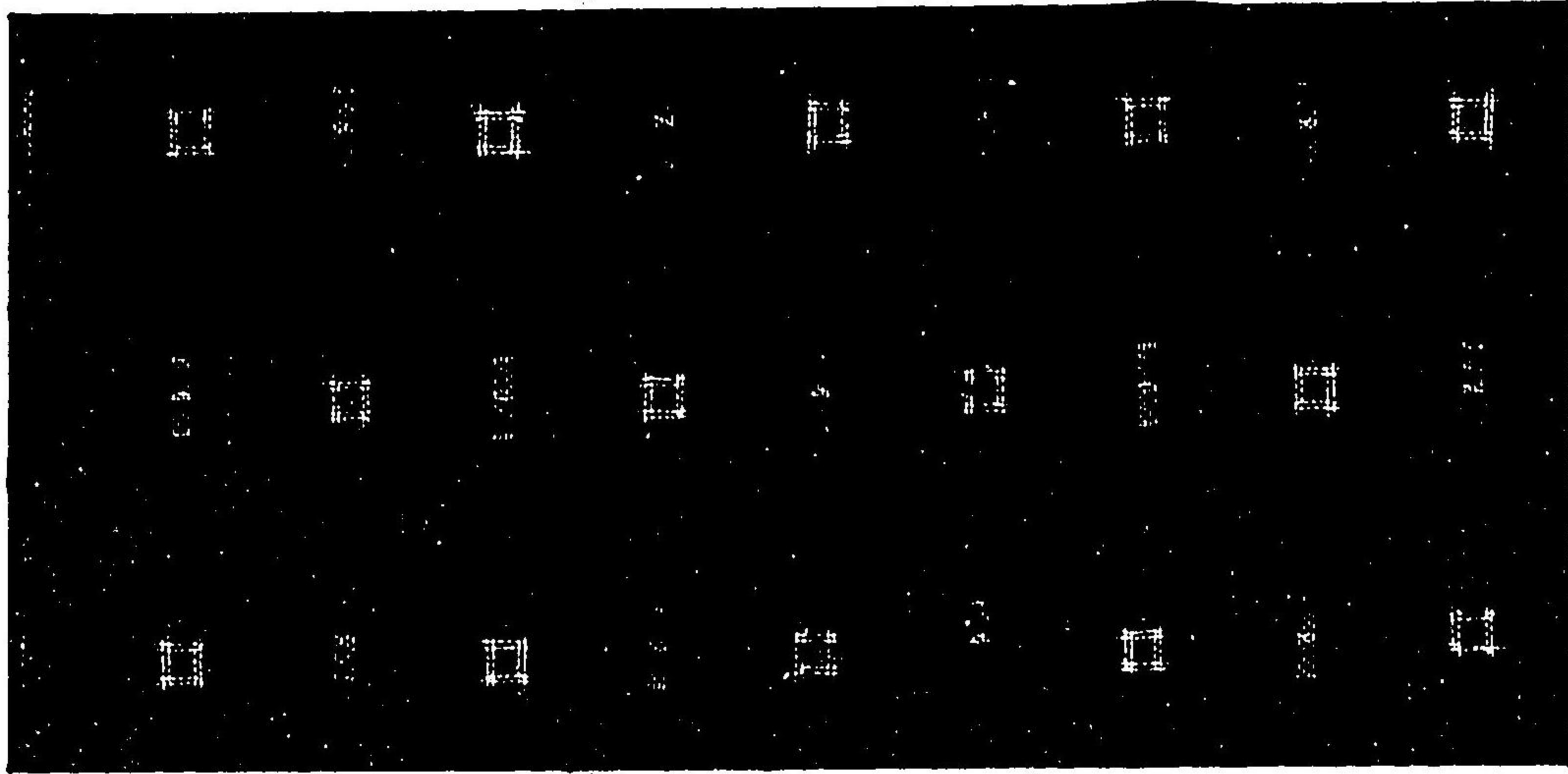


百九十二

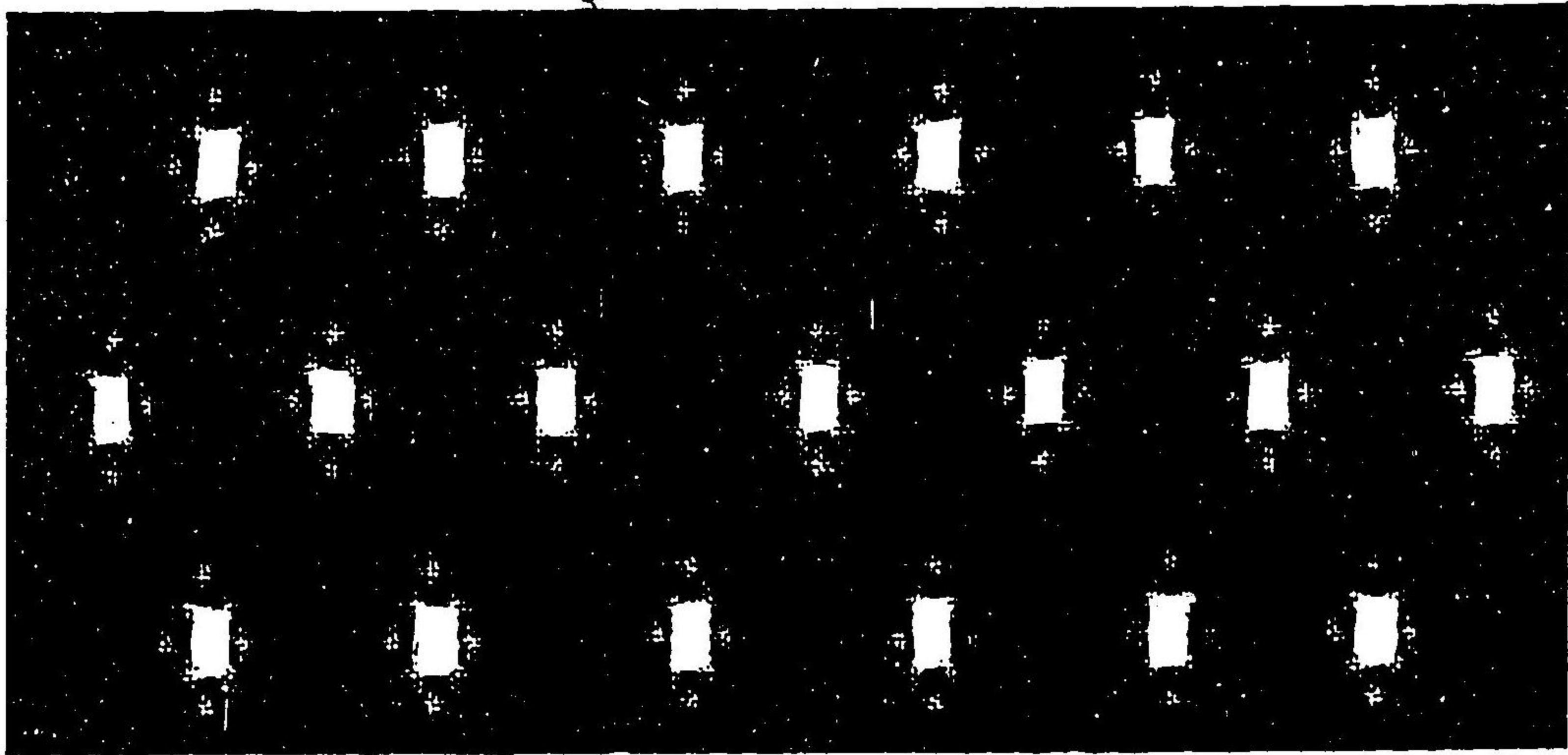
號六十六百四第 緋 學 薩



號七十六百四第 緋 米 留 久

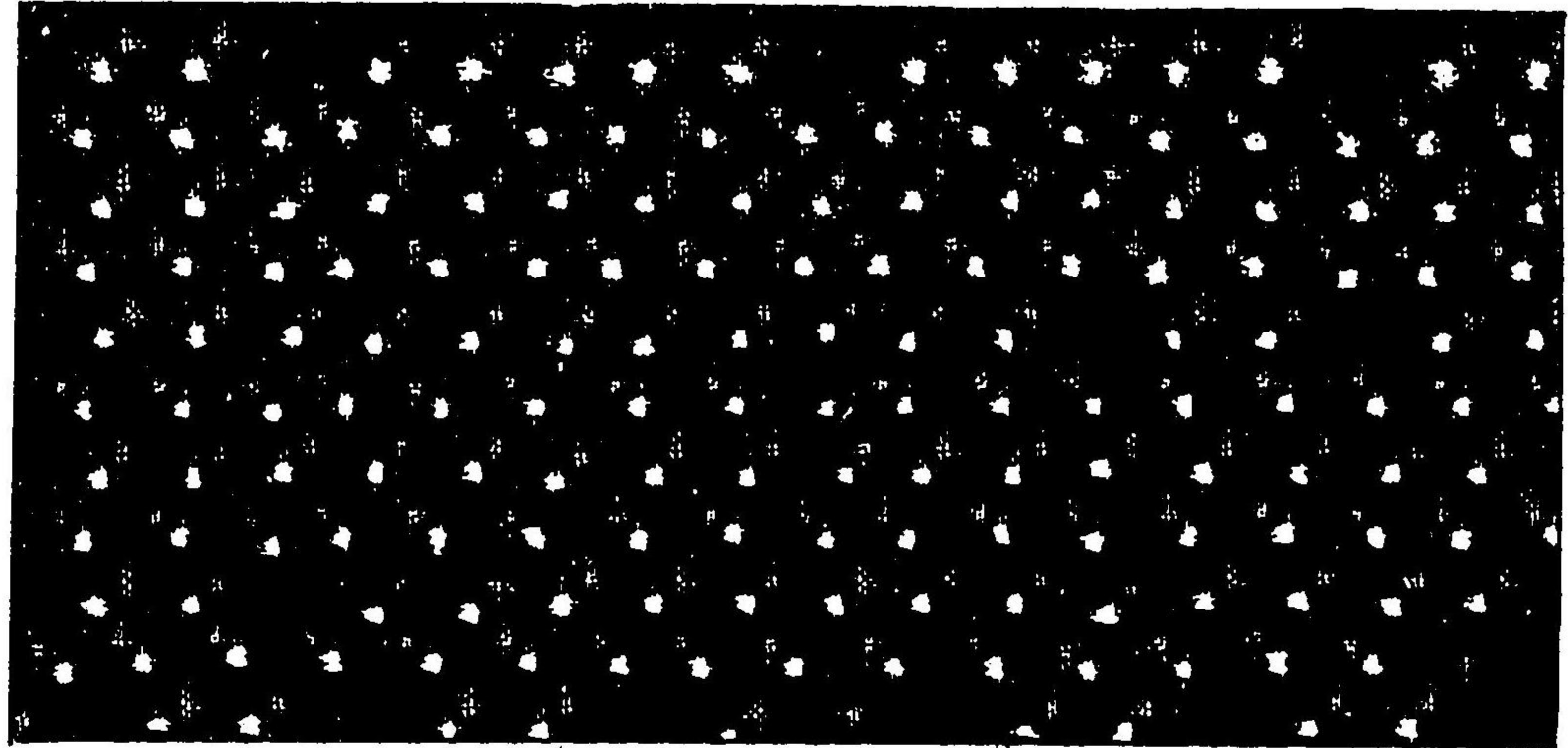


號八十六百四第 緋 門 馮

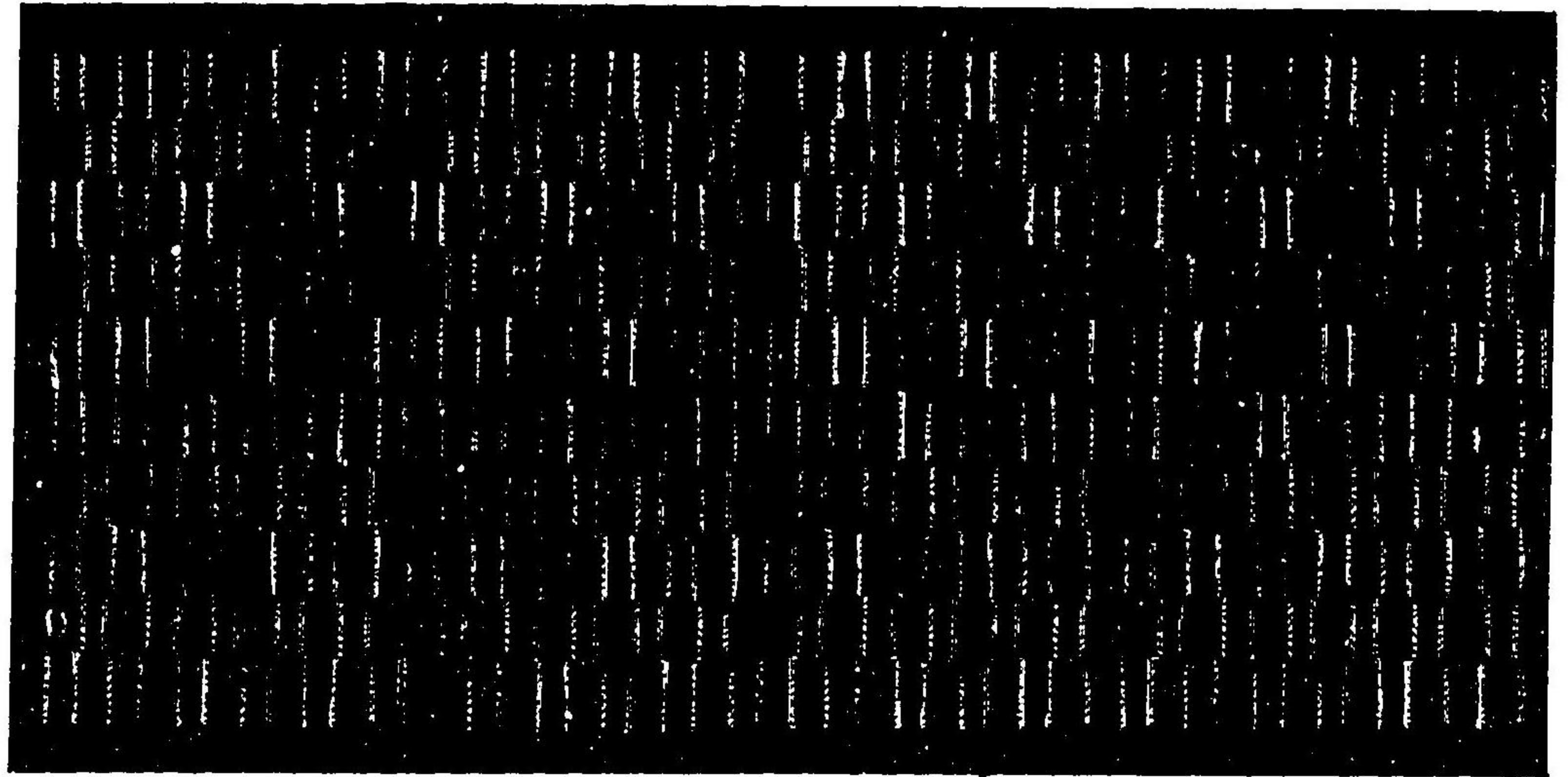


百九十五

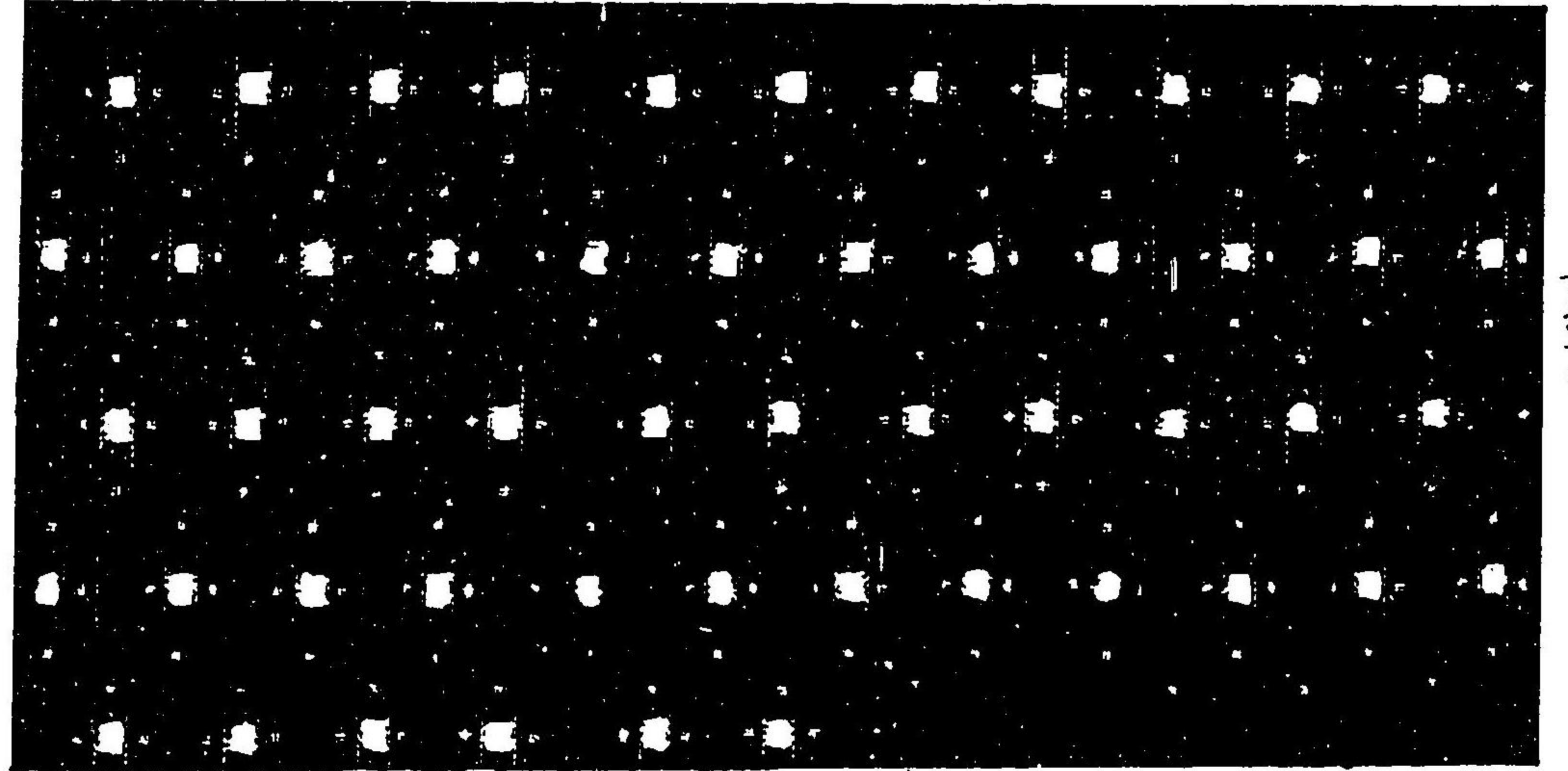
號三十六百四第 緋 球 琉



氏助之專川吉 町崎碧伊 號四十六百四第 (賞等三) 織崎碧伊

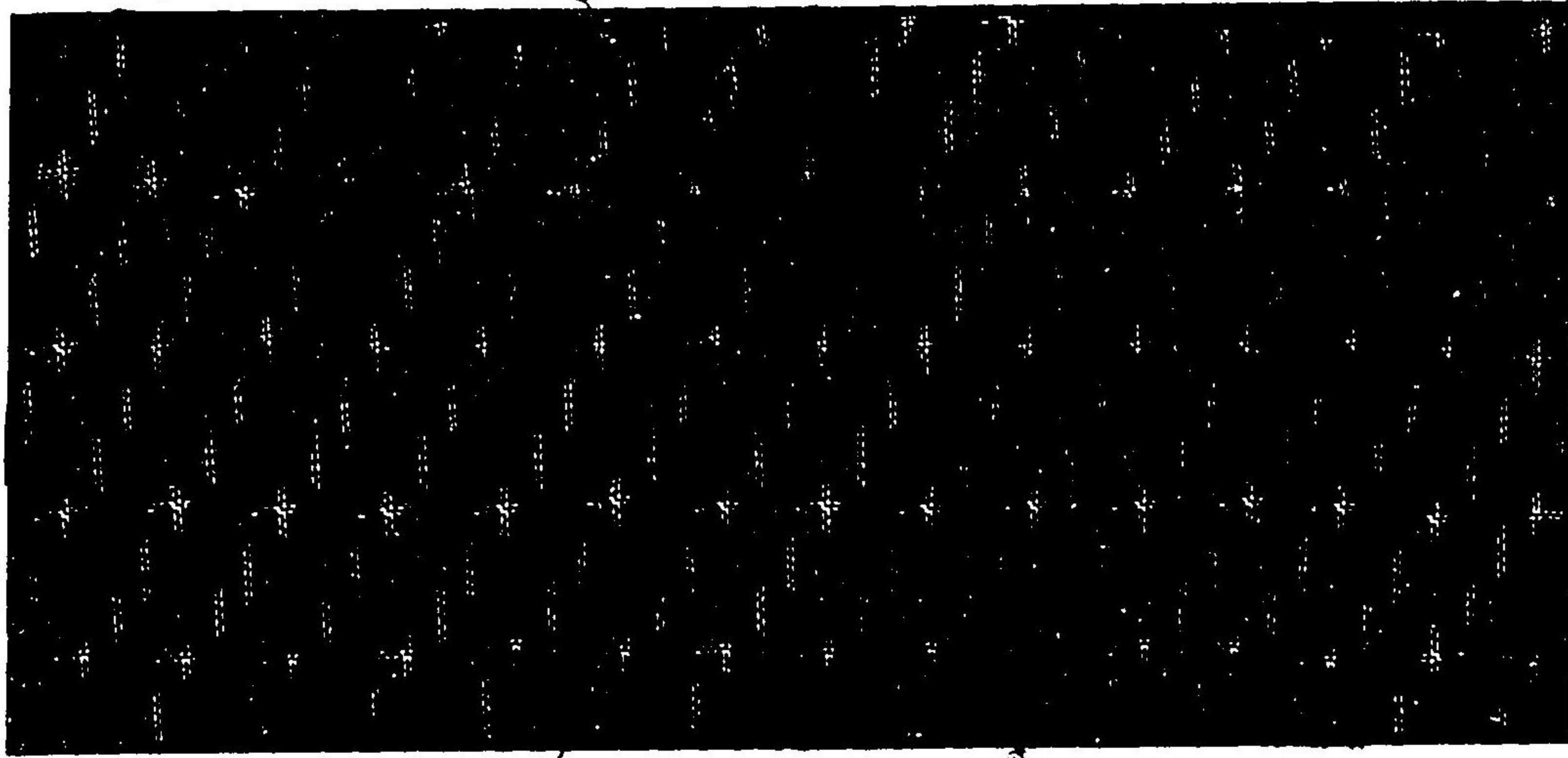


氏郎三帝川吉 町瀬廣 號五十六百四第 (賞等三) 緋 瀬 廣



百九十四

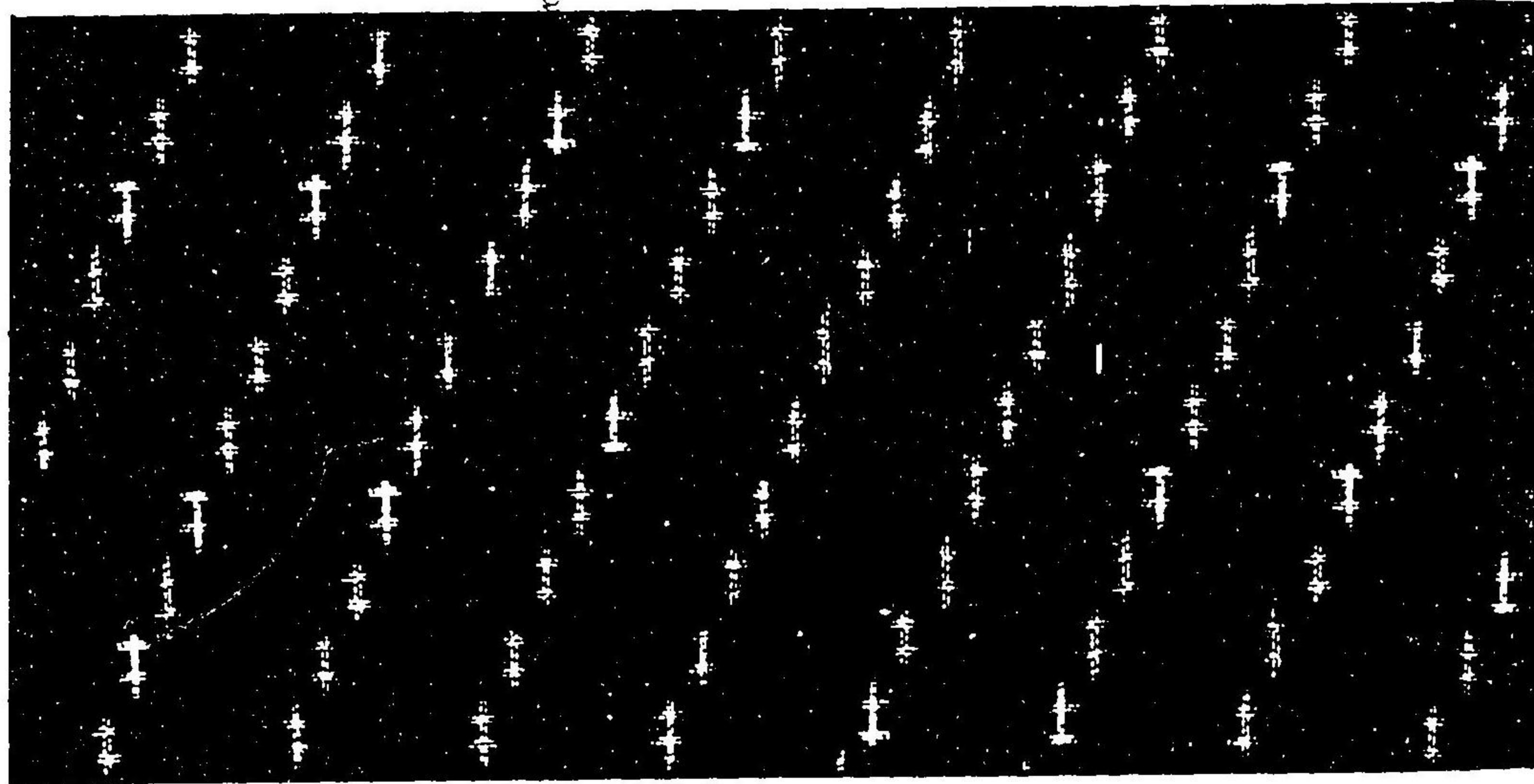
伊豫織 第四百七十二號



岩國織 第四百七十三號

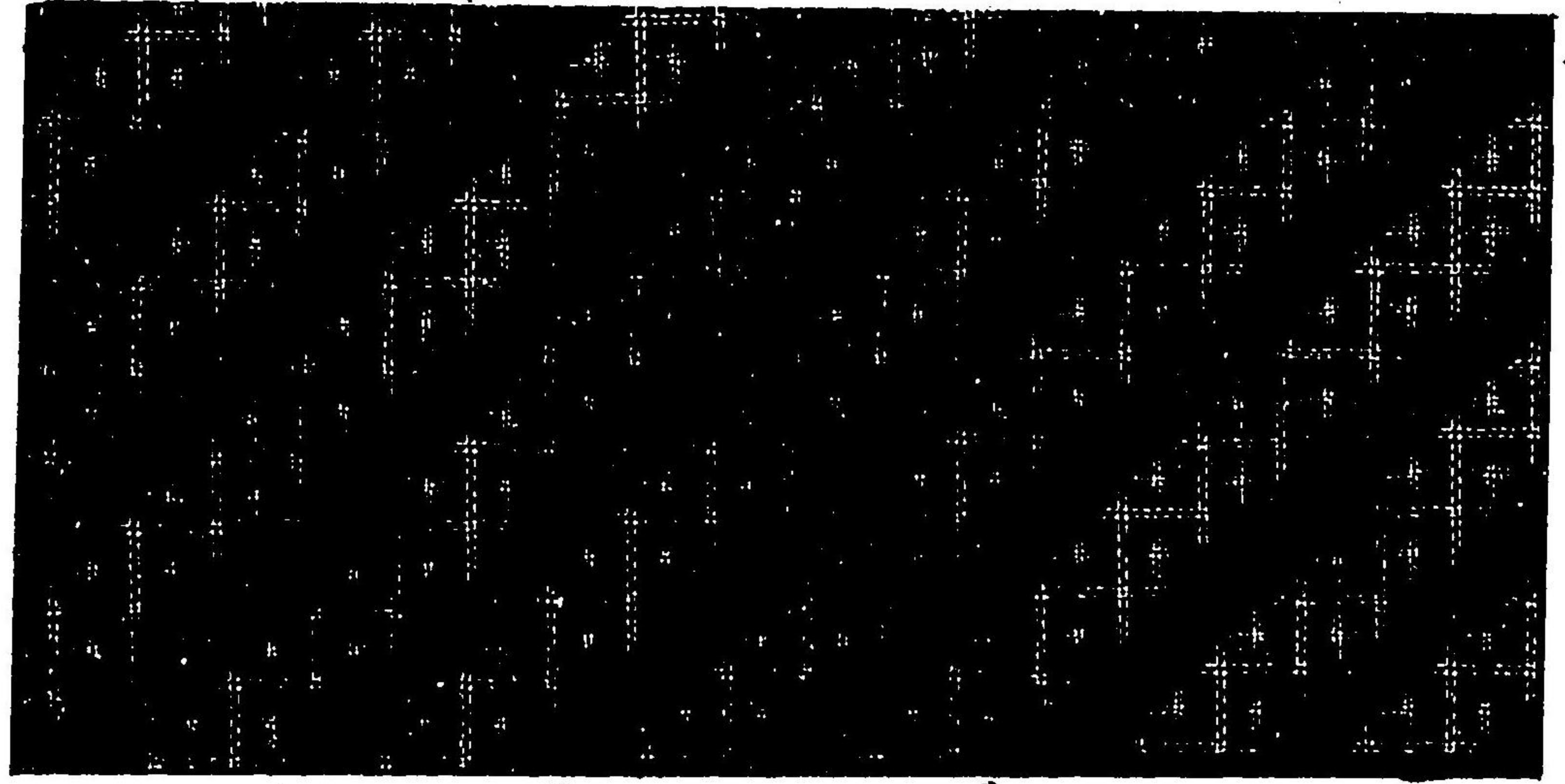


久留米織 第四百七十四號

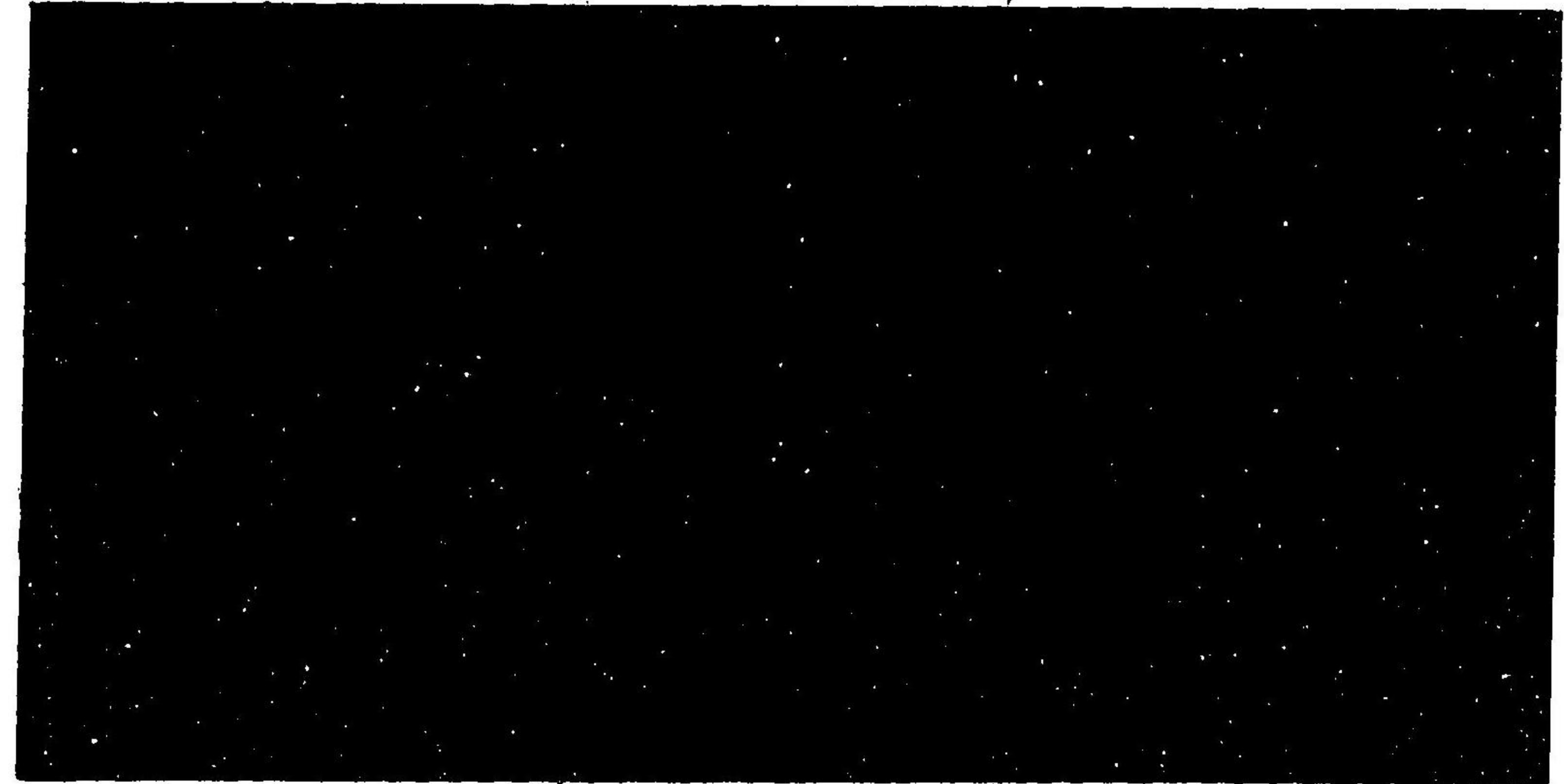


四百七十二

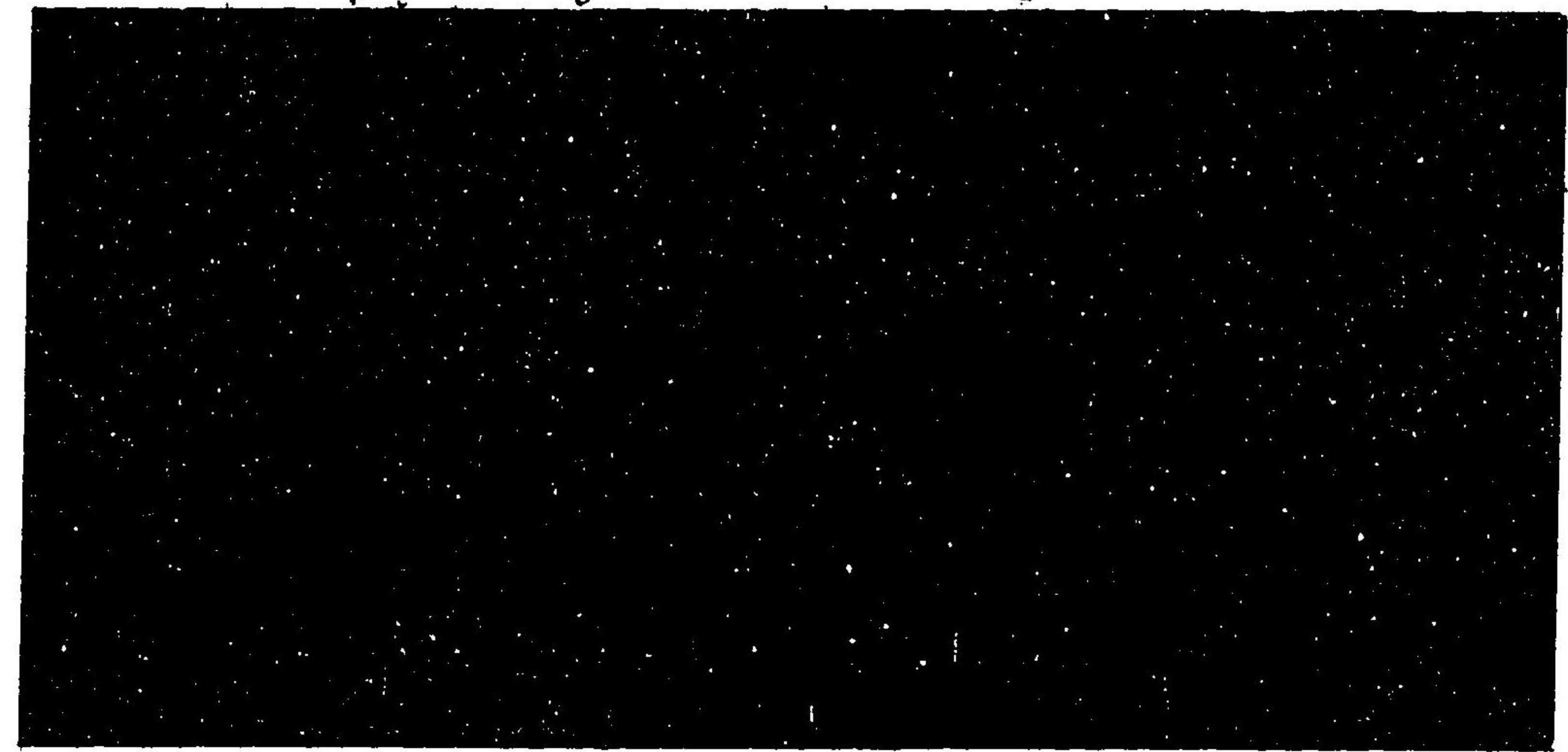
伊勢織(參等賞) 第四百六十九號 佐波郡茂呂村 前地順之氏



越後上布 第四百七十七號

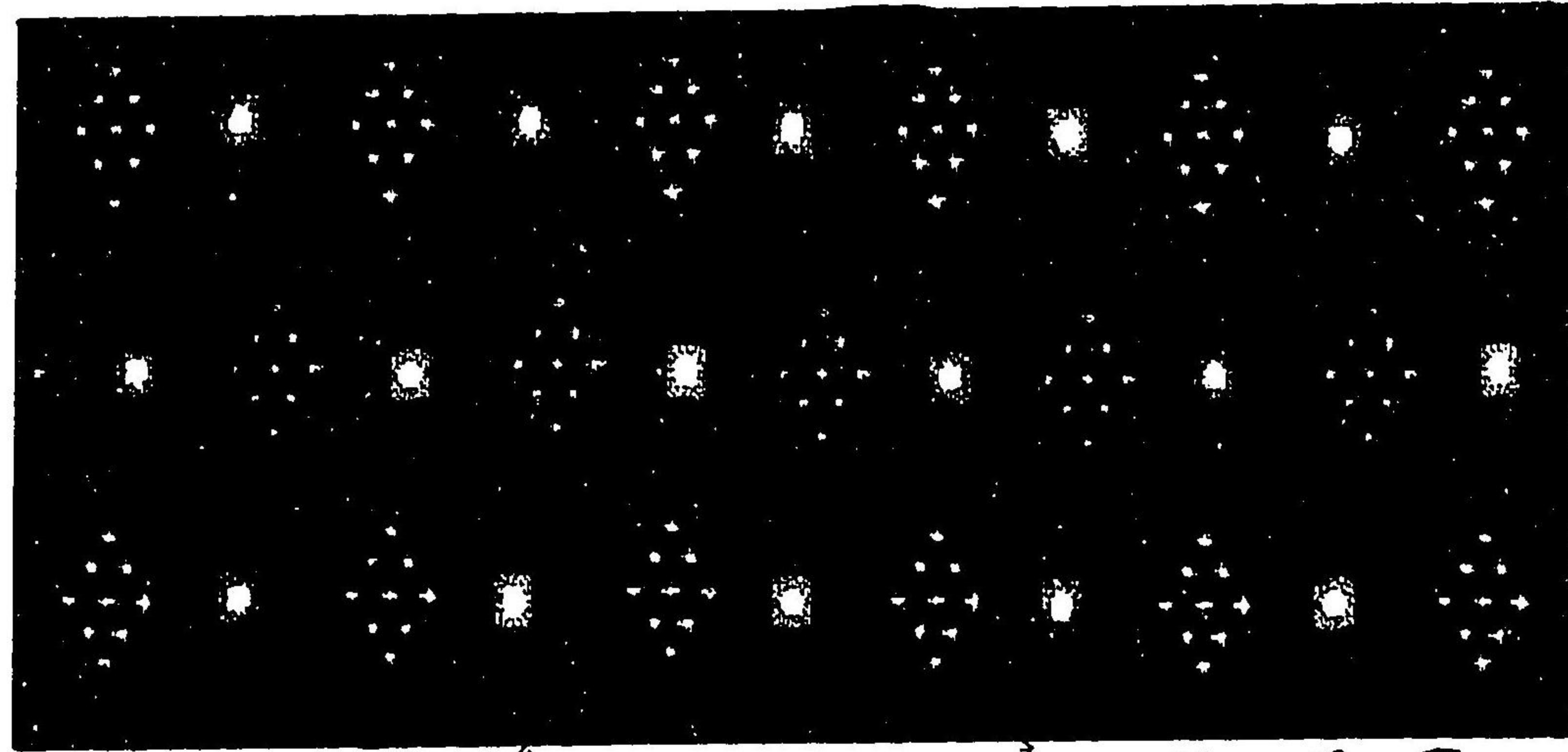


岩國織 第四百七十一號

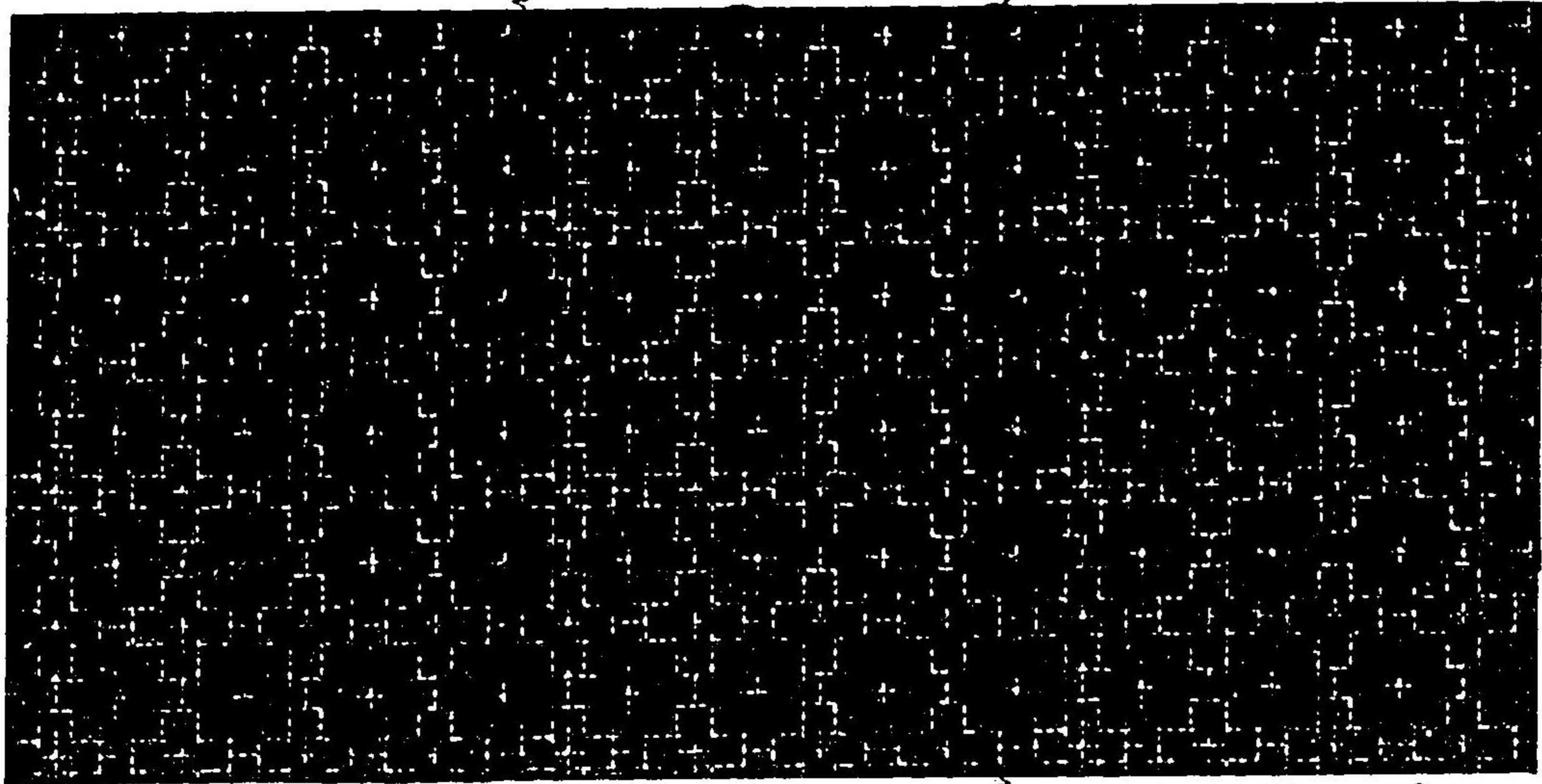


四百六十九

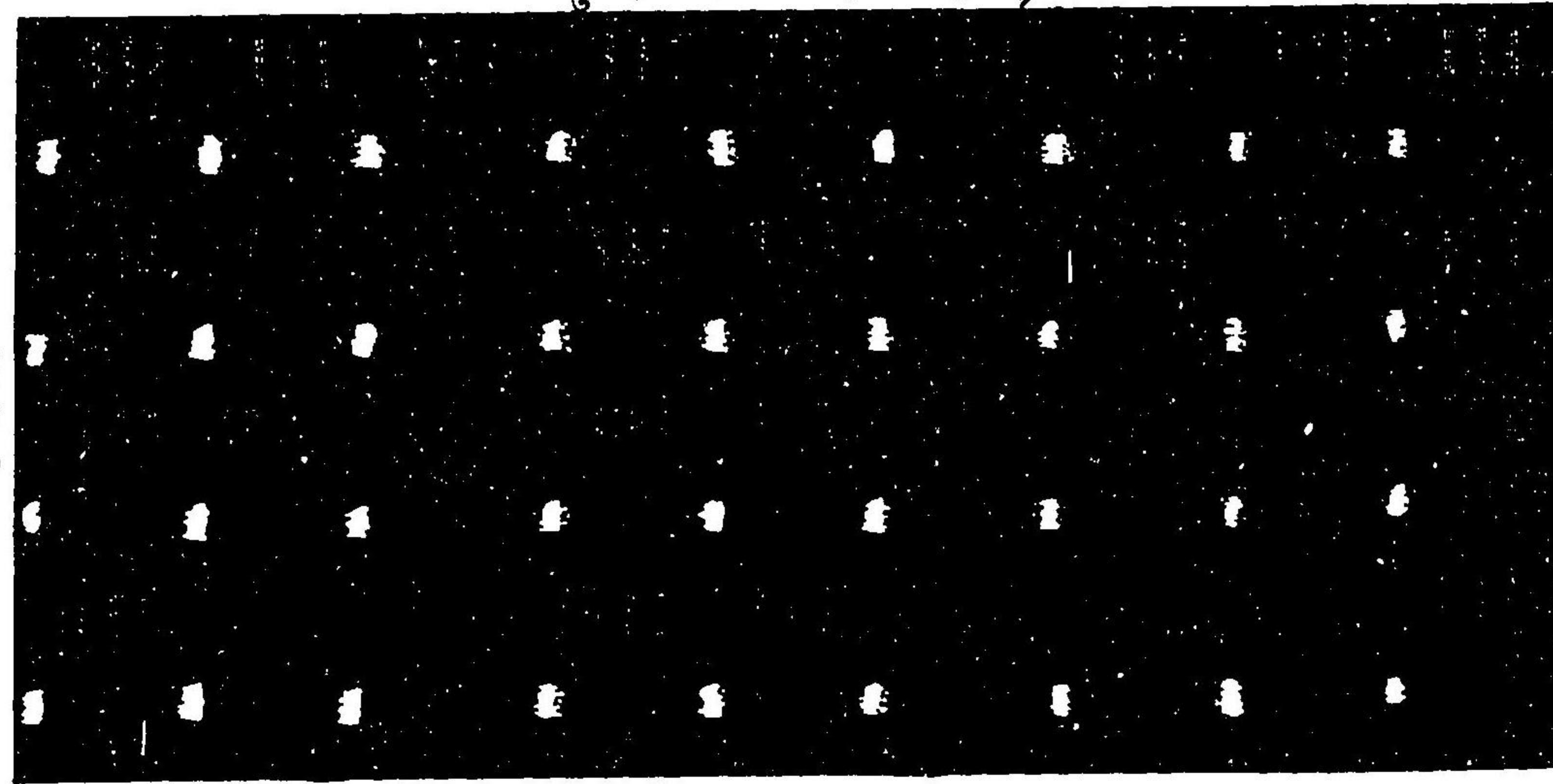
氏威秀木松 町吉倉 號八十七百四第 價等三 緋取鳥



號九十七百四第 紬 賜置

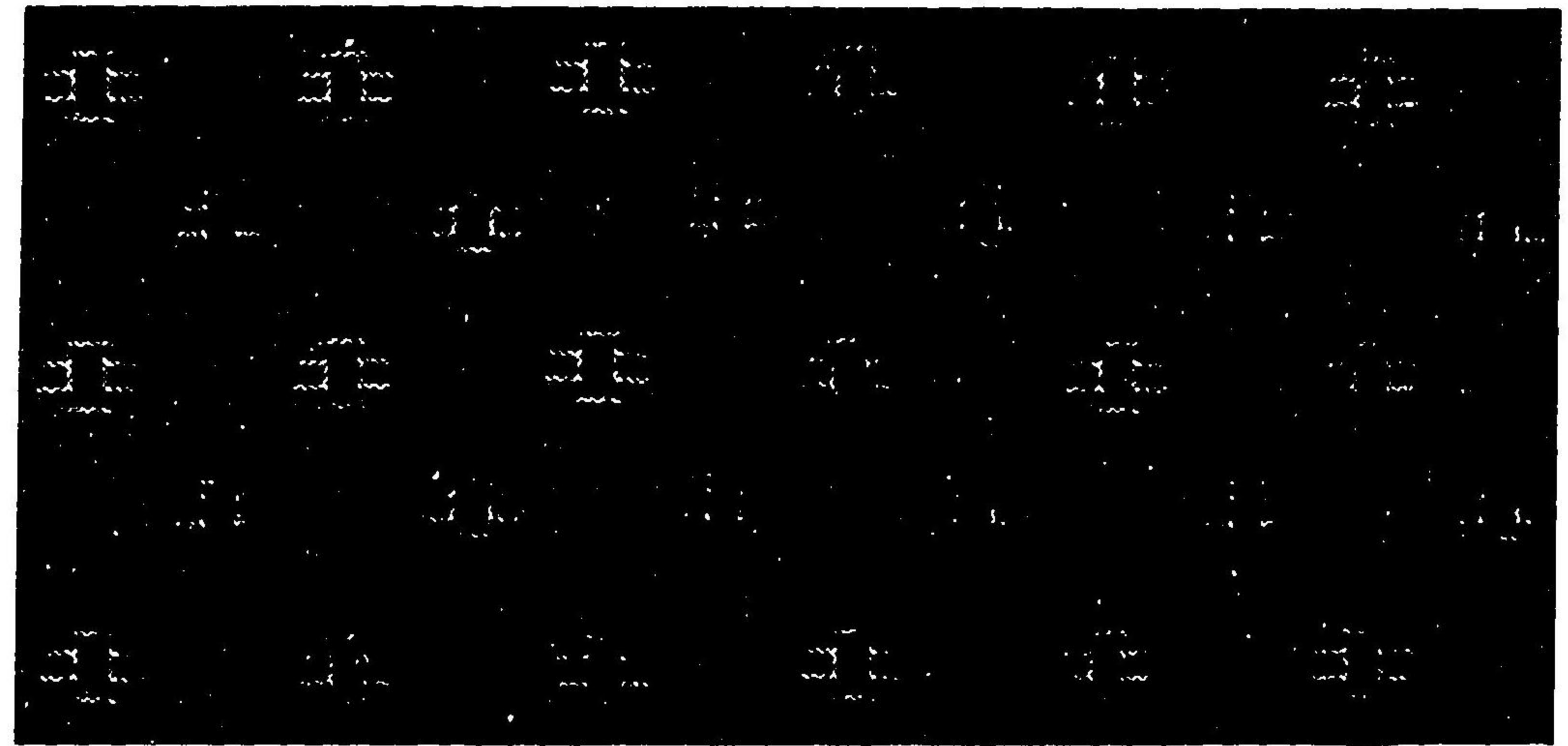


號十八百四第 緋 豫 伴

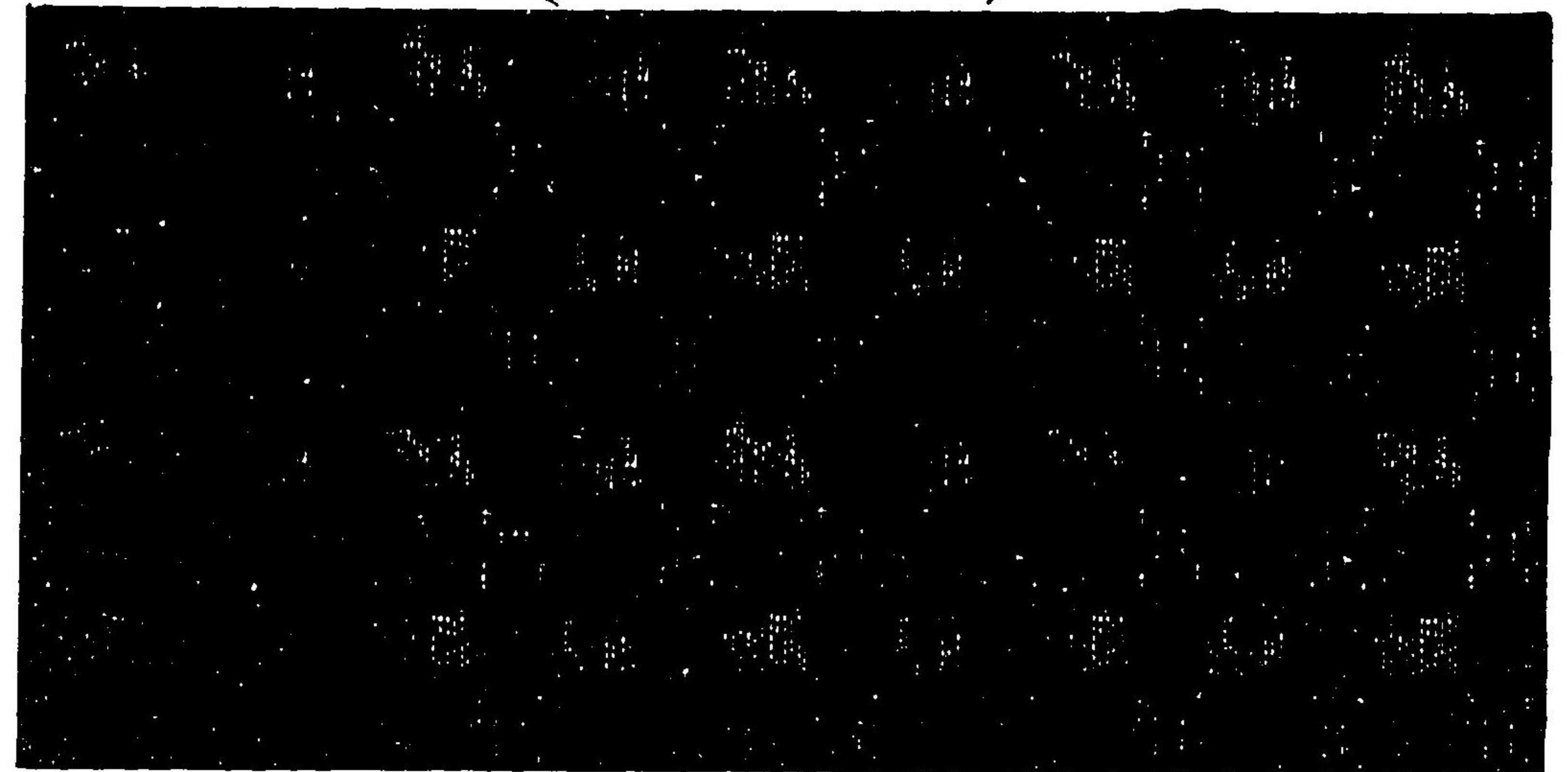


百九十九

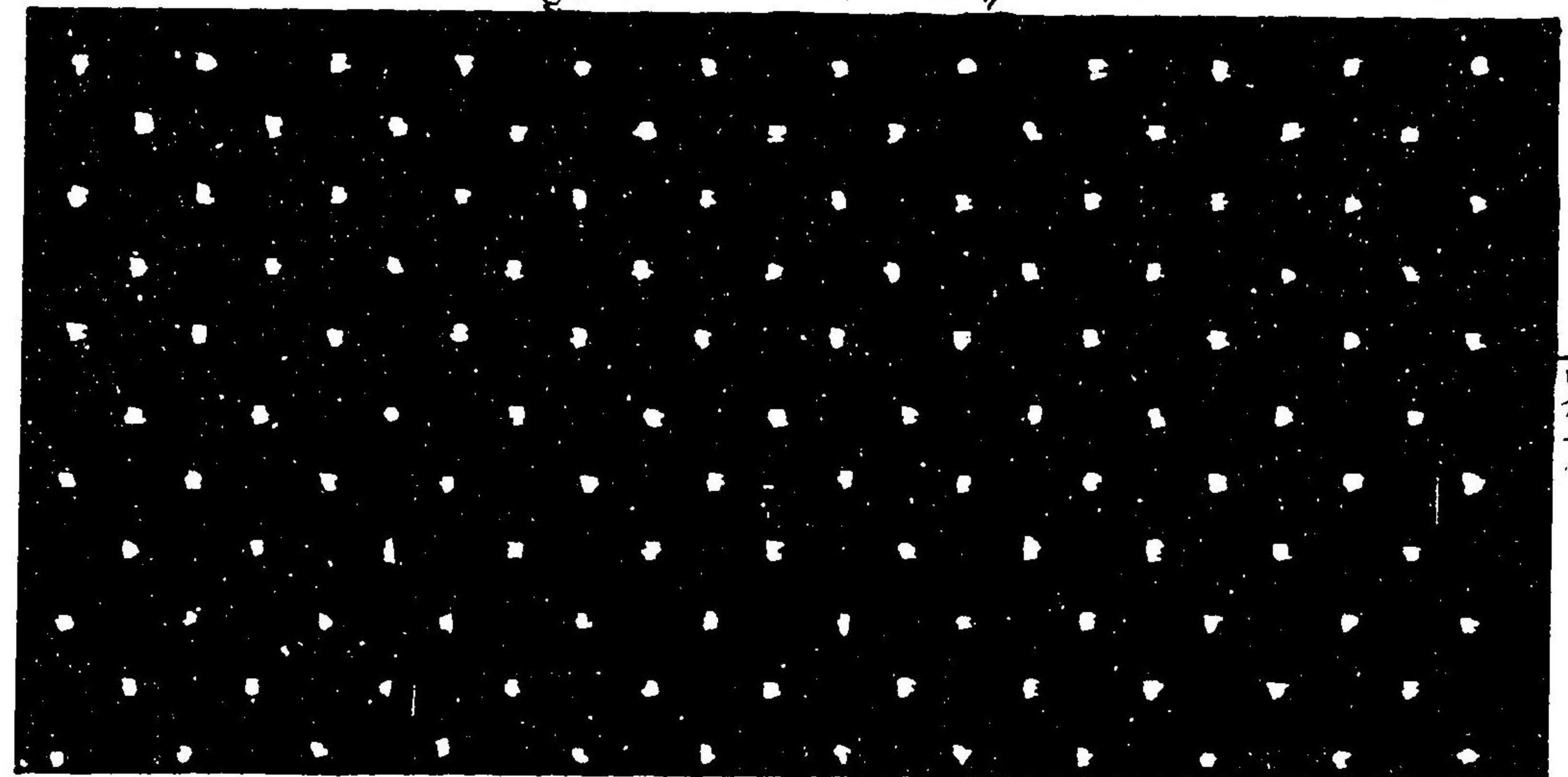
店服吳井三 京東 號五十七百四第 布上後越



氏内嘉原笠小 町井長 號六十七百四第 價等三 紬 賜置

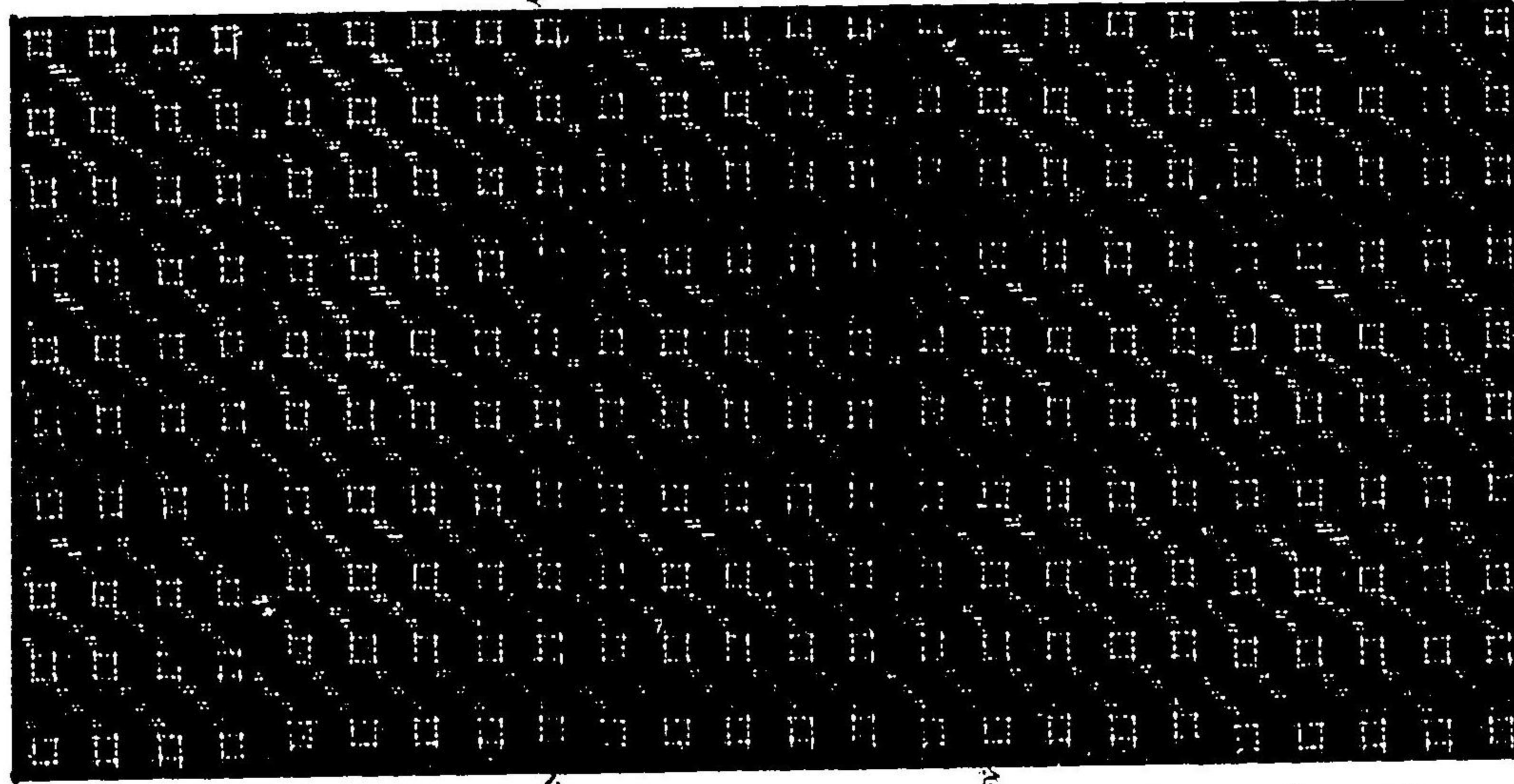


號七十七百四第 緋 門 鳴



百九十九

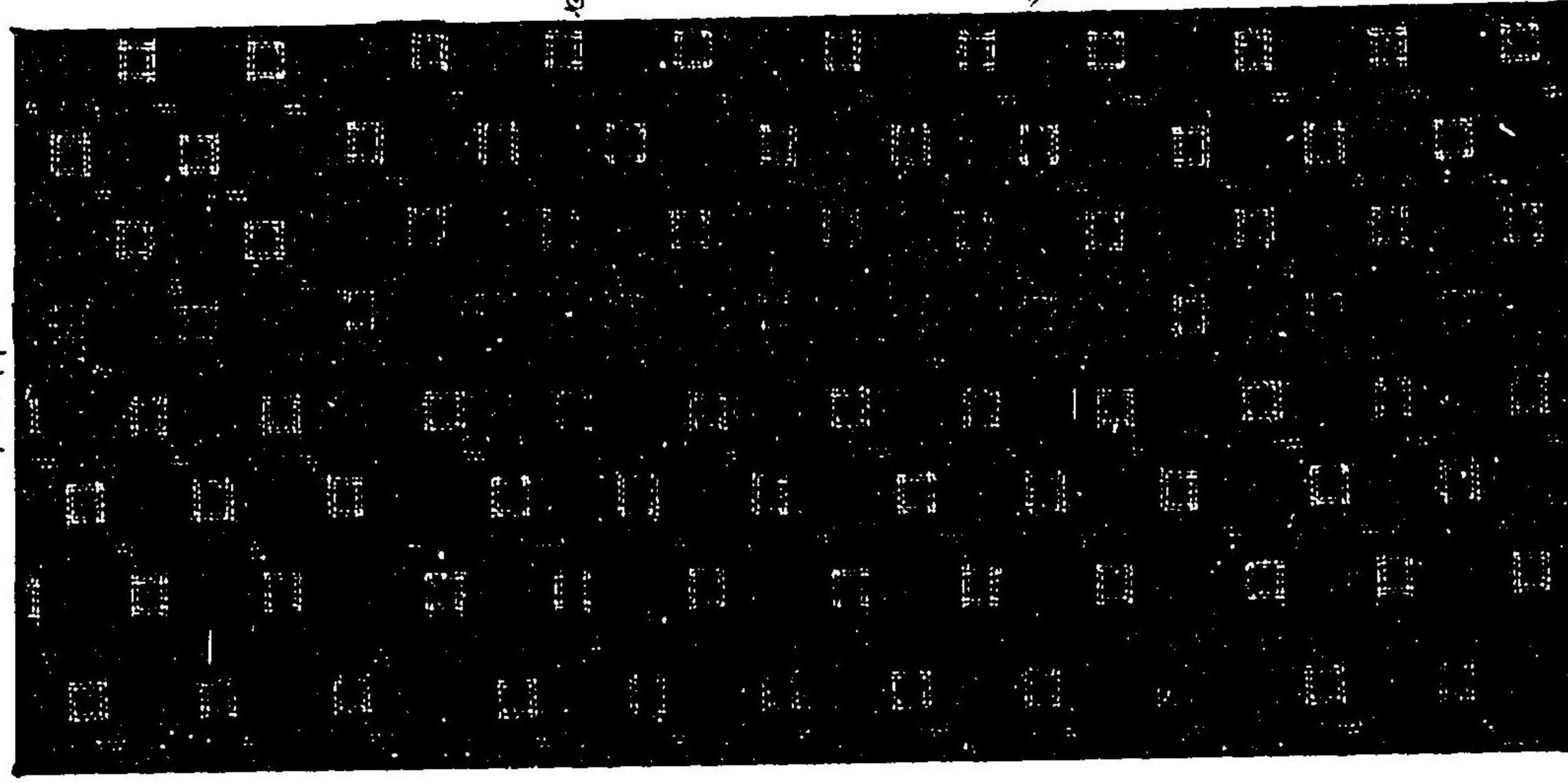
號四十八百四第 絳 摩 薩



號五十八百四第 絳 球 琉

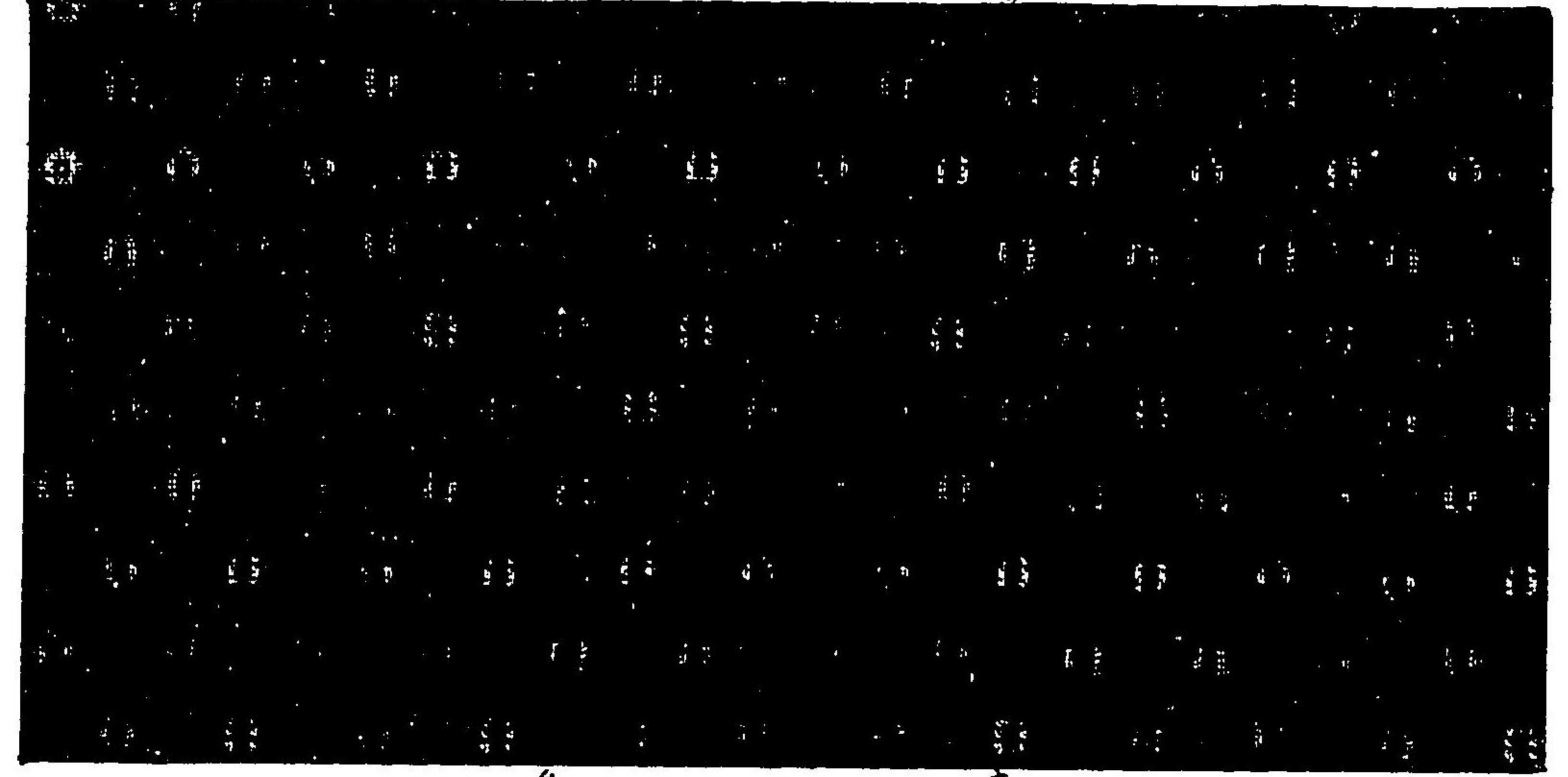


號六十八百四第 絳 米 留 久

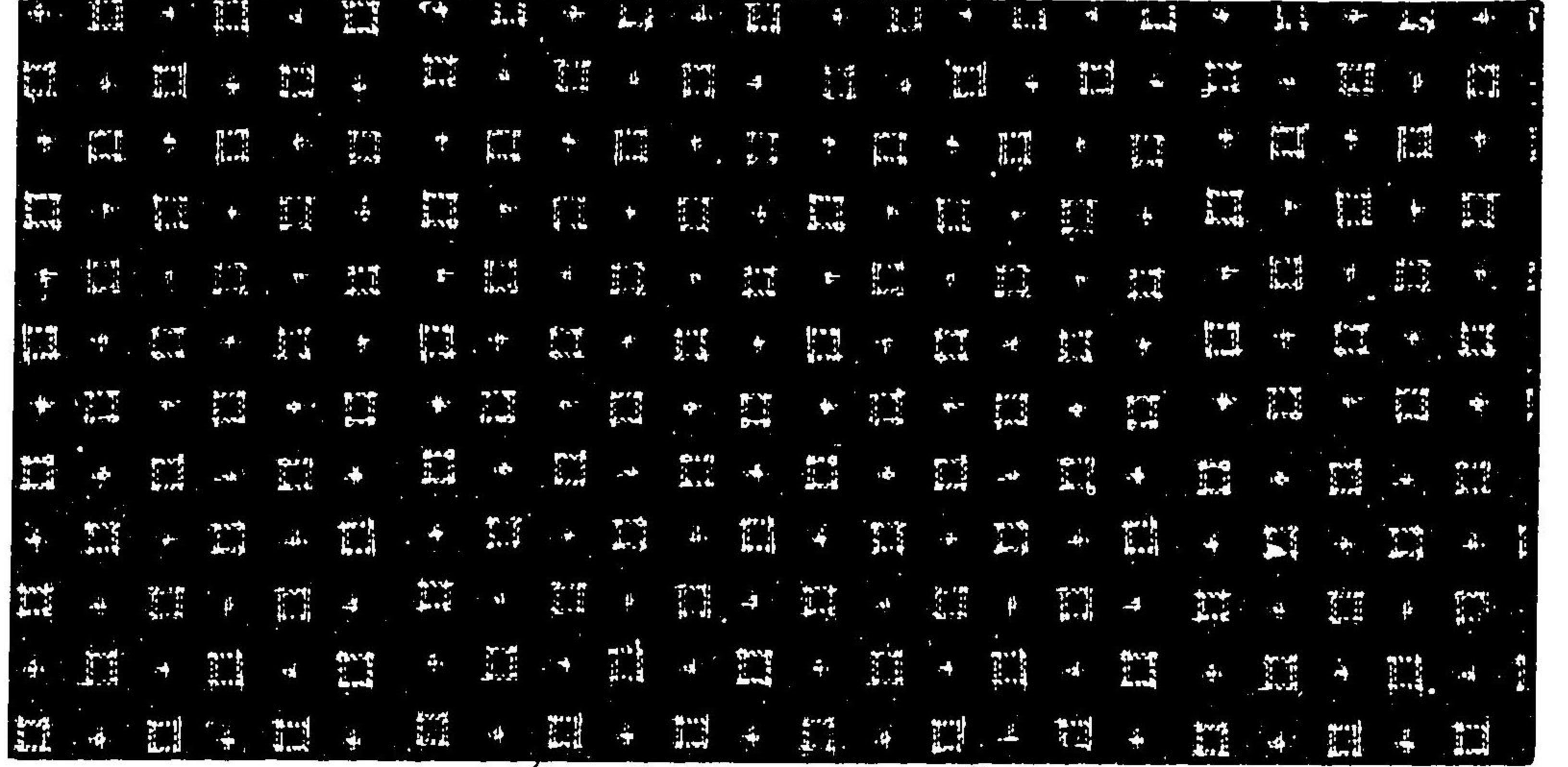


1051

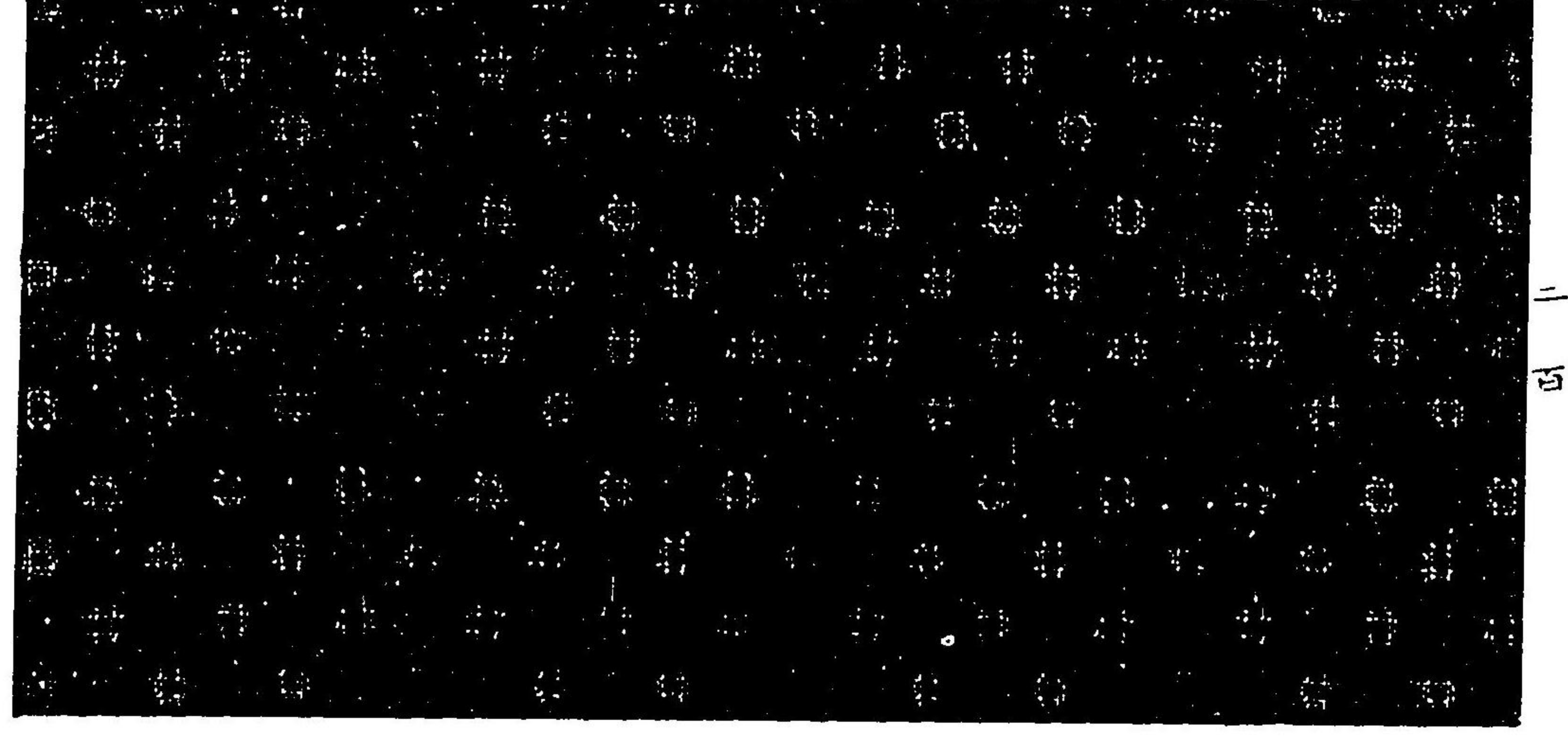
號一十八百四第 絳 米 留 久



號二十八百四第 絳 米 留 久

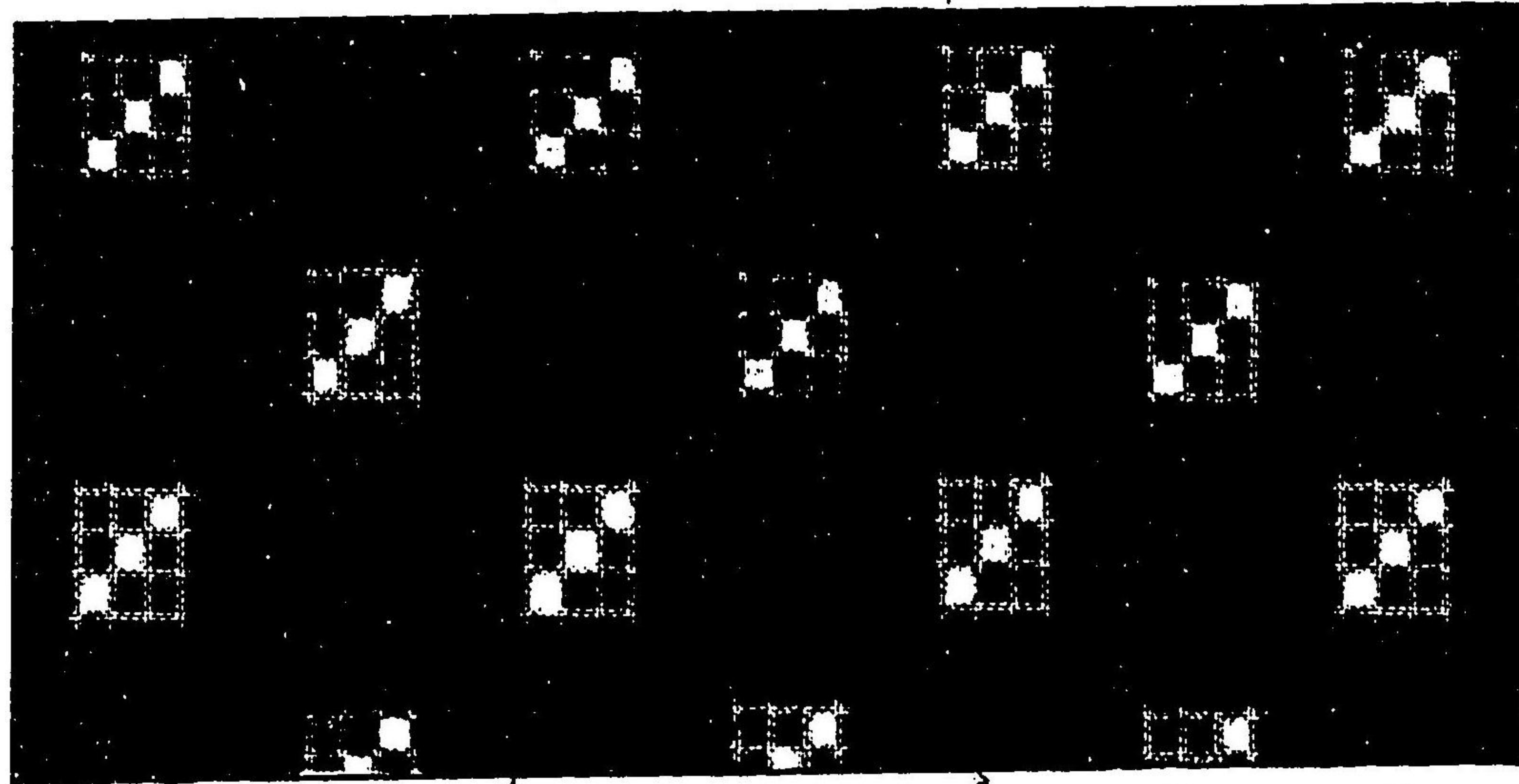


號三十八百四第 絳 豫 伊

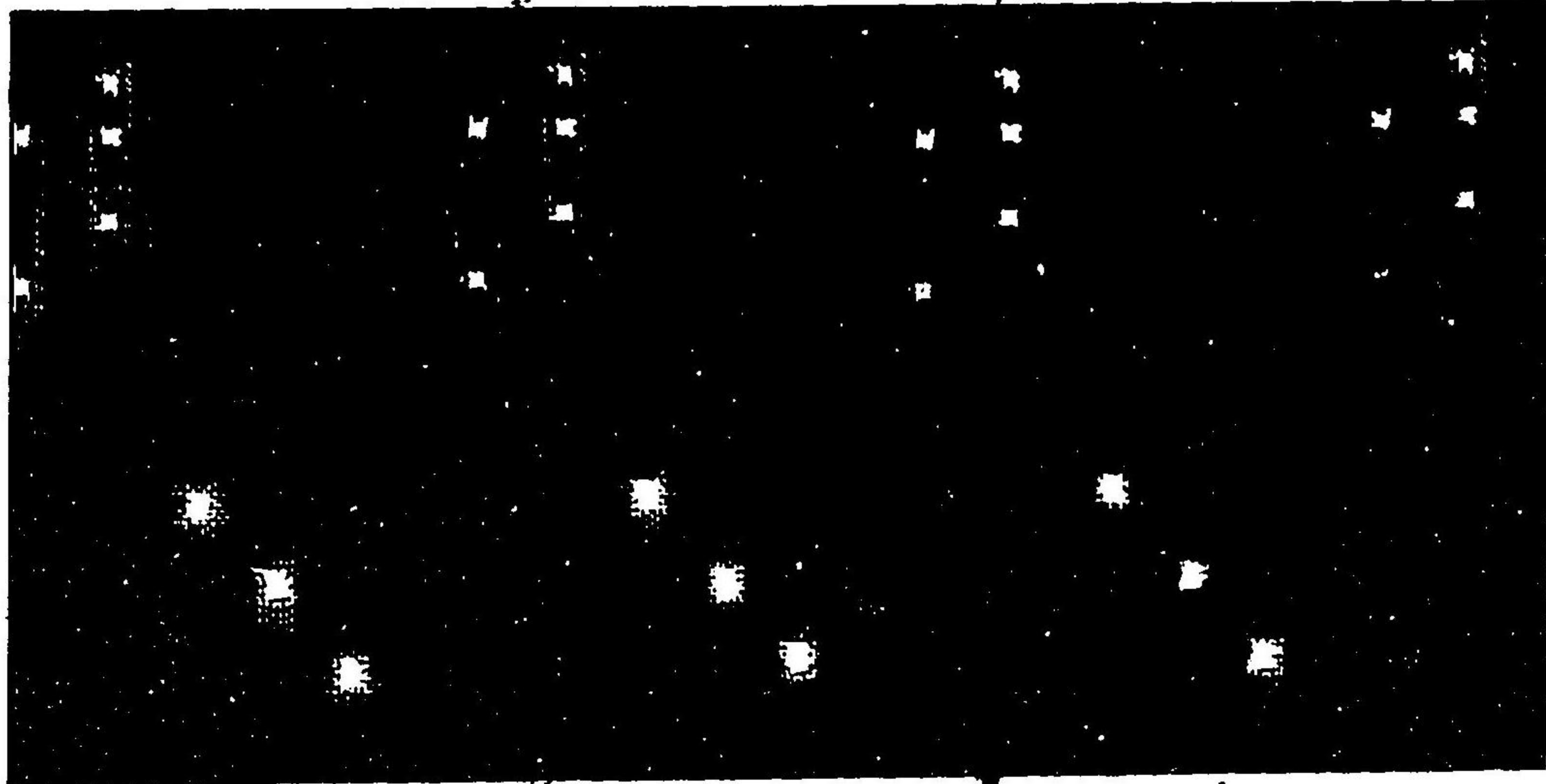


1052

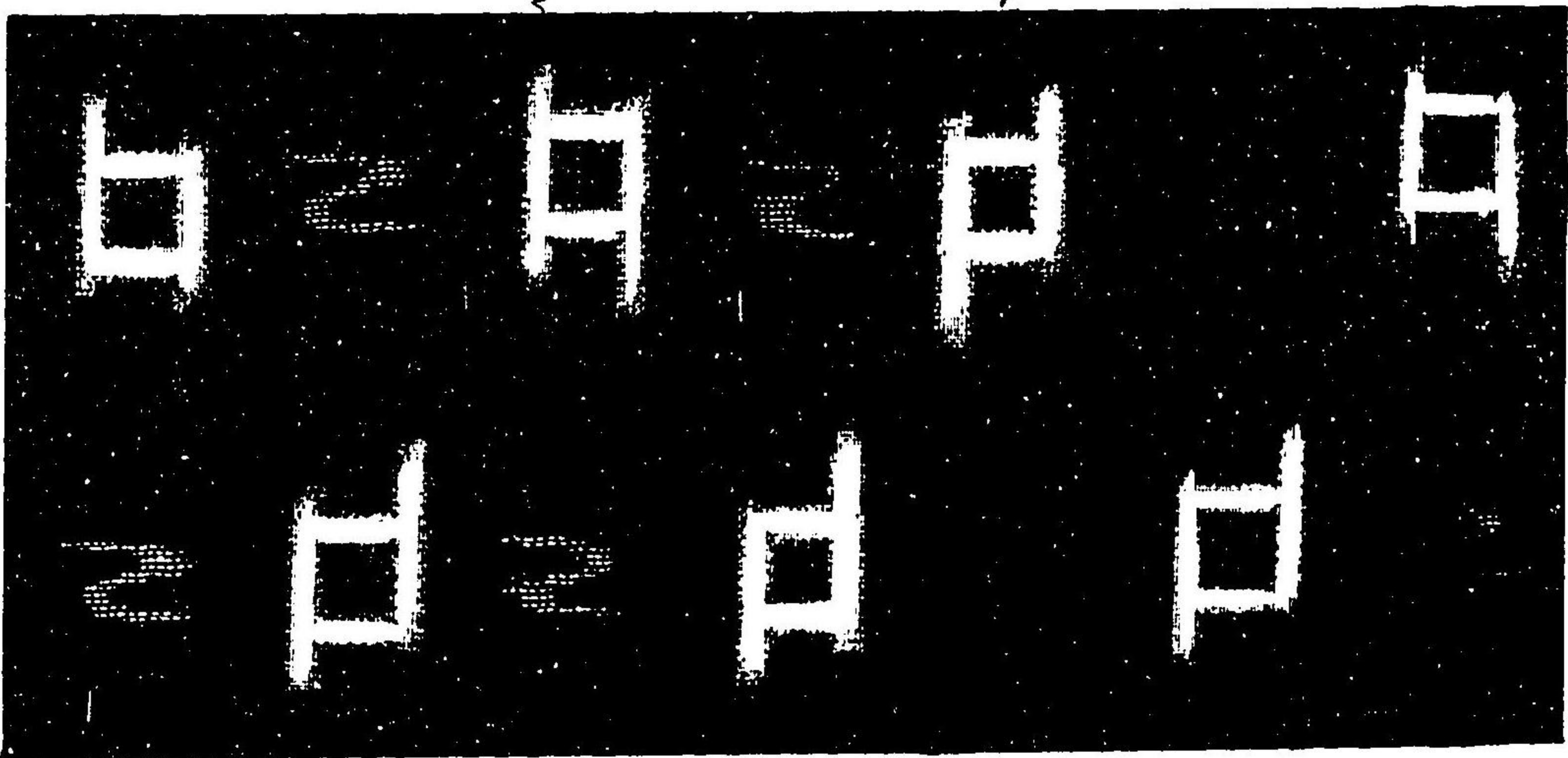
號十九百四第 緋米留久



號一十九百四第 緋取鳥

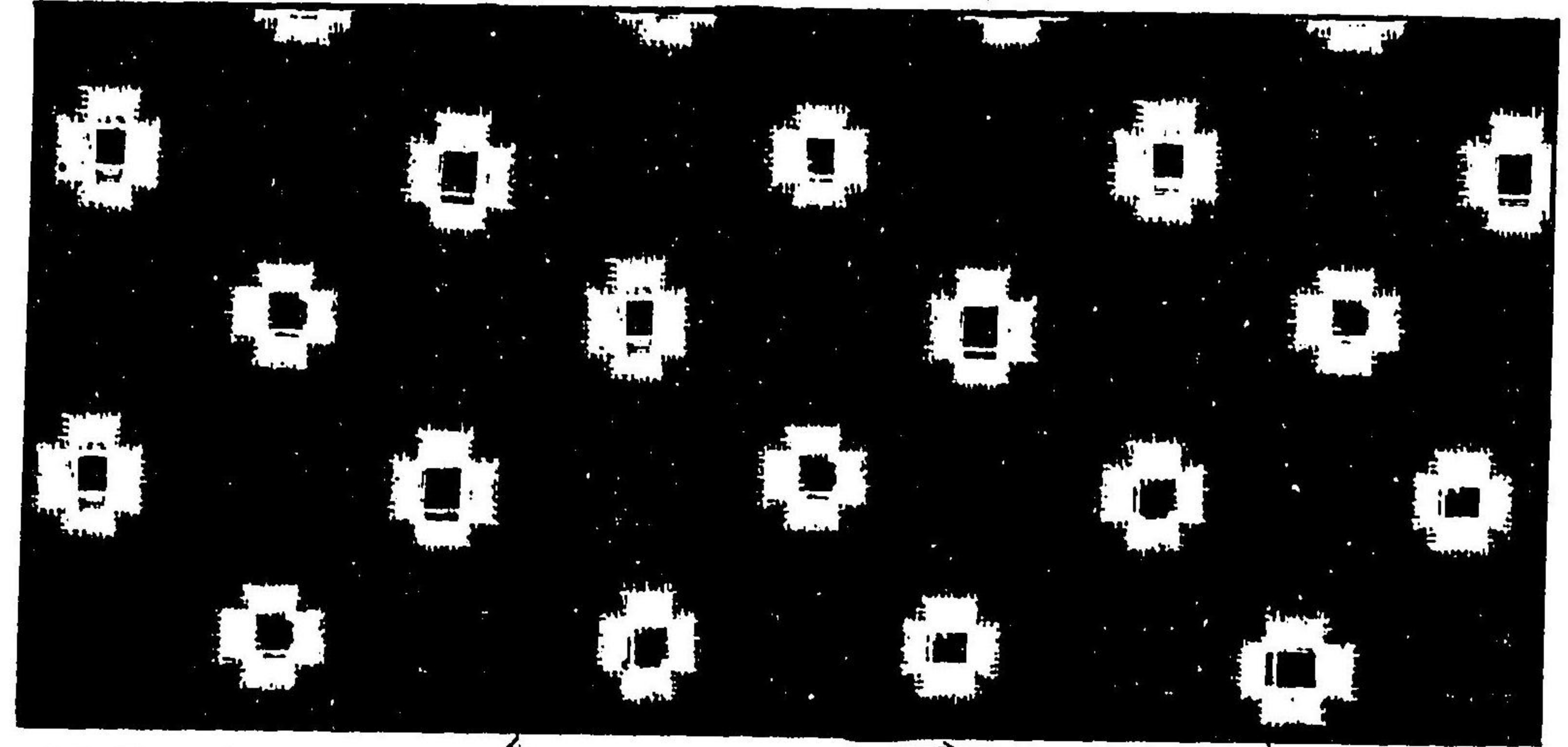


號二十九百四第 緋球琺

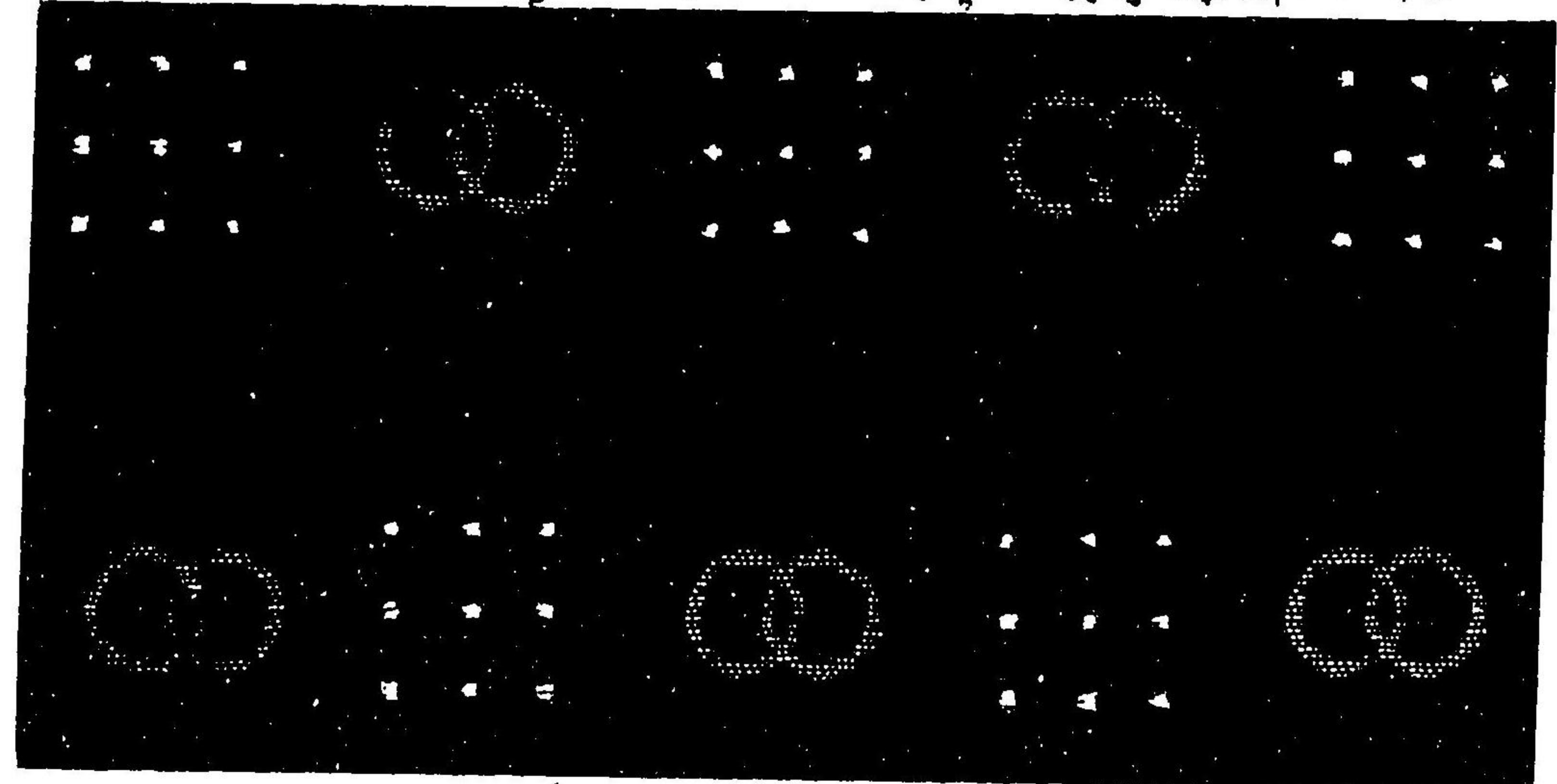


1101

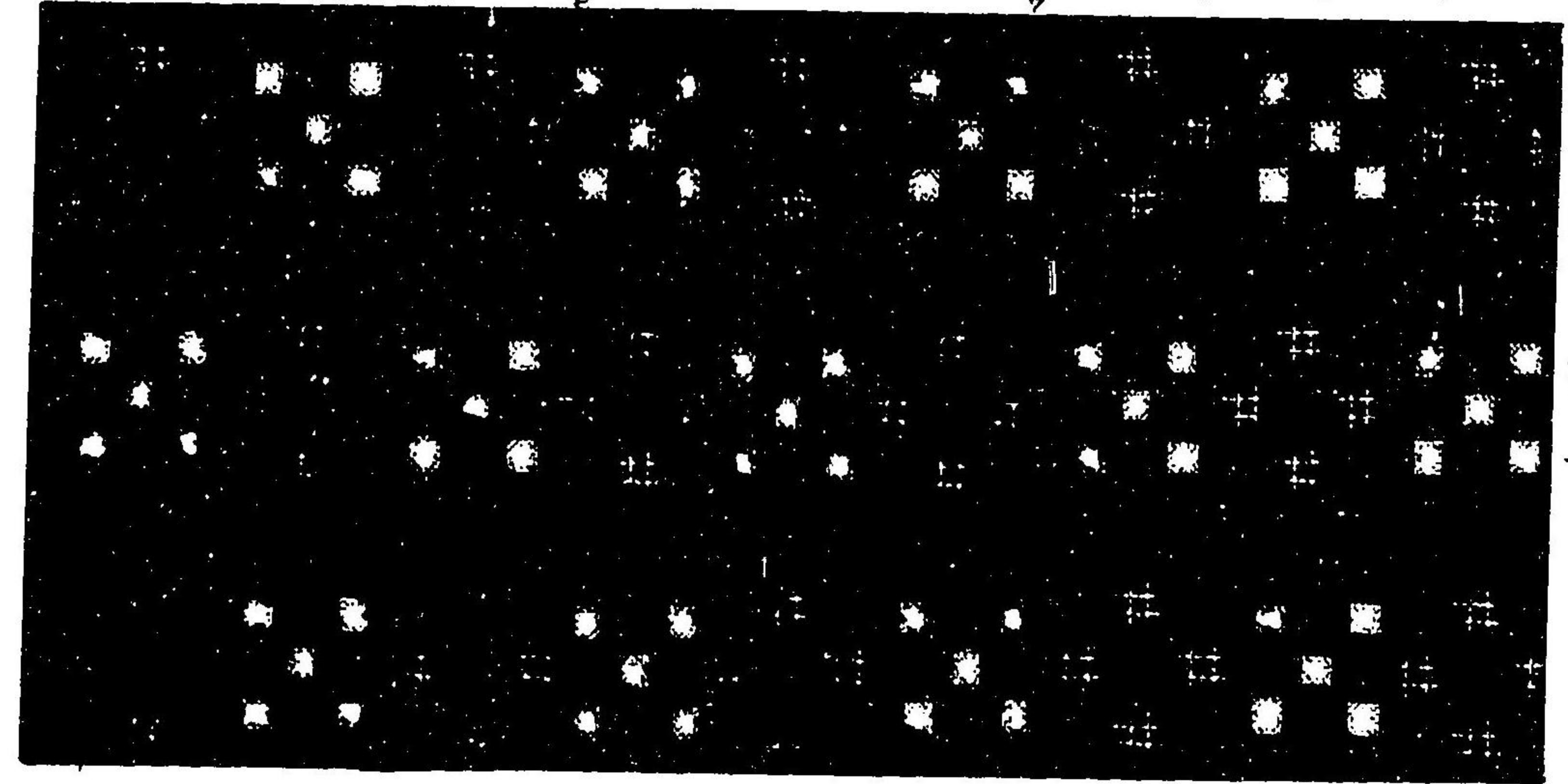
號七十八百四第 緋米留久



社會式持緋佐佐市陸古名 號八十八百四第 賞等貳緋久佐

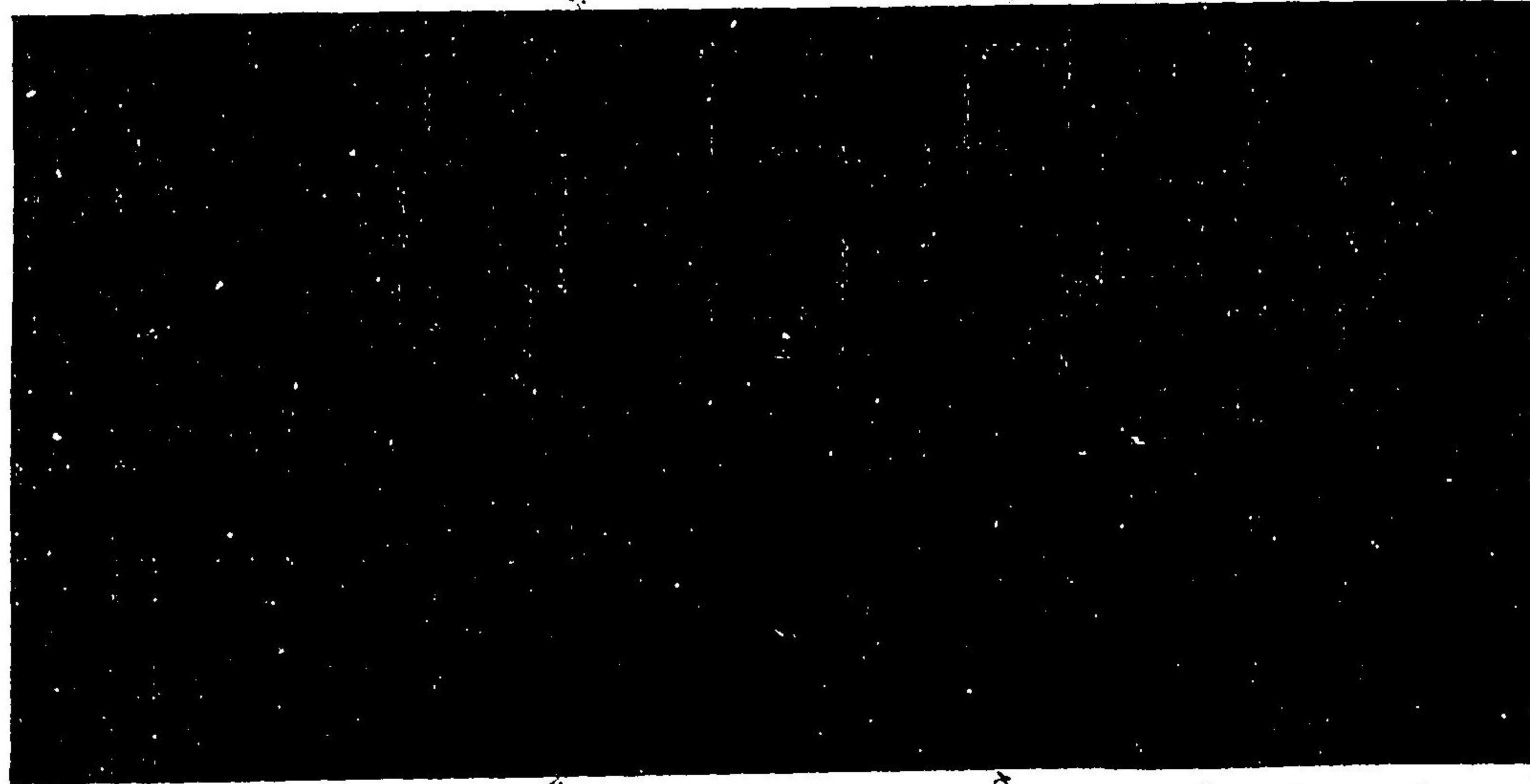


號九十八百四第 緋豫伊

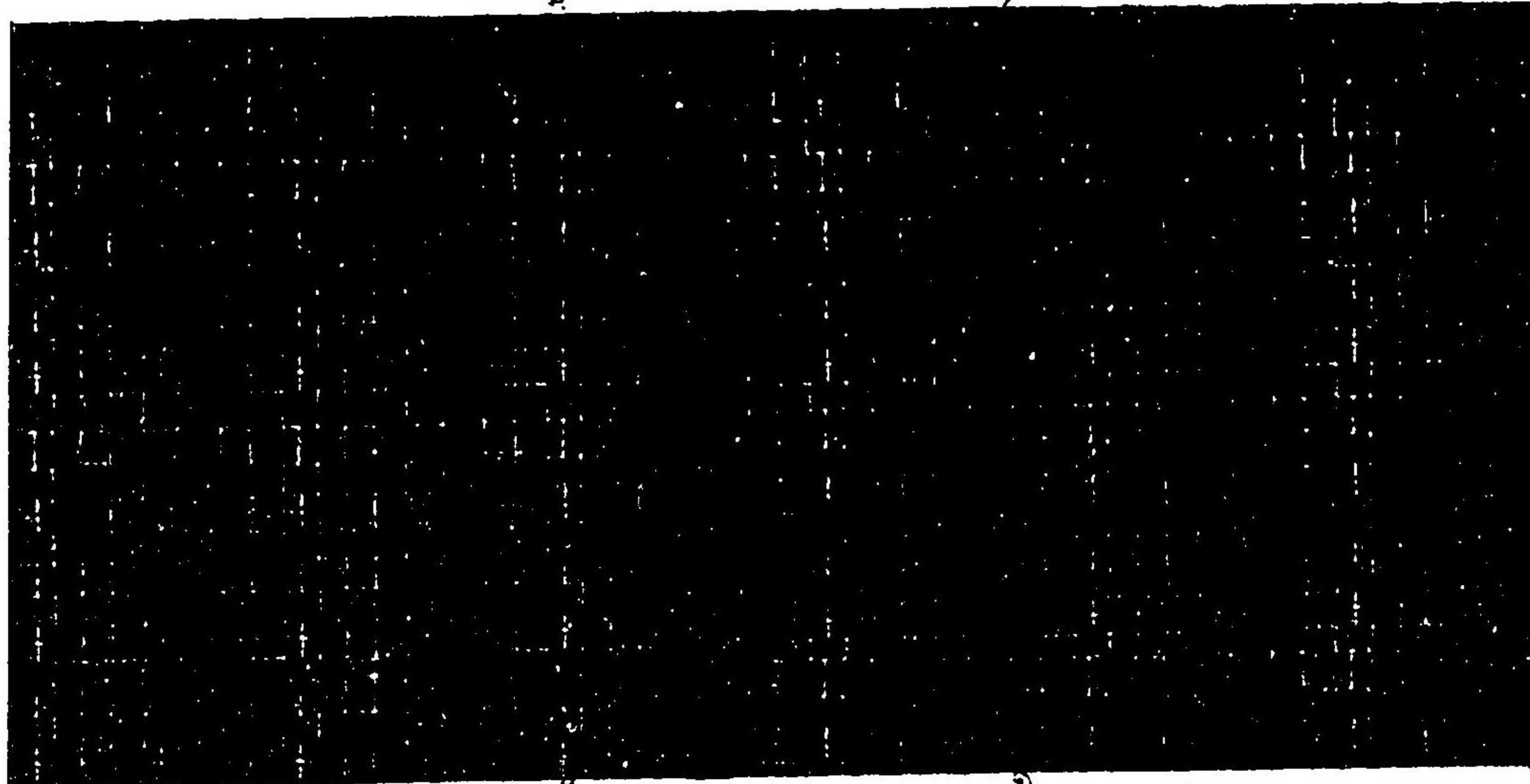


1101

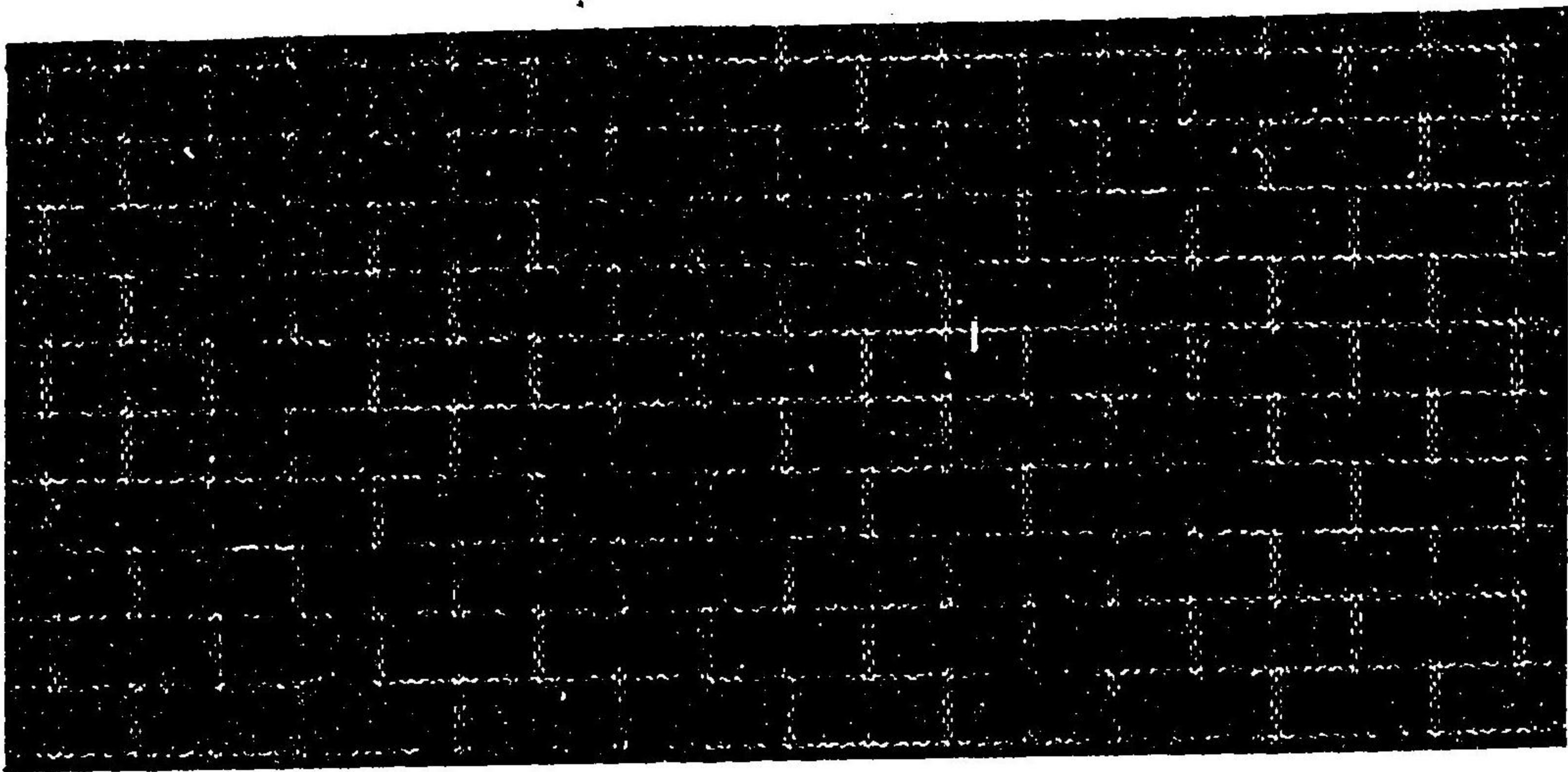
號六十九百四第 緋摩薩



號七十九百四第 緋摩薩

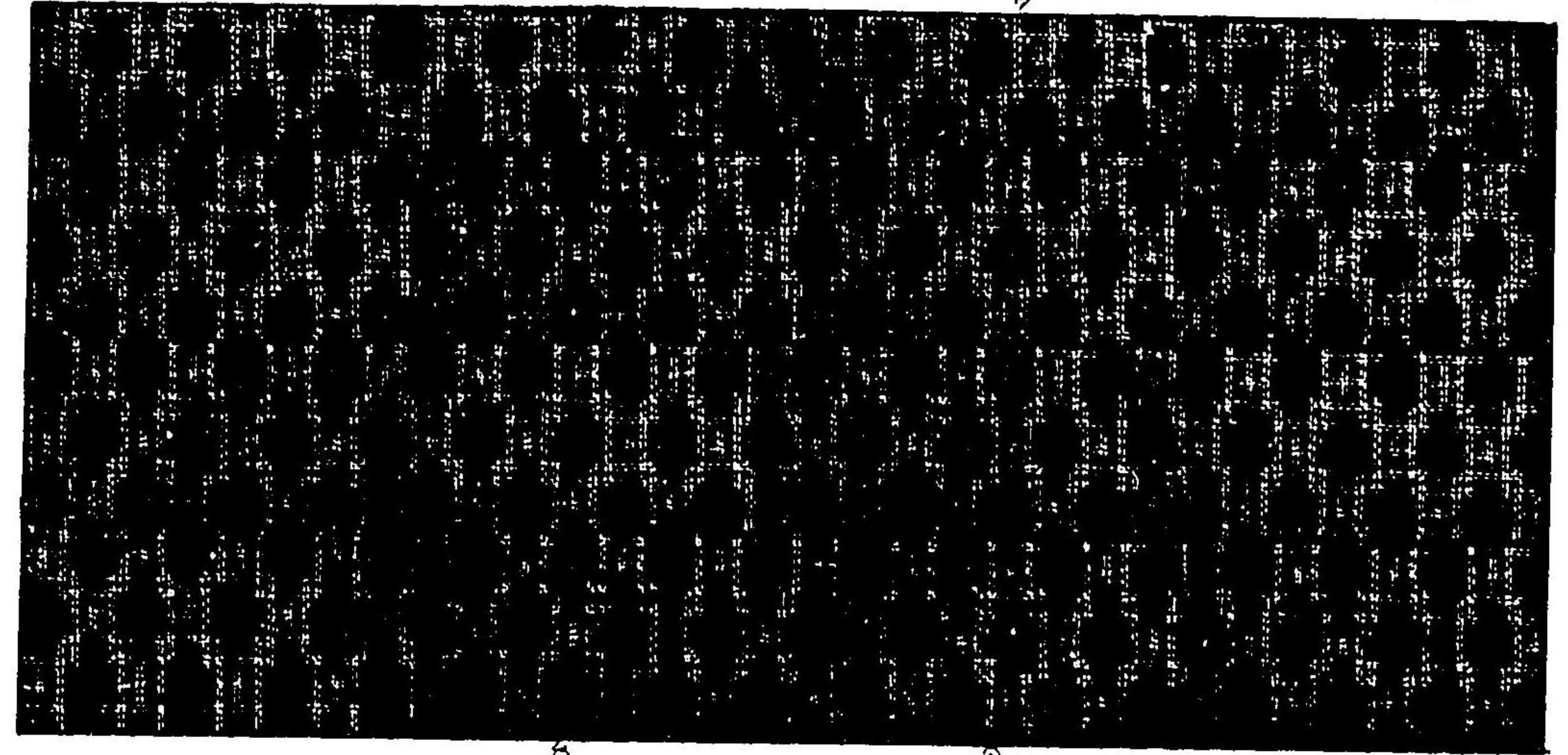


號八十九百四第 織崎勢伊

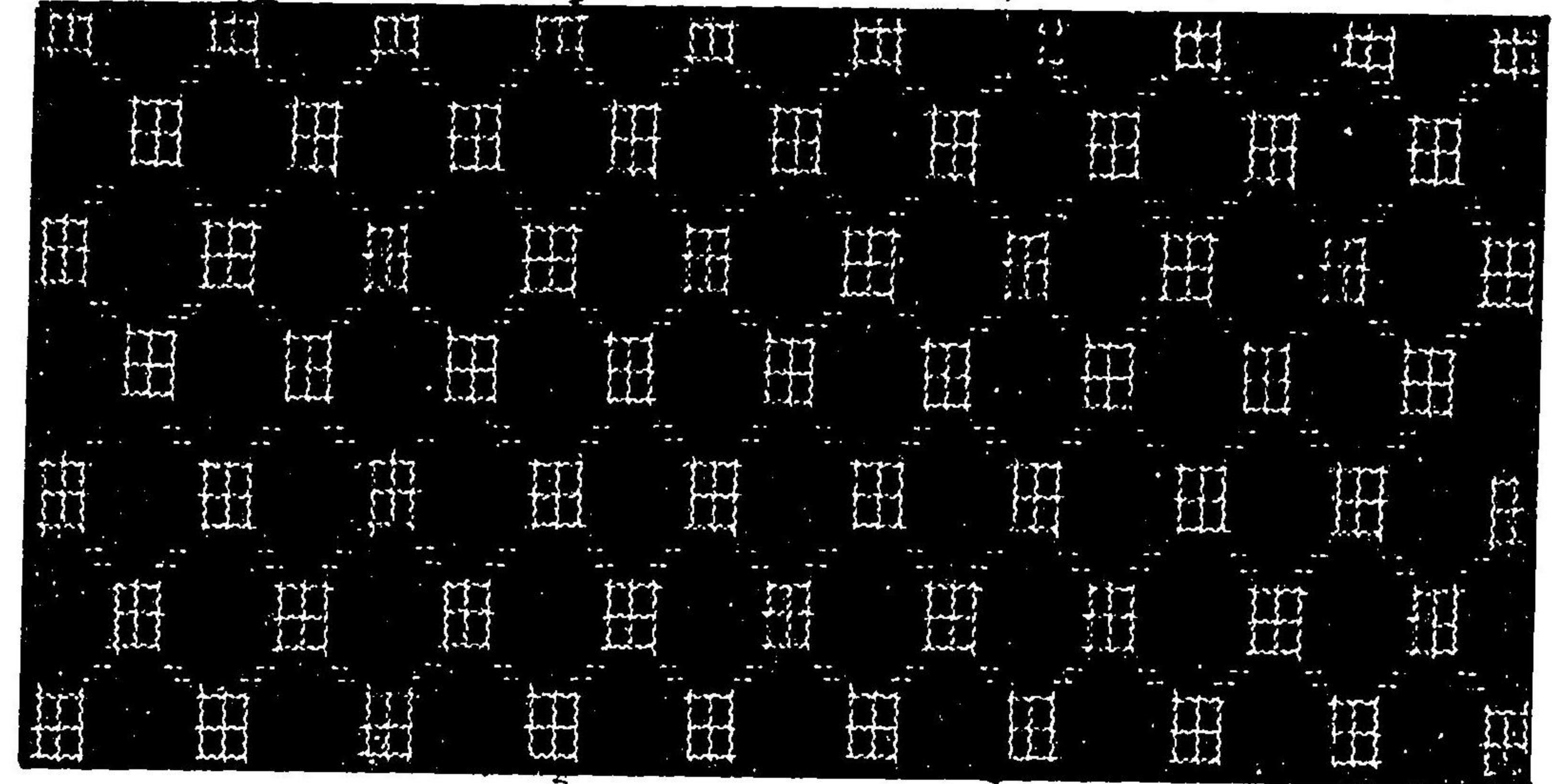


二百五

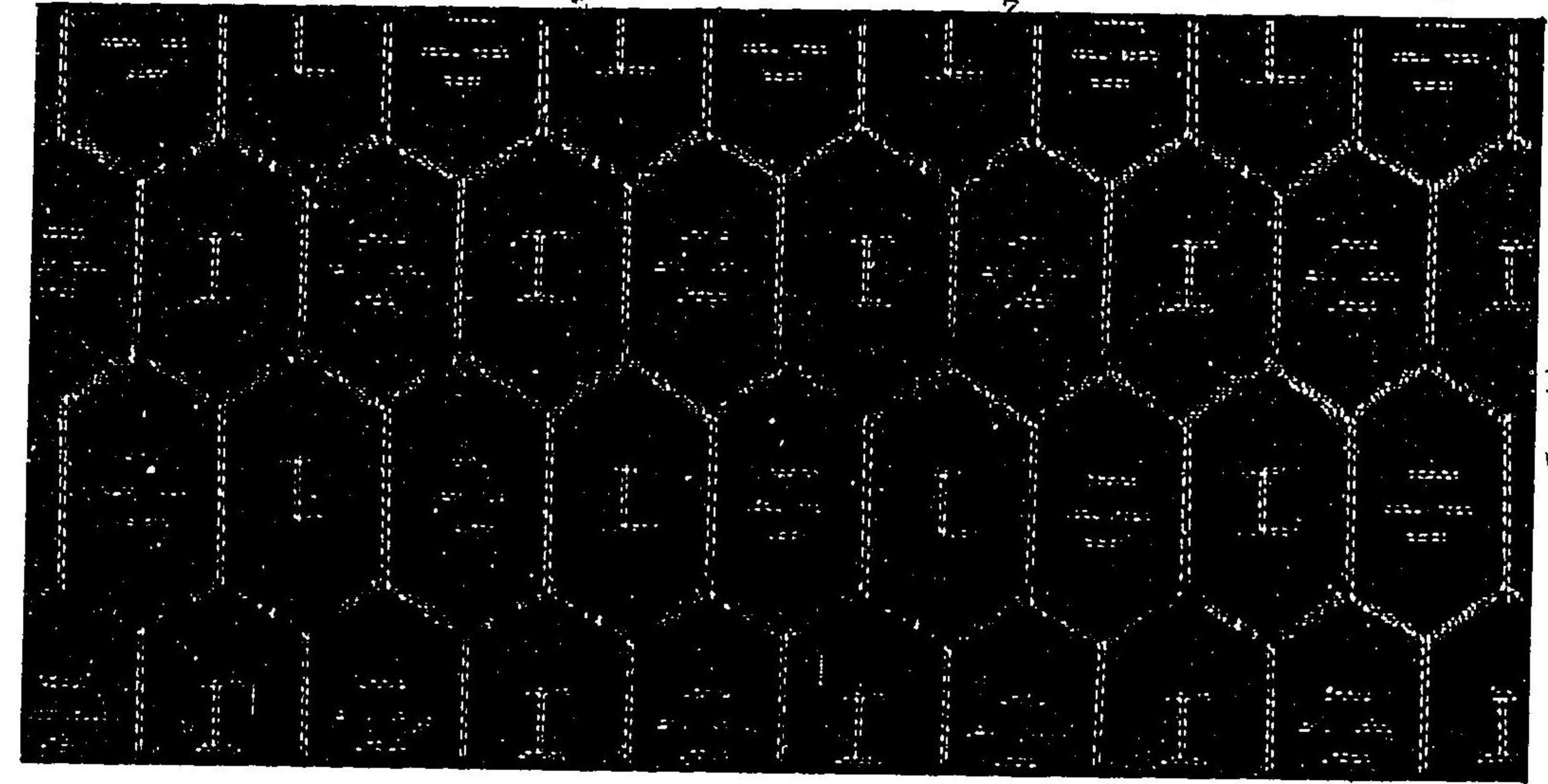
號三十九百四第 緋球琉



號四十九百四第 緋島廣

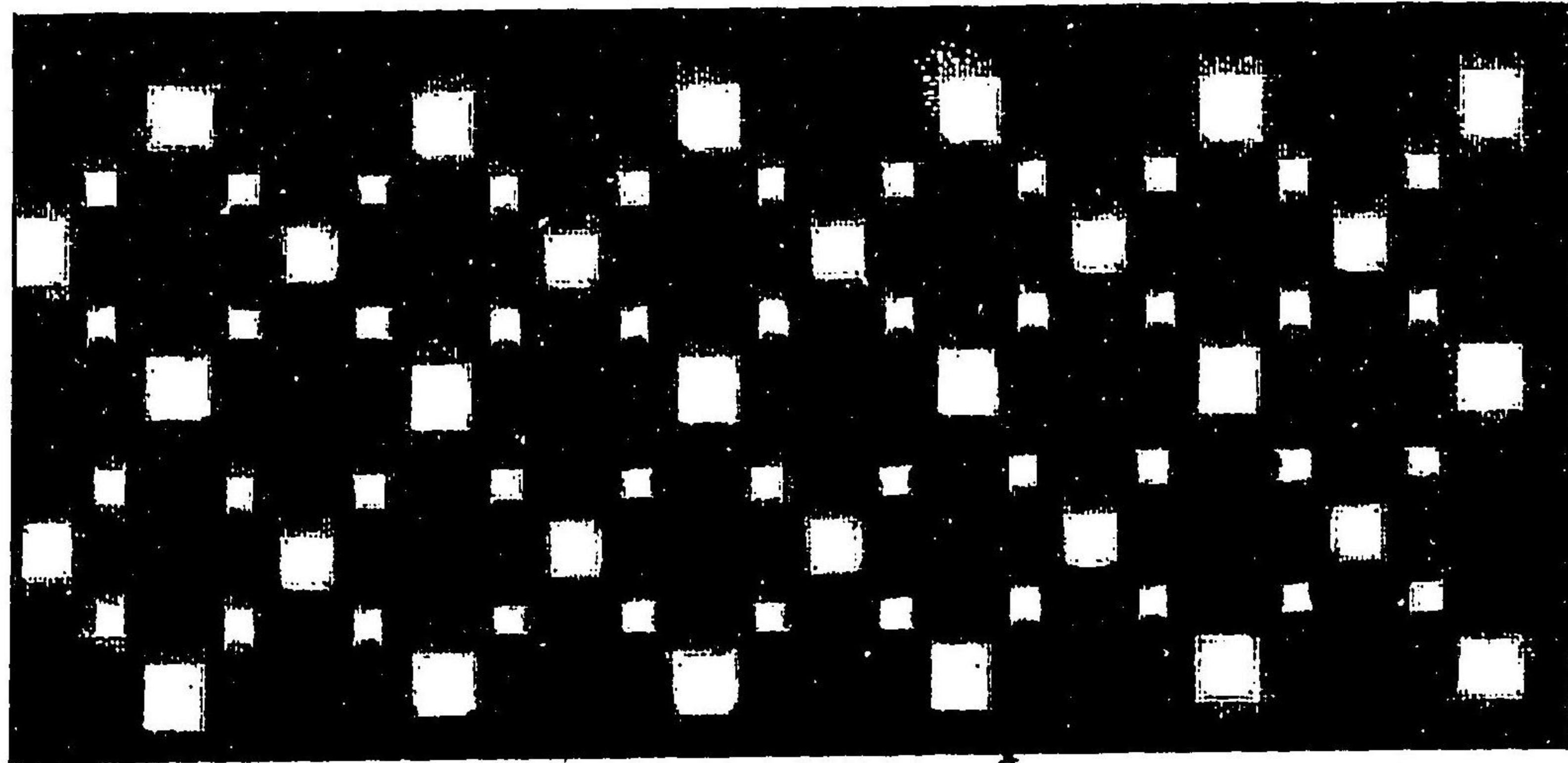


號五十九百四第 緋麻江近

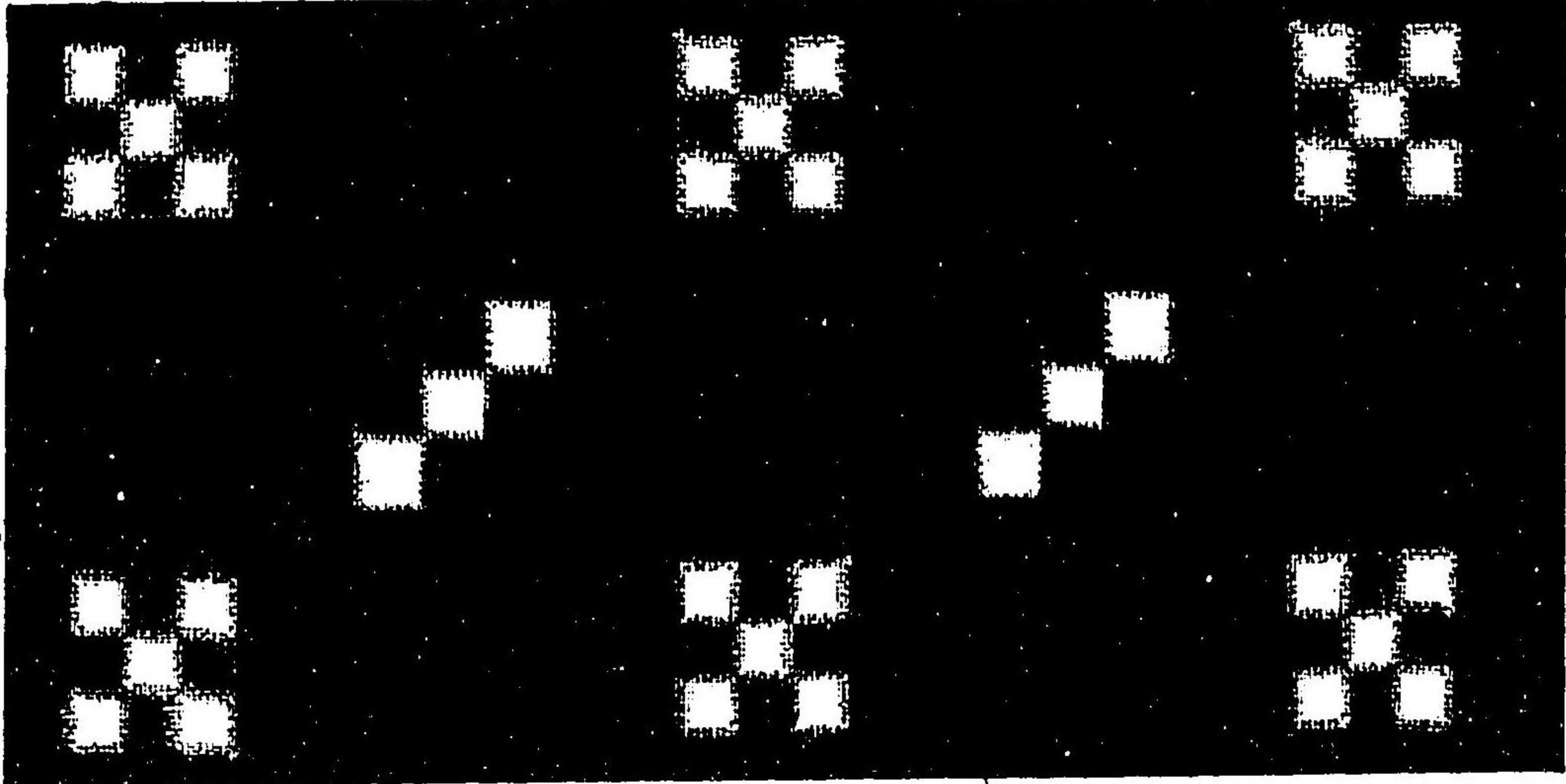


二百四

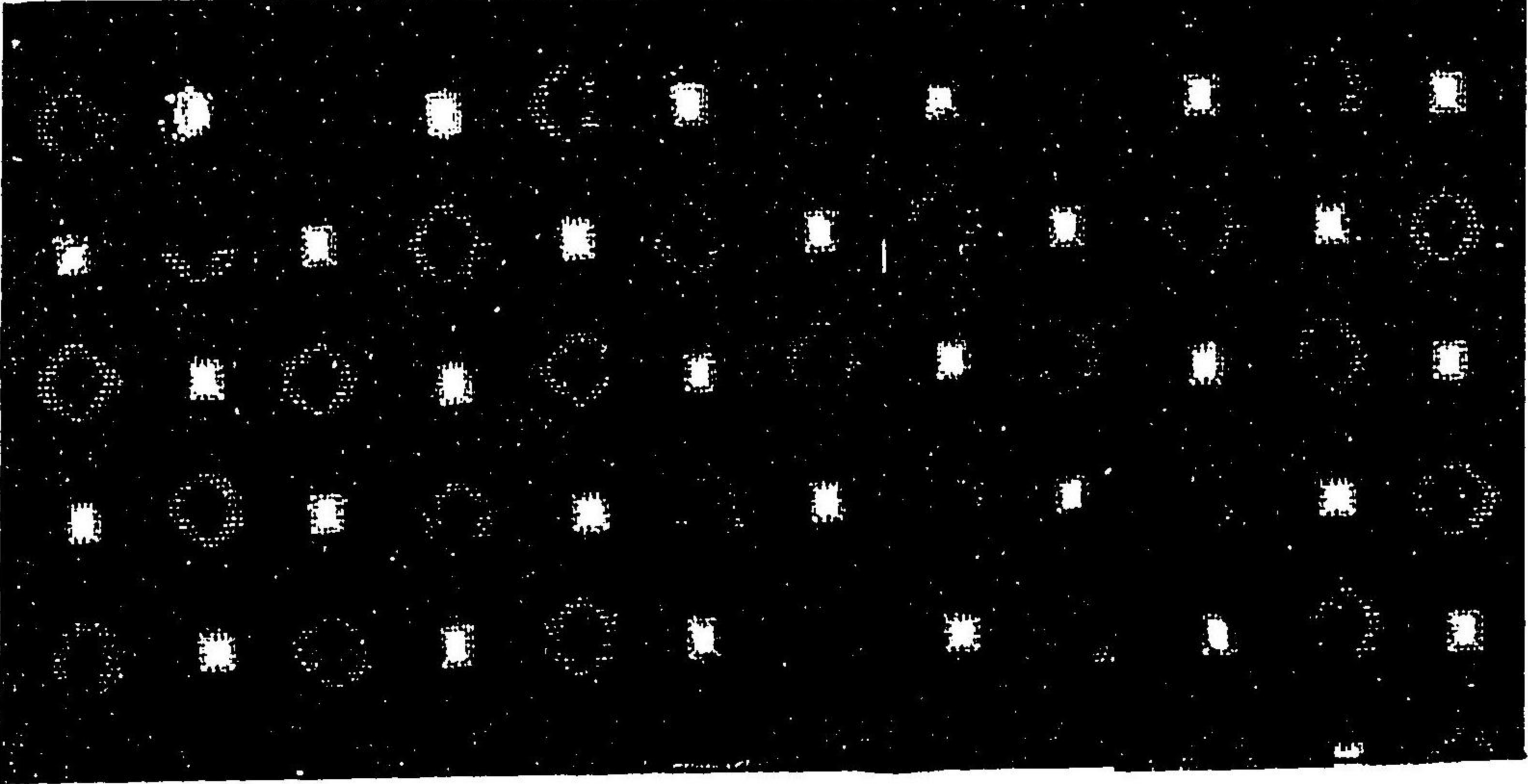
場工織綿沖匠里首 號二〇百五第 (賞等二) 絳球流



氏藏秀木船町吉彦 號三〇百五第 (賞等三) 絳取馬

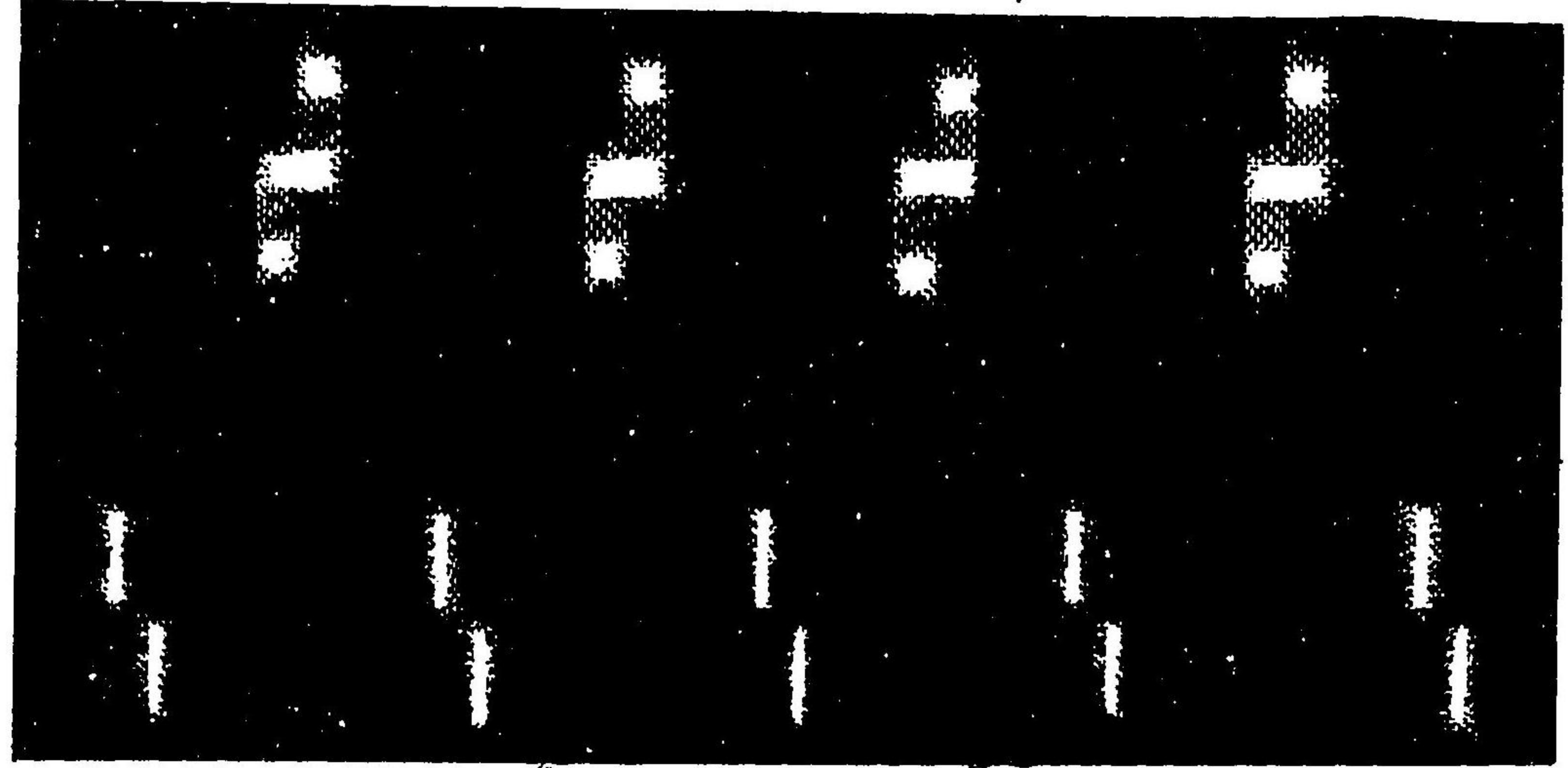


號四〇百五第 絳 豫 伊

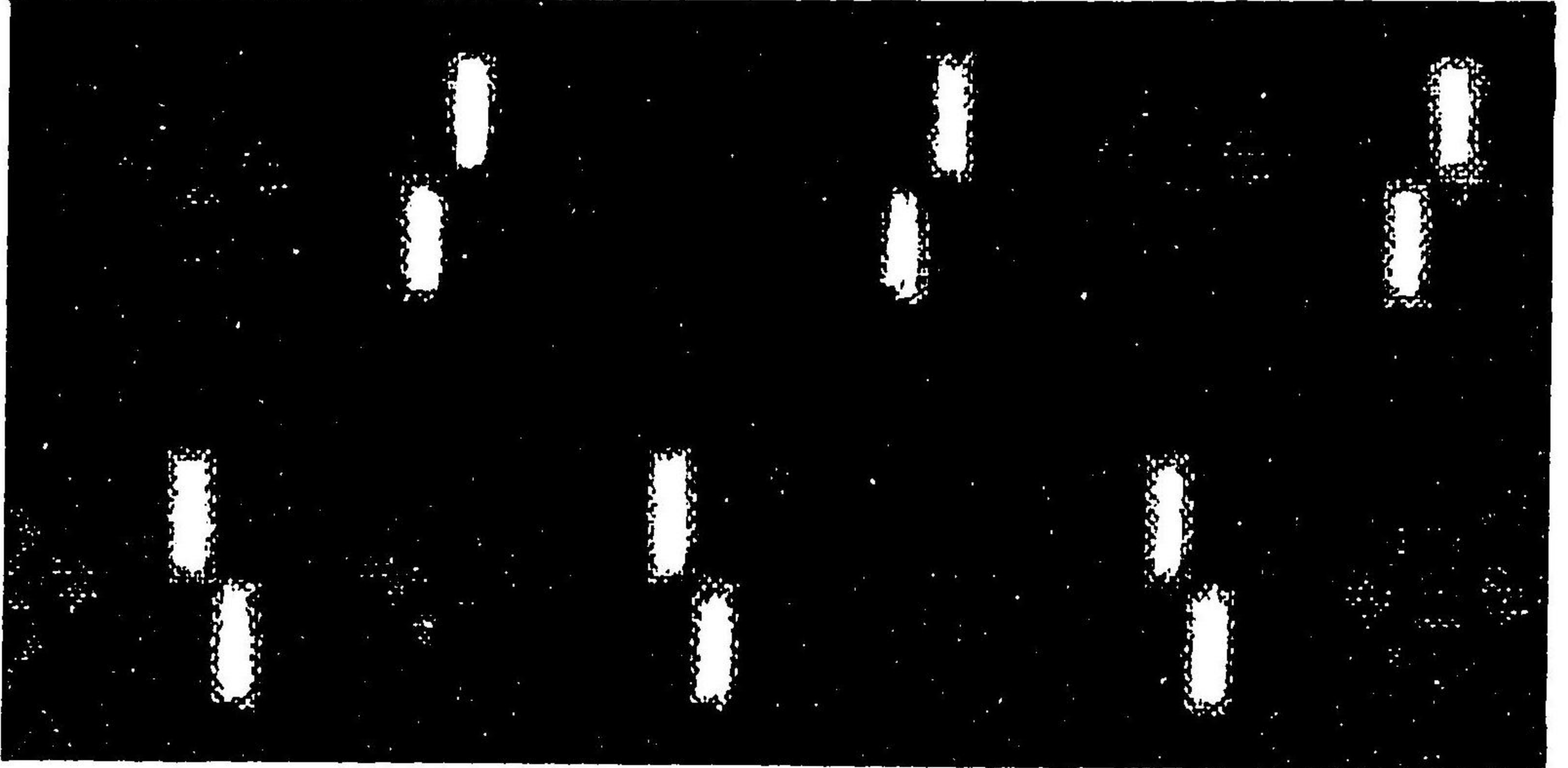


二百七

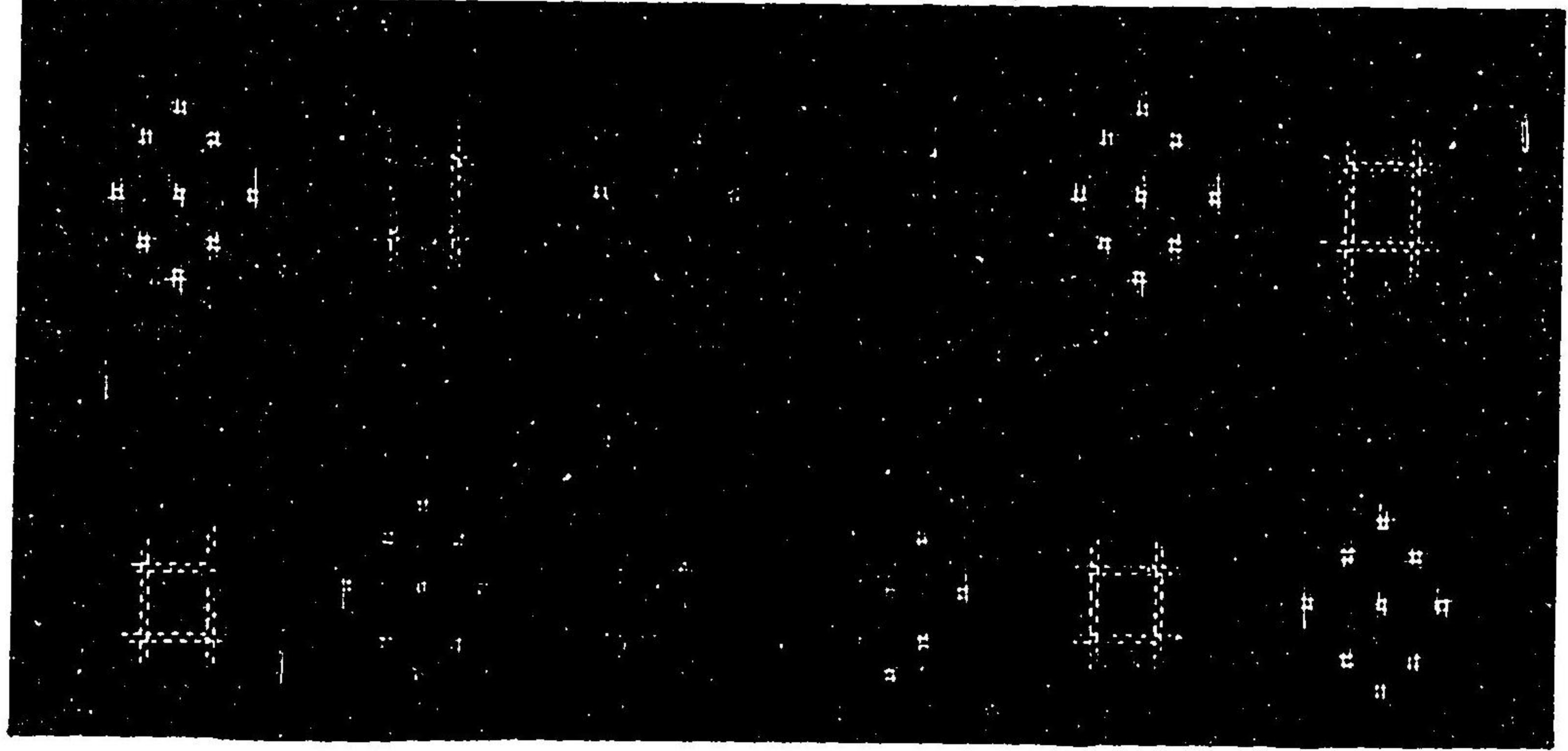
號九十九百四第 絳 豫 伊



號一百五第 絳 豫 伊

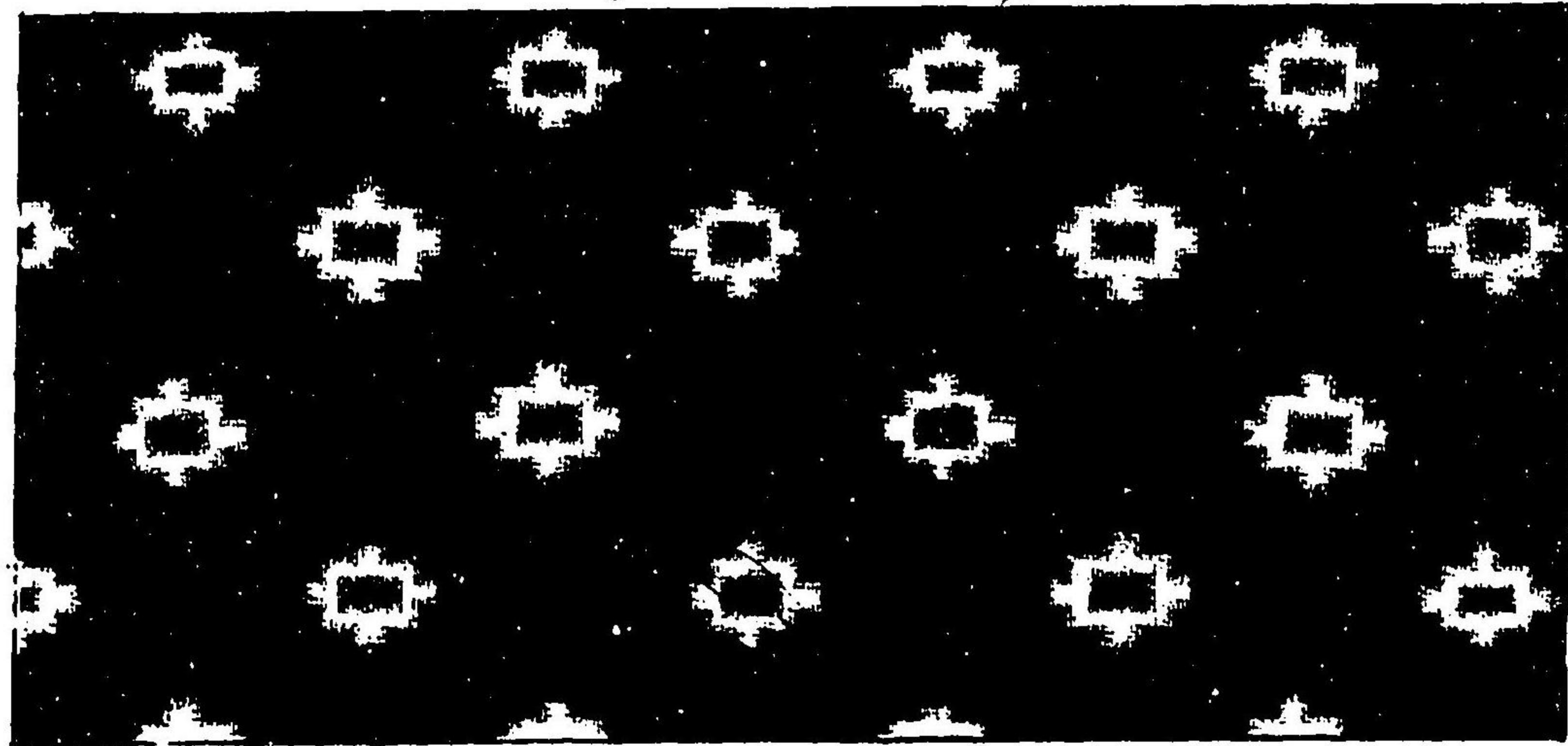


號百五第 絳 和 大

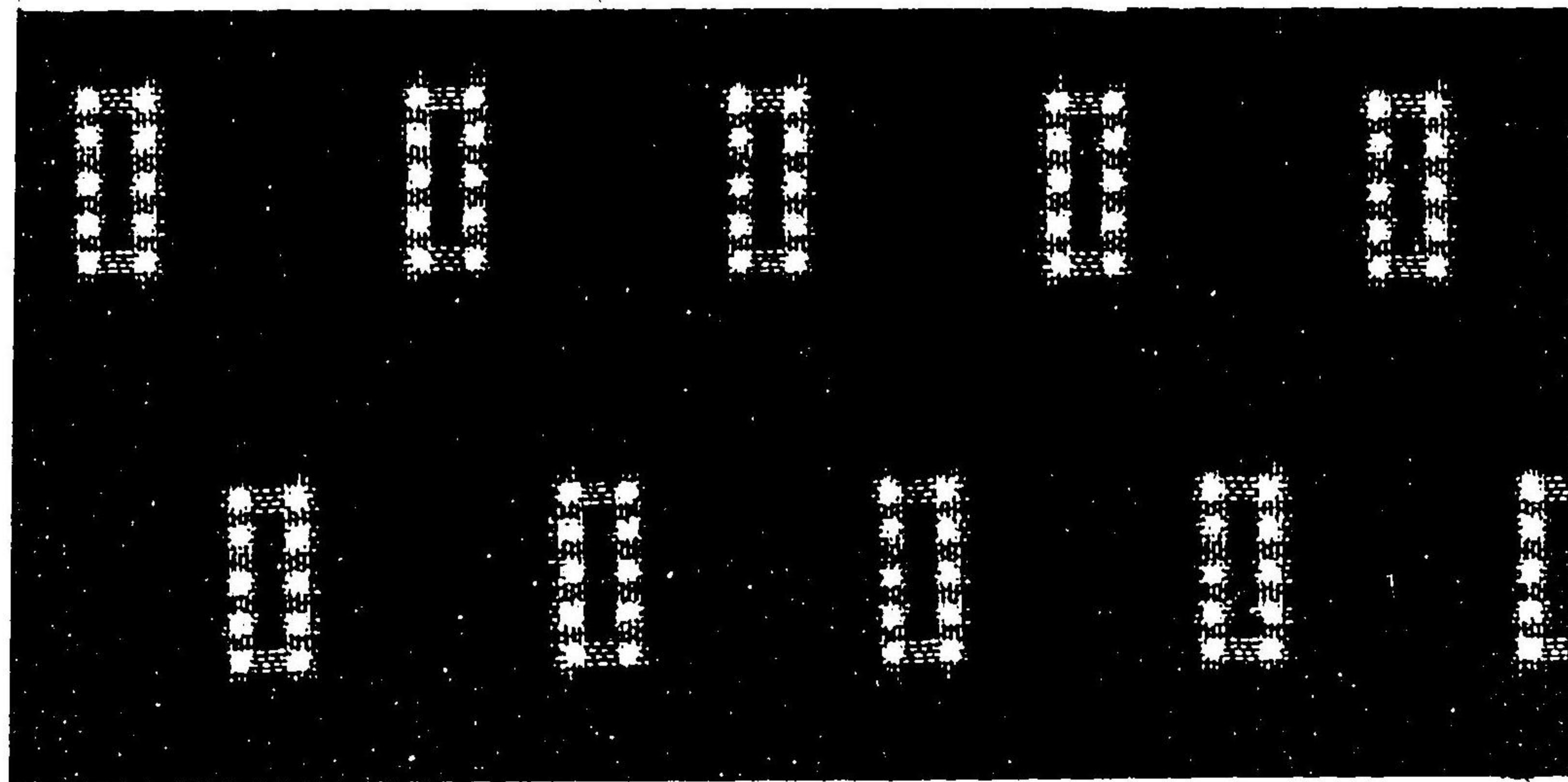


二百六

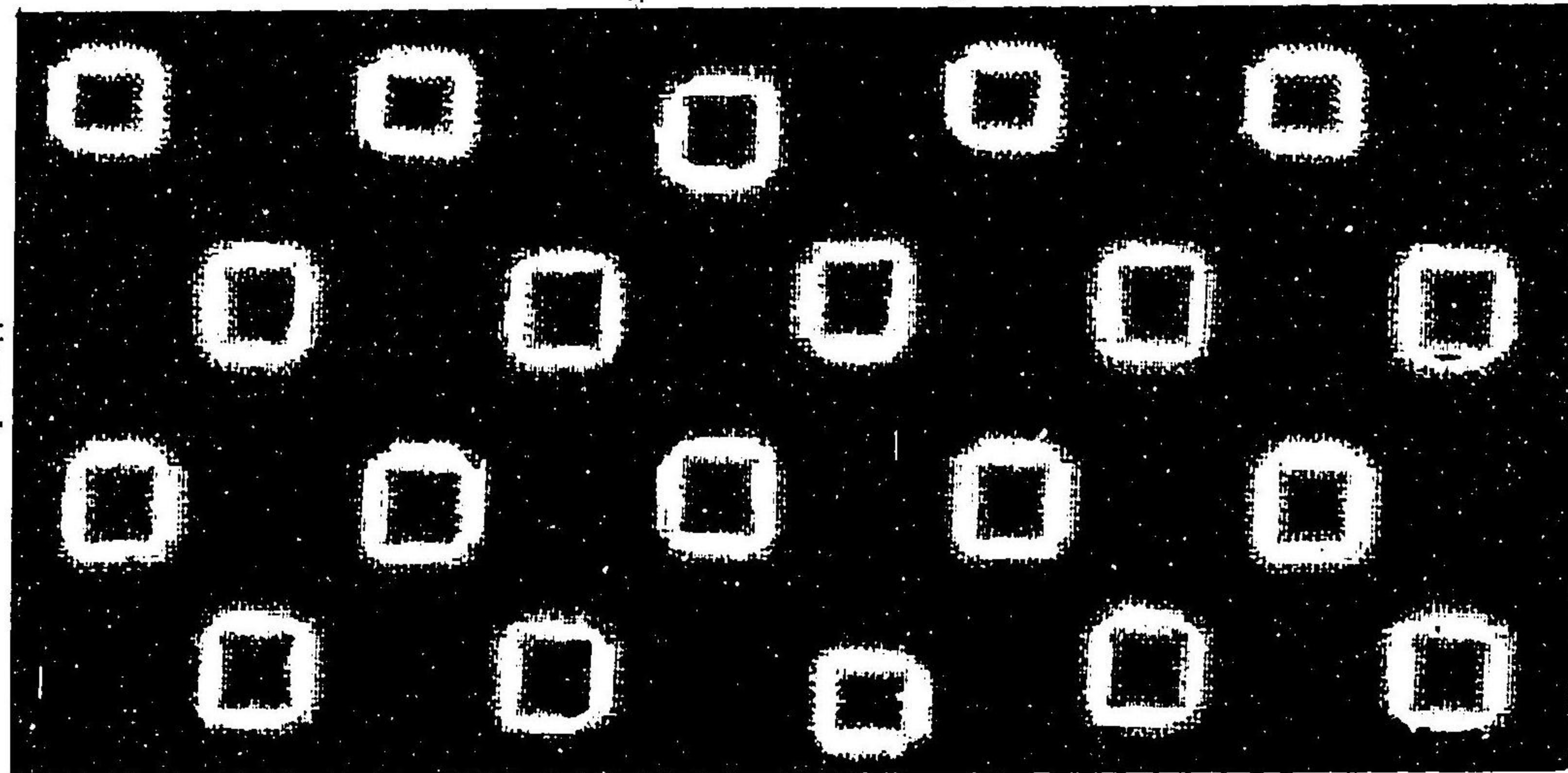
號八〇百五第 絛球琉



氏郎二節野天町瀨津三 號九〇百五第 絛豫伊

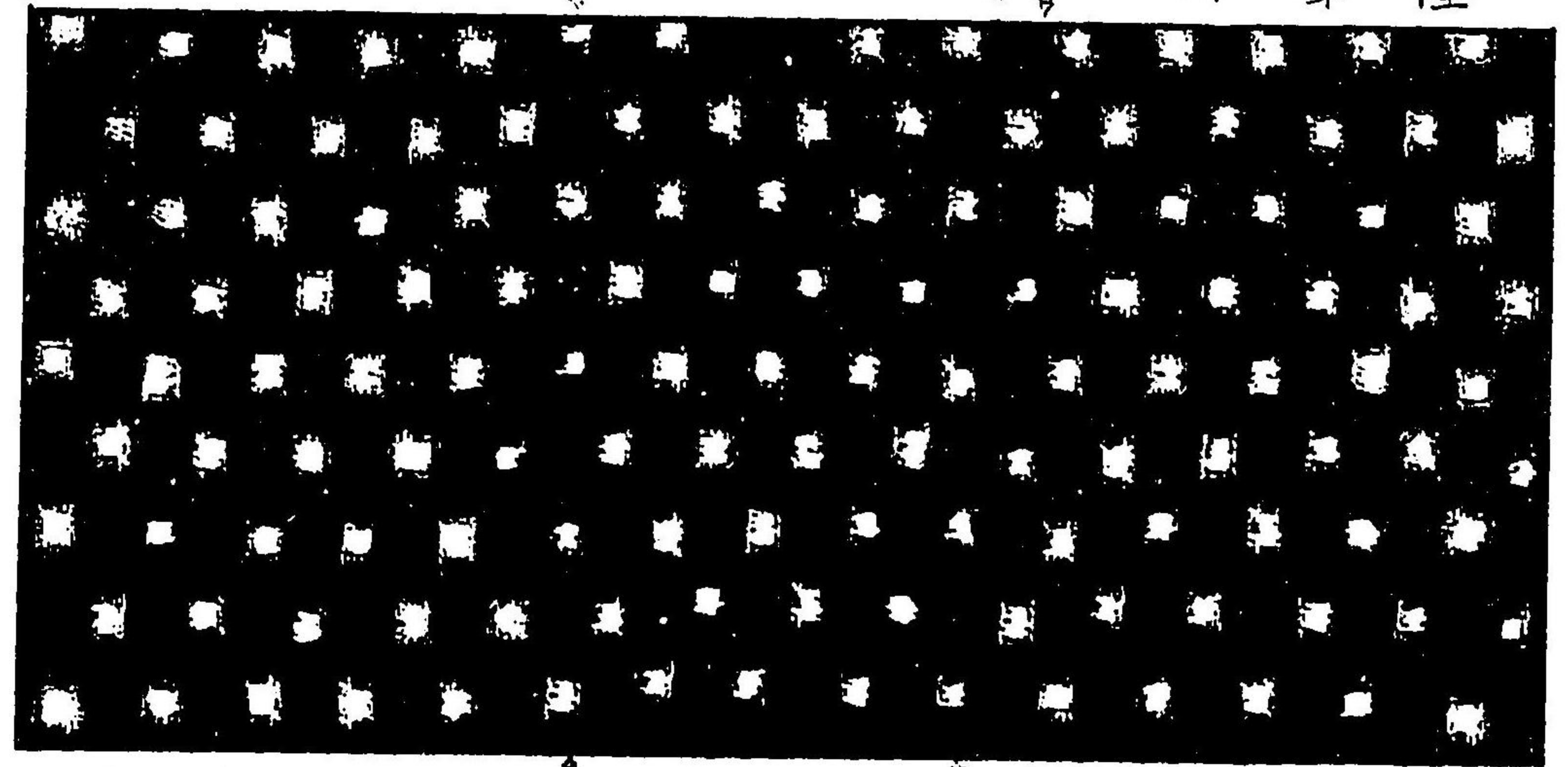


號十百五第 絛球琉

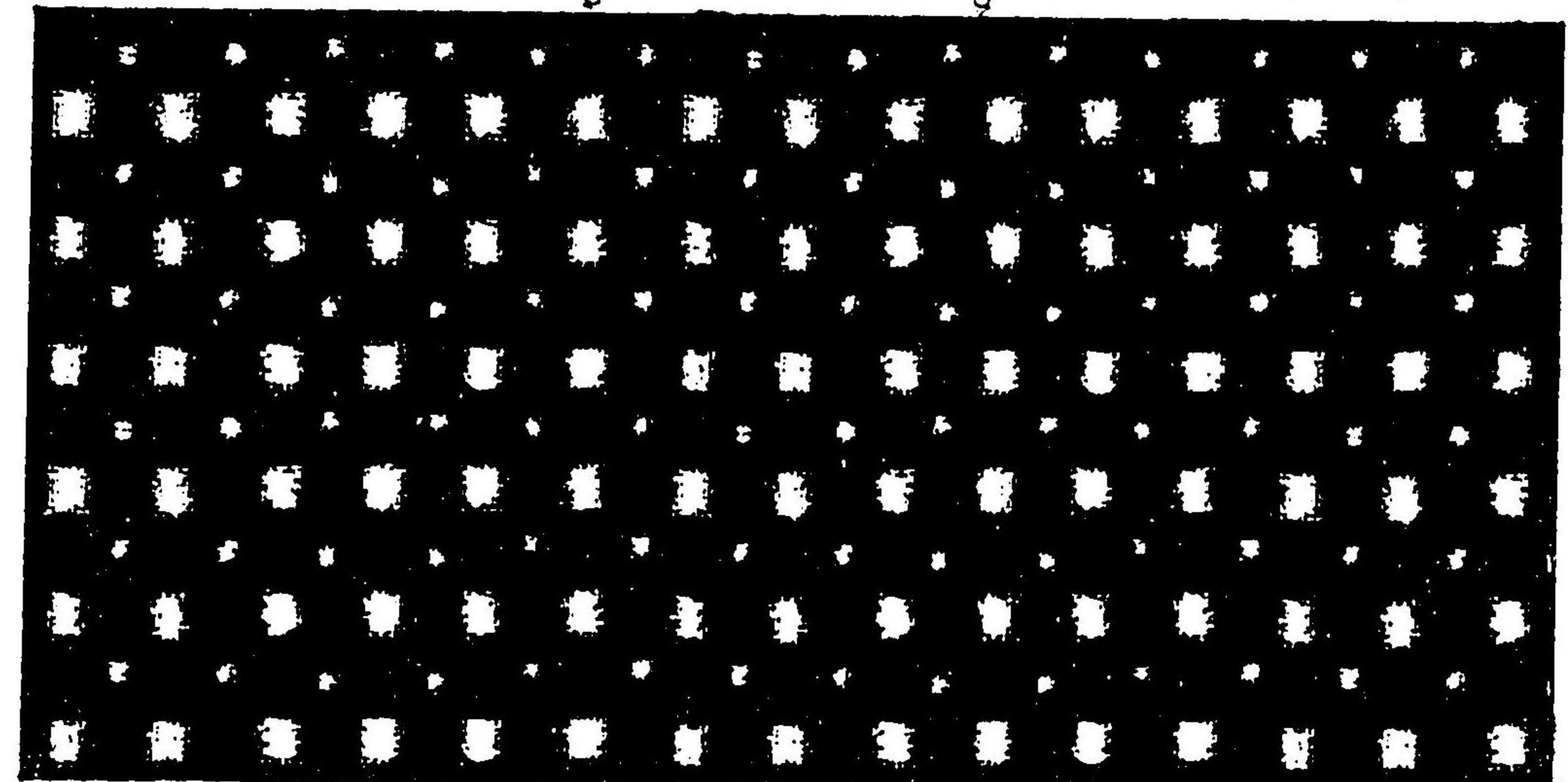


二百〇九

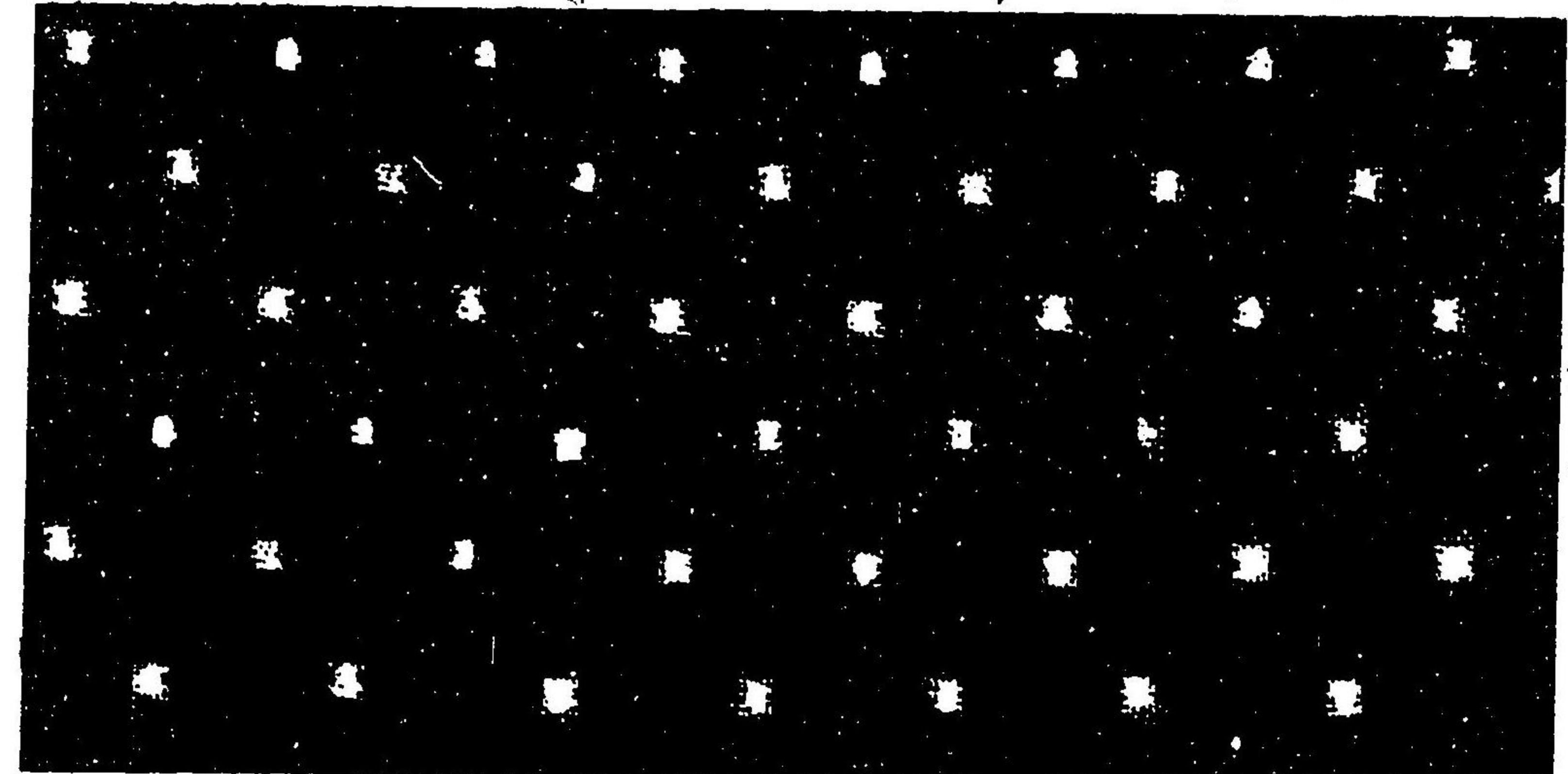
號五〇百五第 絛摩陸



氏郎次喜武國町通市米留久 號六〇百五第 (賞等壹) 絛米留久

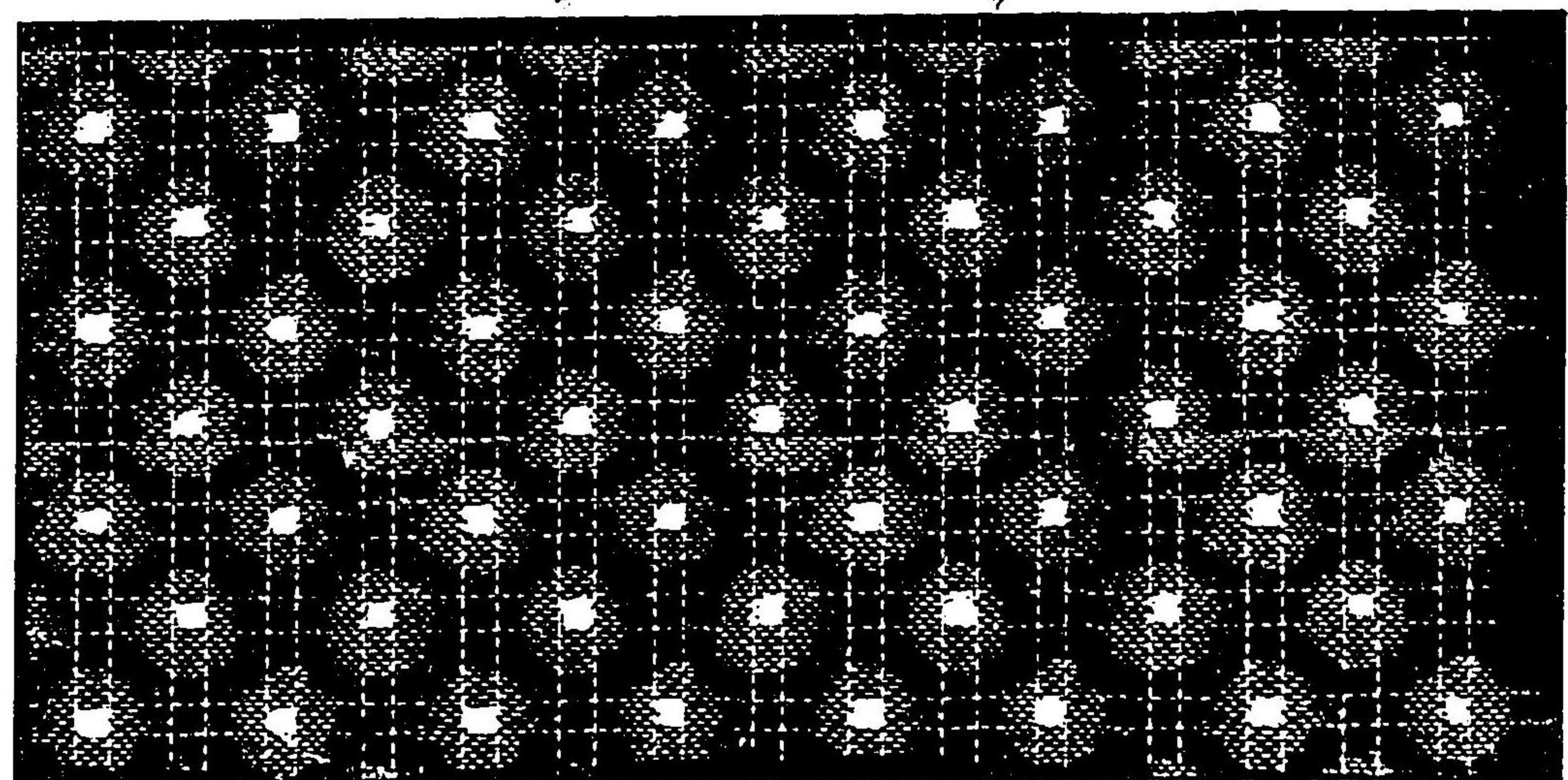


號七〇百五第 絛豫伊

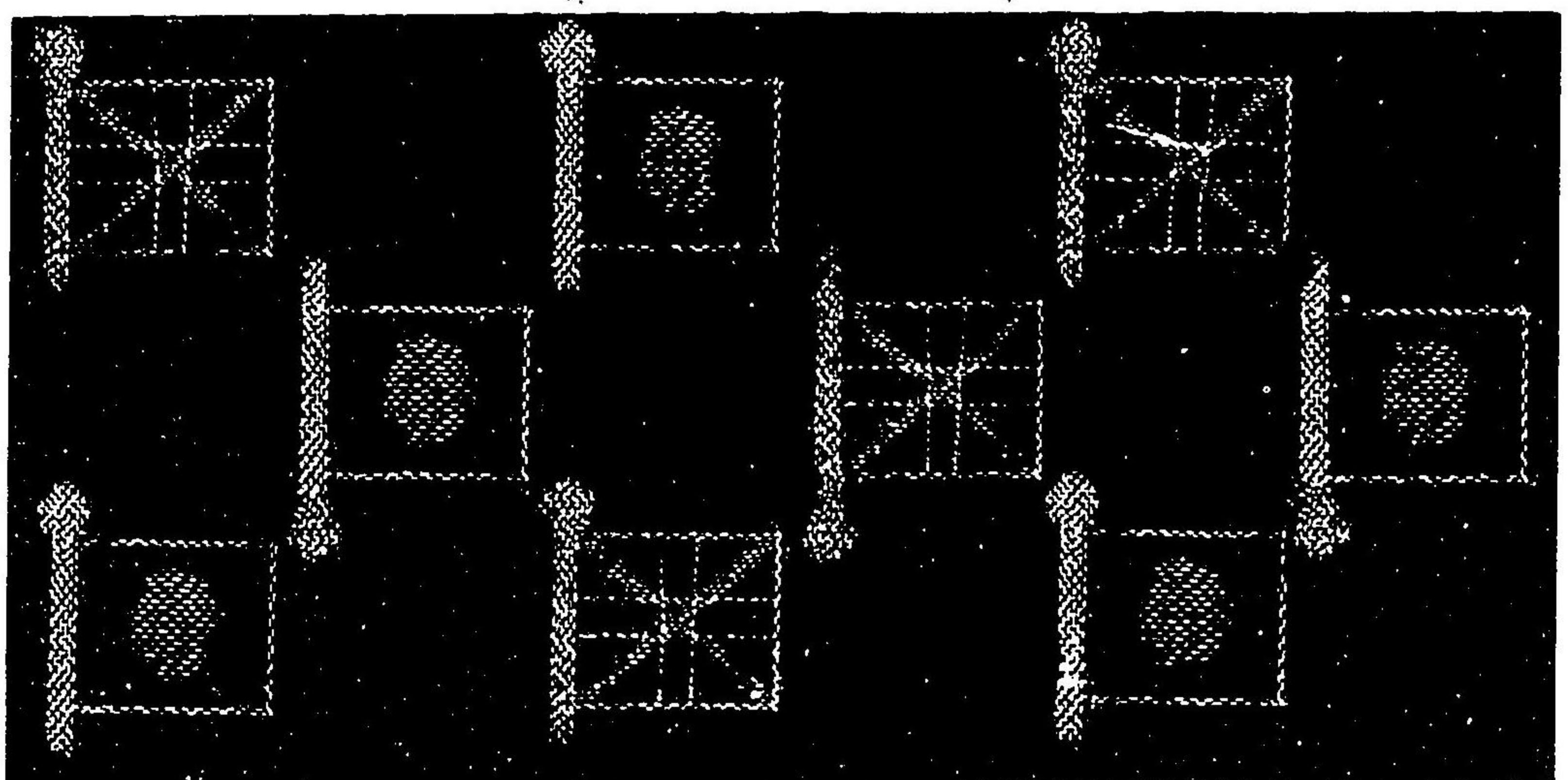


二百〇八

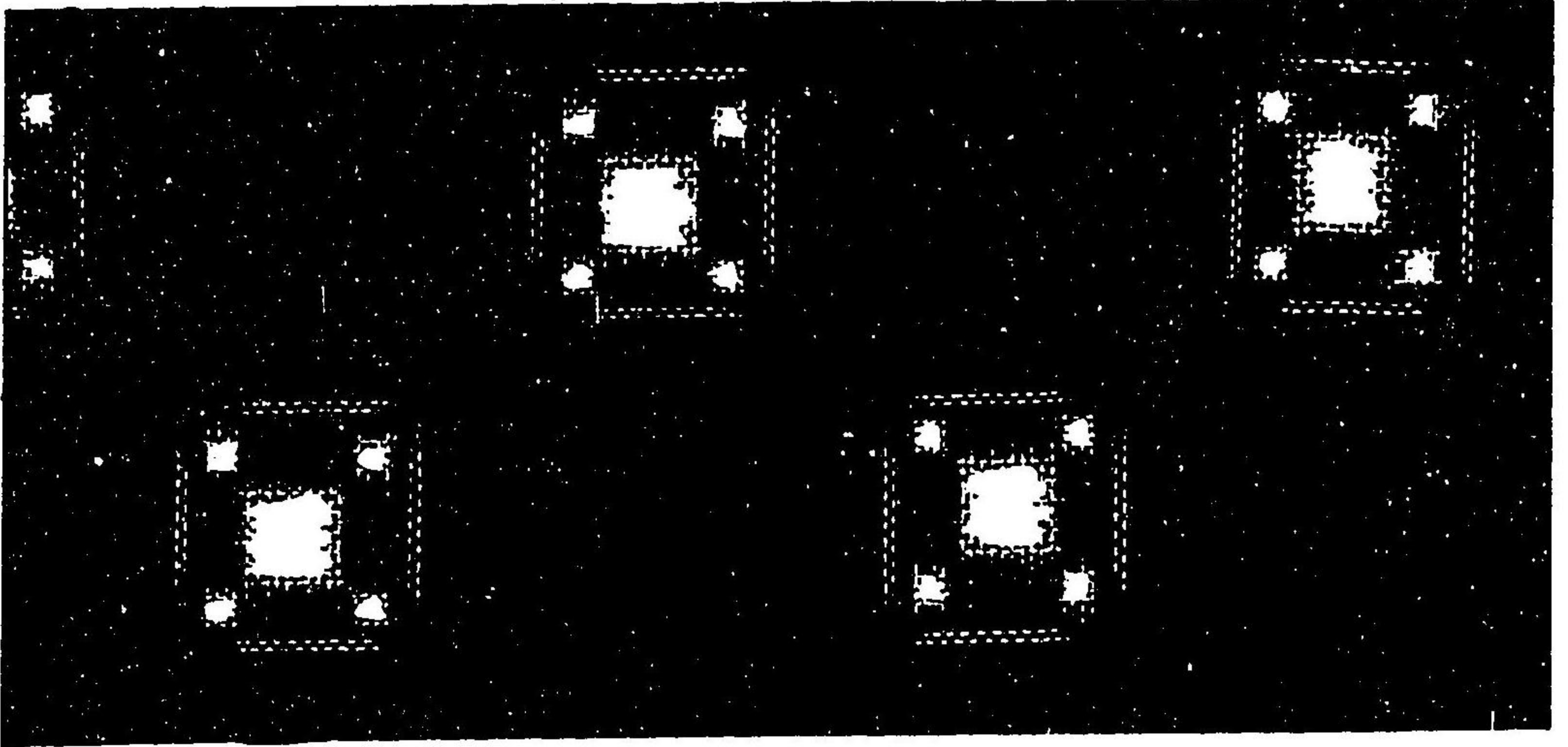
號四十五百五第 緋摩薩



氏茂良武宮村宮一郡豐三 號五十五百五第 (賞等三) 緋岐讚

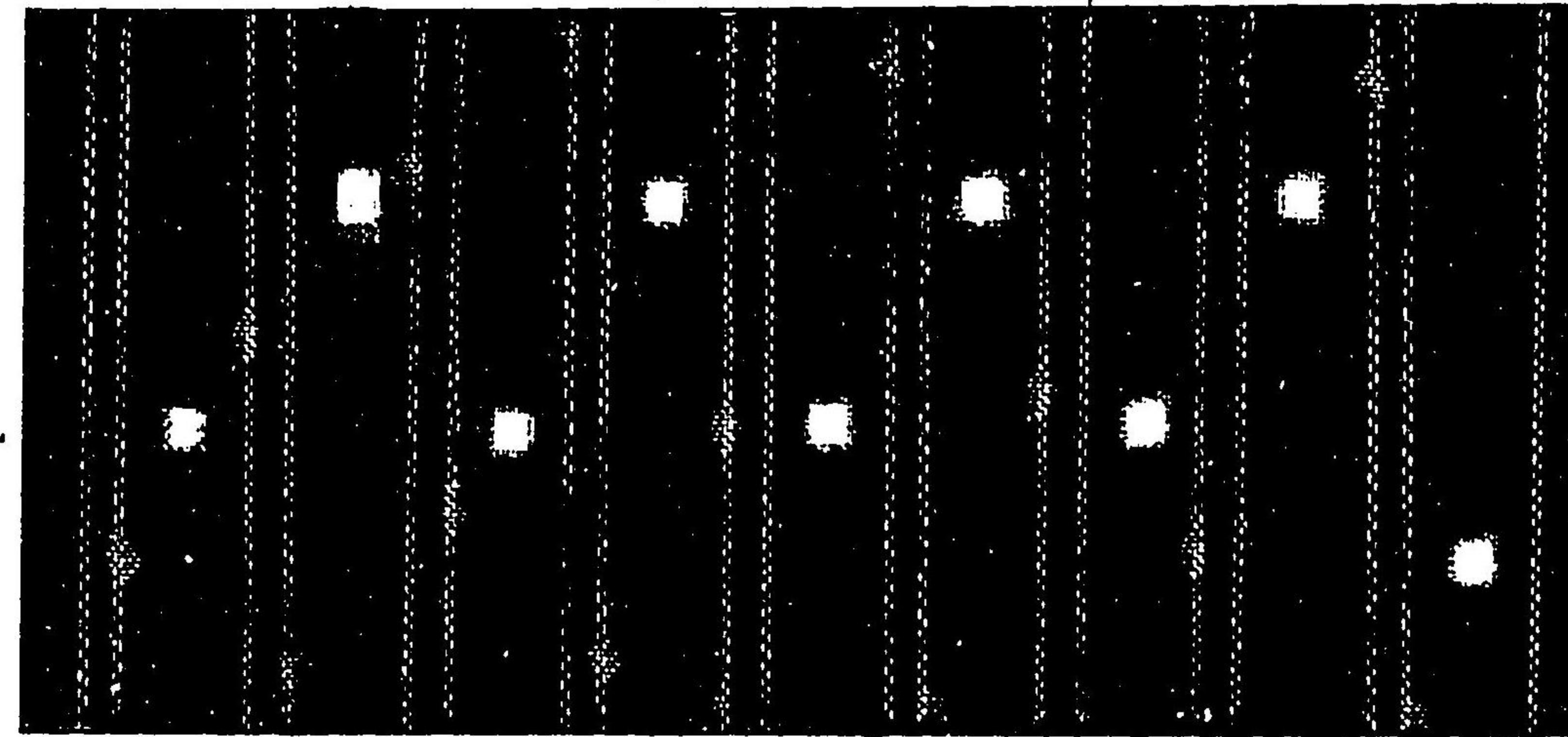


號六十五百五第 緋摩薩

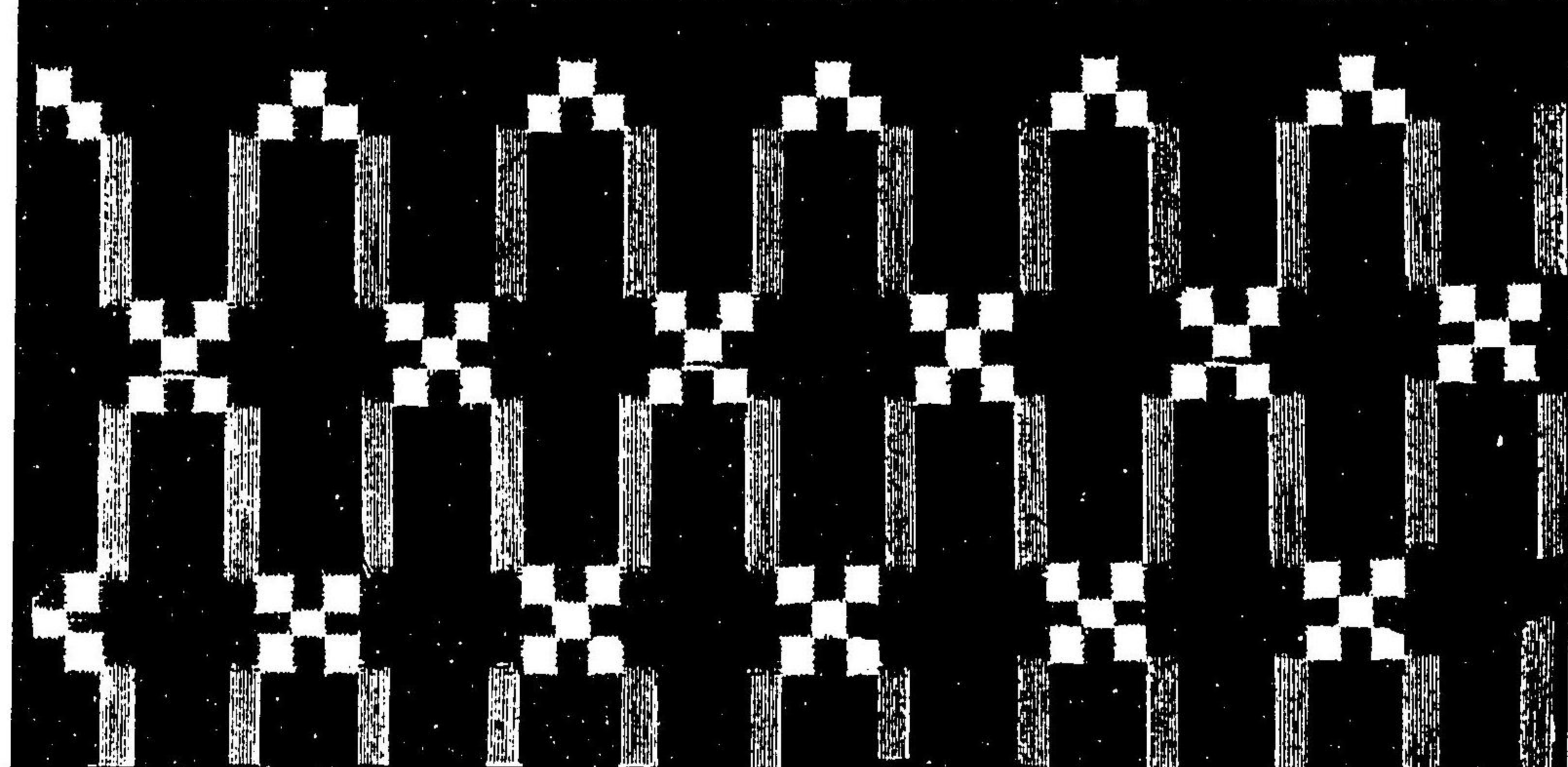


二百一

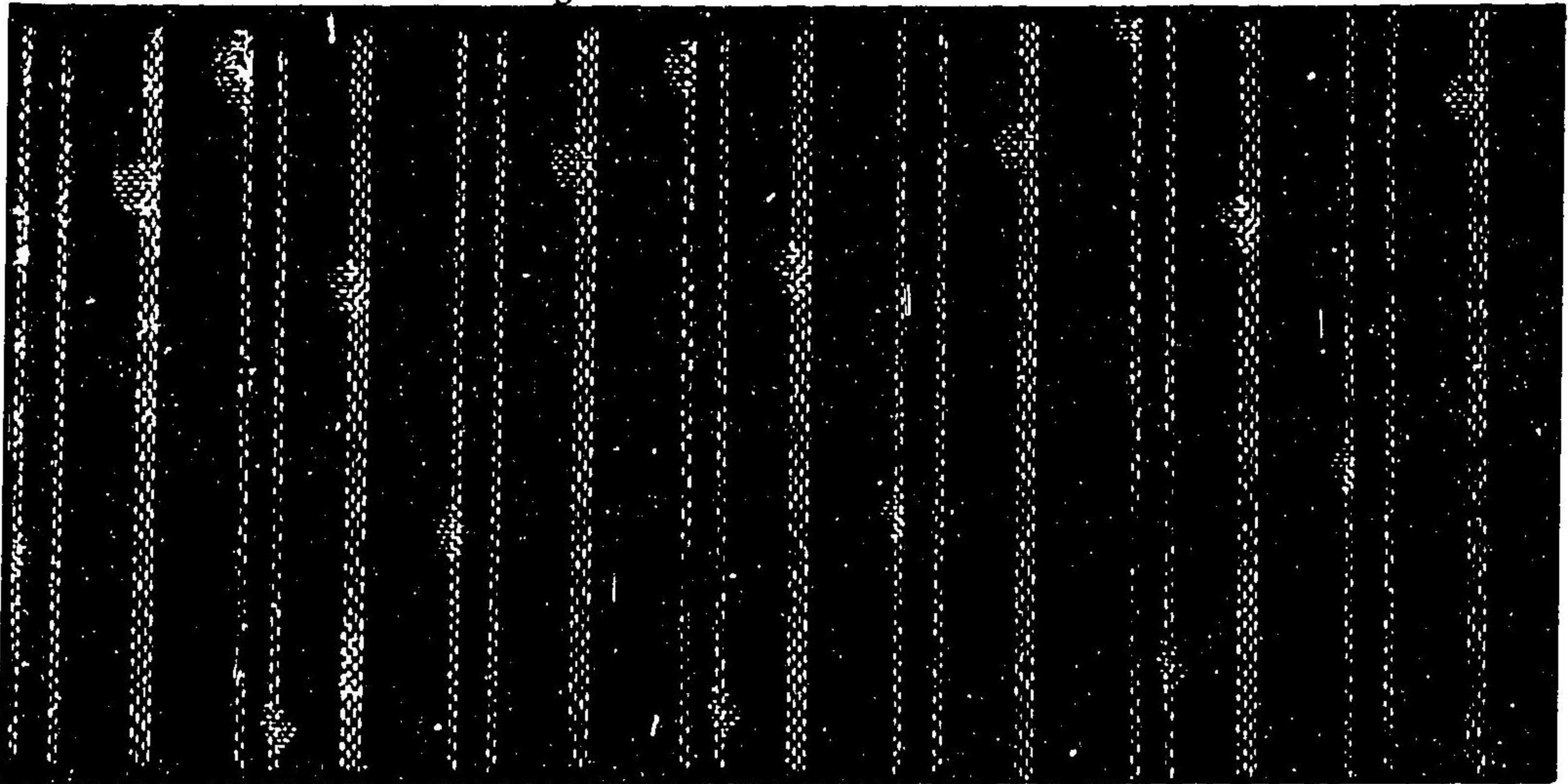
號一十五百五第 緋豫伊



號二十百五第 布上後越

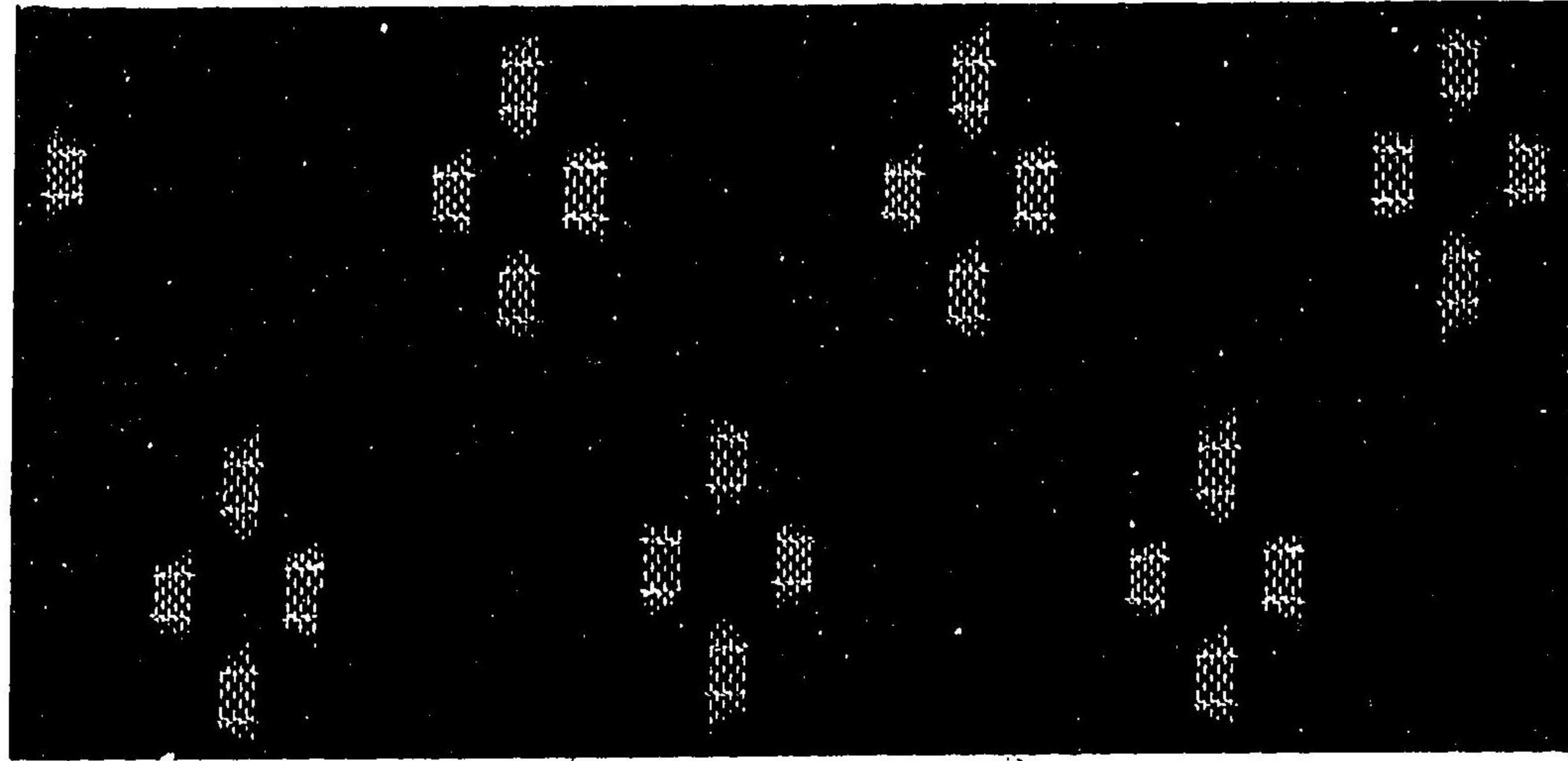


號三十百五第 緋和大

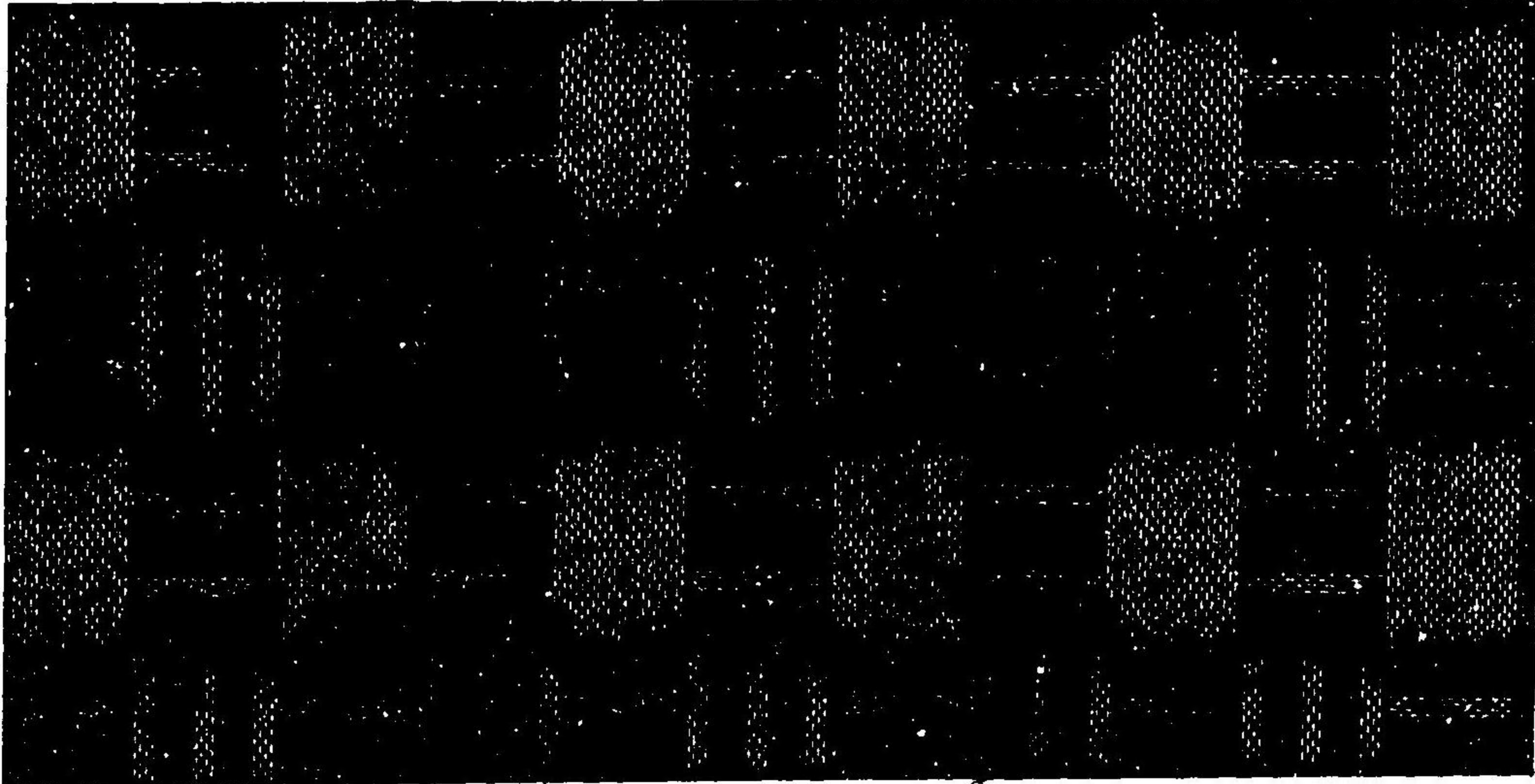


二百十

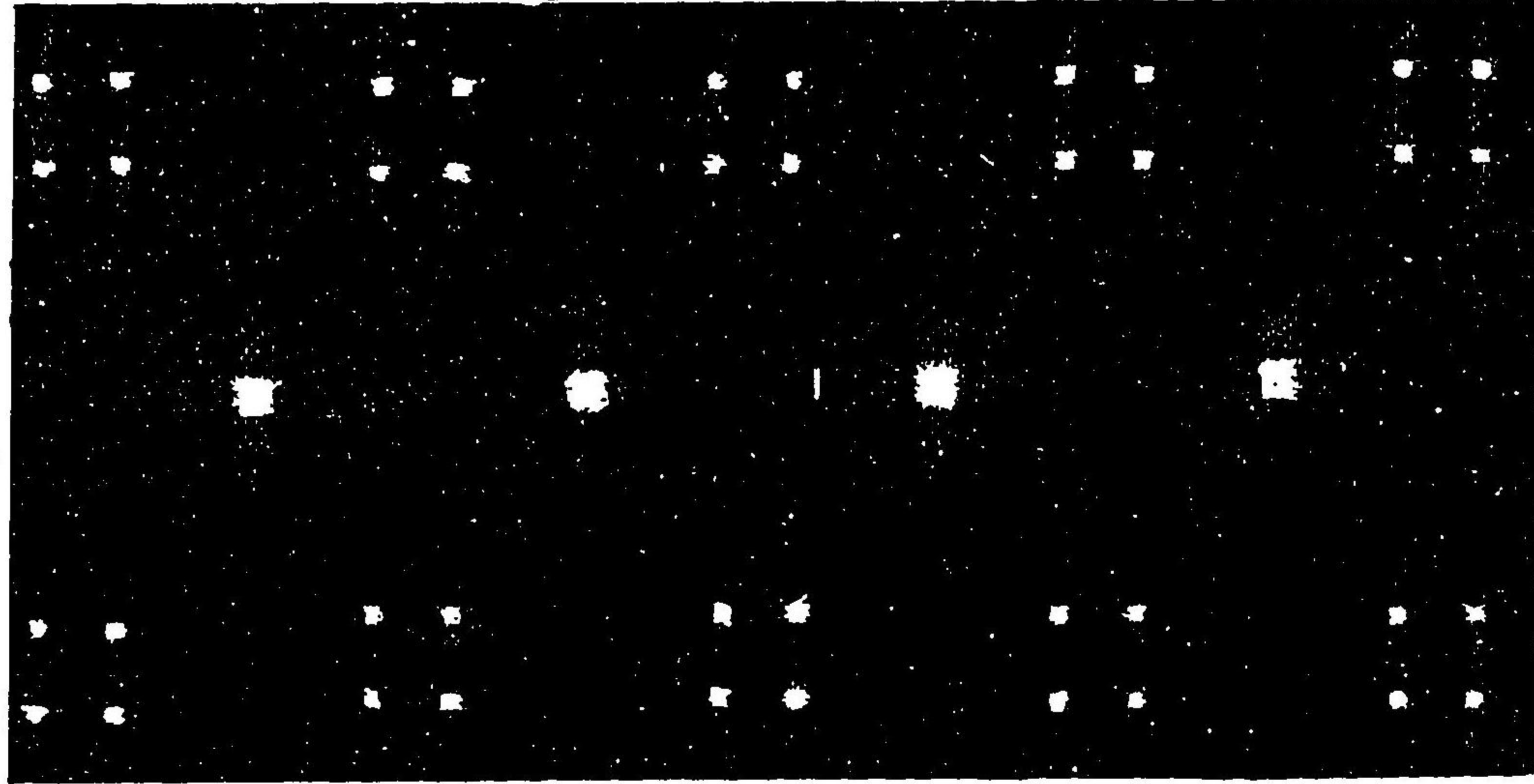
伊豫絣 第五百一十二號



薩摩絣 第五百一十一號

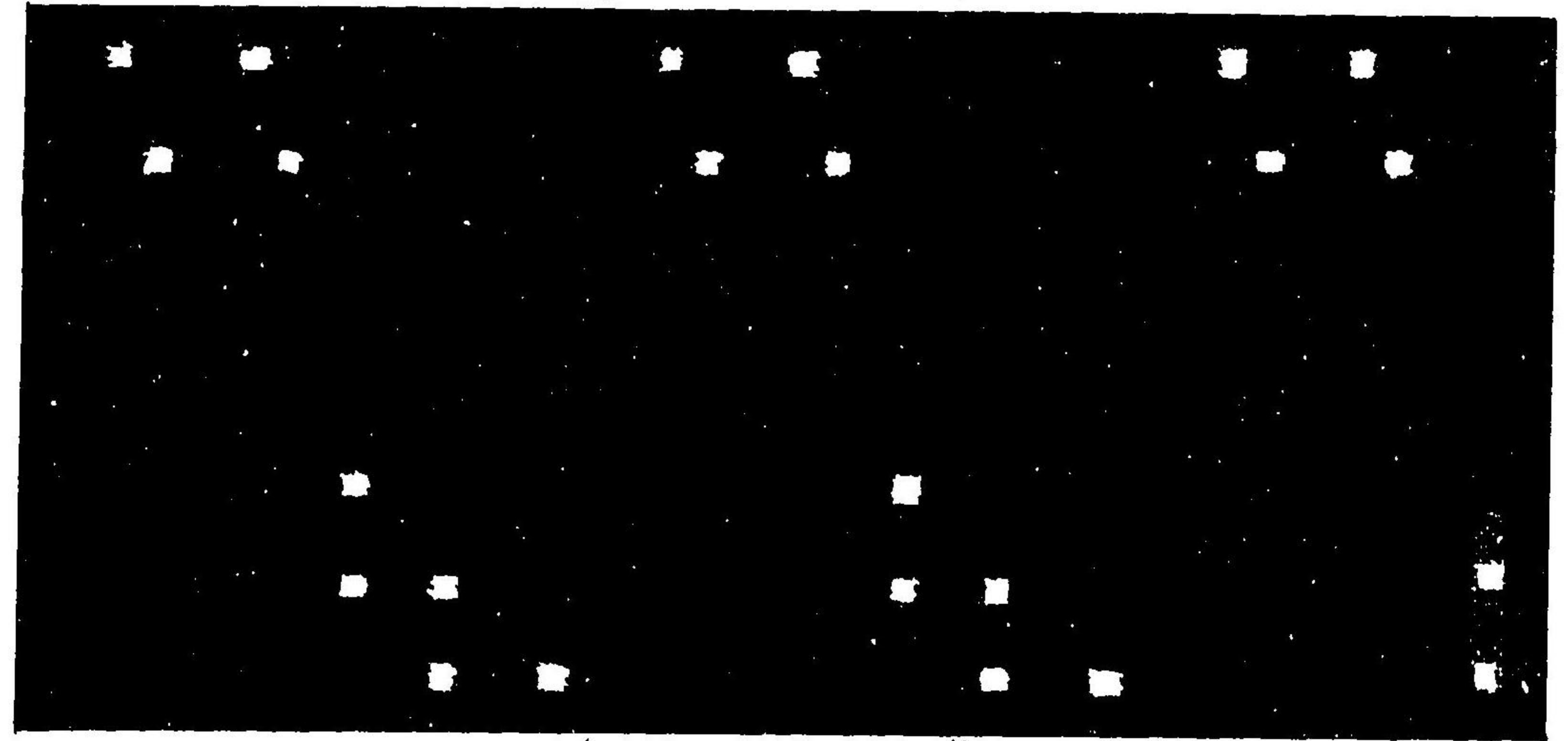


琉球絣 第五百二十二號

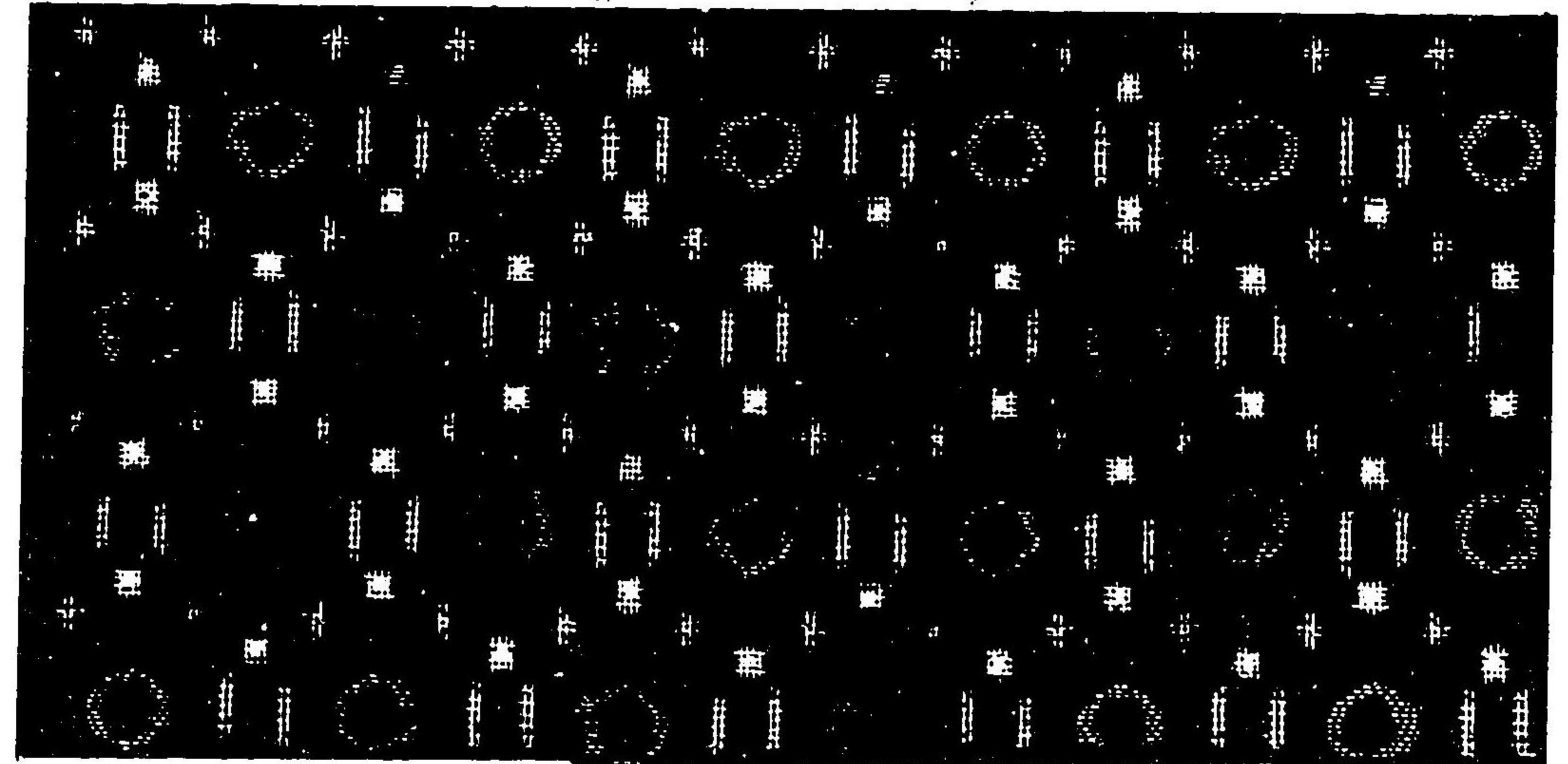


二四三

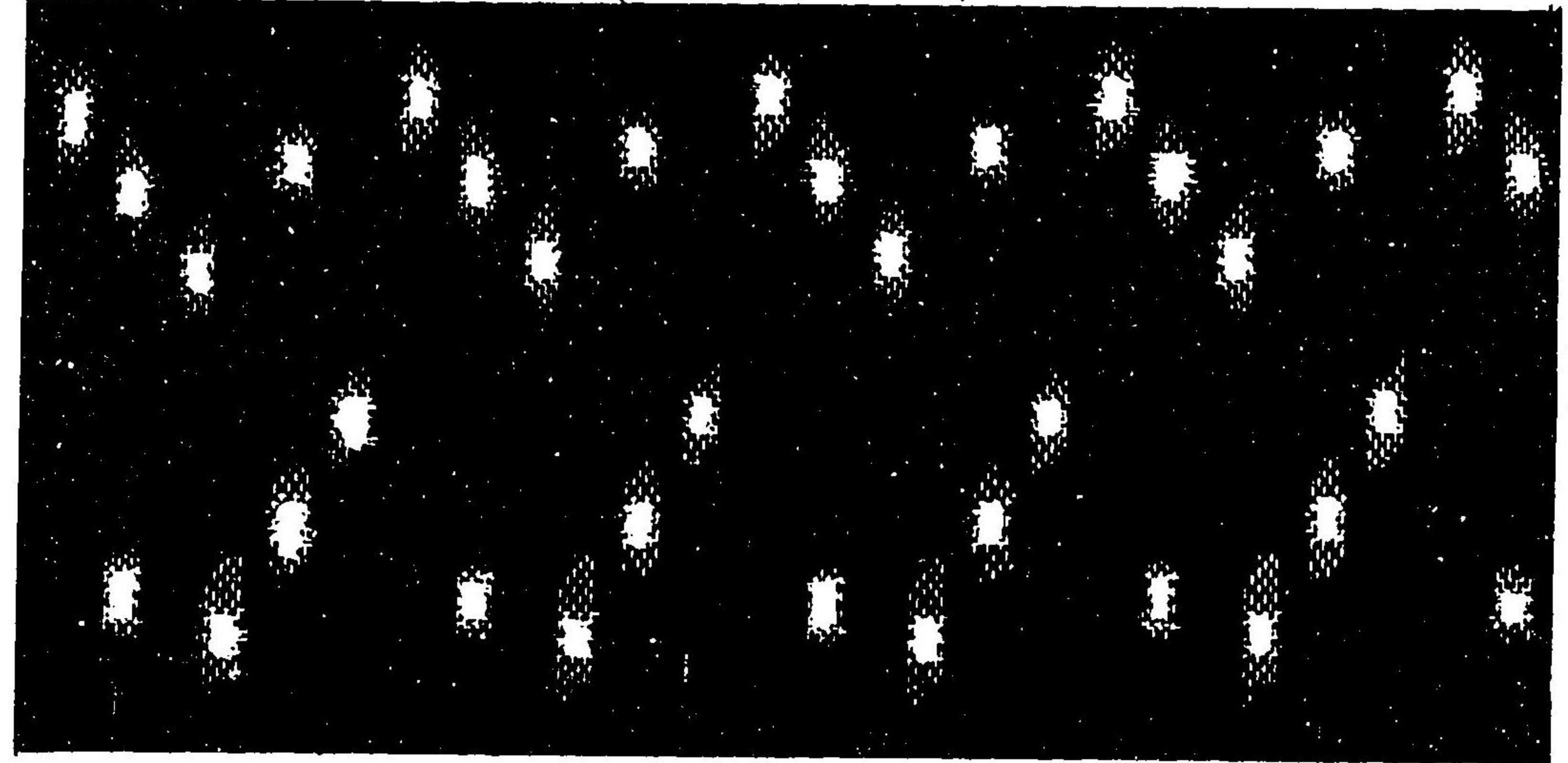
琉球絣 第五百七十七號



久留米絣三等賞 第五百八十八號 三井郡久保富藏氏

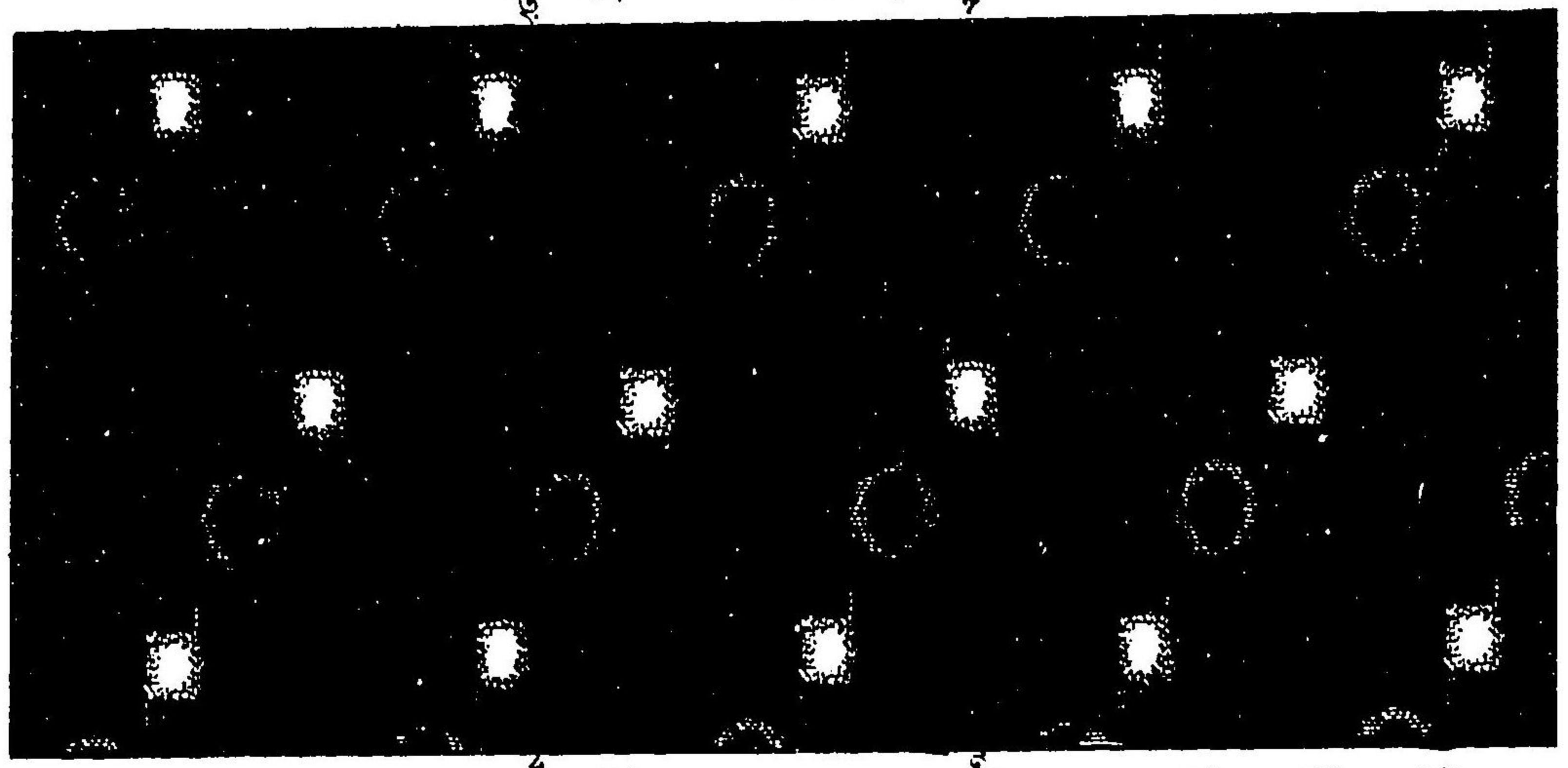


岩國絣 第五百九十九號

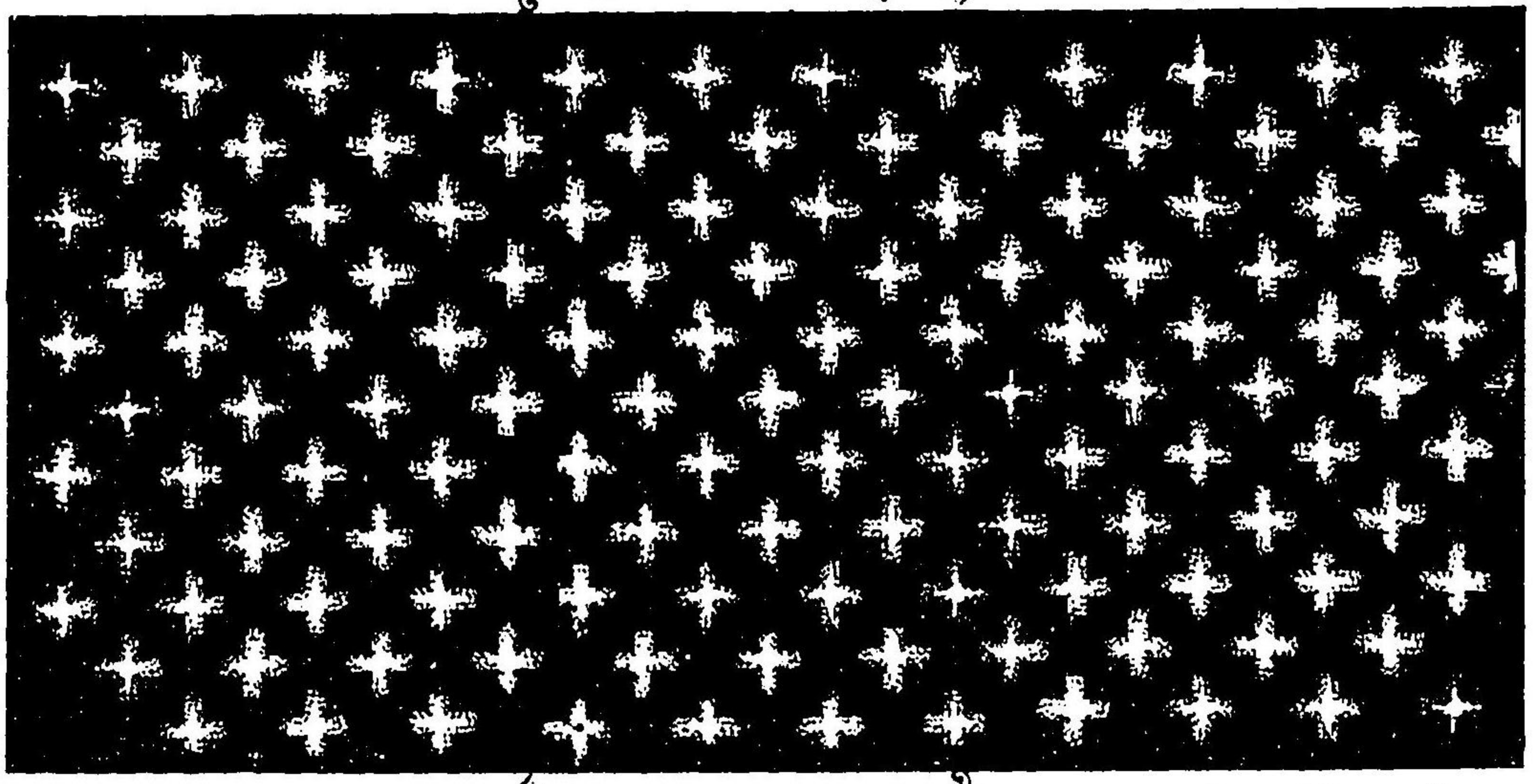


二四二

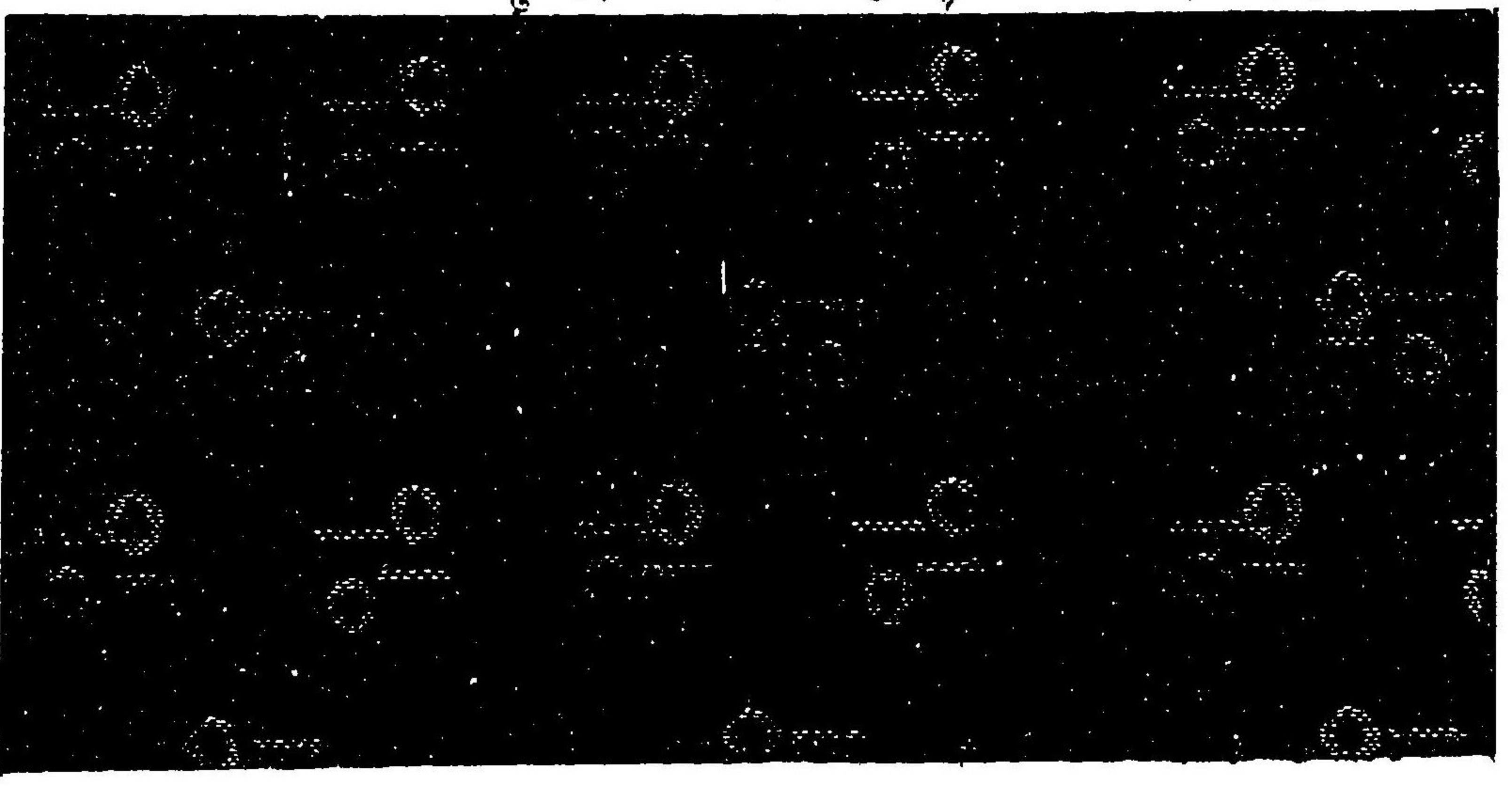
伊 豫 絳 第 五 百 廿 六 號



薩 摩 絳 第 五 百 廿 七 號

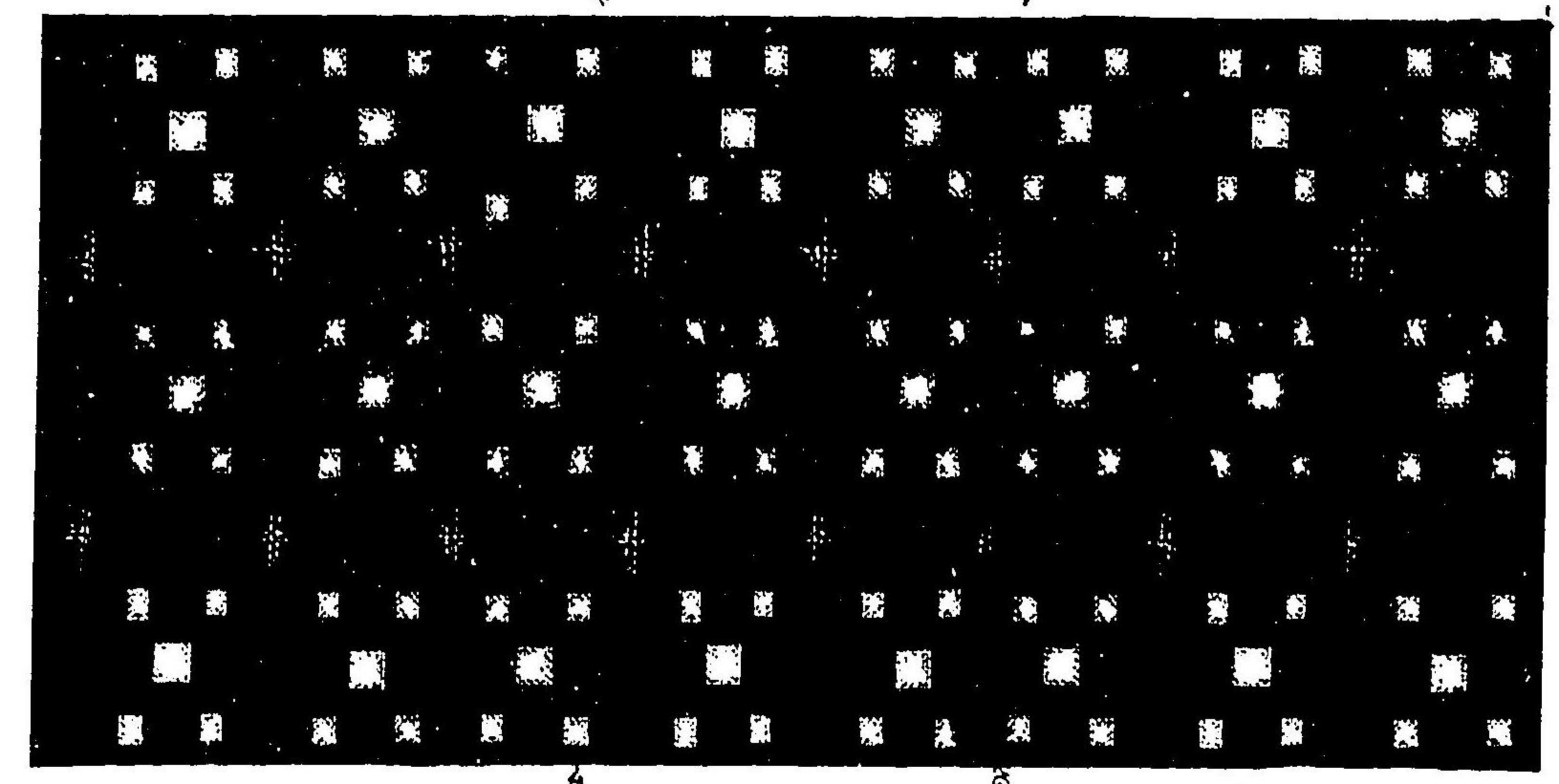


鳴 門 絳 第 五 百 廿 八 號

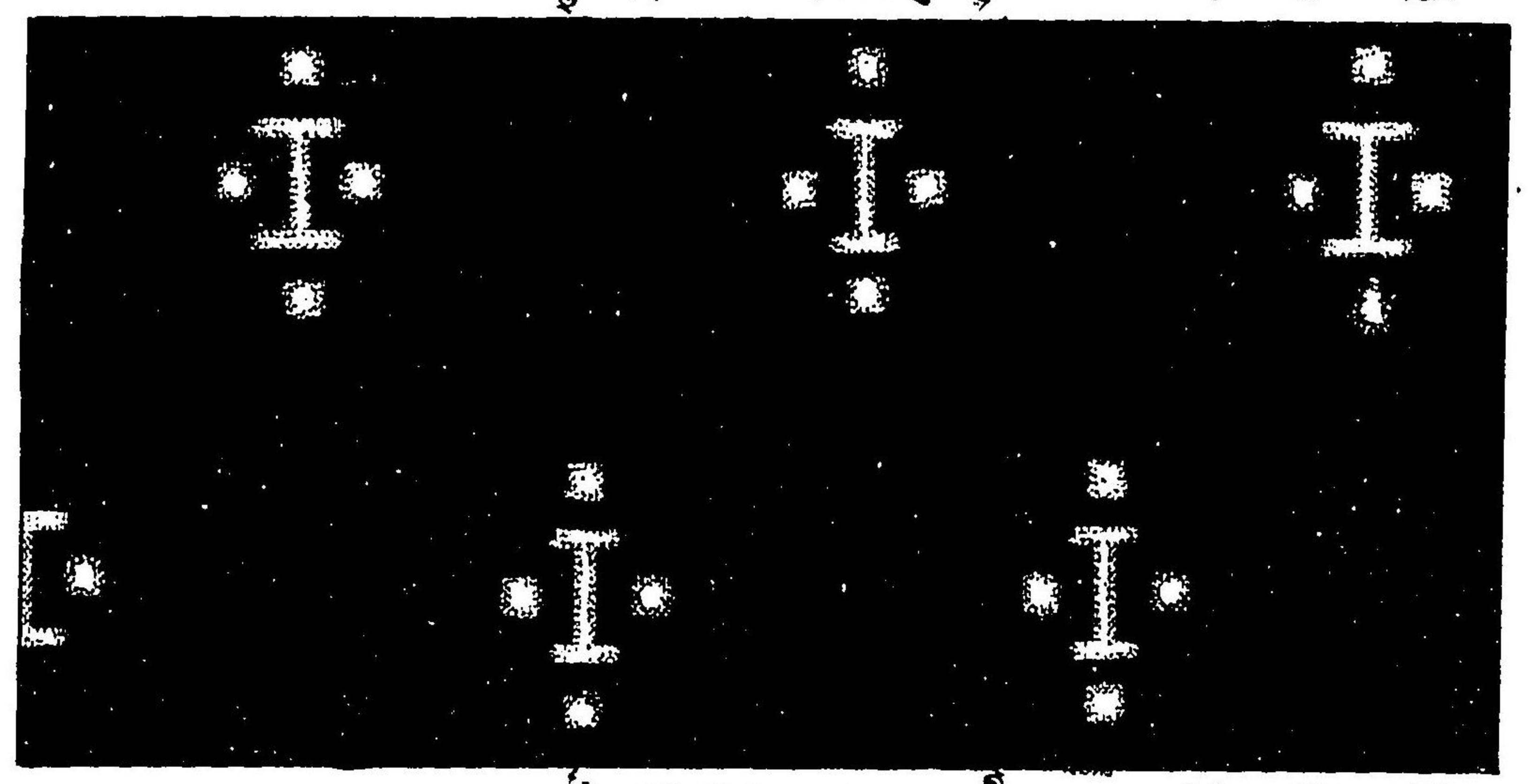


二百十五

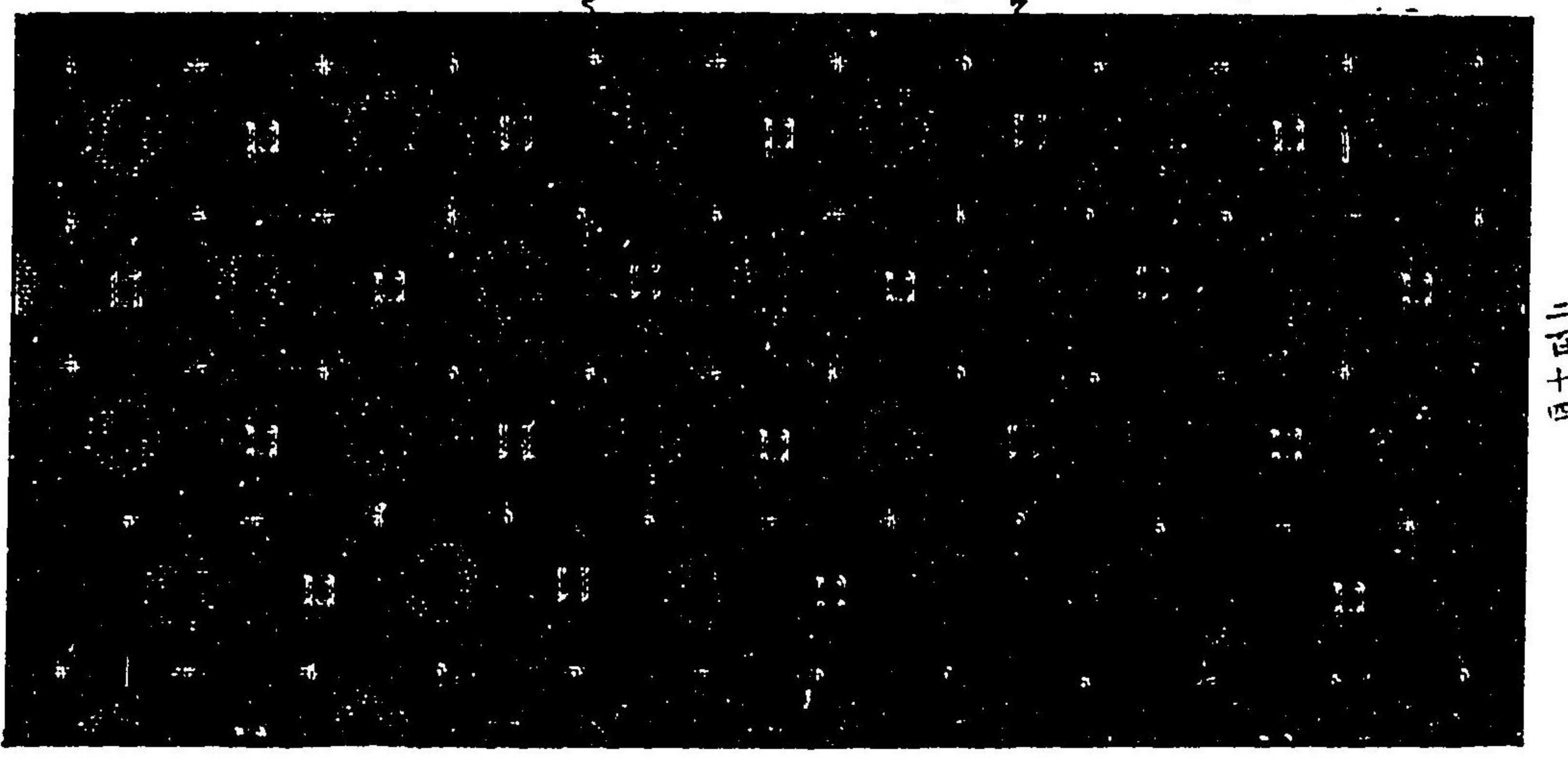
久 留 米 絳 第 五 百 廿 三 號



薩 摩 絳 第 五 百 廿 四 號

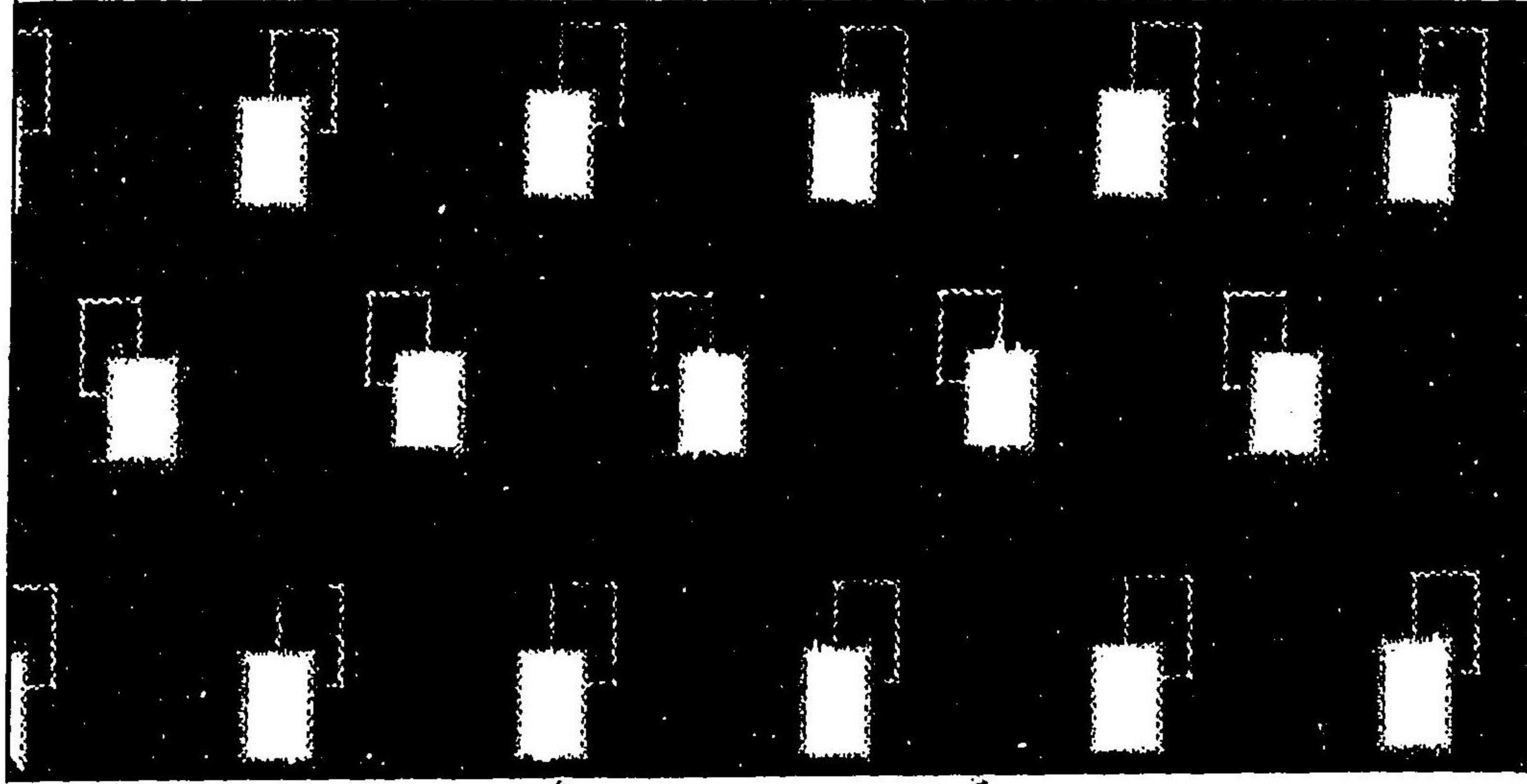


伊 豫 絳 第 五 百 廿 五 號

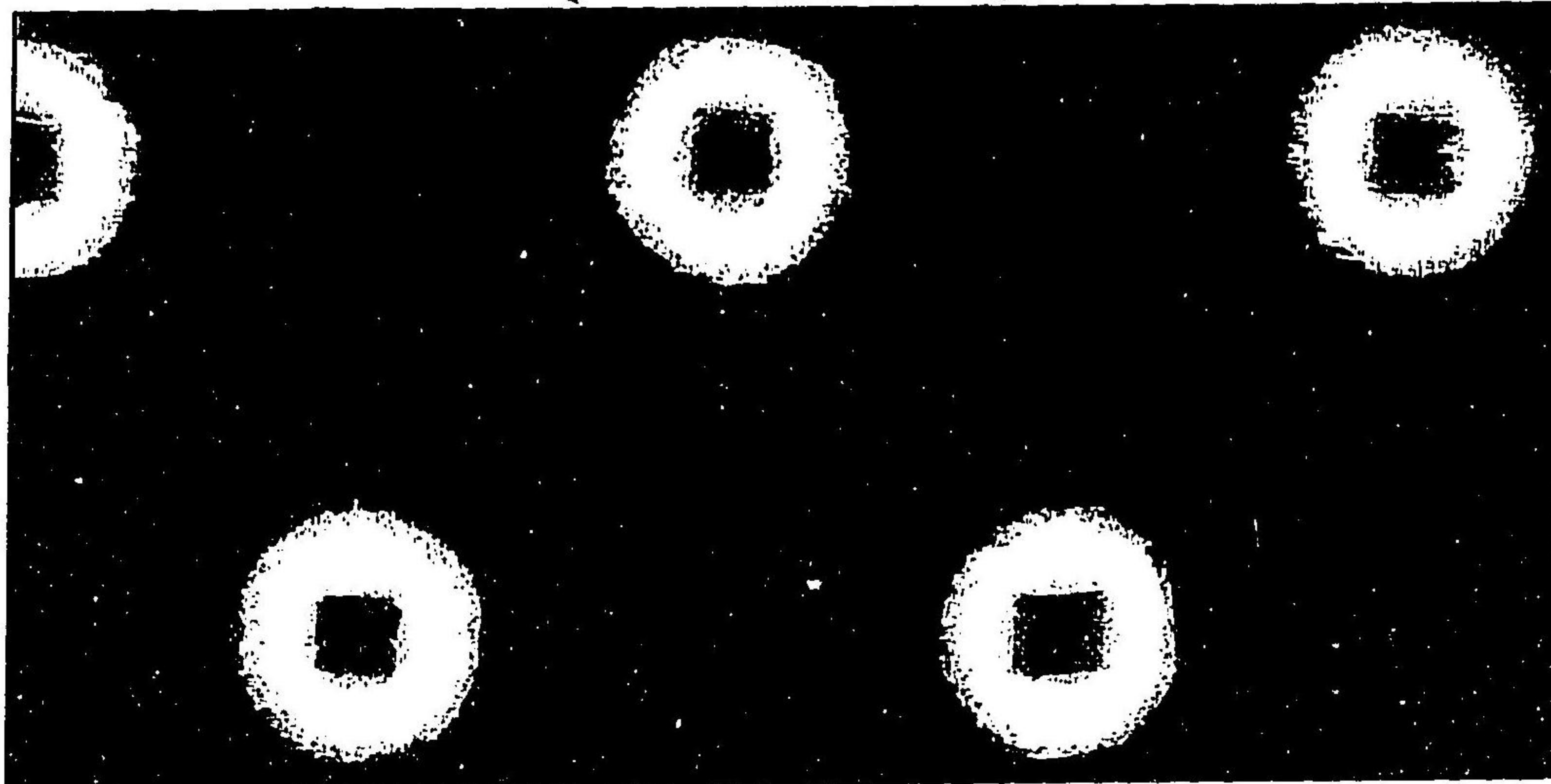


二百十四

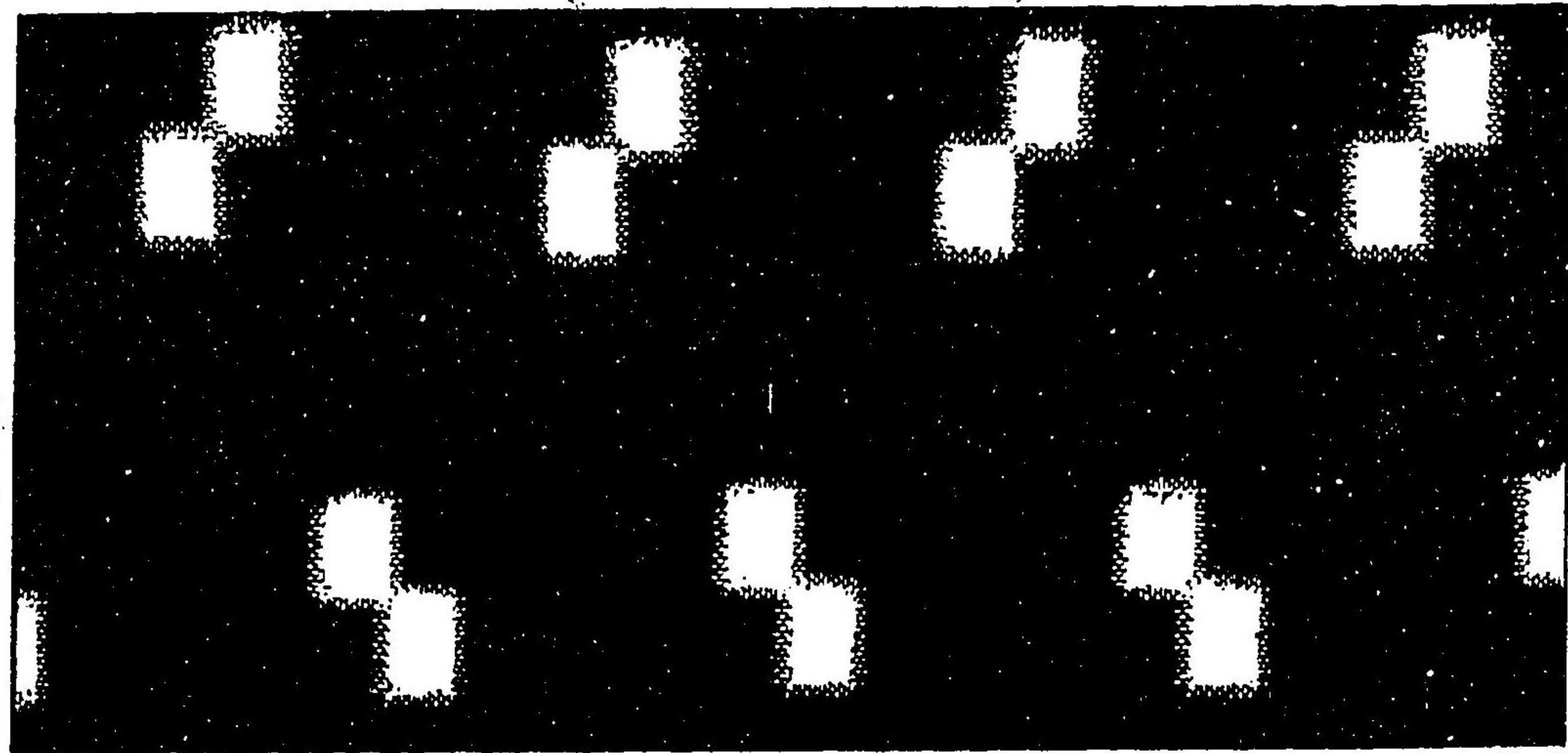
伊豫絛 第五百三十二號



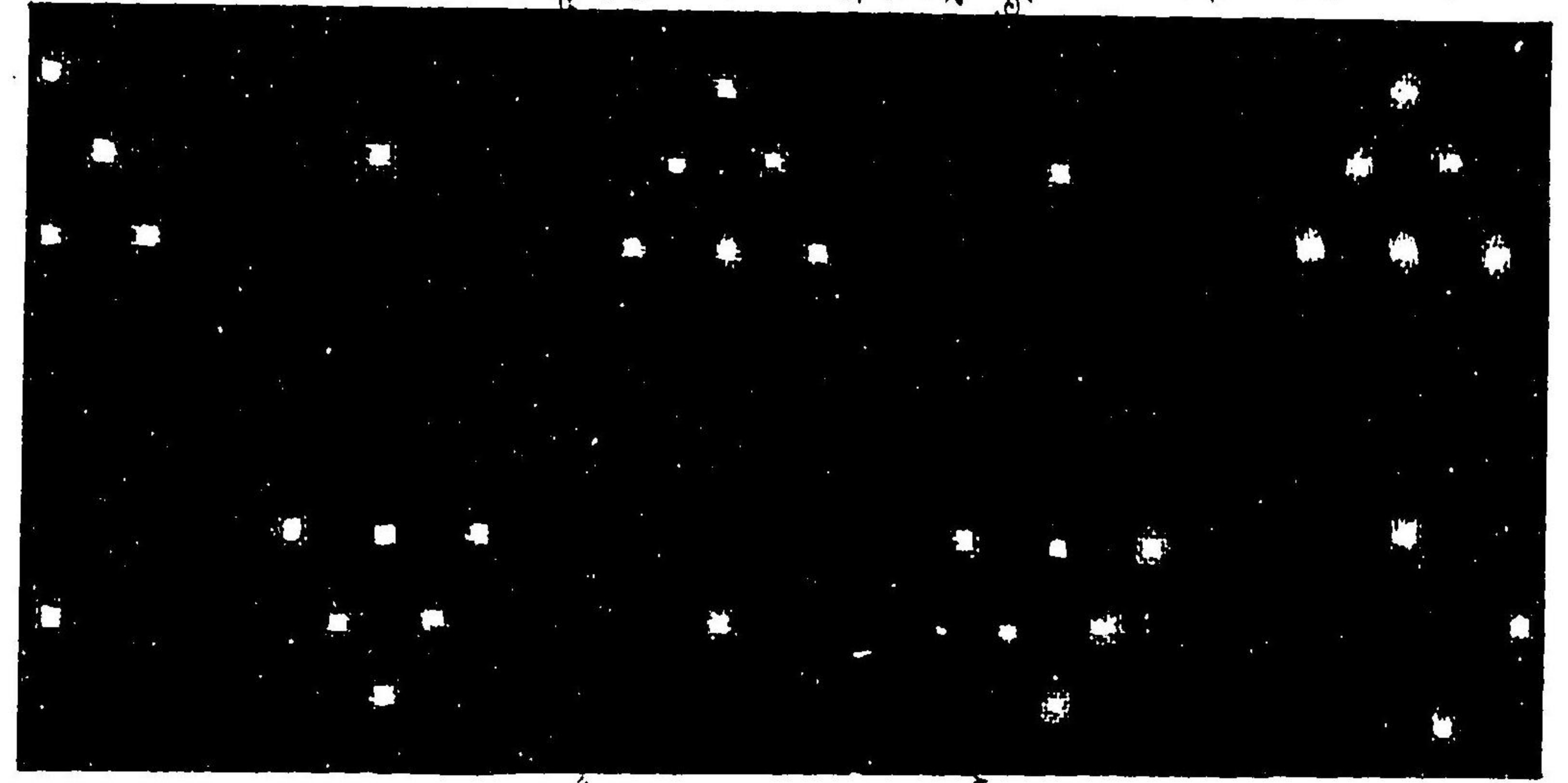
琉球絛 第五百三十三號



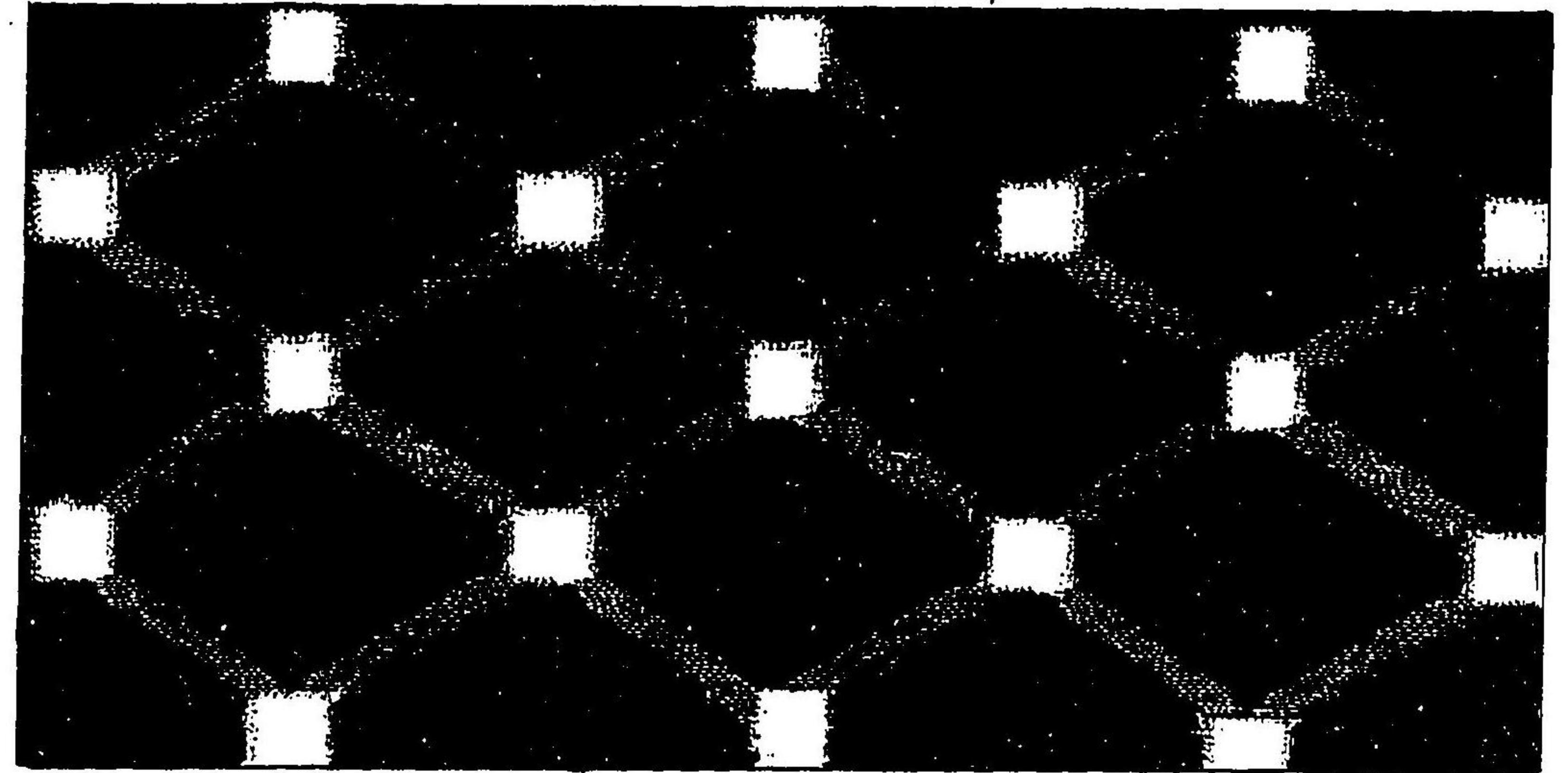
伊豫絛 第五百四十四號 温保郡生野村野歌五郎



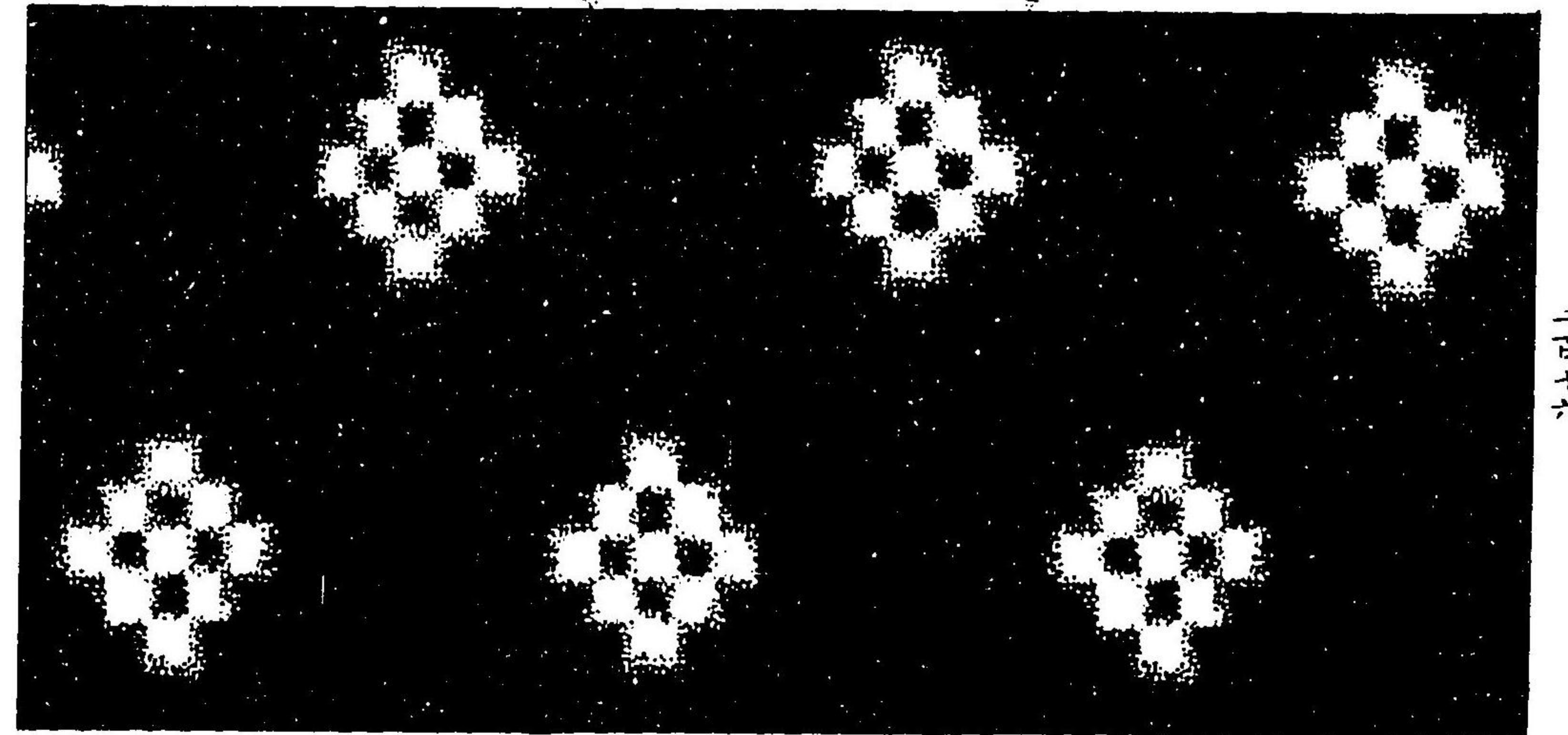
晴門絛 第五百二十九號



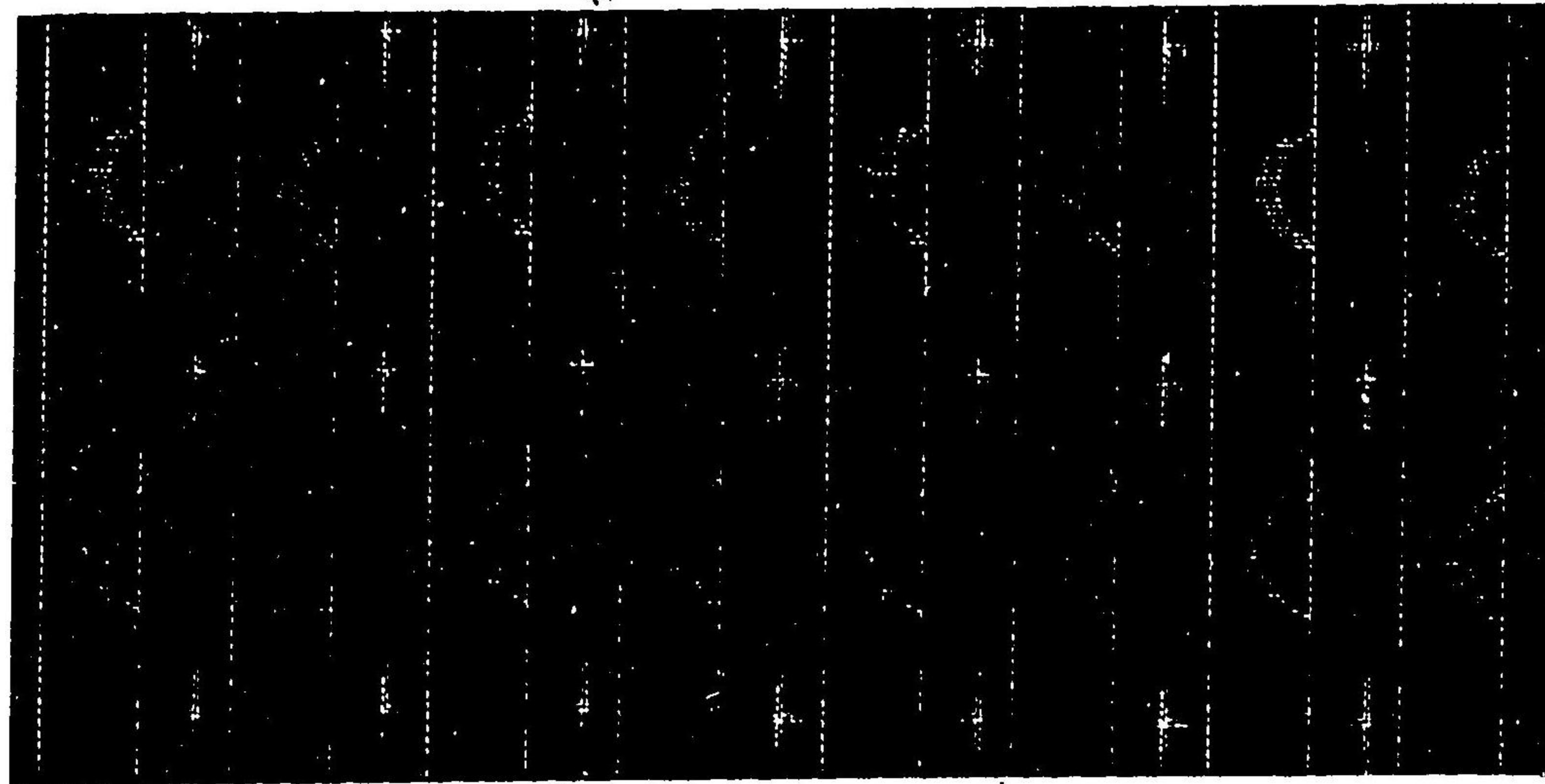
伊勢崎絛 第五百三十三號



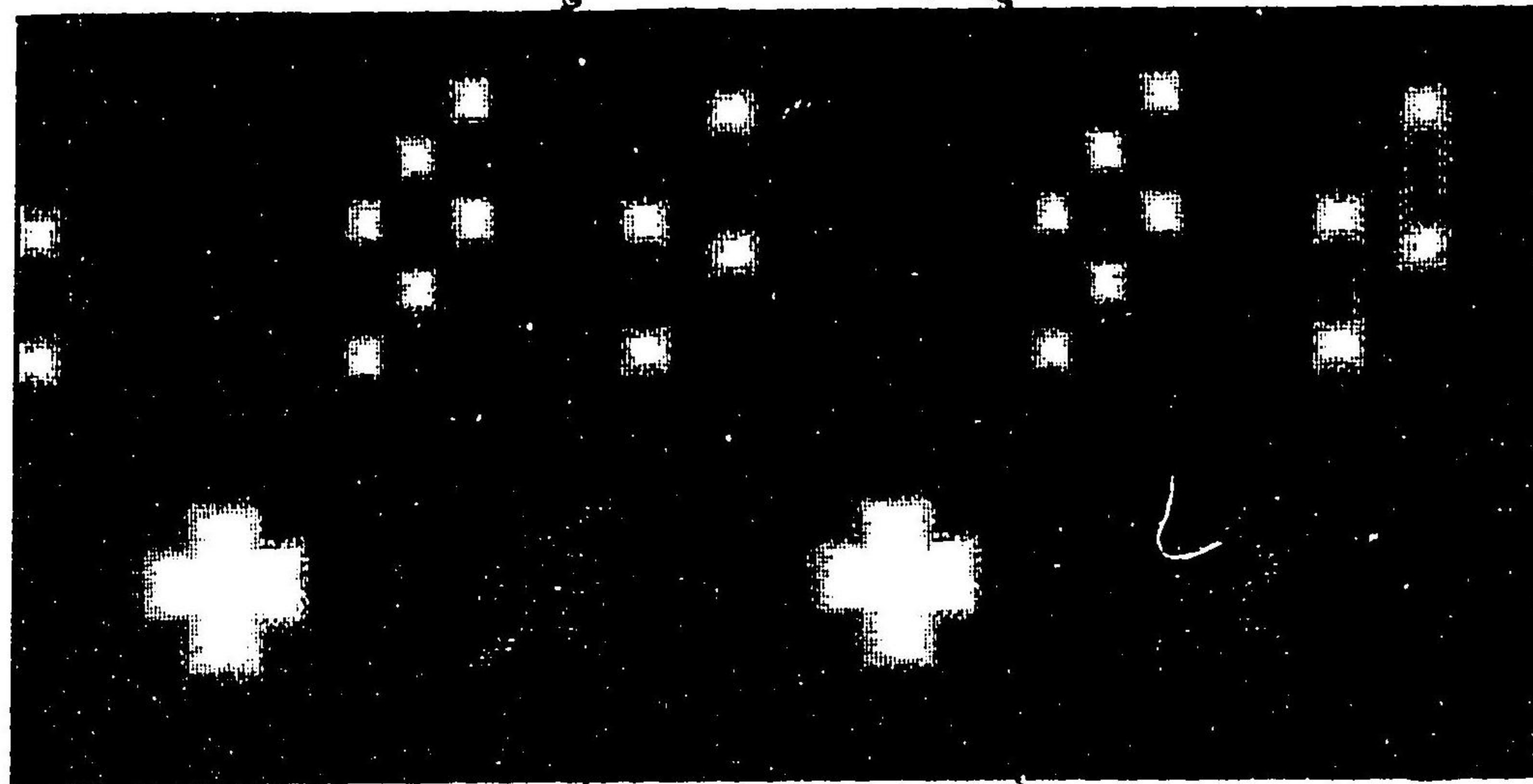
伊勢崎絛三等賞 第五百一十三號 伊勢崎町羽尾勘七氏



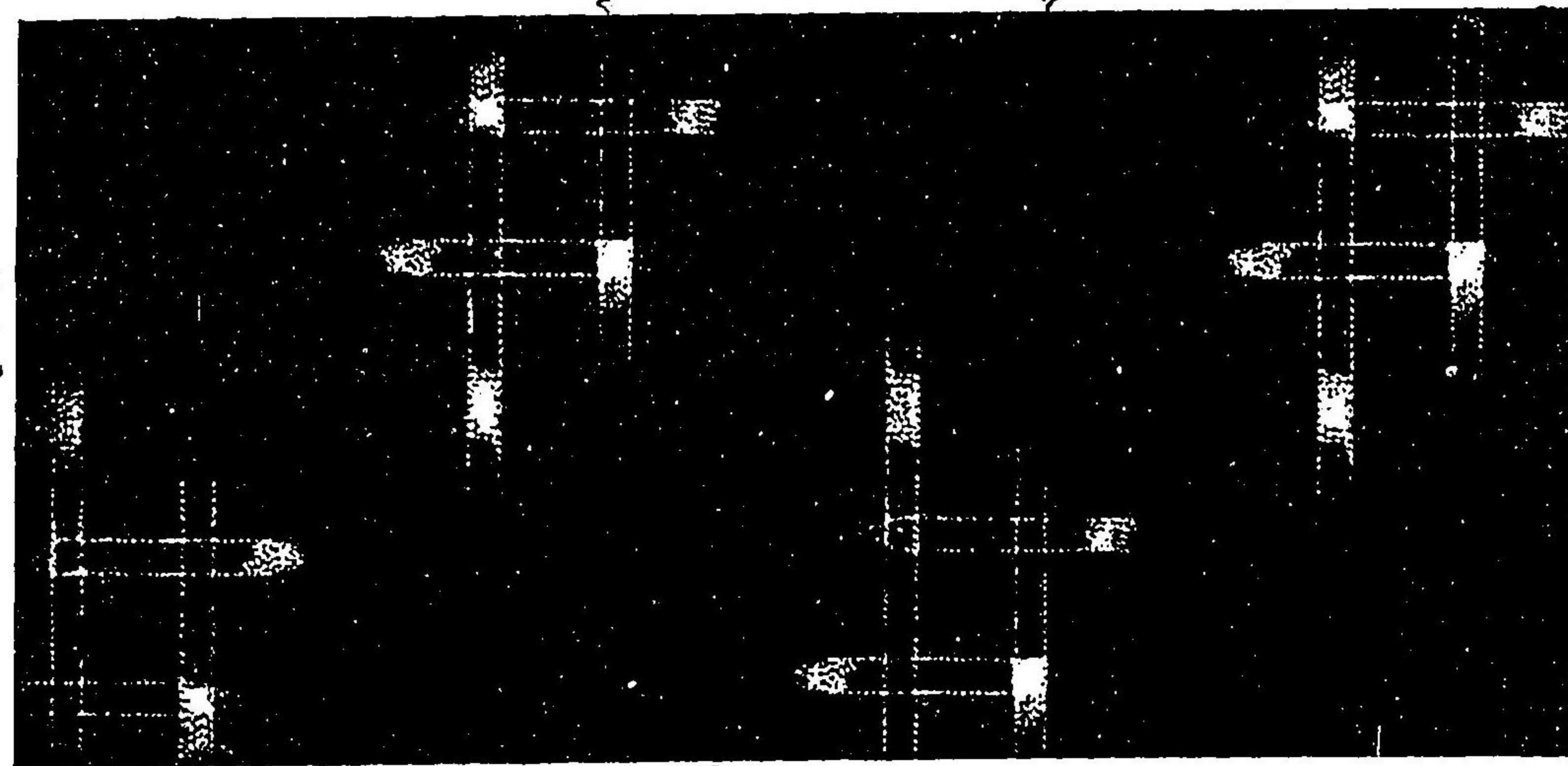
辨八世百五第 緜摩薩



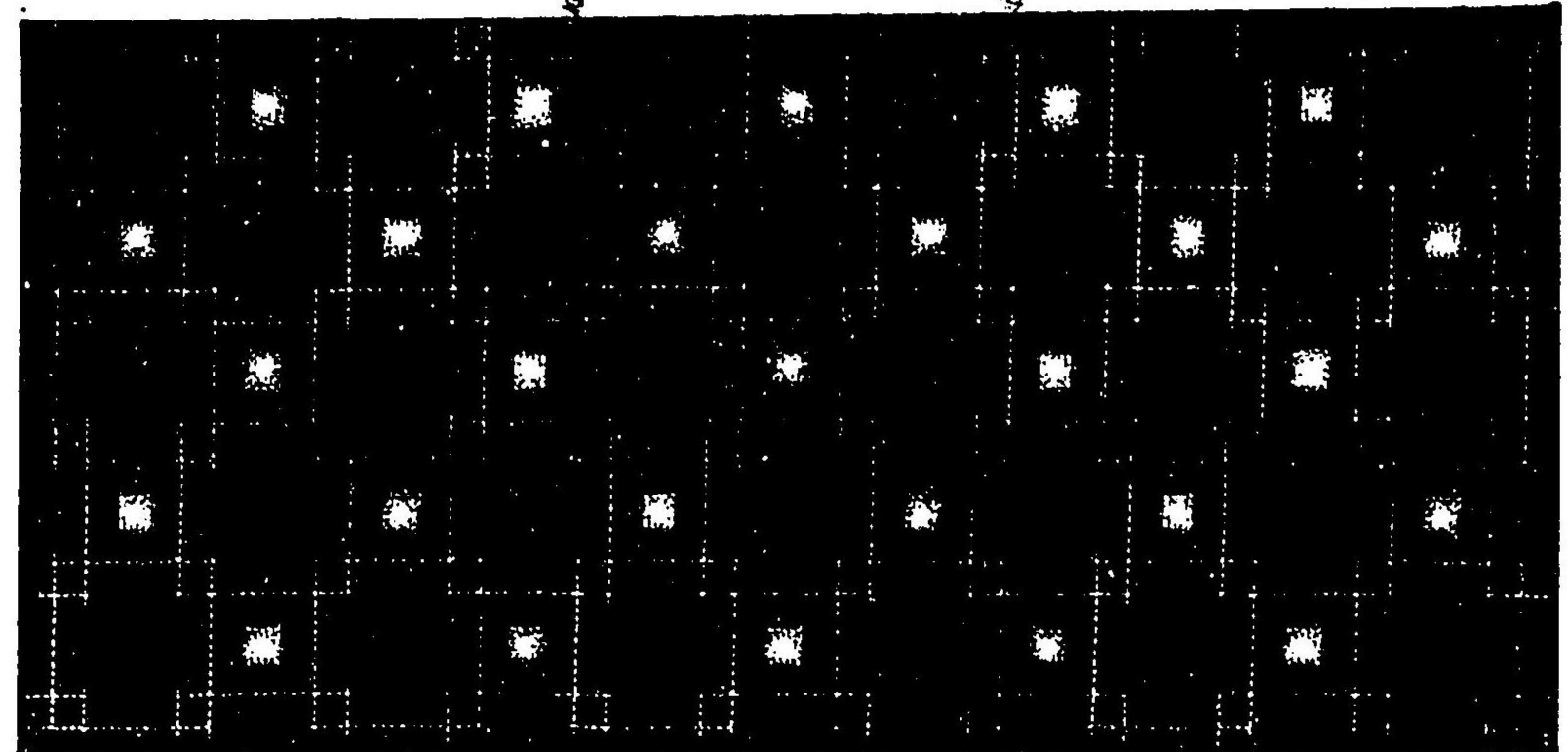
辨九世百五第 緜米留久



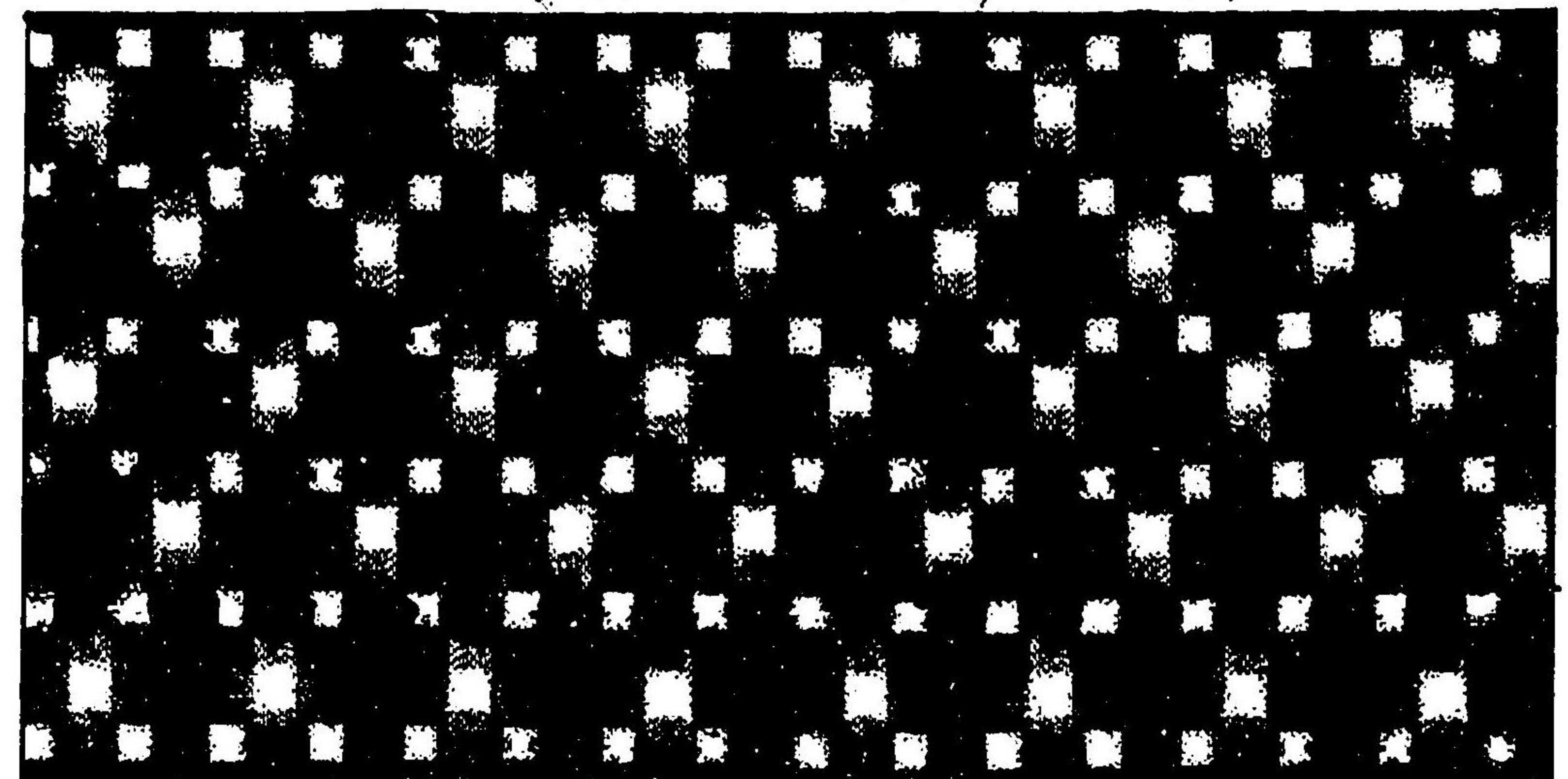
辨十四世百五第 緜摩薩



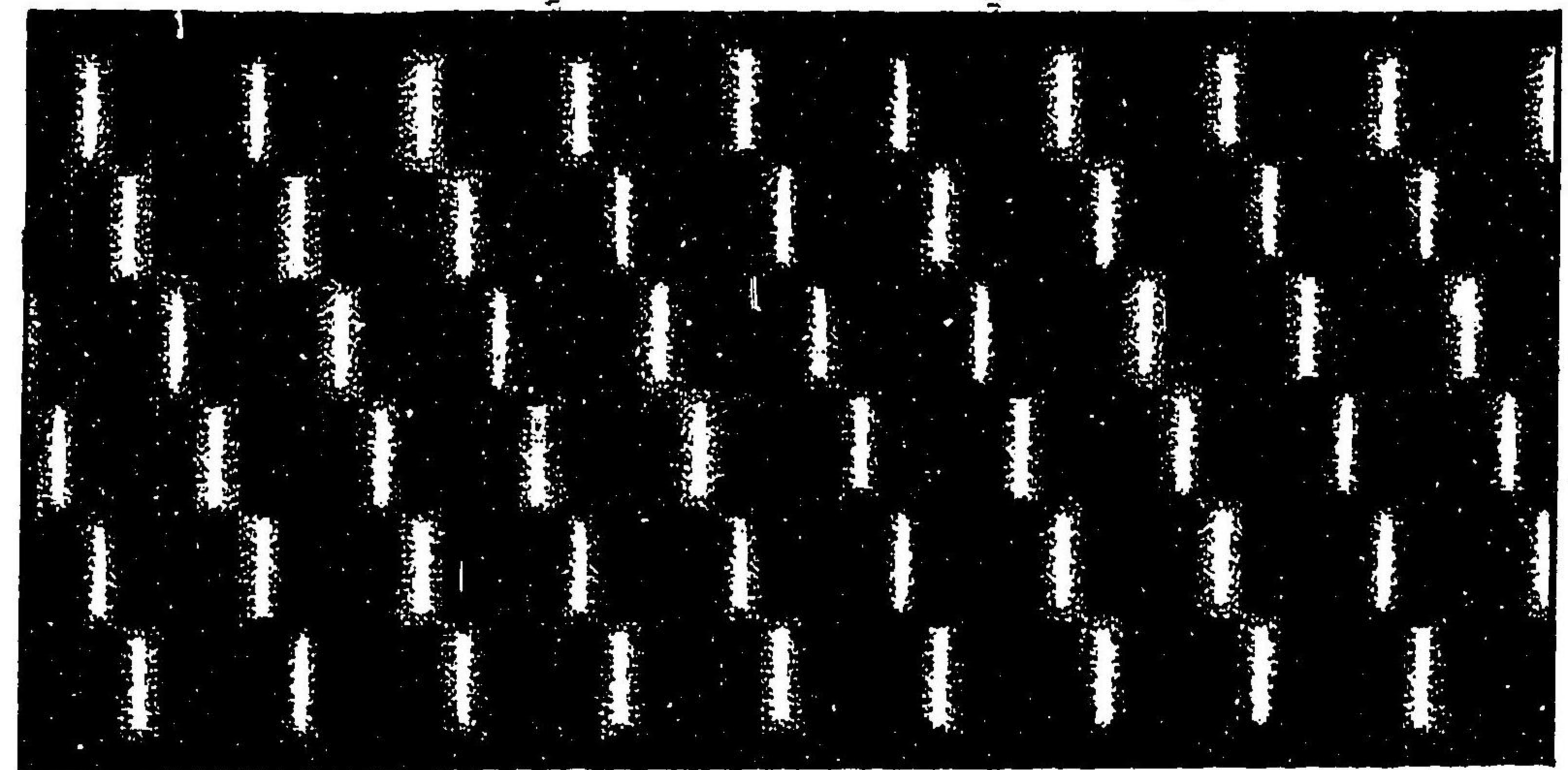
辨五世百五第 緜米留久



辨六世百五第 緜米留久



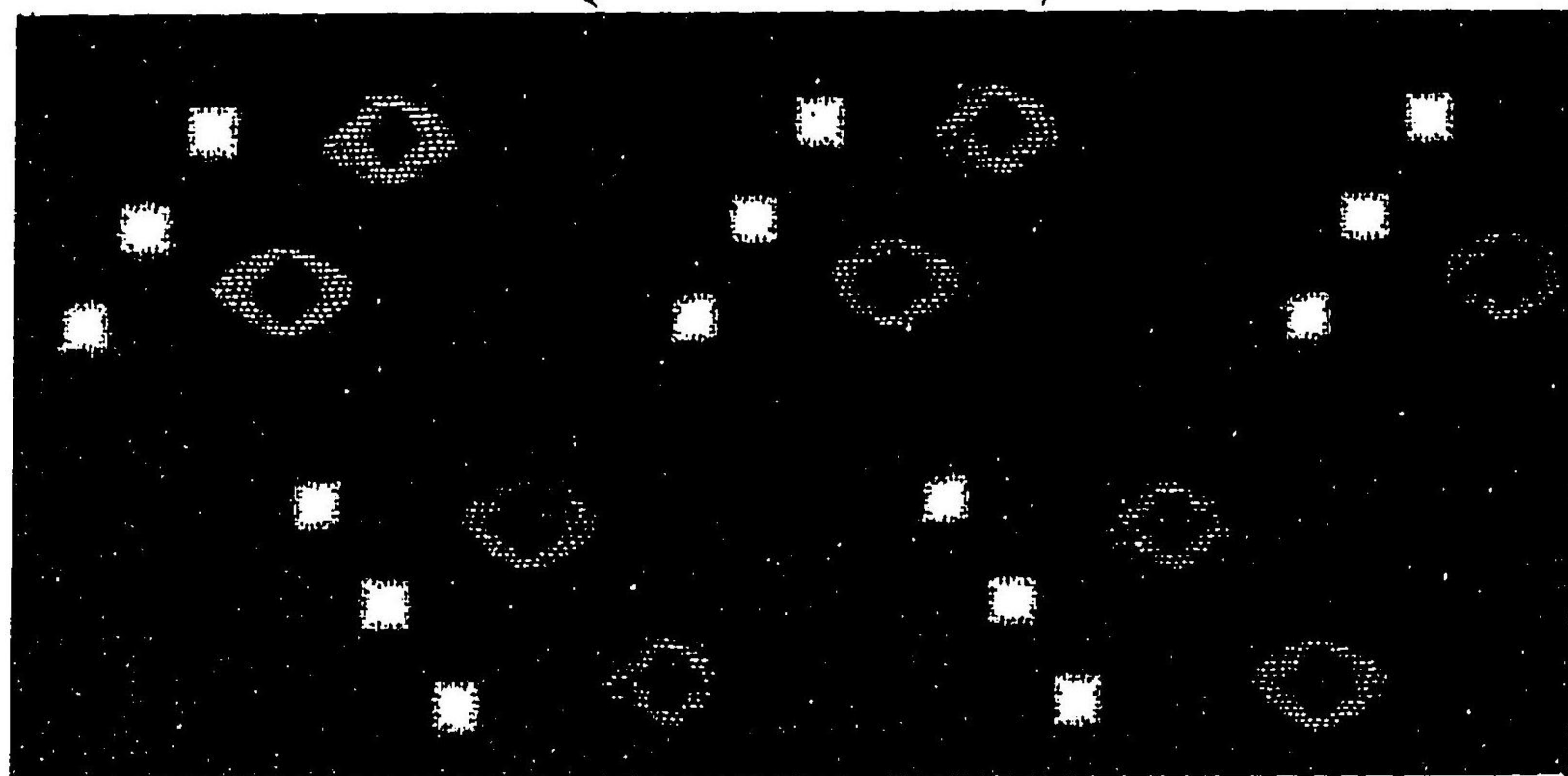
辨七世百五第 緜摩薩



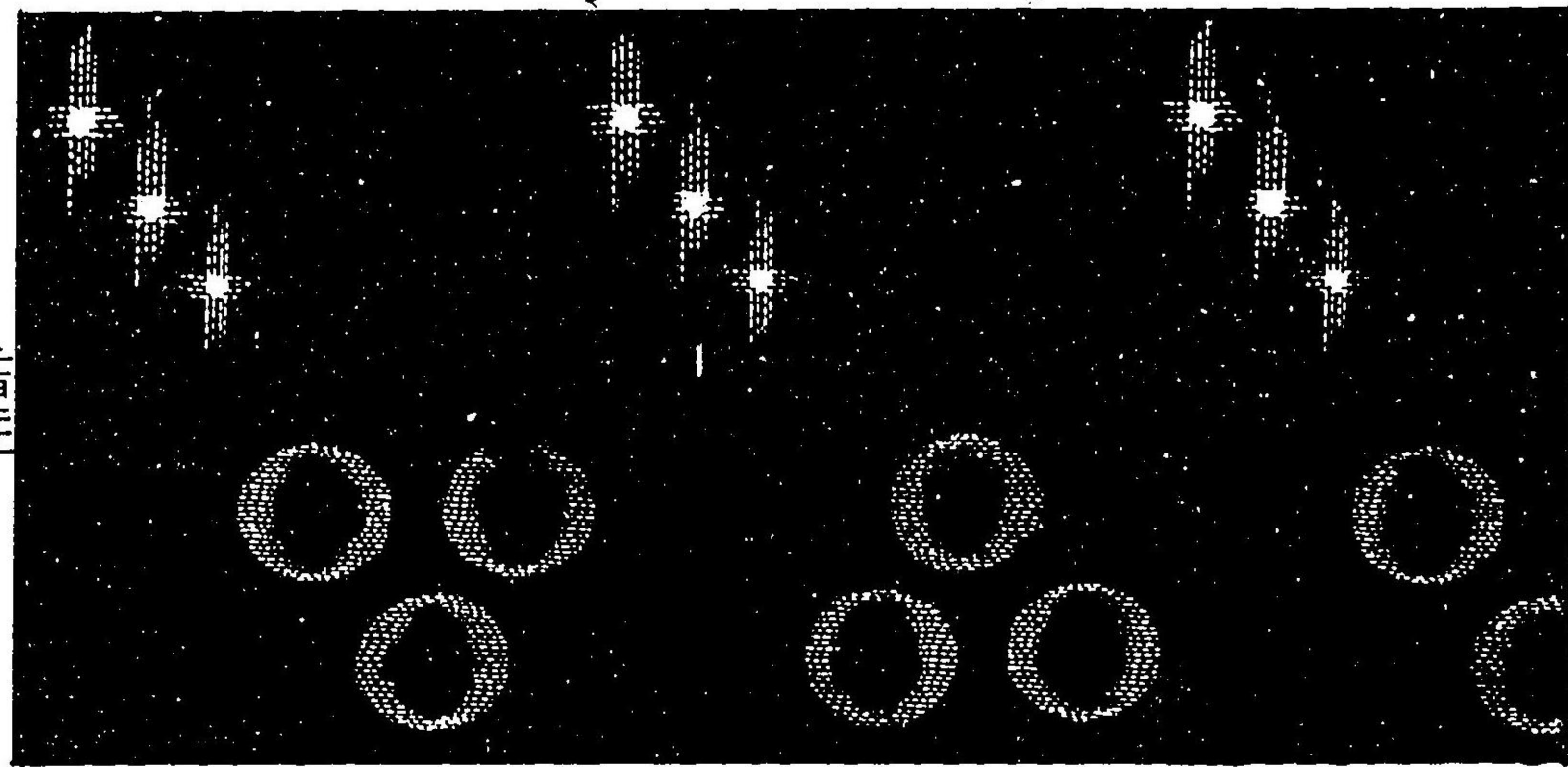
號四十四百五第 絳球琉



號五十四百五第 絳米留久

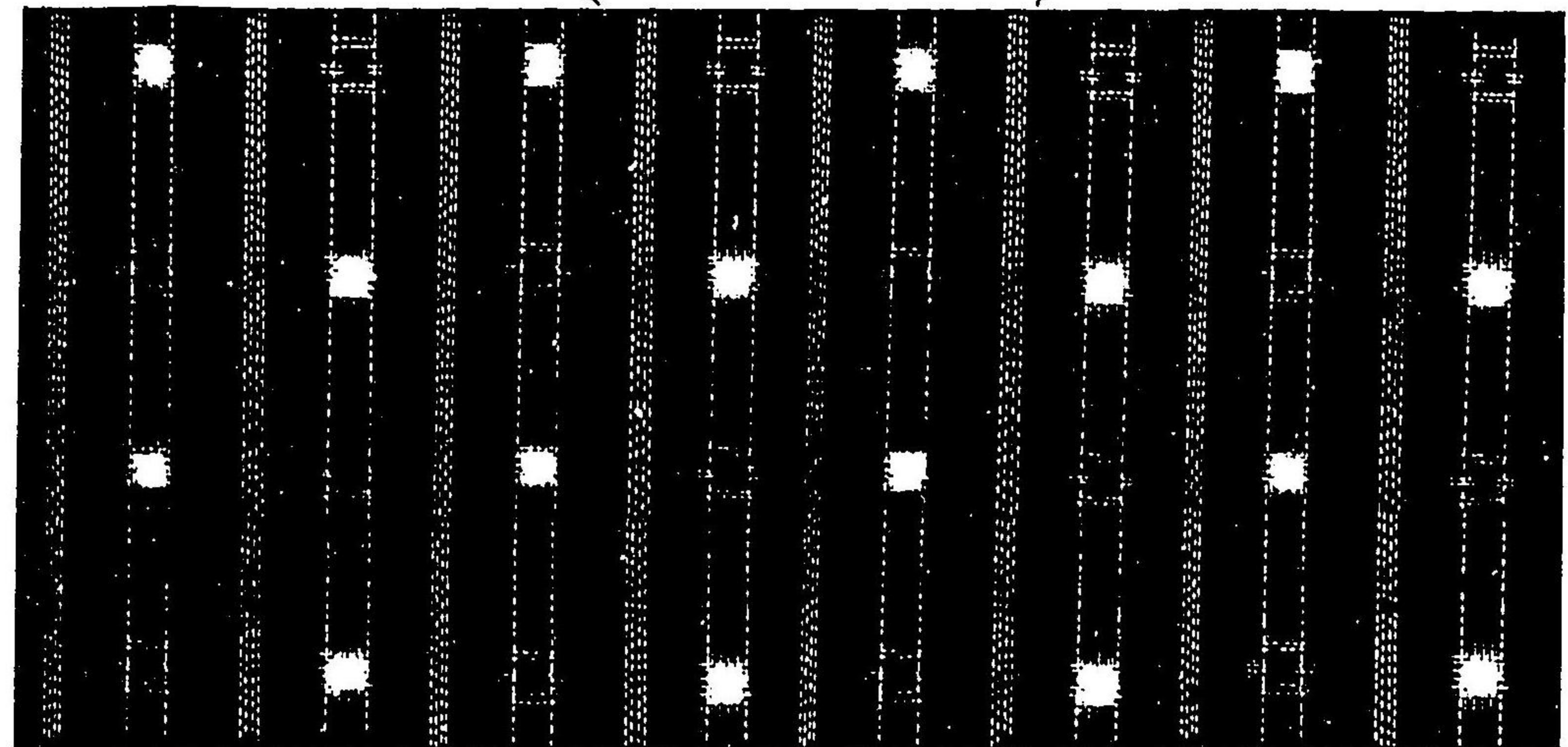


號六十四百五第 絳沢所

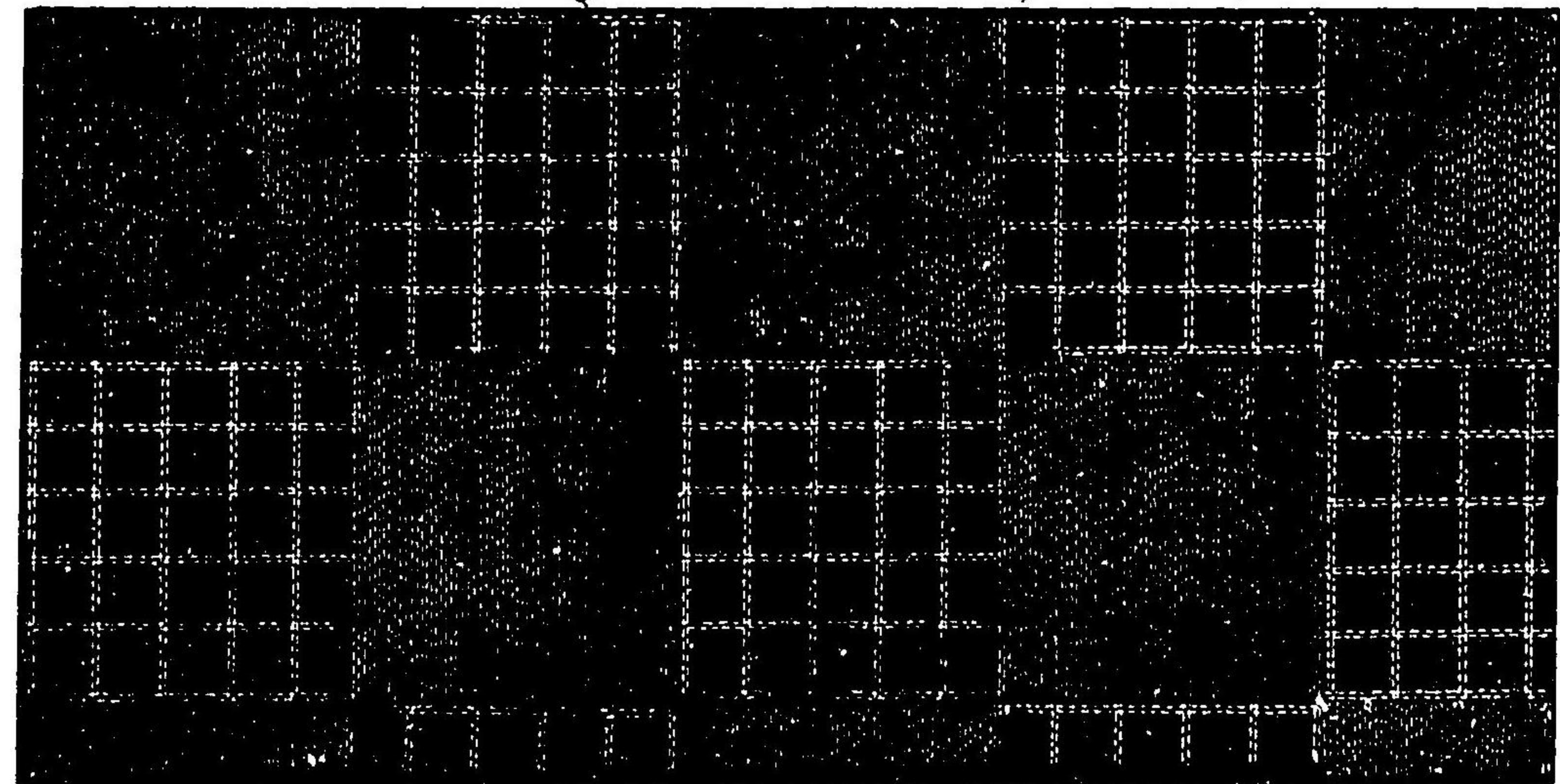


二百二十

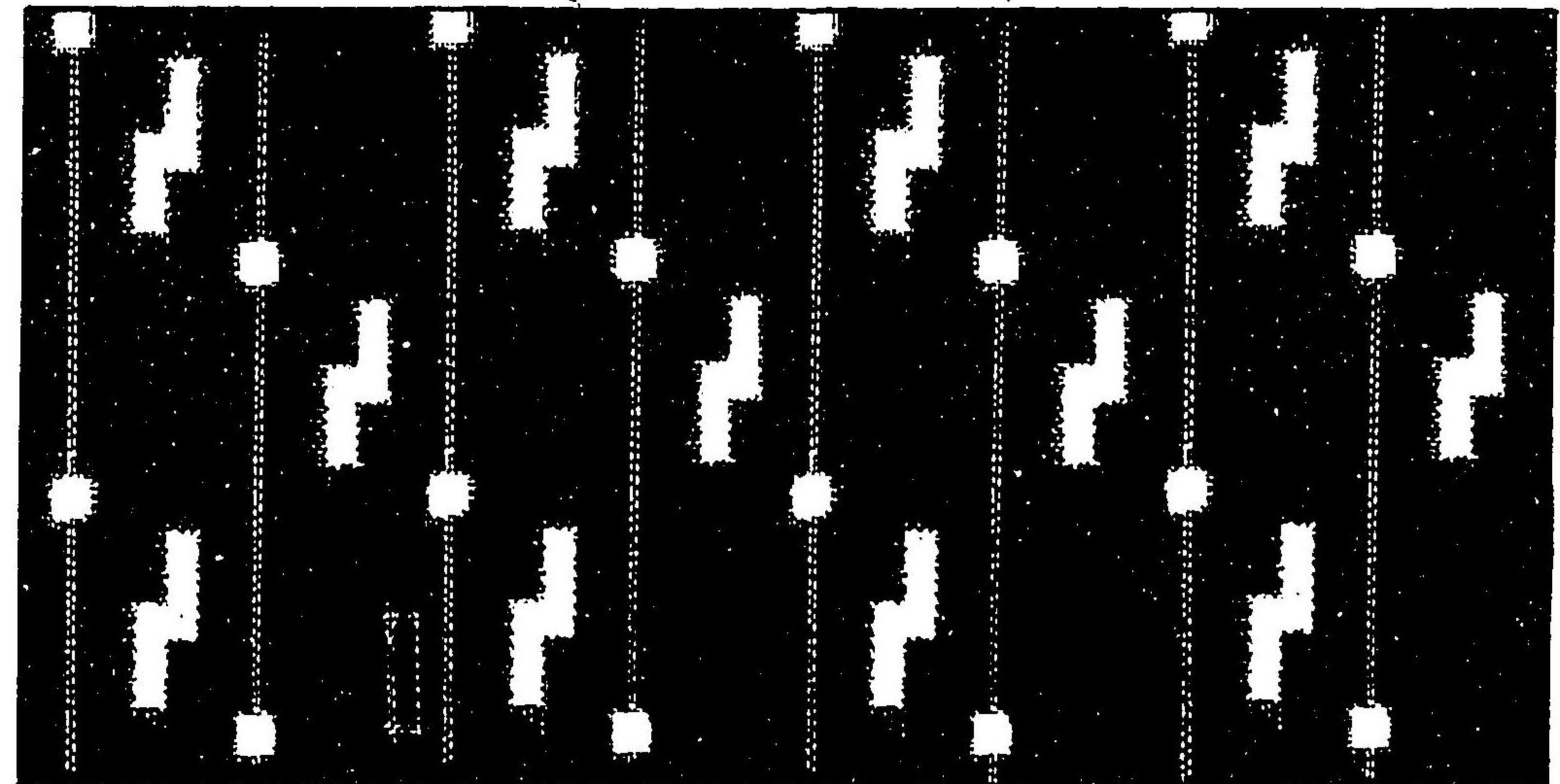
氏郎三常井高町條北部西加 號一十四百五第 (賞等三)絳庫兵



氏七庄竹大村受豊郡波佐 號二十四百五第 賞等三 絳河野伊



號三十四百五第 布上後越

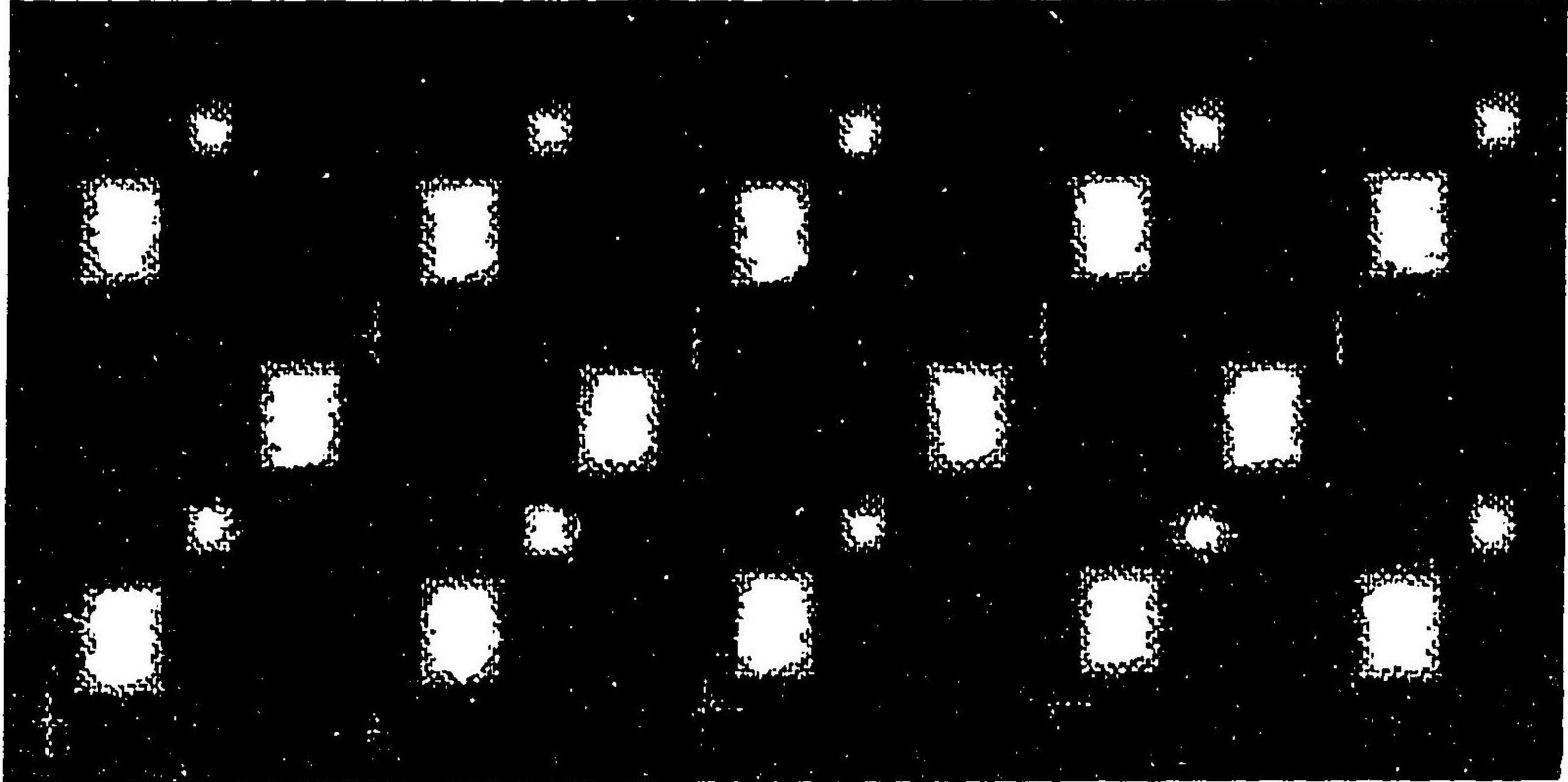


二百二十

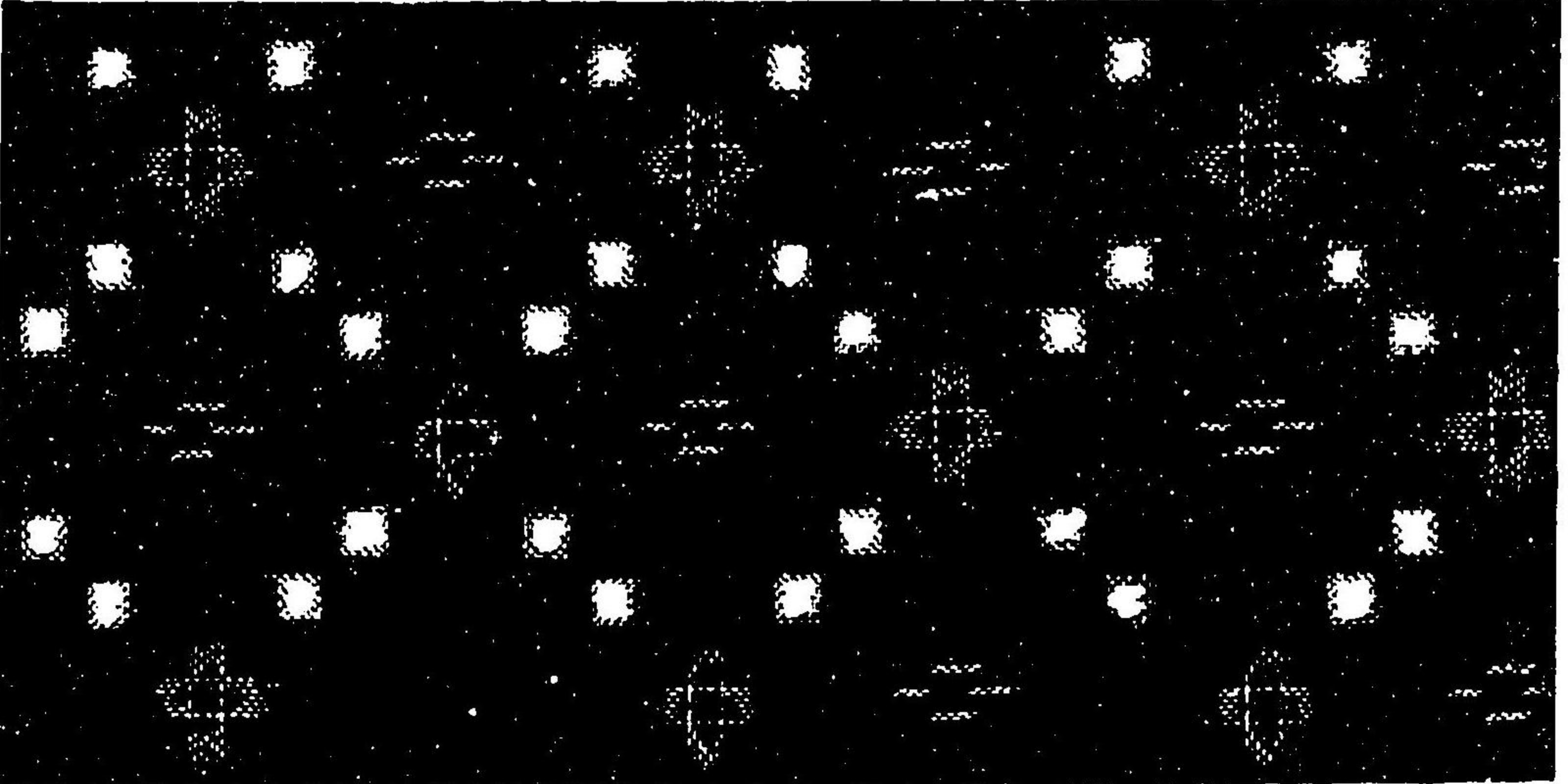
號十五百五第 絳 摩 薩



號一十五百五第 絳 門 鳴

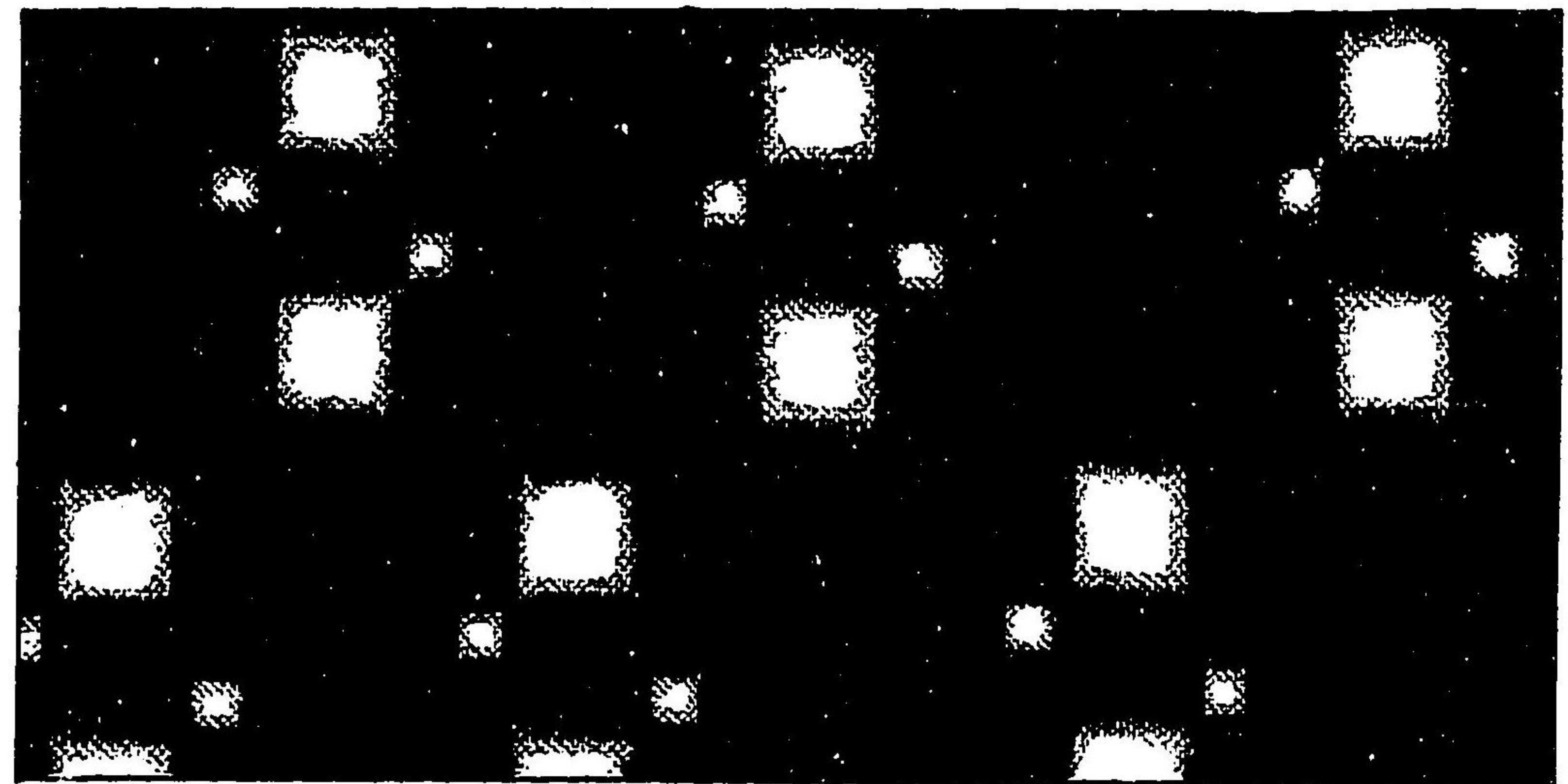


號二十五百五第 絳 摩 薩

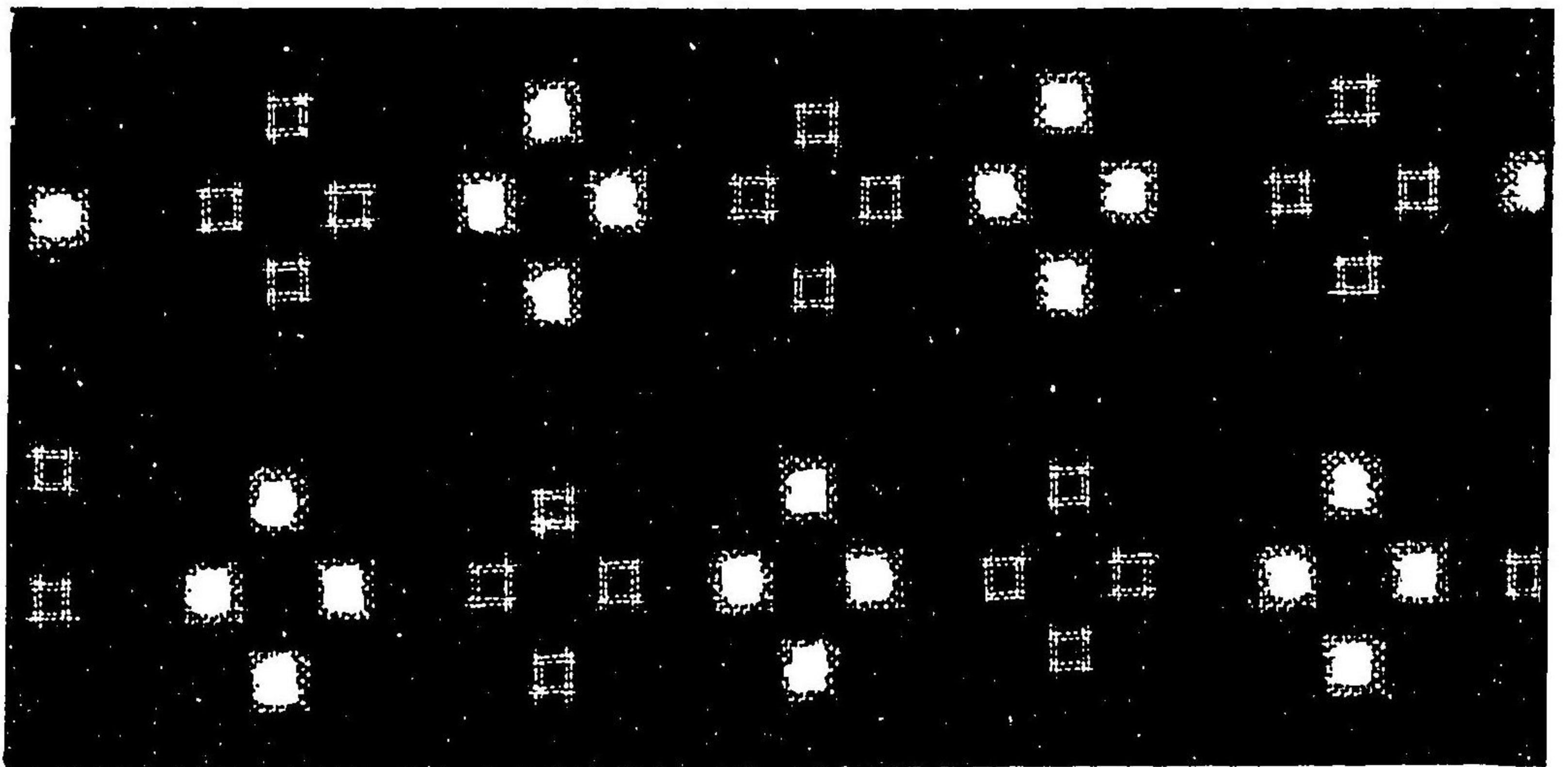


三四三

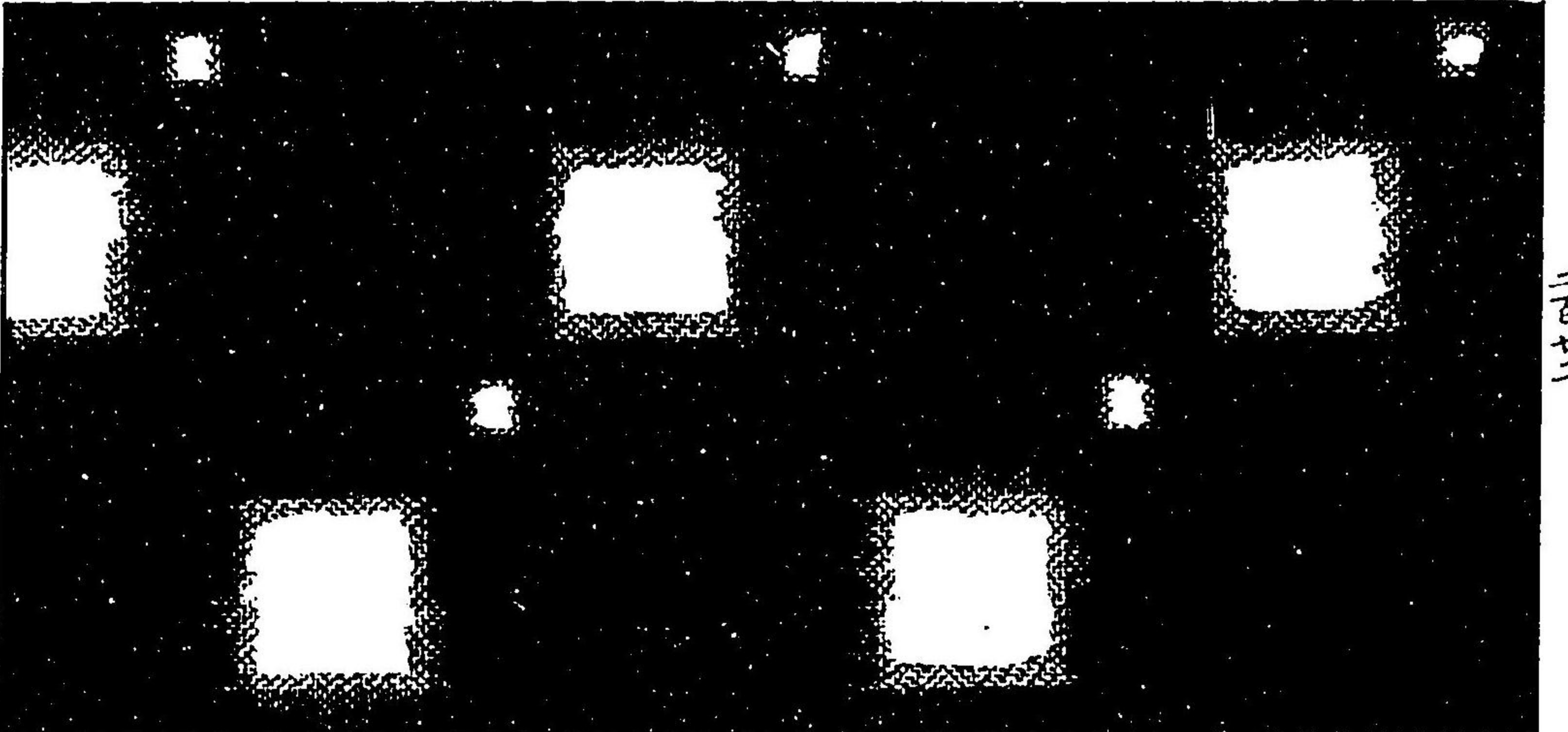
社會式株食力物織本熊市本熊 號七十四百五第 (賞等二) 絳本熊



號八十四百五第 絳 摩 薩



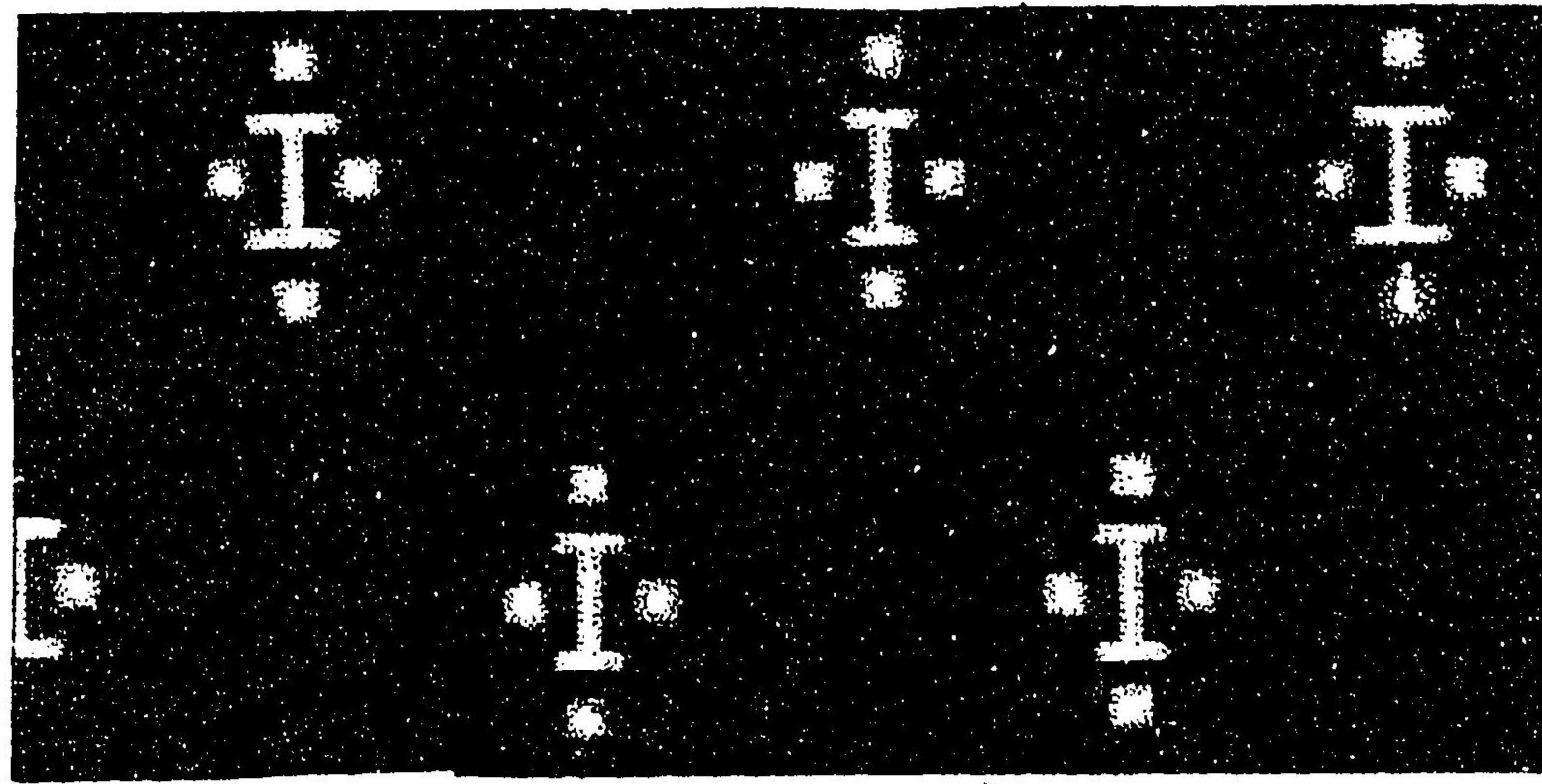
號九十四百五第 絳 門 鳴



三四三

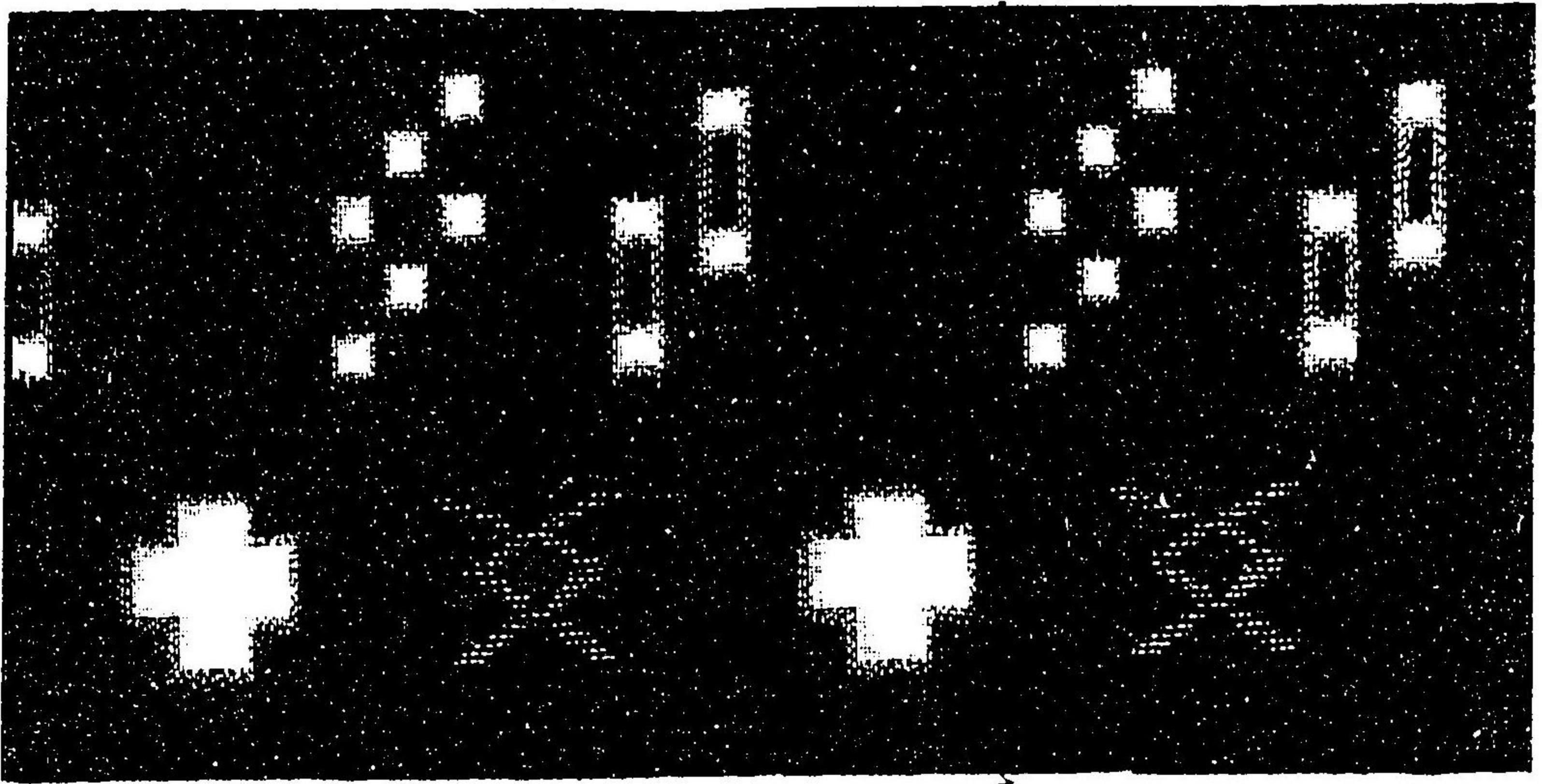
(看参号四百五第)

號六十五百五第



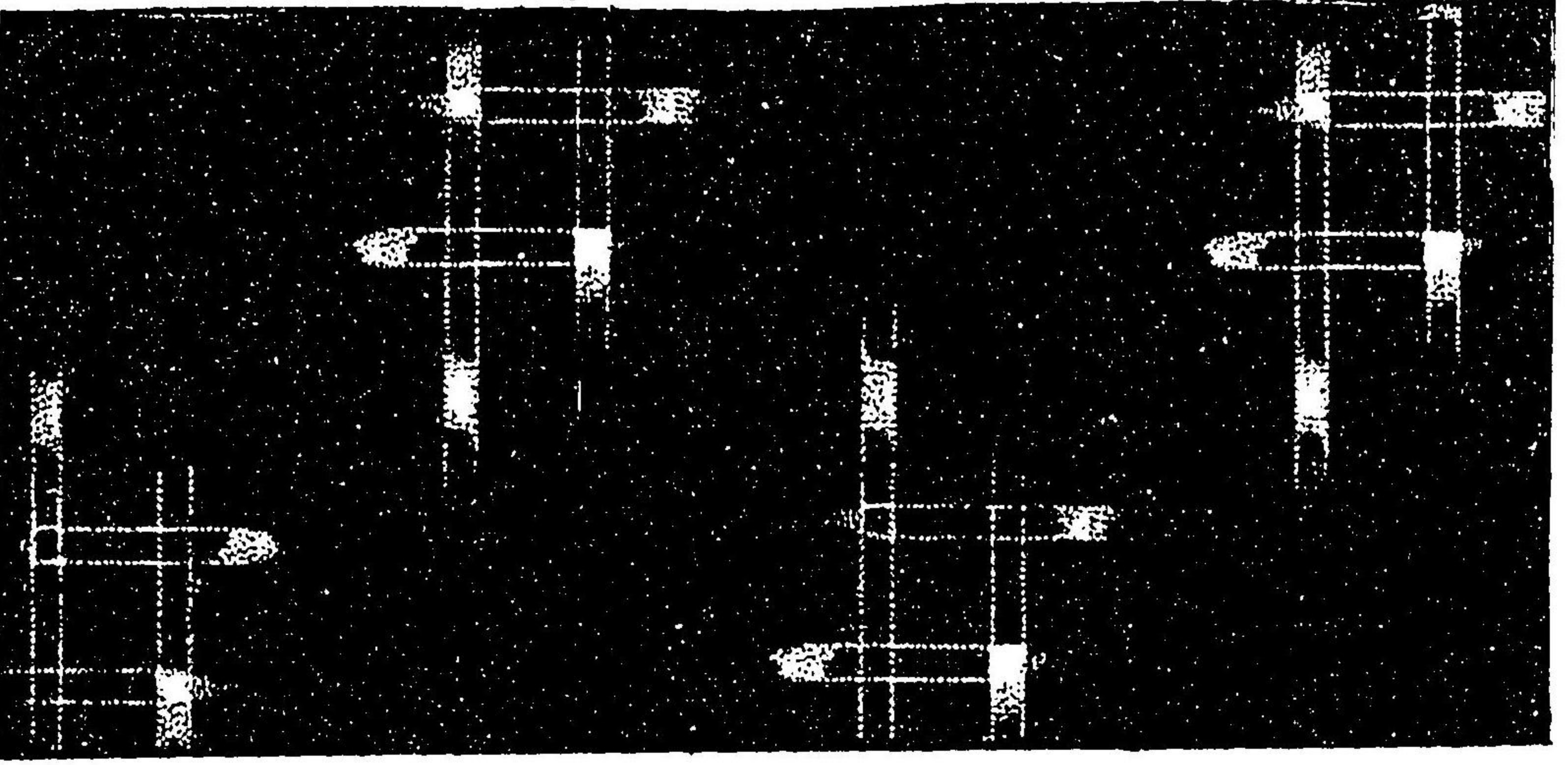
(看参号十三百五第)

號七十五百五第



(看参号十四百五第)

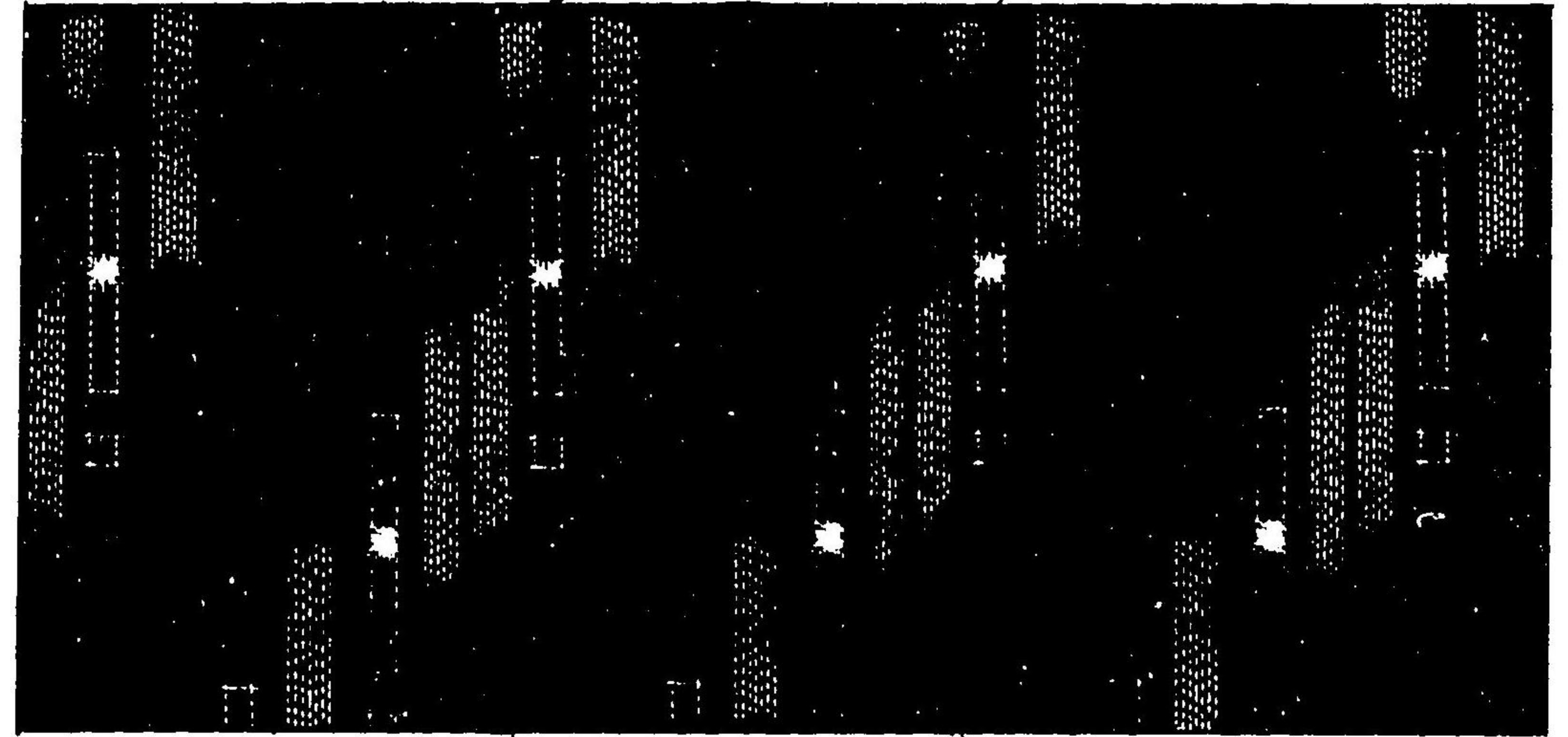
號八十五百五第



二百廿五

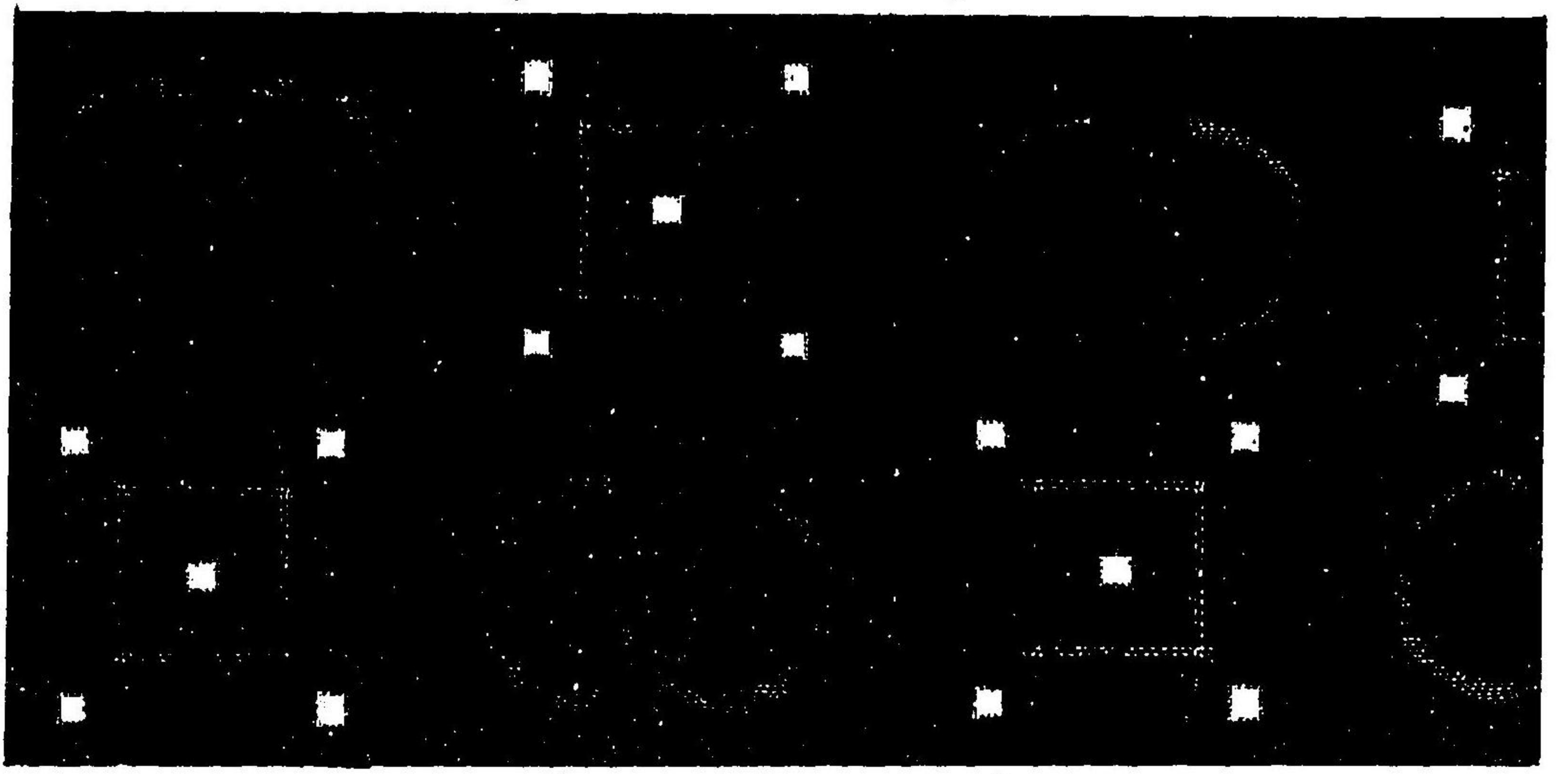
號三十五百五第

布上後越



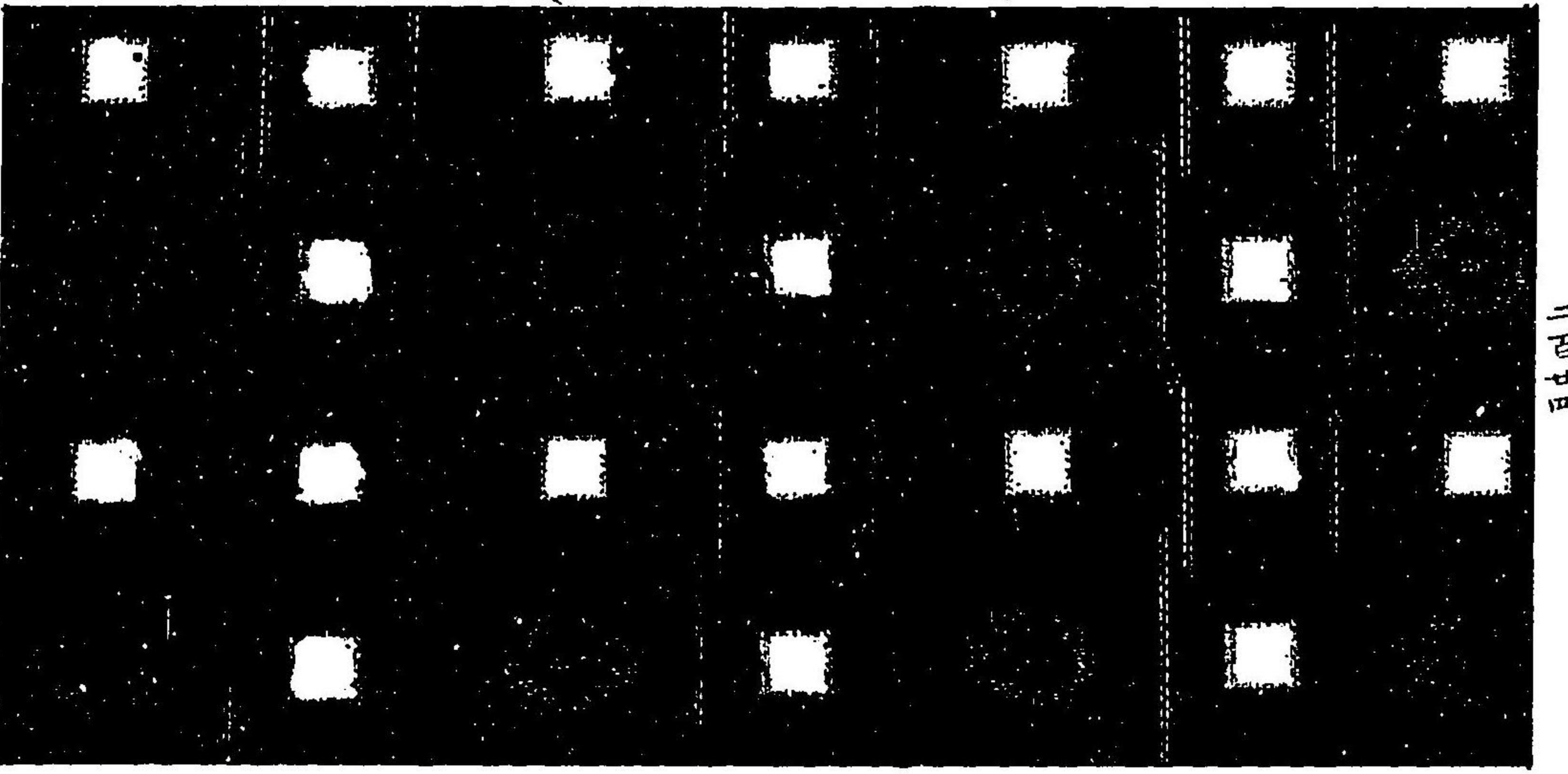
號四十五百五第

緋沢所



號五十五百五第

緑氷留久



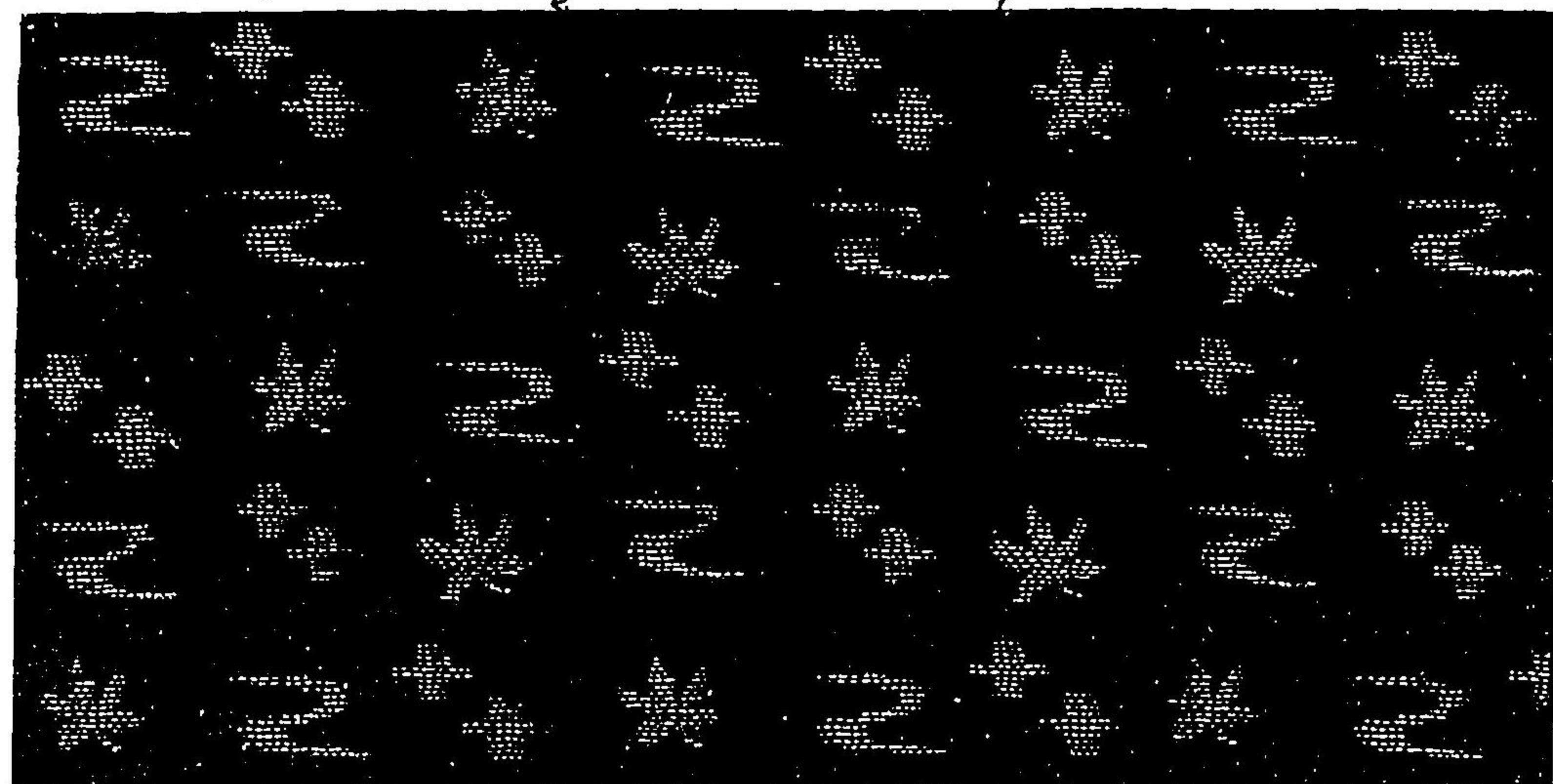
二百廿四

店服兵井三京康

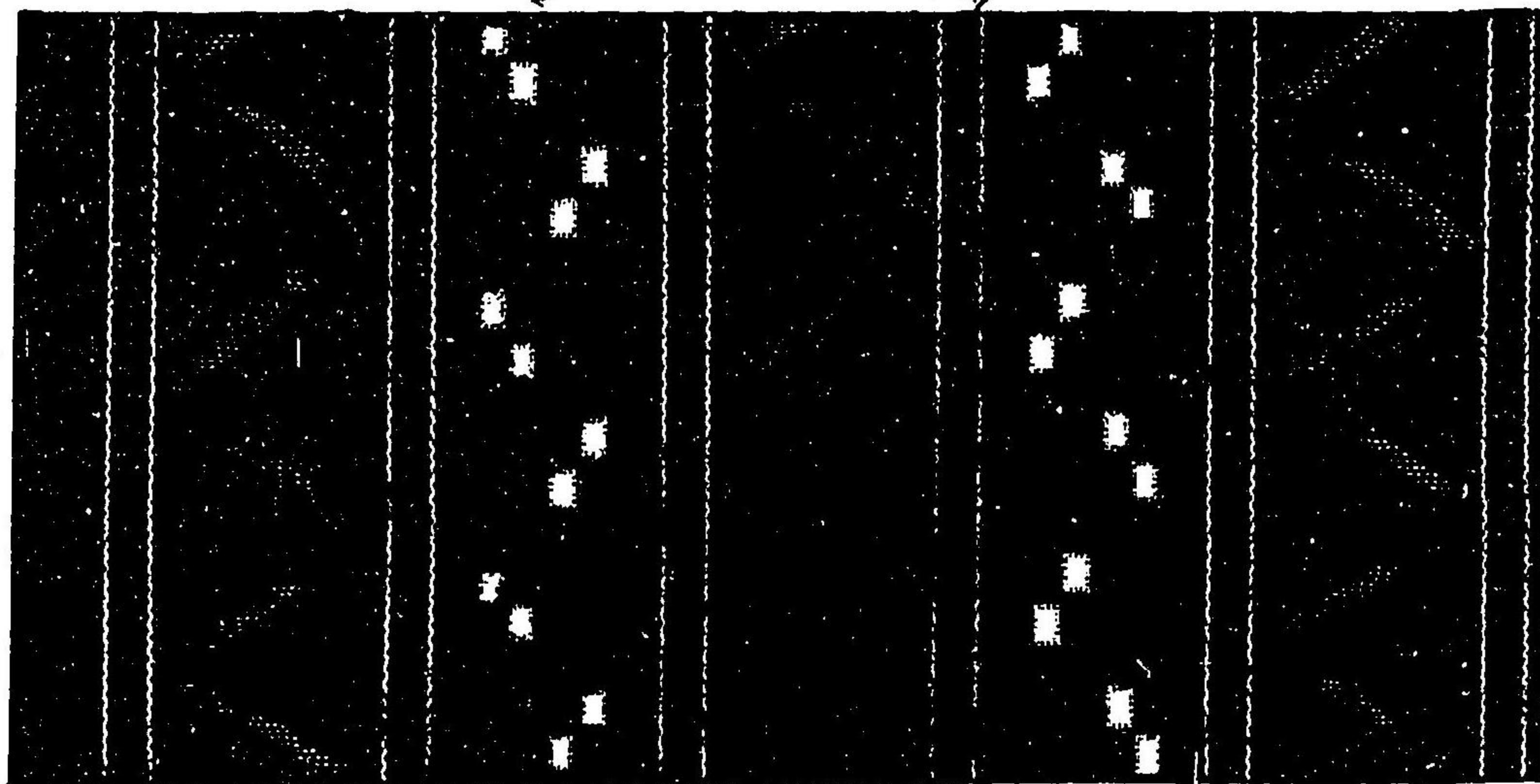
第一十六百五第 布上後裁



(看參牌六十二第) 第二十六百五第

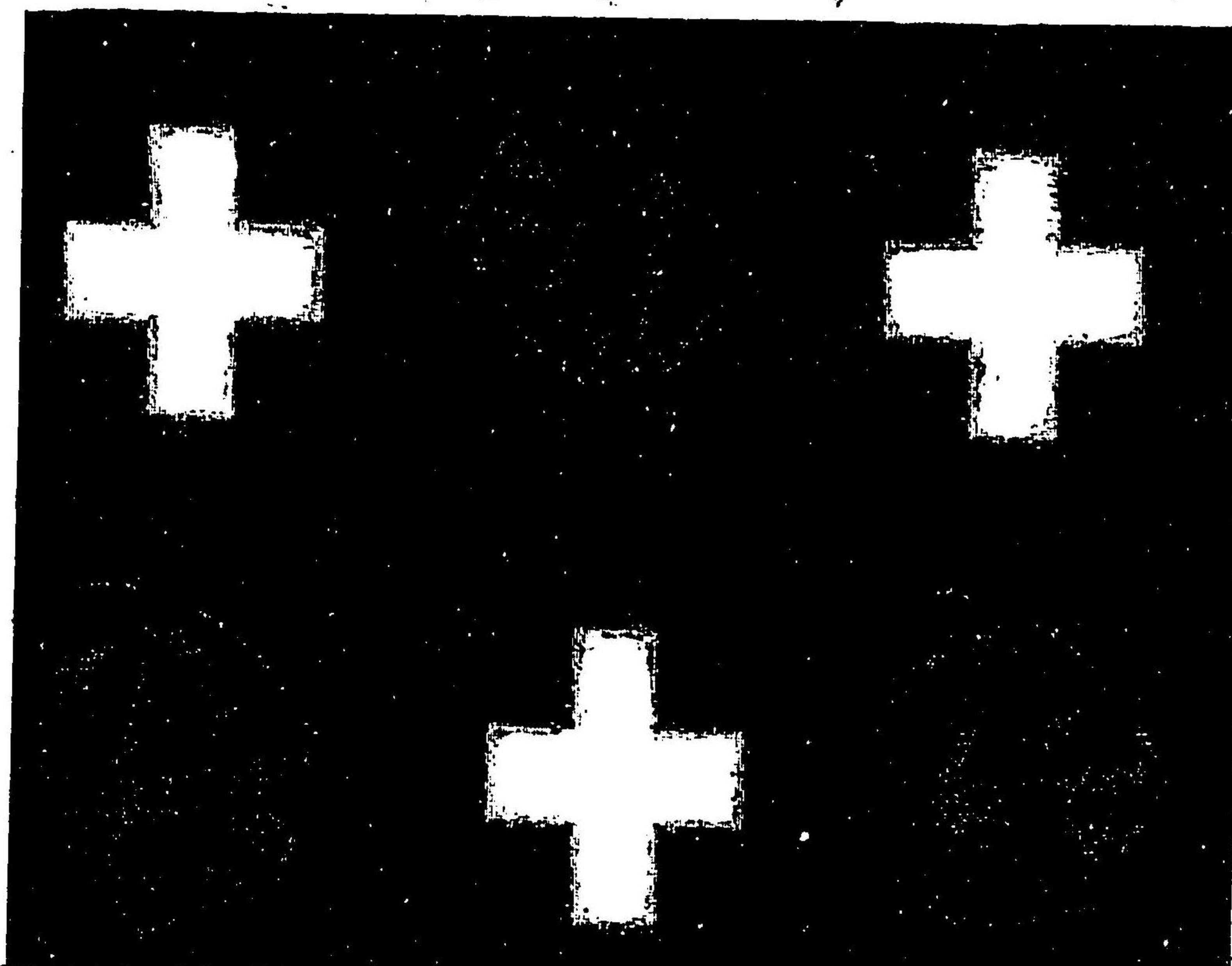


第三十六百五第 絲摩薩

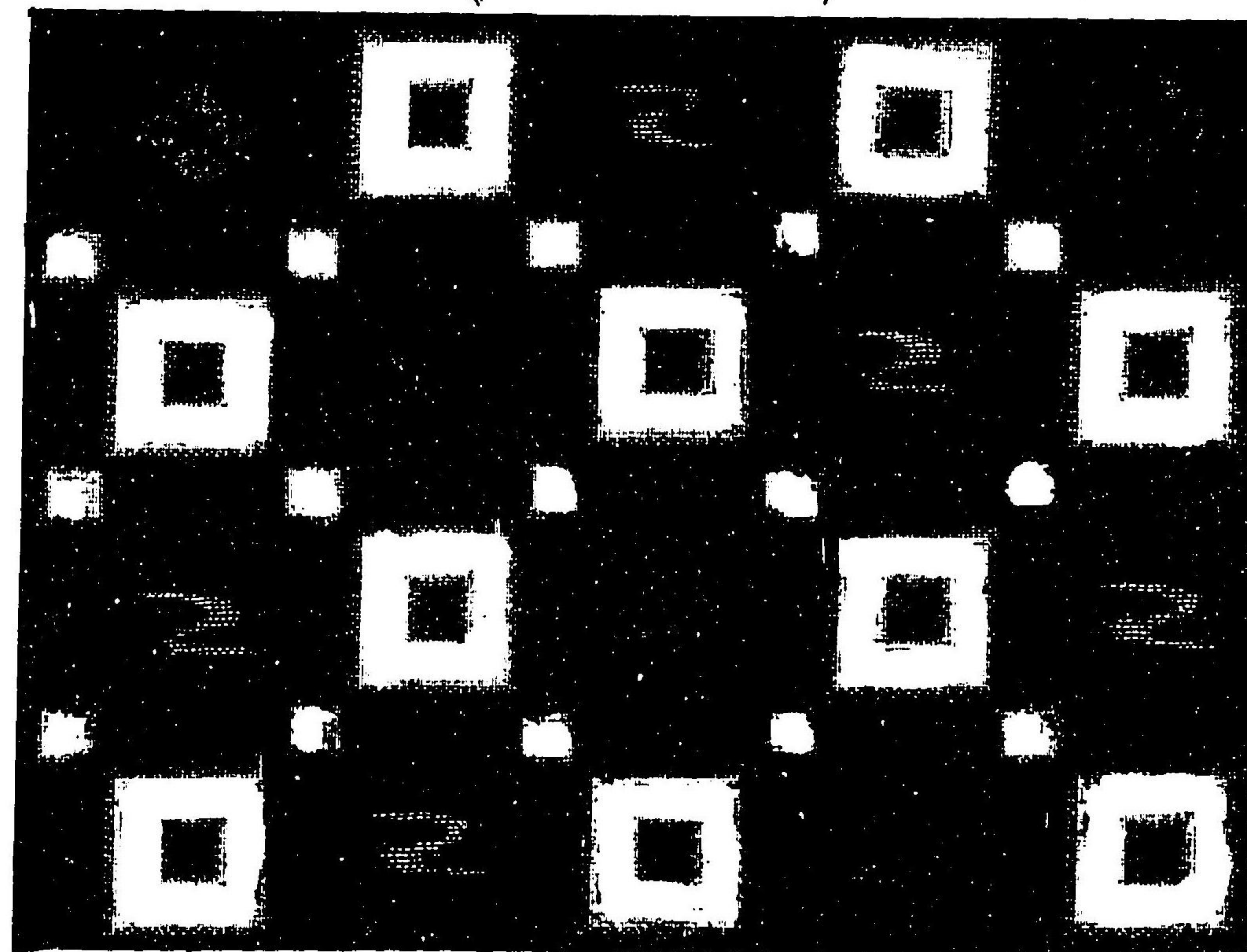


二百七

第九十五百五第 匠意社仁同

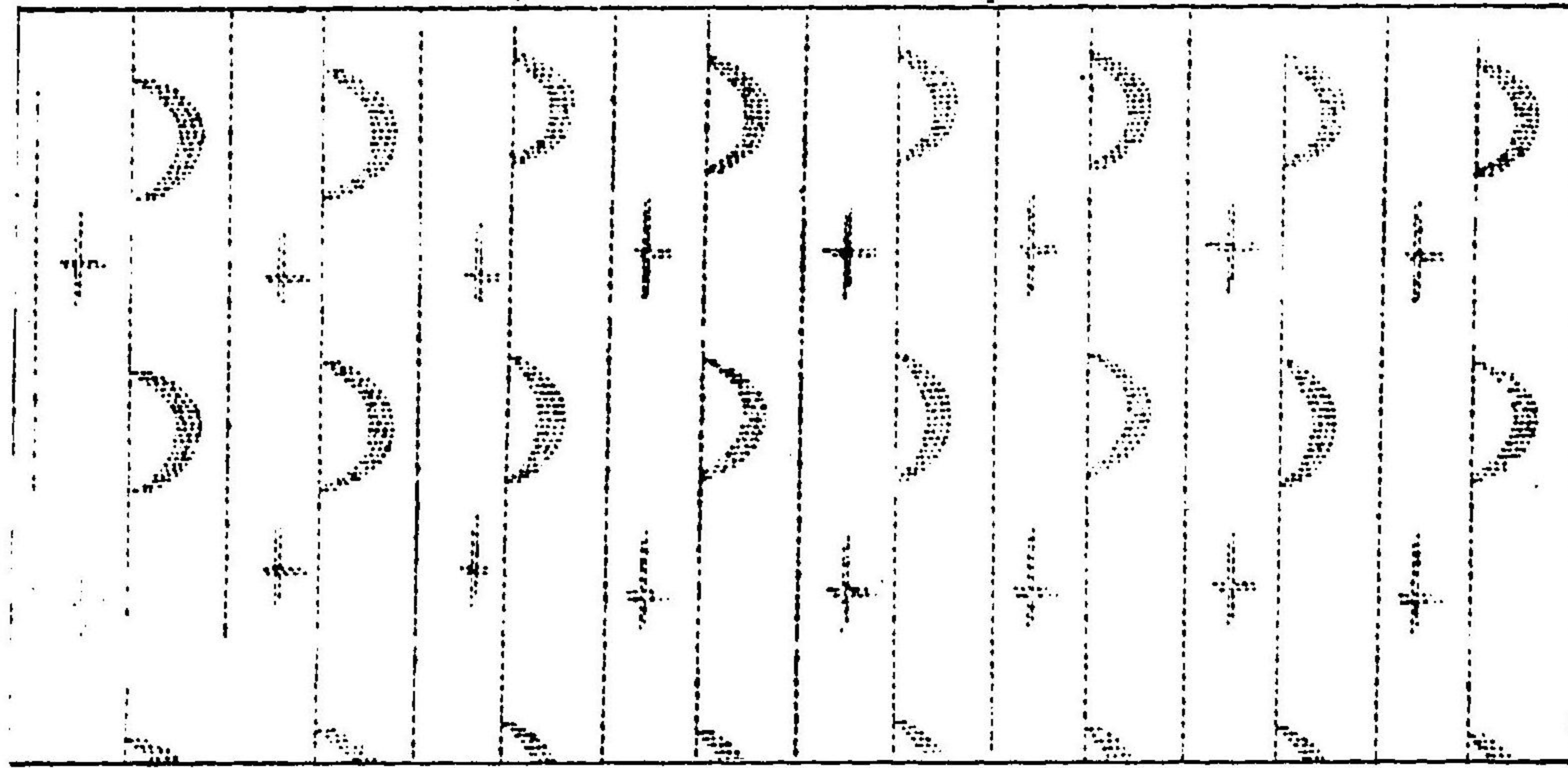


太郎木野本山 長子習傳物備平 第十六百五第 (賞等三) 絲崎長

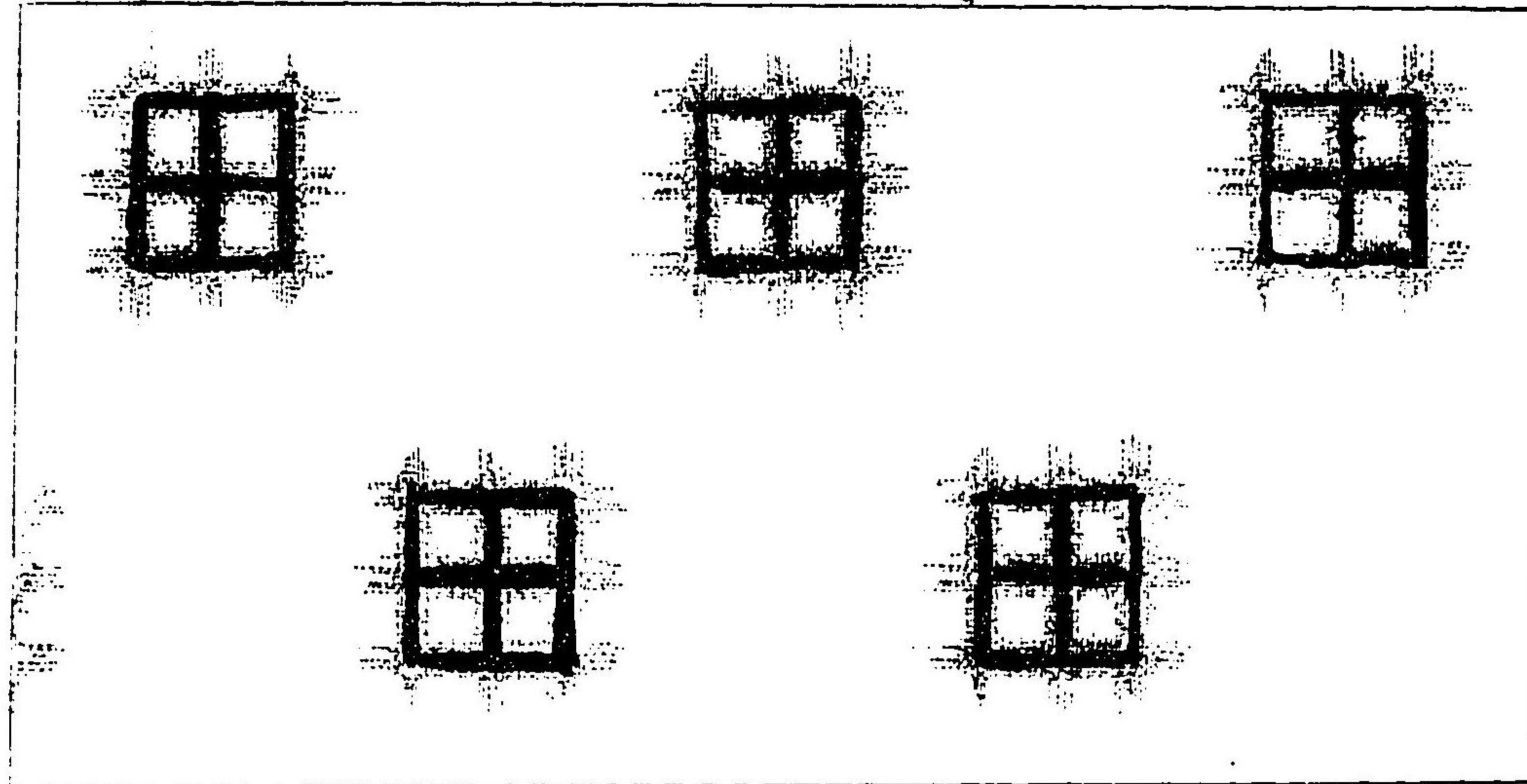


二百八

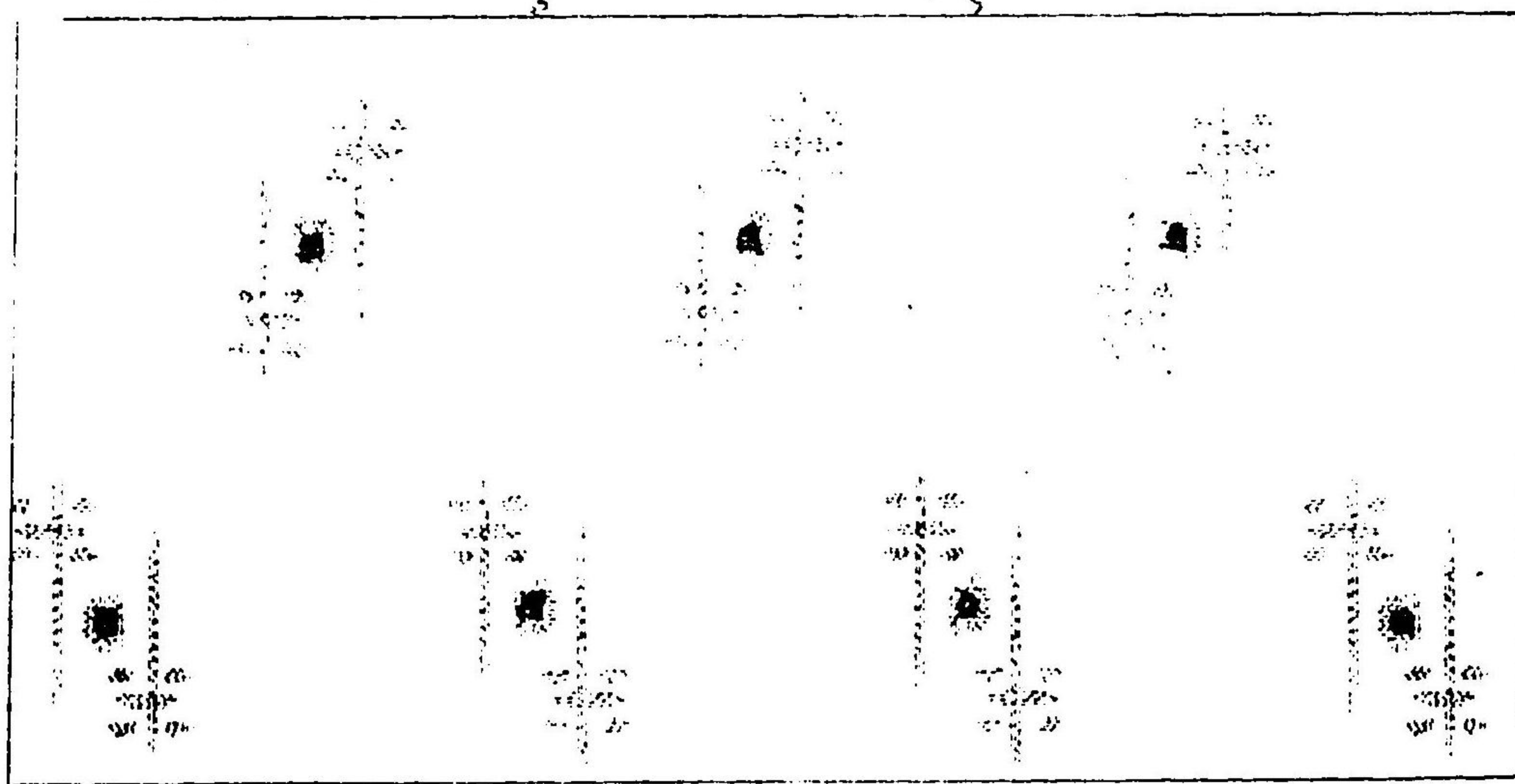
(看参号八世百五第) 一 第 七 十 六 百 五 第 一 球 球 球



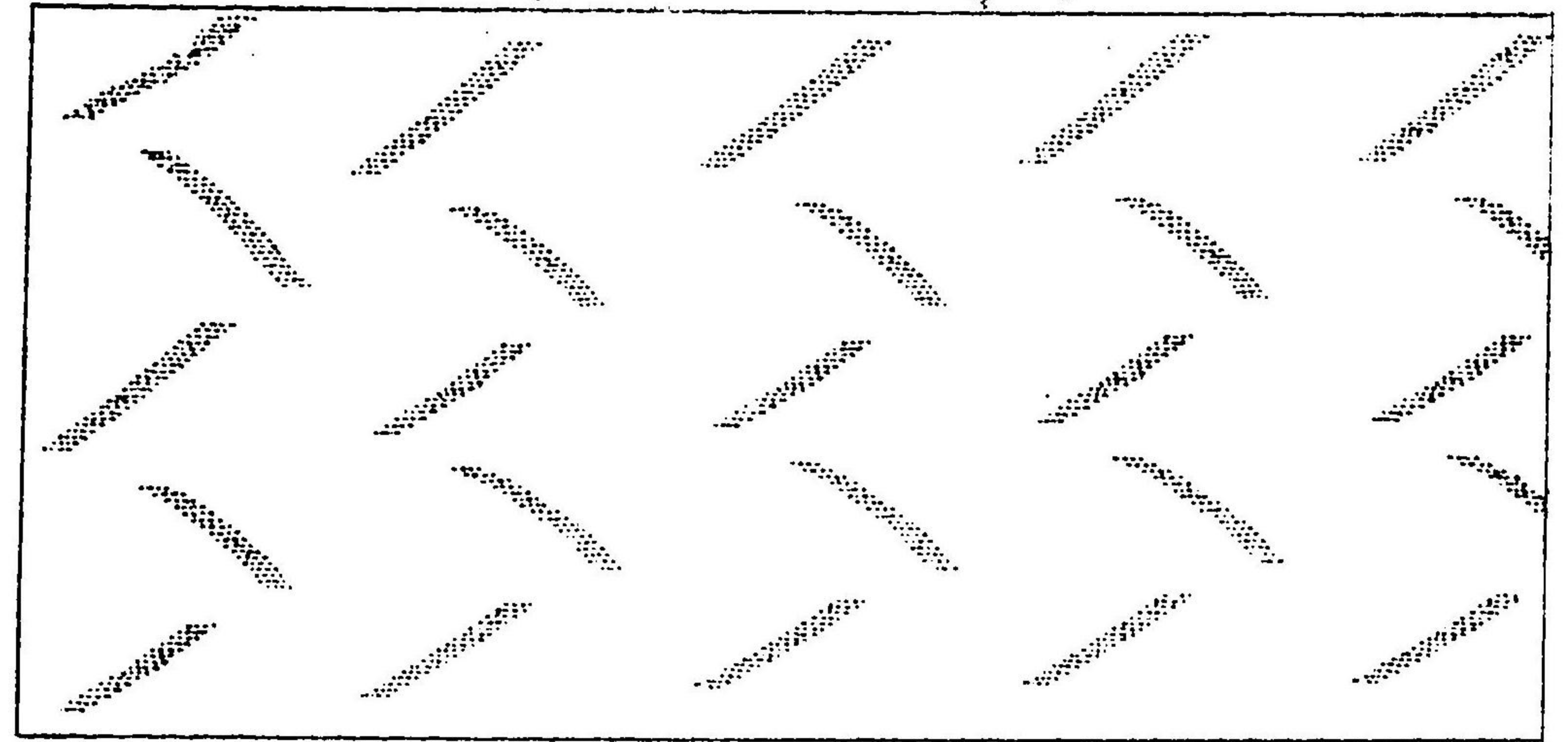
(看参号四十八第) 一 第 八 十 六 百 五 第 一



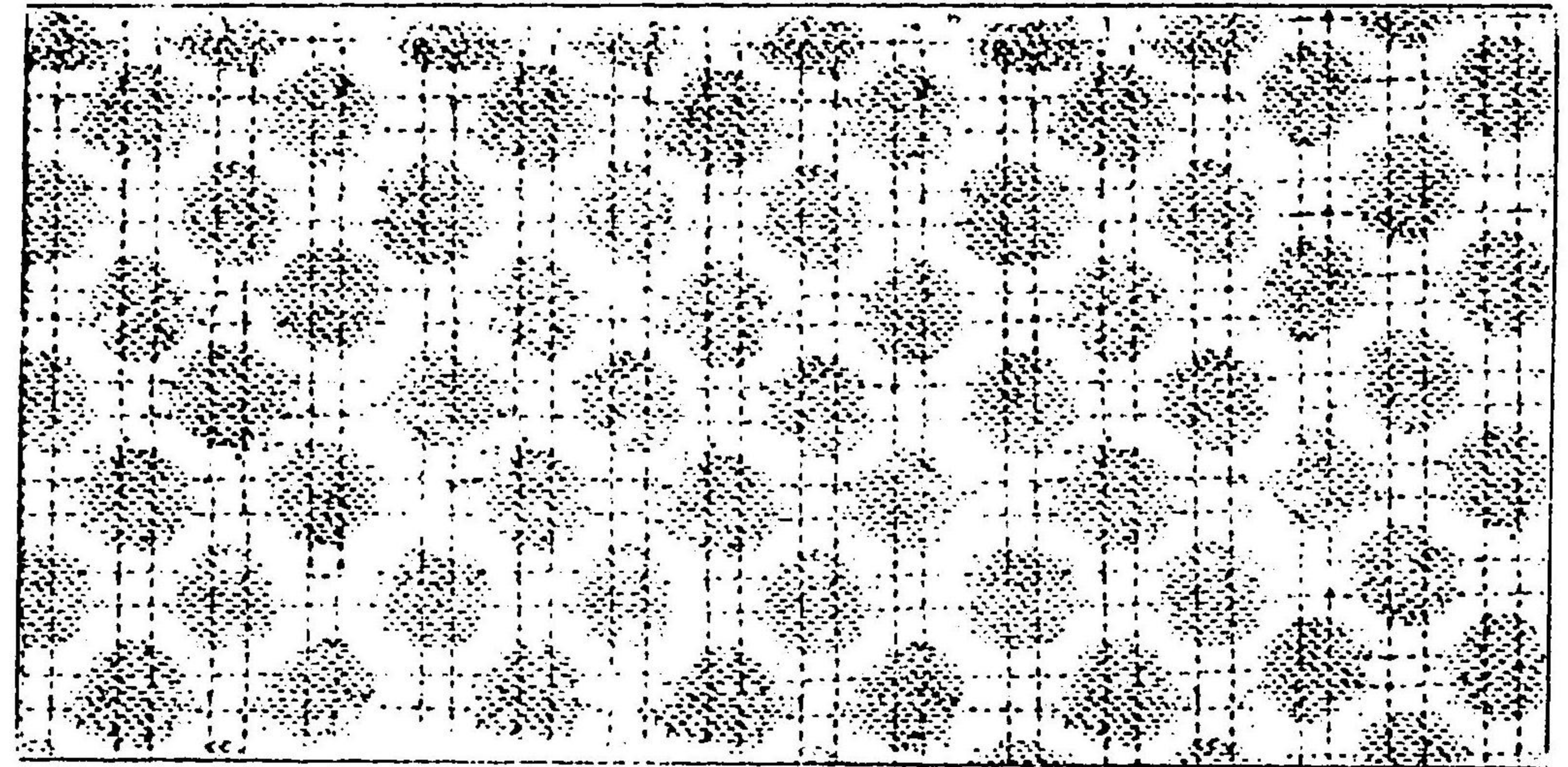
(看参号十三第) 一 第 九 十 六 百 五 第 一



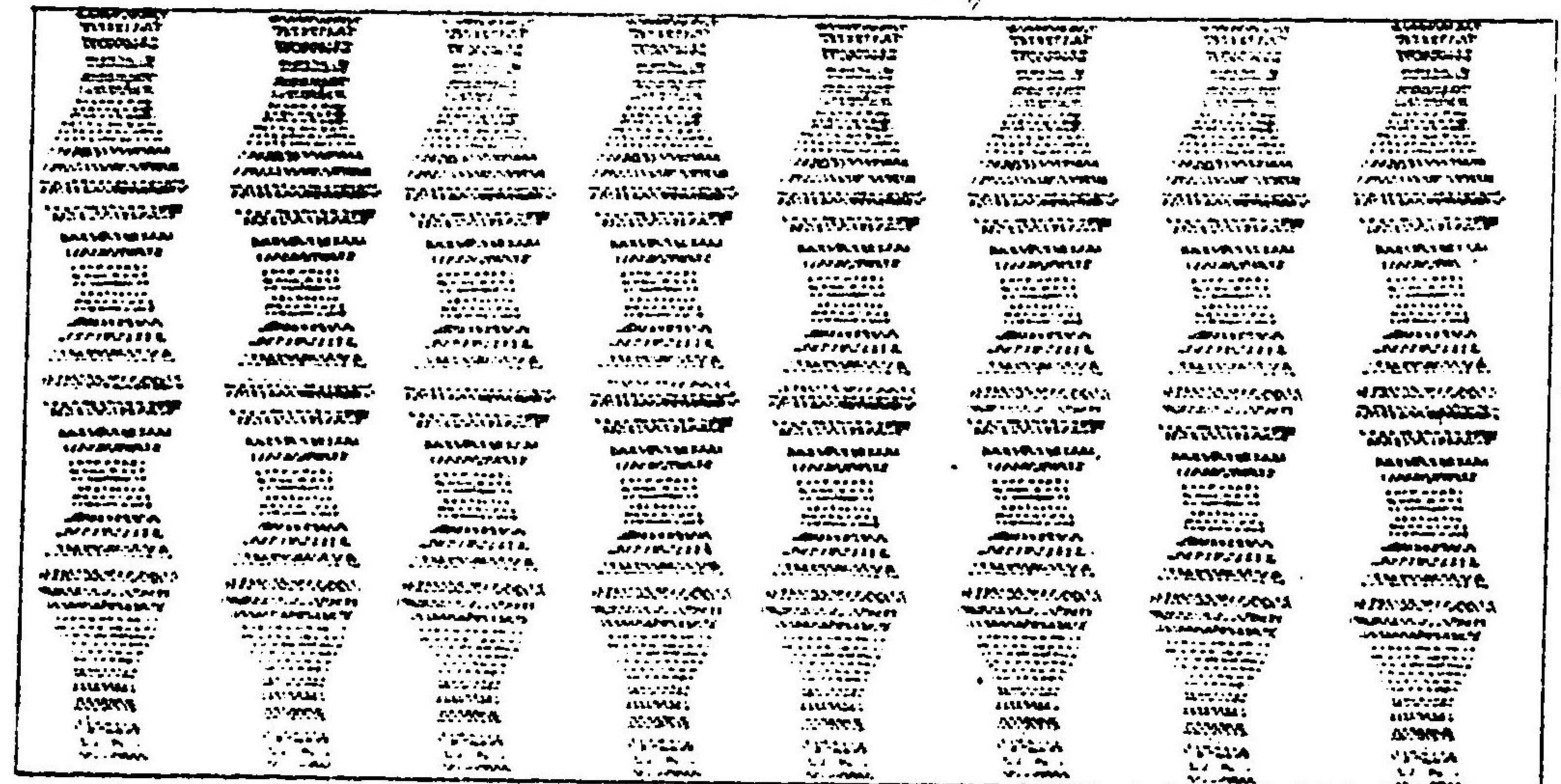
(看参号七十五百四第) 一 第 四 十 六 百 五 第 一



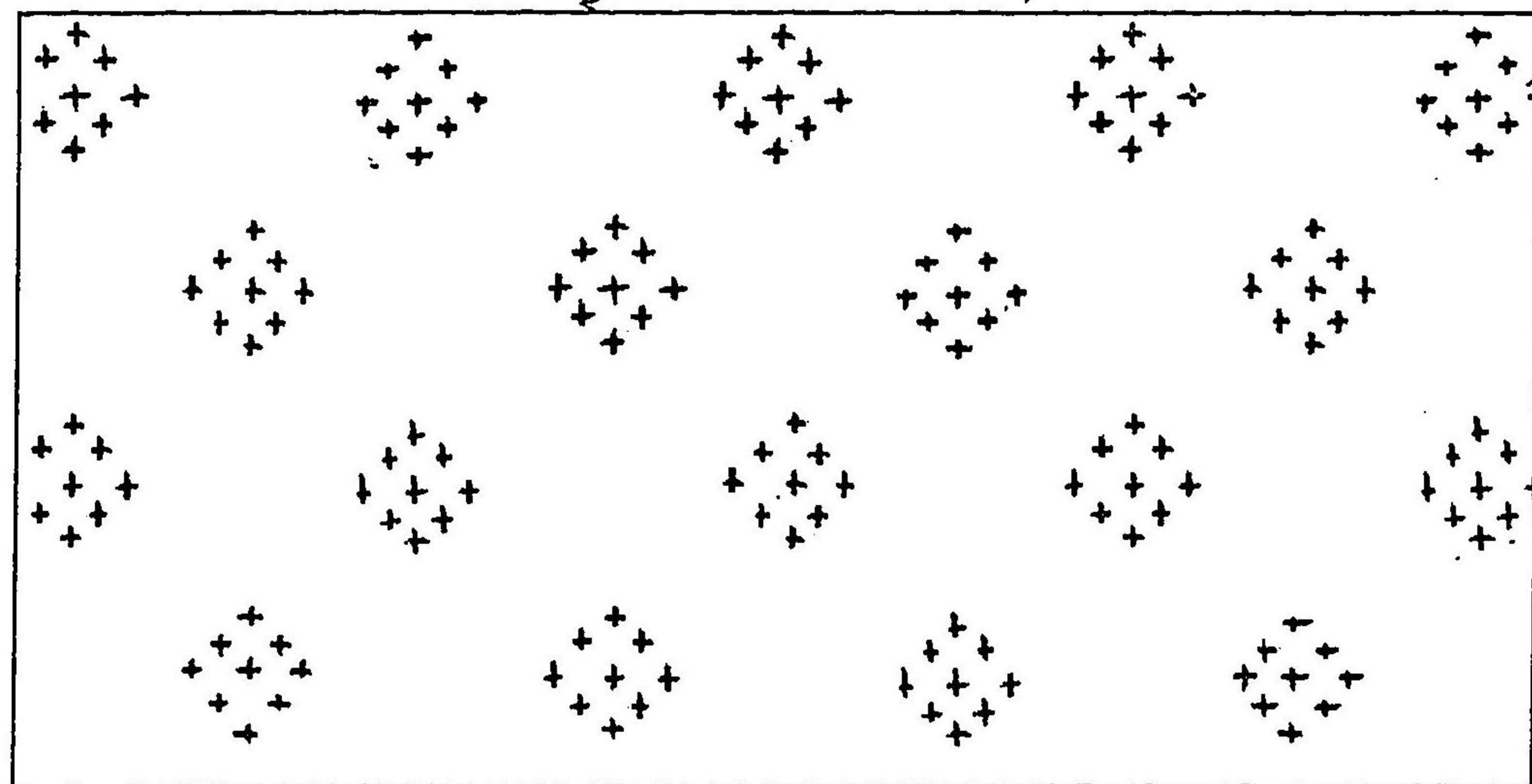
(看参号四十五第) 一 第 五 十 六 百 五 第 一



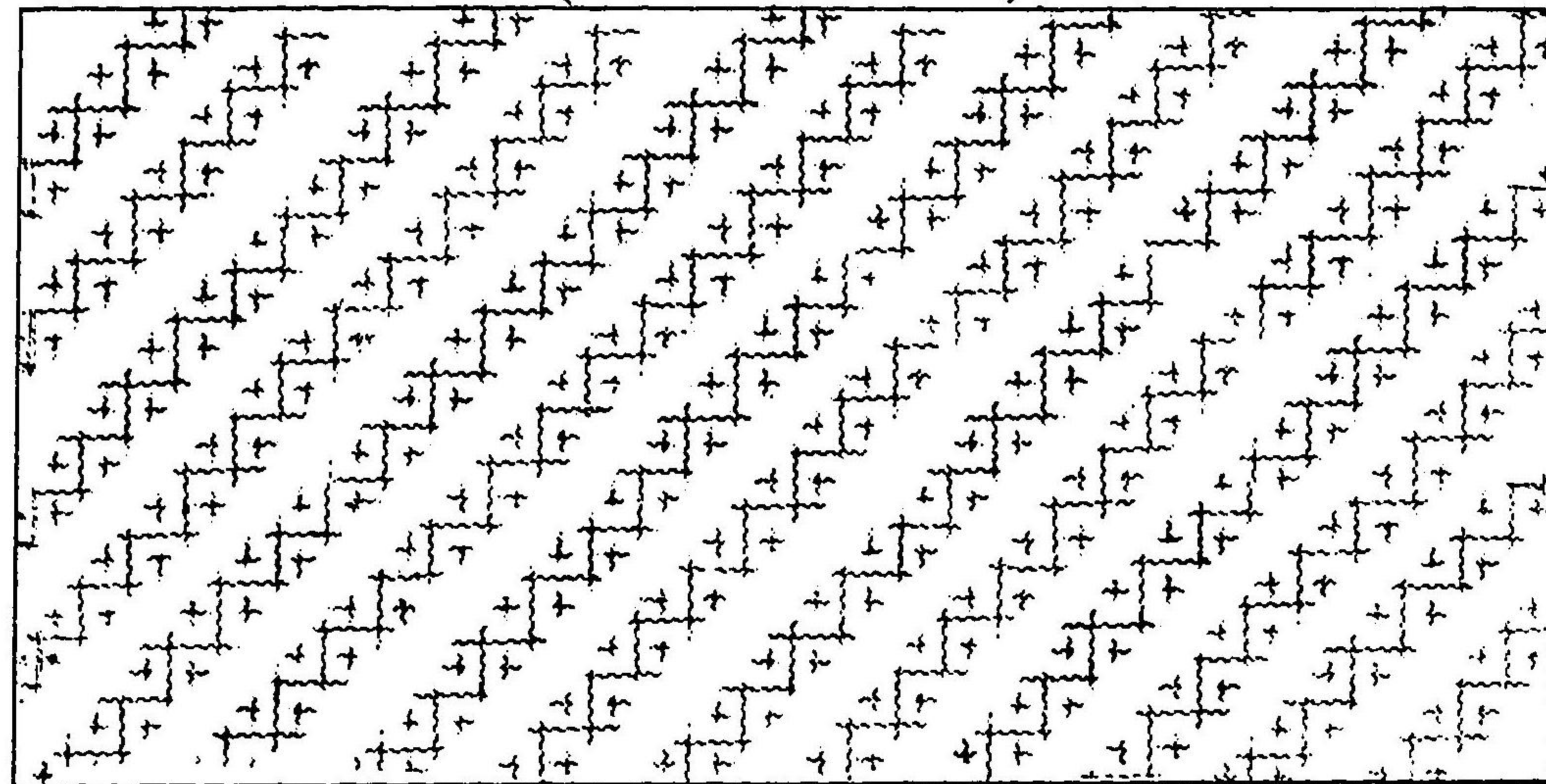
(看参号六十七第) 一 第 六 十 六 百 五 第 一



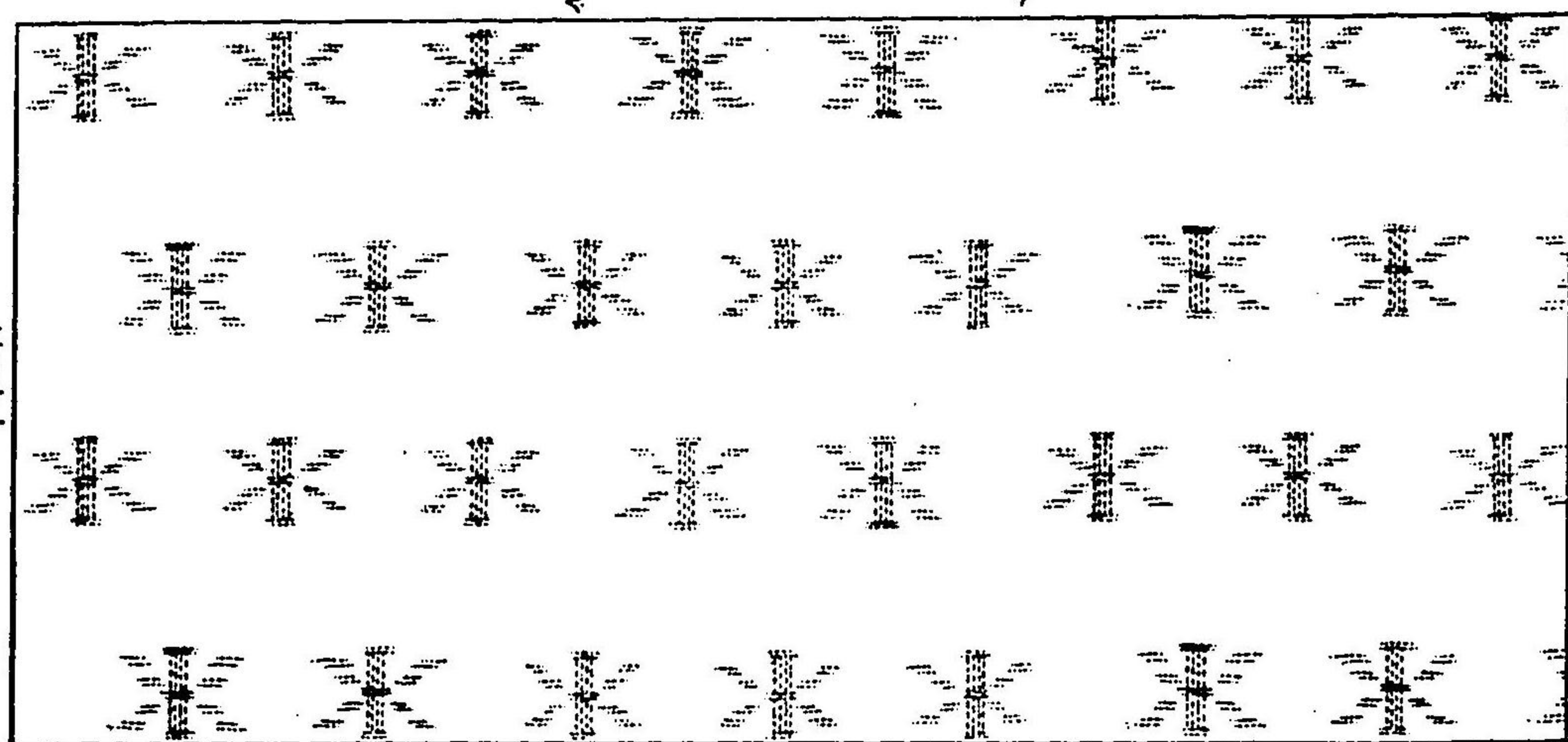
號三十七百五第 絳 球 琺



號四十七百五第 絳 和 大

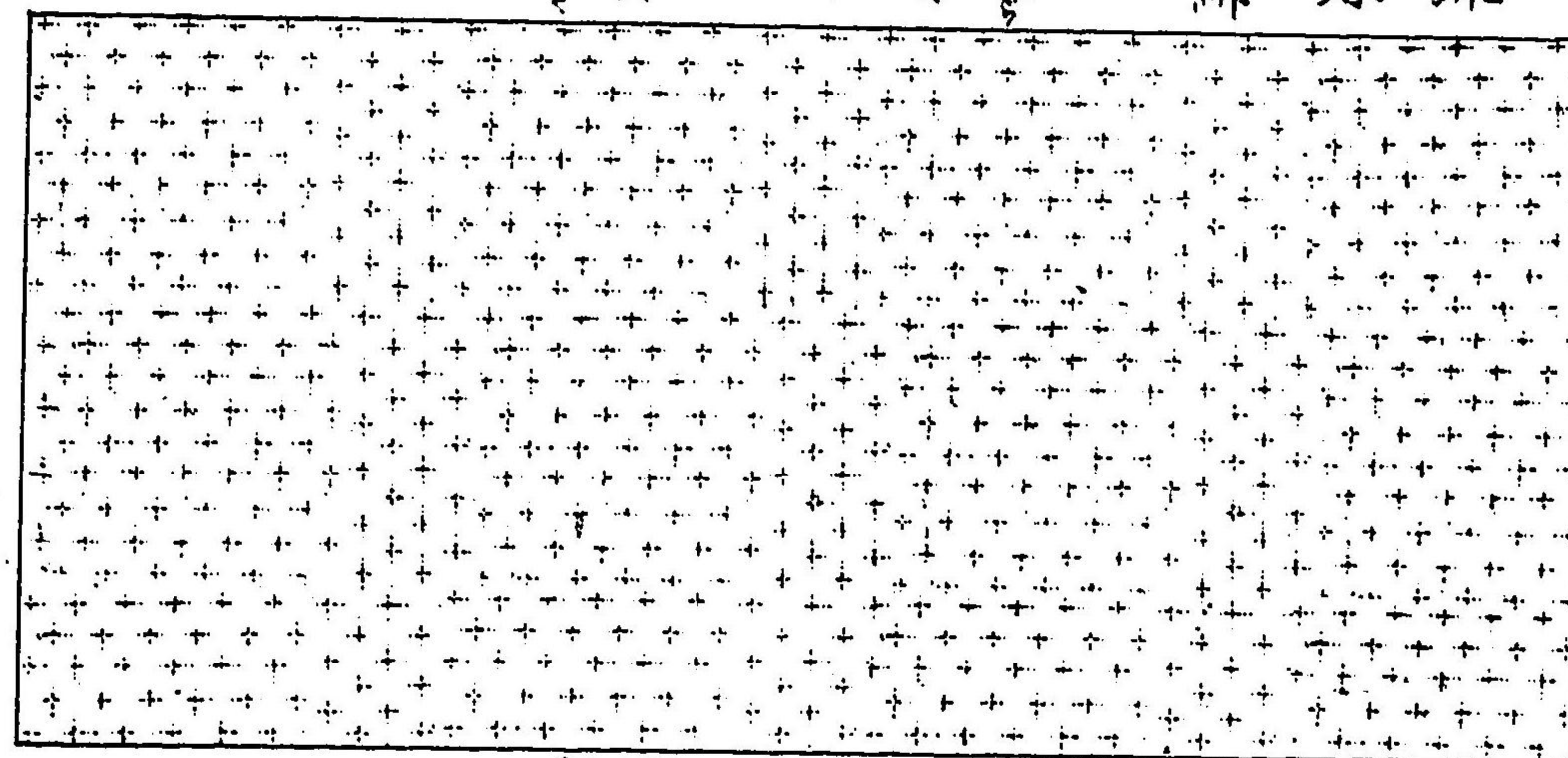


(看參号二十九百第) 號五十七百五第

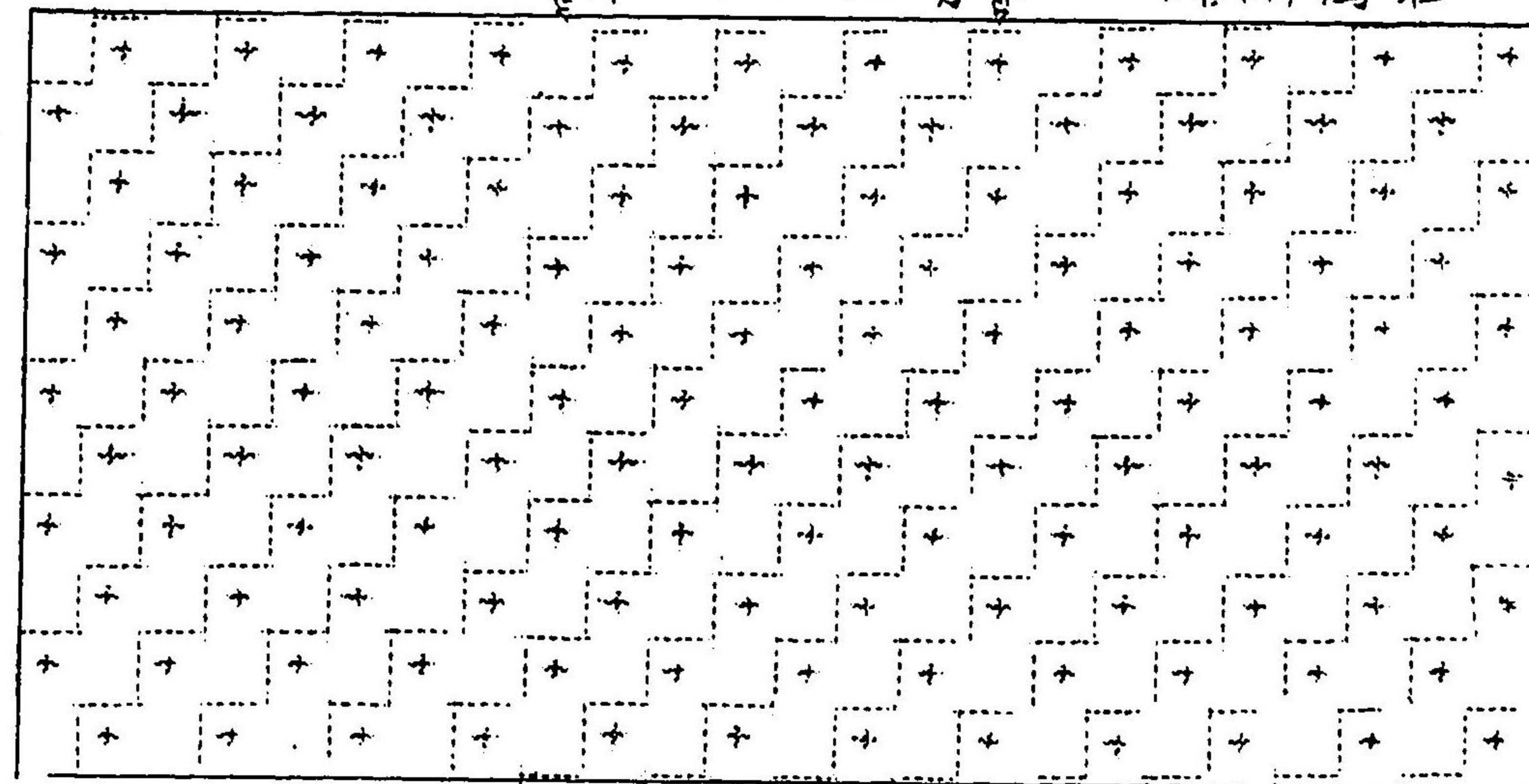


1421

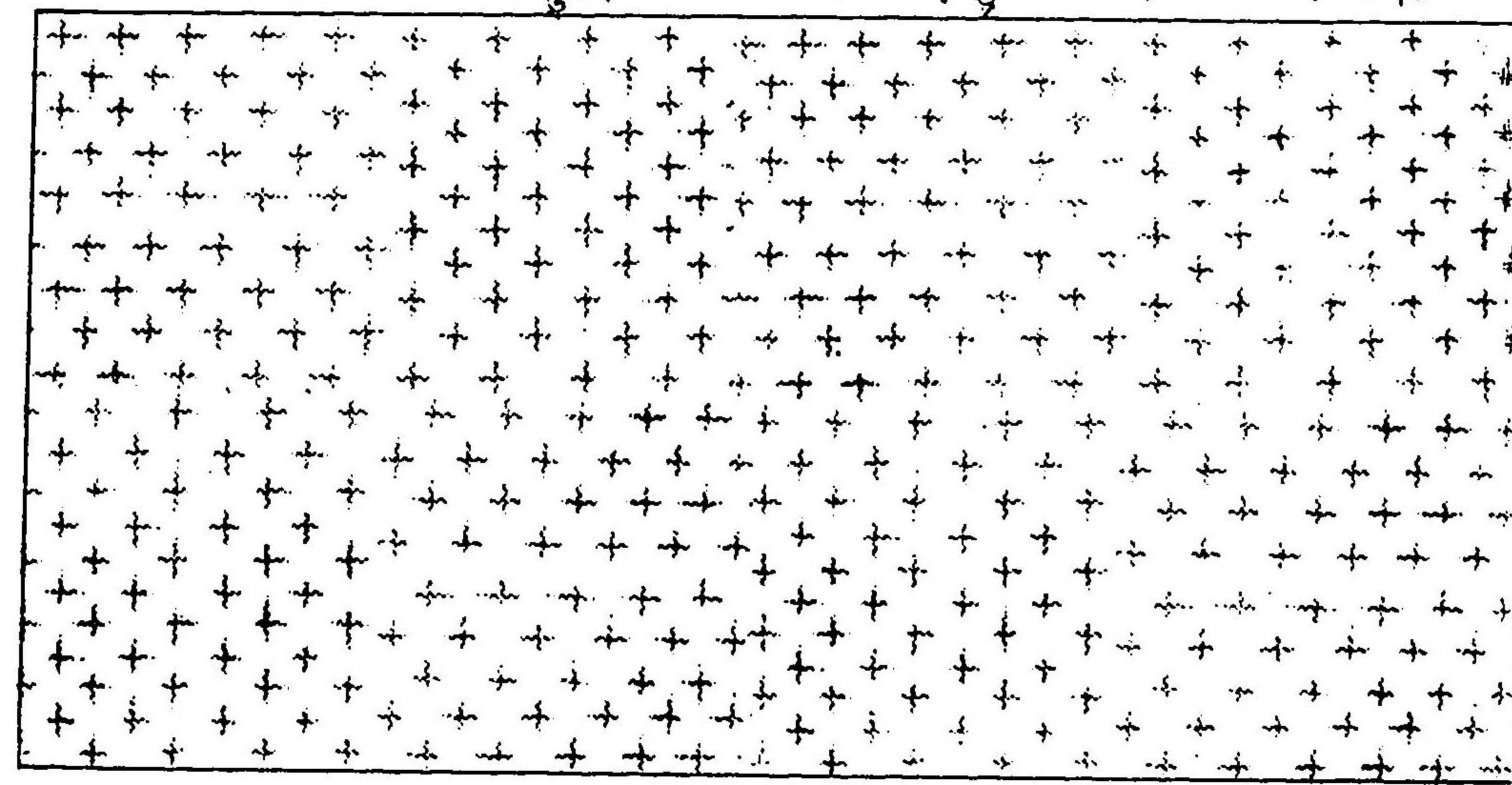
號十七百五第 絳 球 琺



號一十七百五第 絳 縮 國 岩

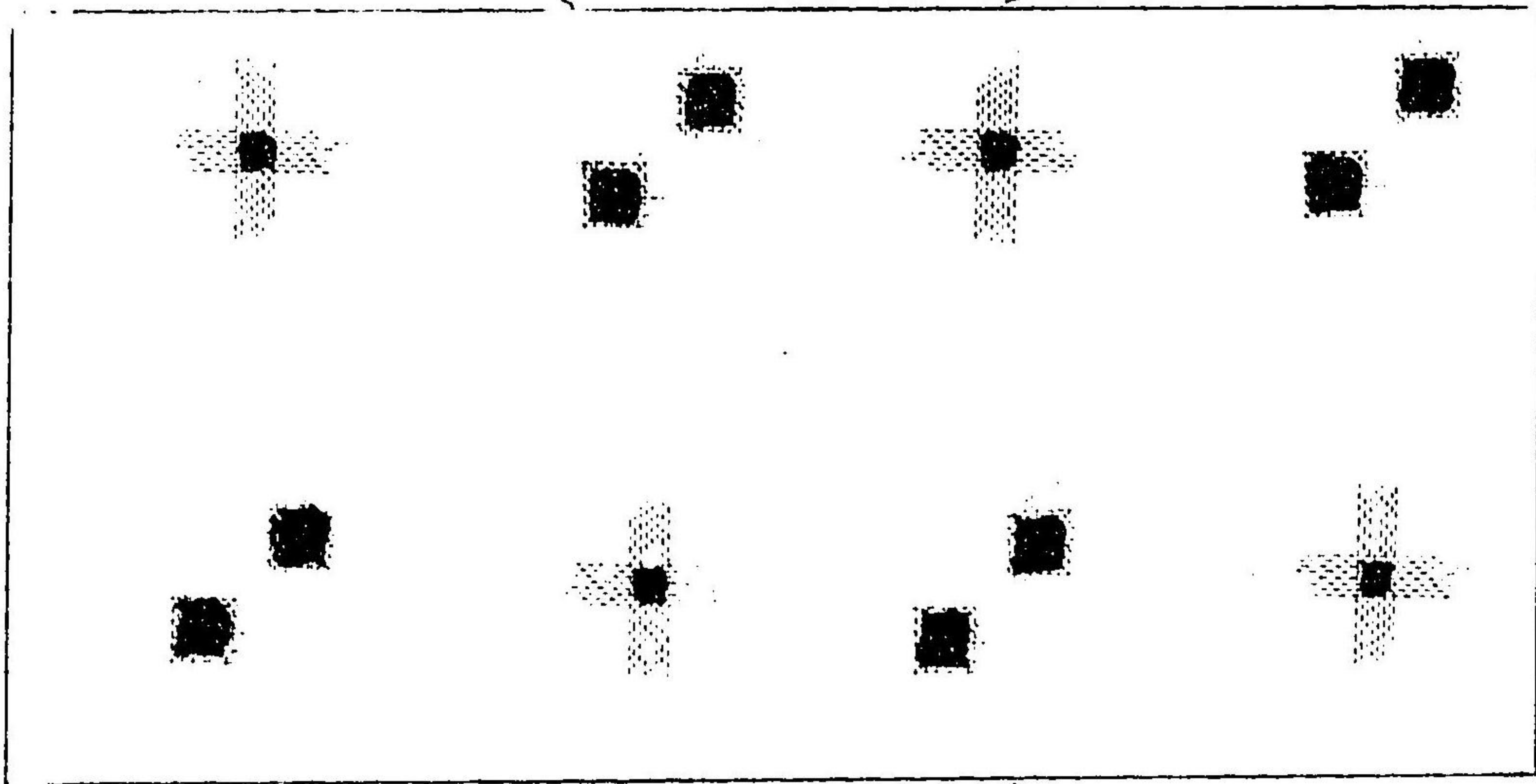


號二十七百五第 布 上 球 琺

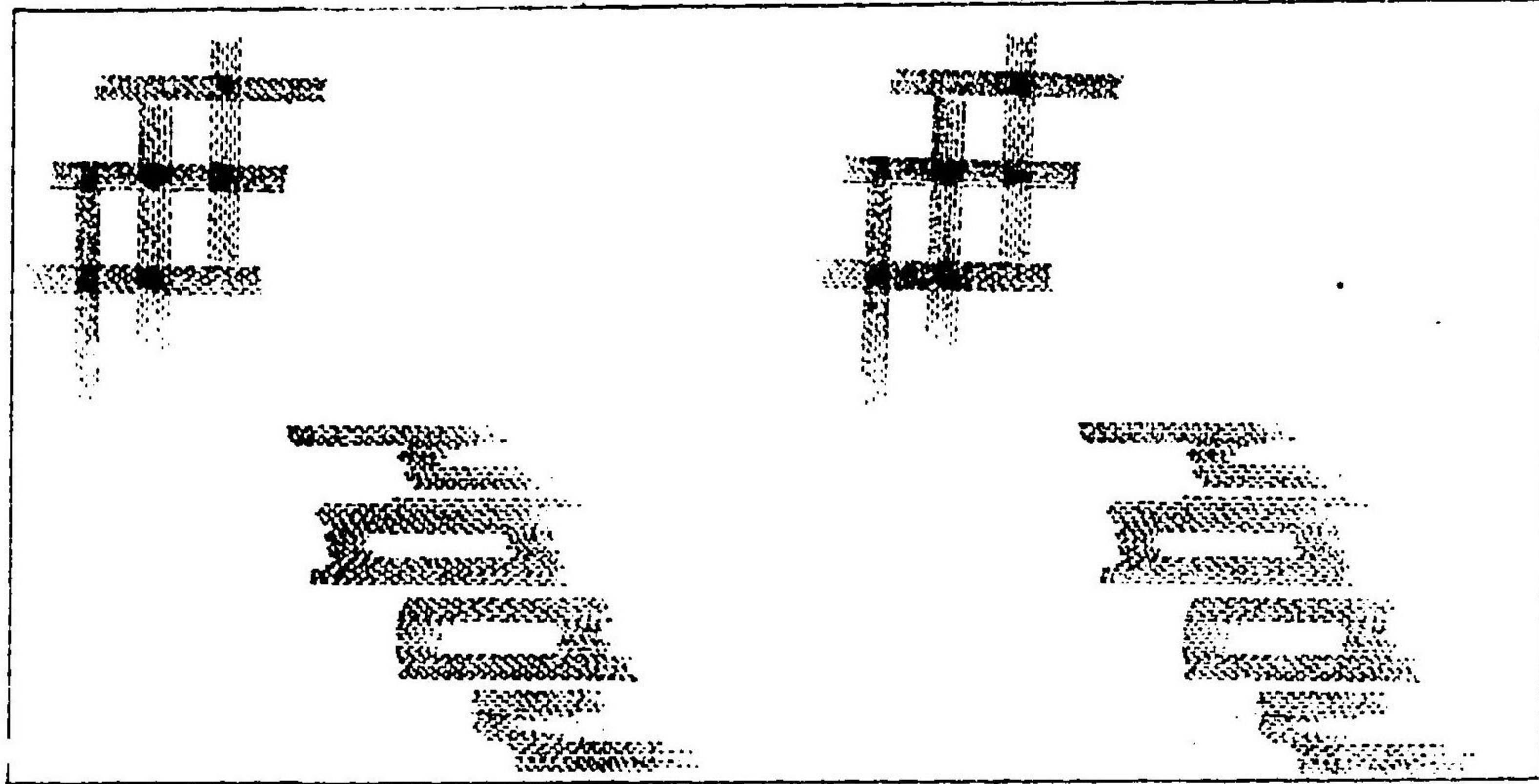


1421

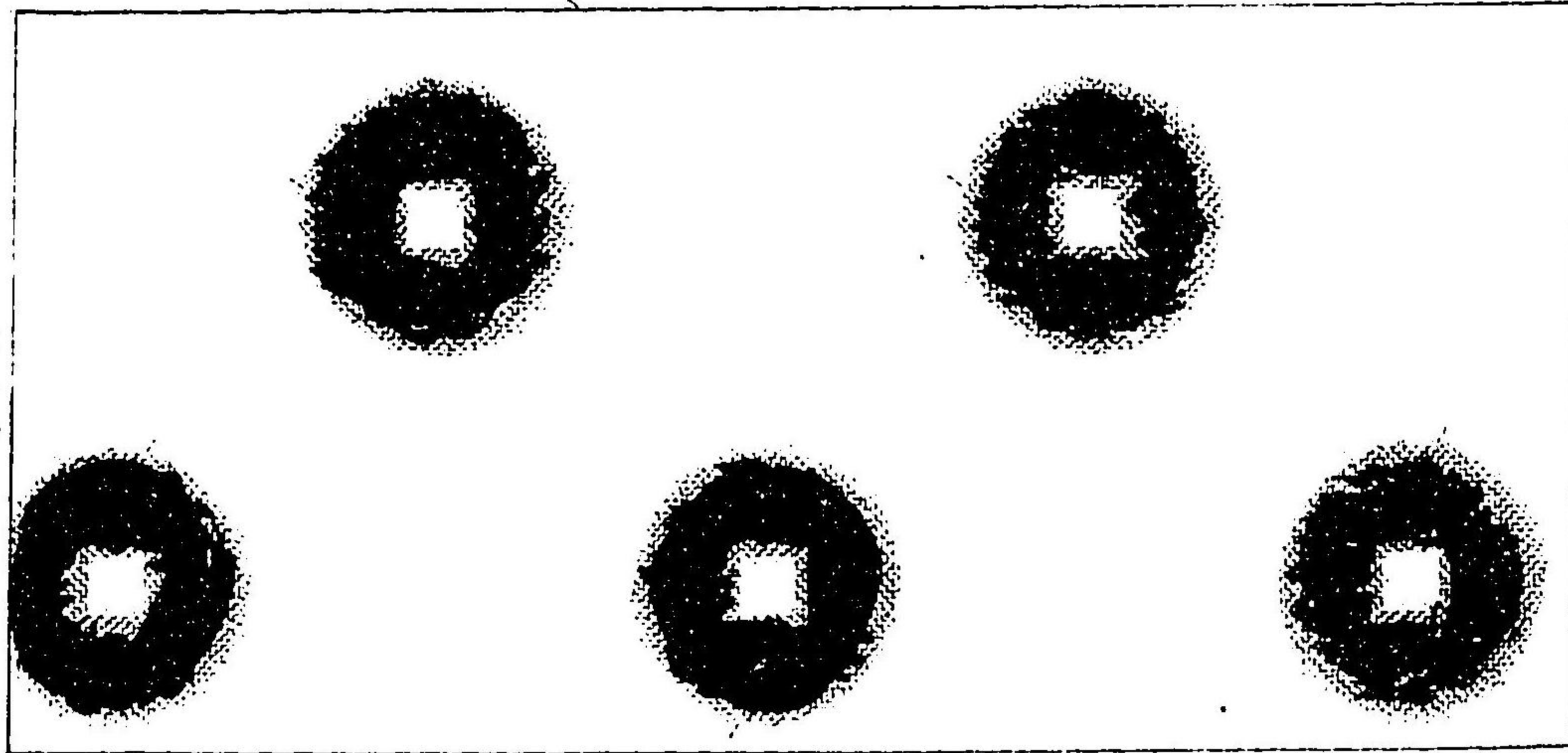
號九十七百五第 絲摩薩



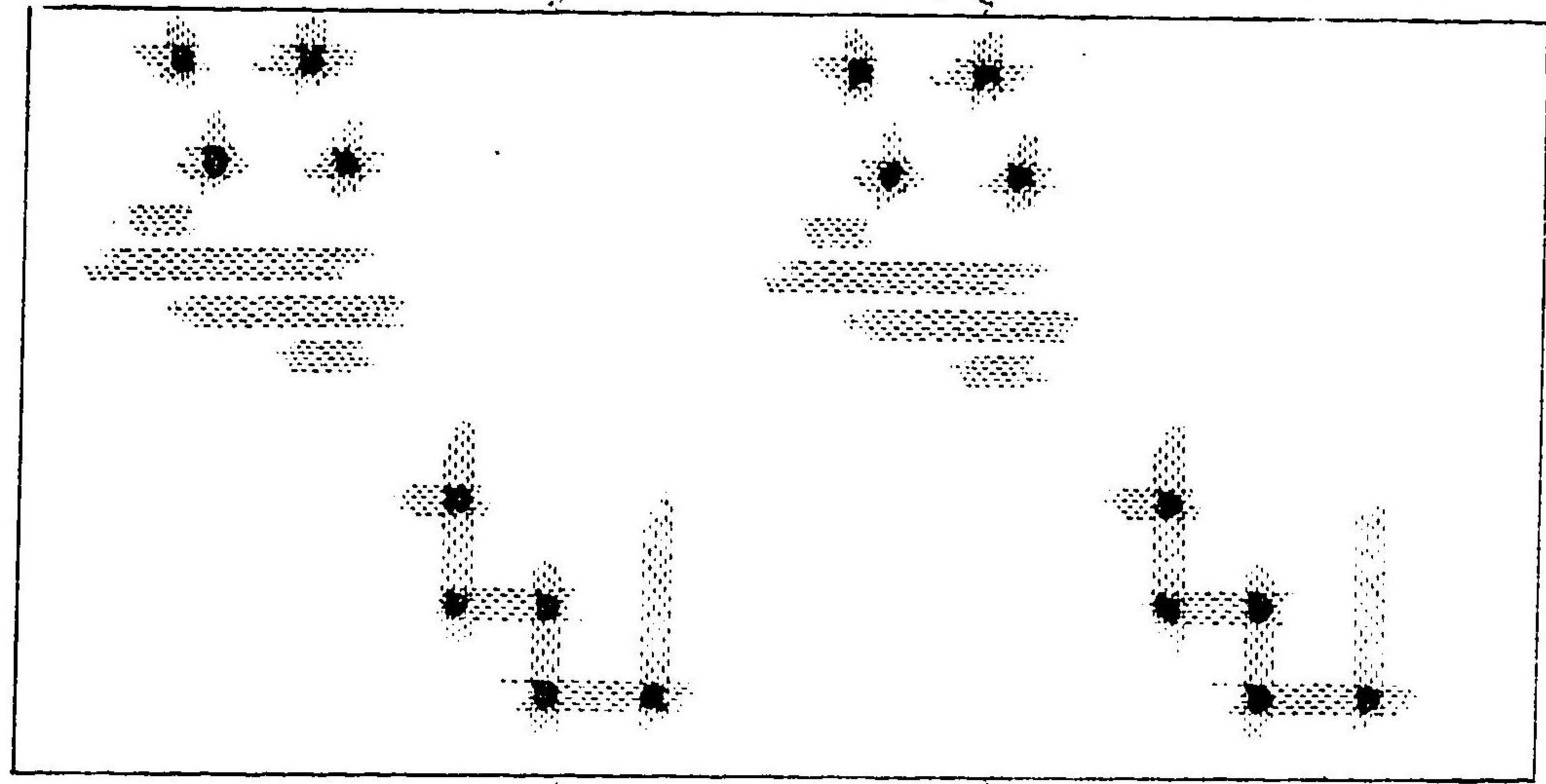
號十八百五第 絲球瓊



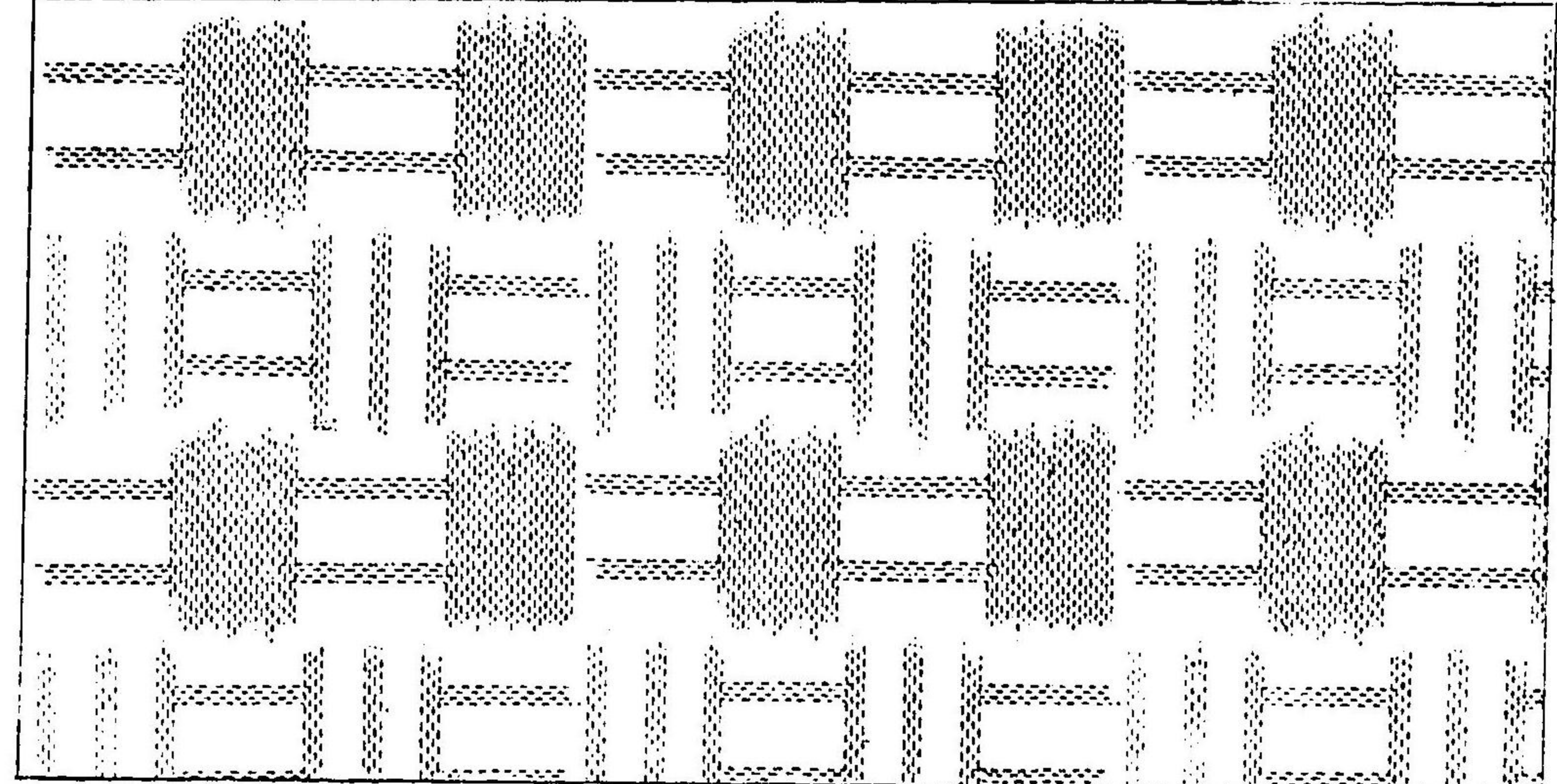
號一十八百五第 絲摩薩



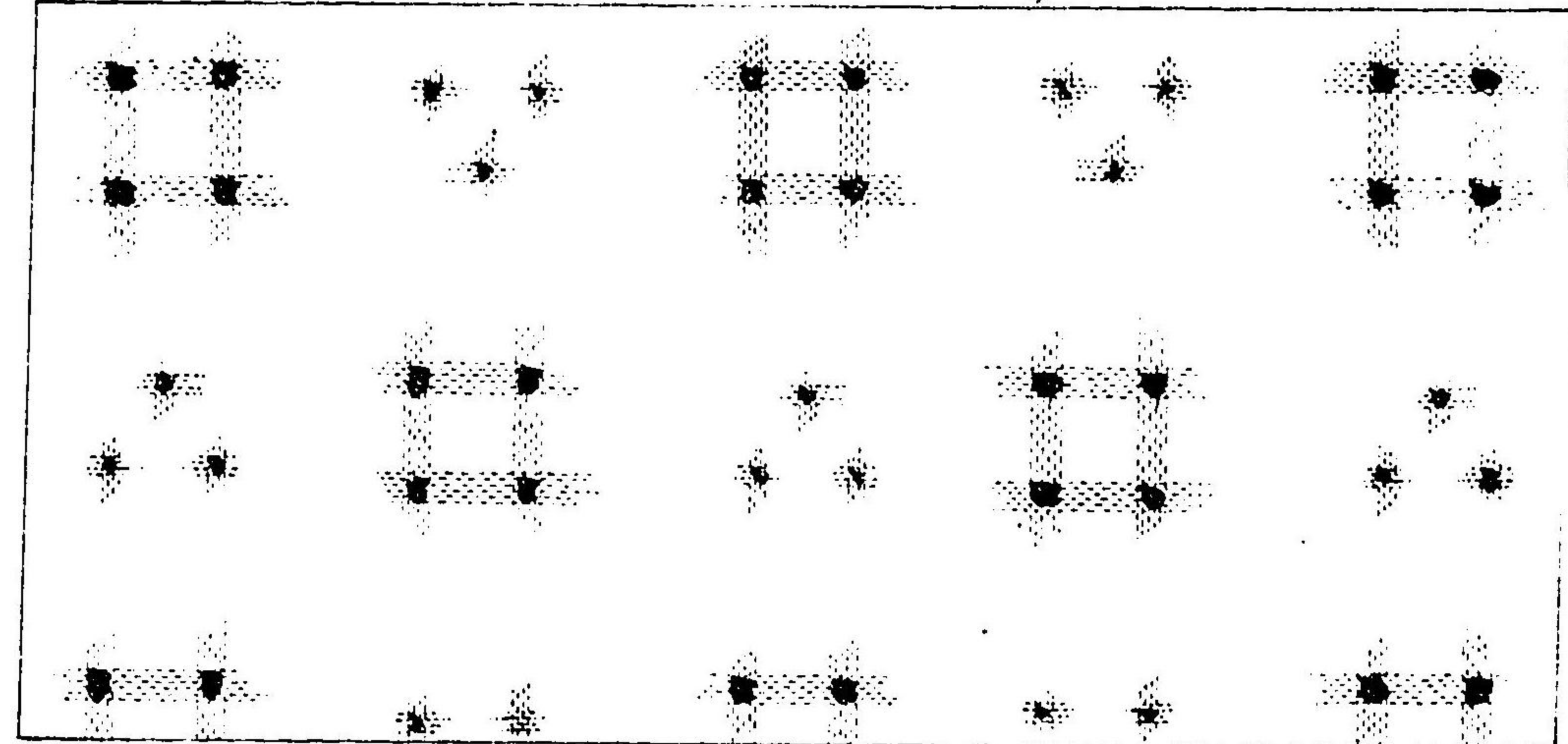
號六十七百五第 絲球瓊



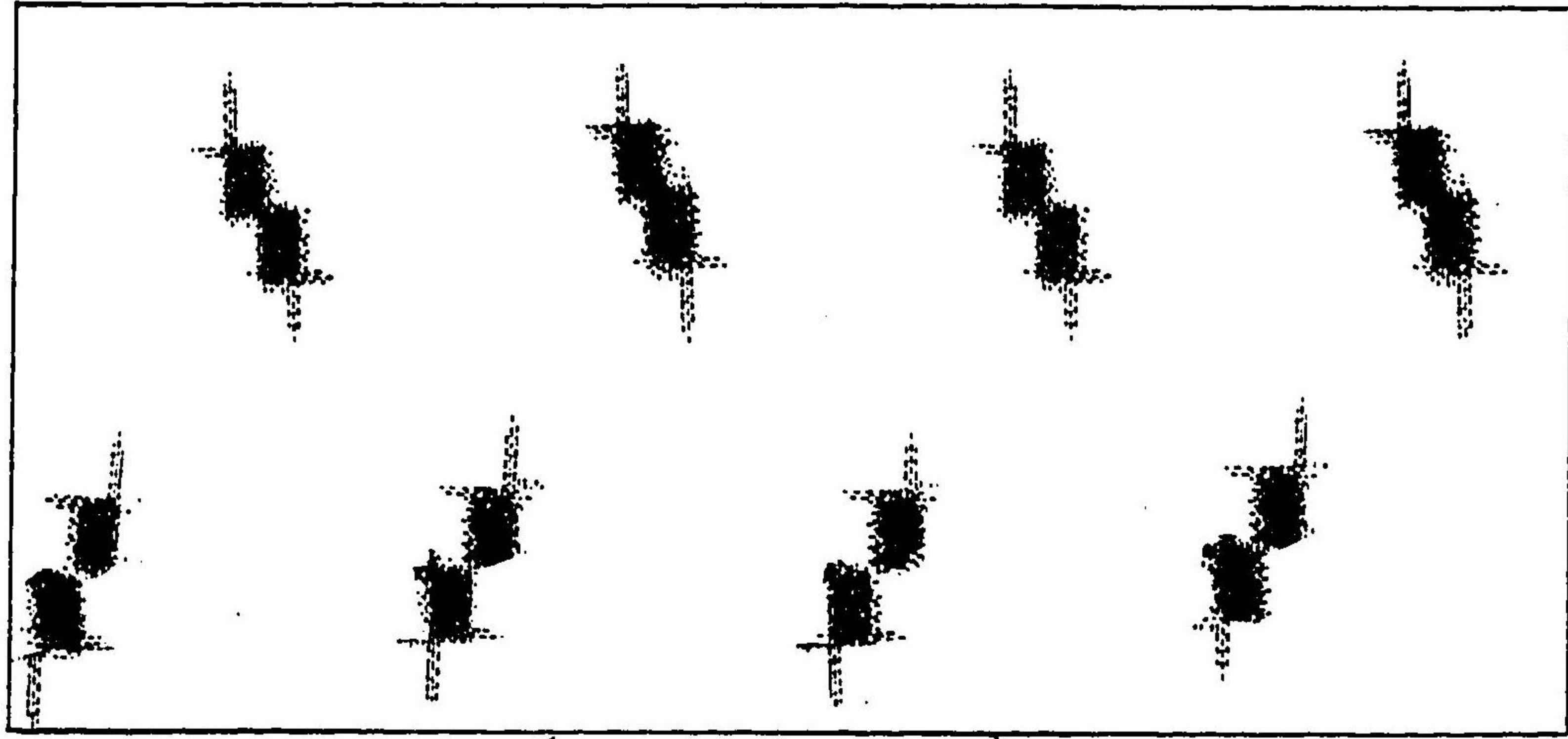
號七十七百五第 絲球瓊



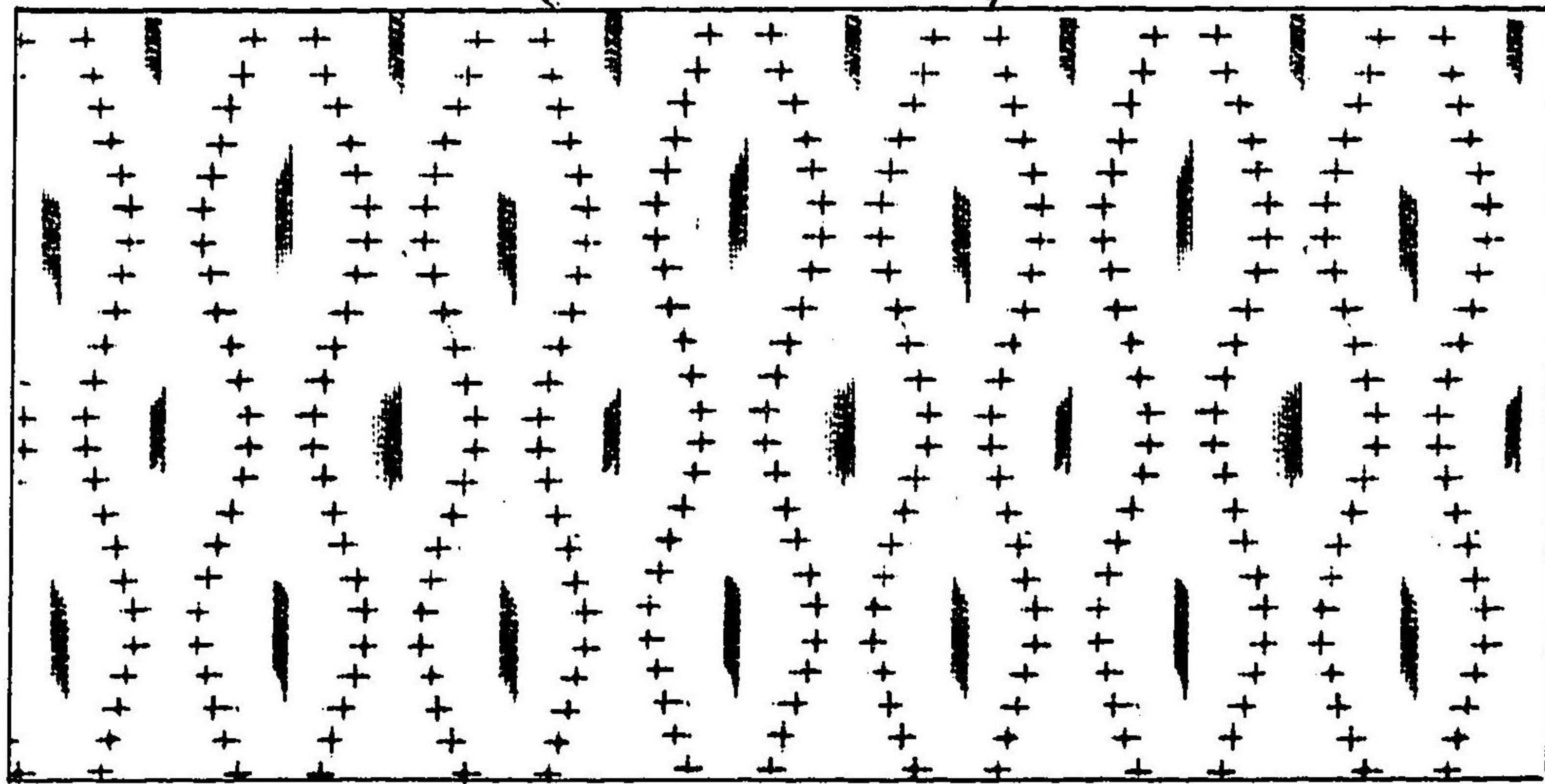
號八十七百五第 絲球瓊



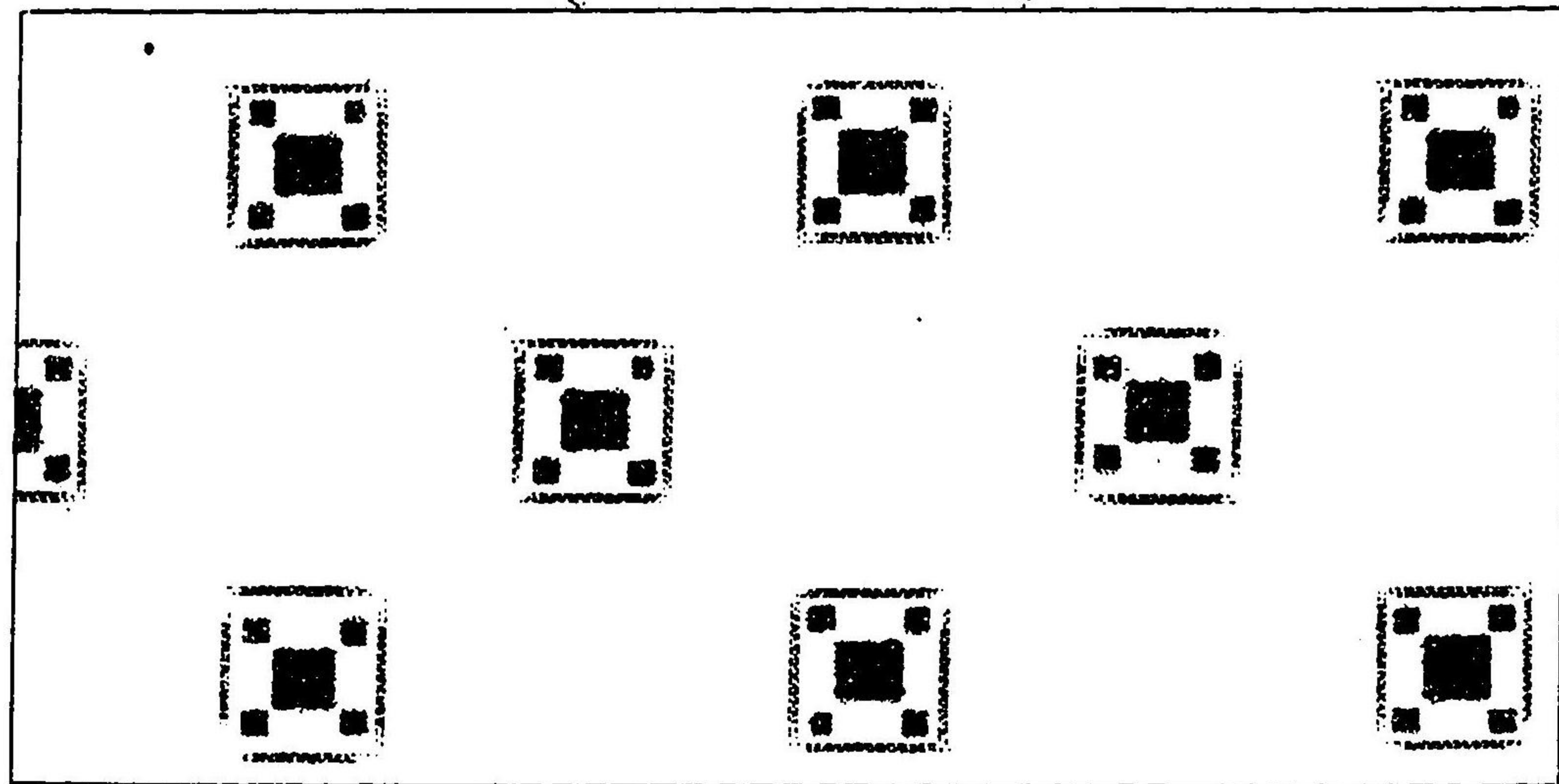
(有参牌八百二第) 一 牌五十八百五第



(有参牌百四第) 一 牌六十八百五第

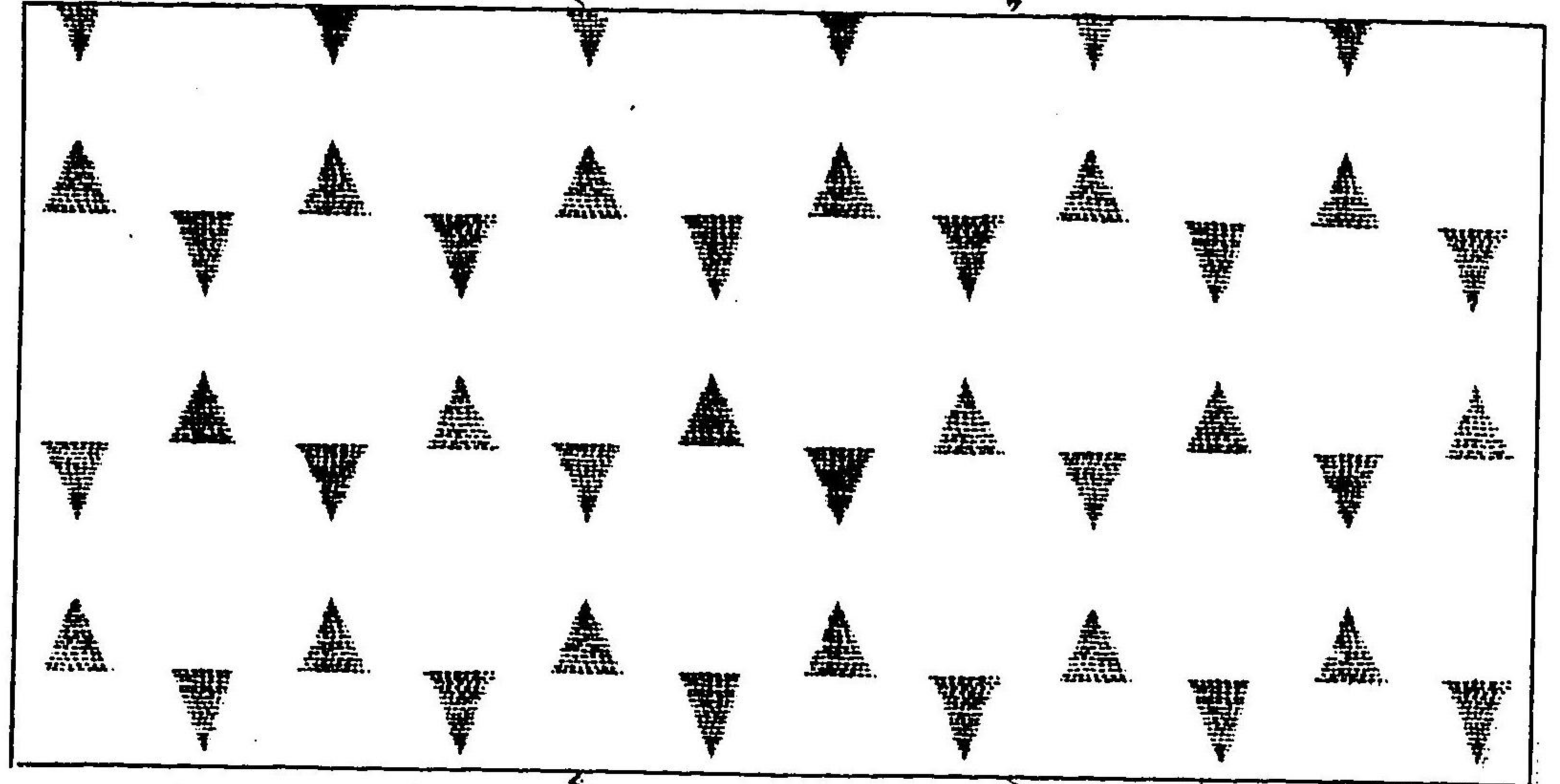


(有参牌七百二第) 一 牌七十八百五第

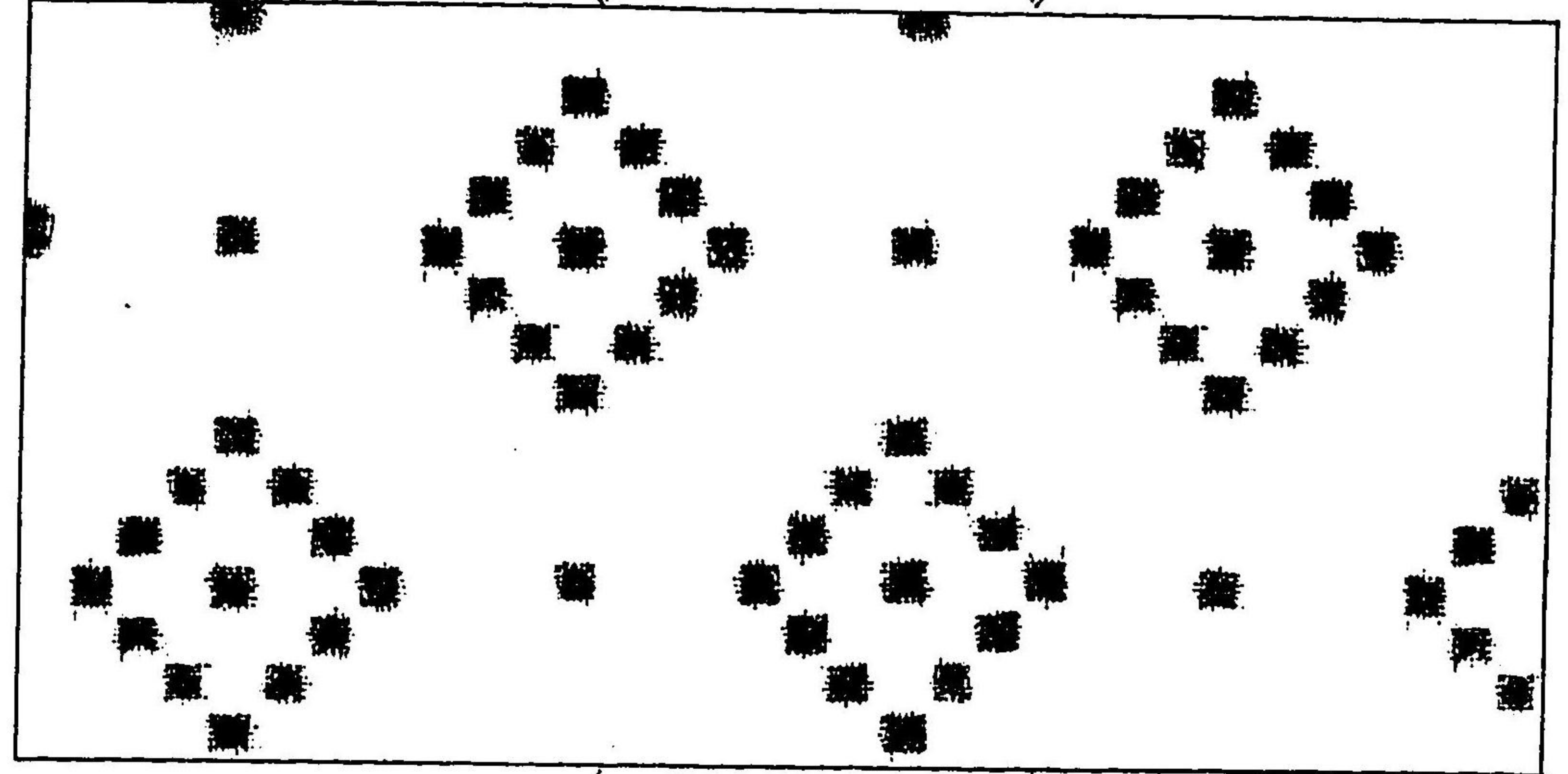


二百廿五

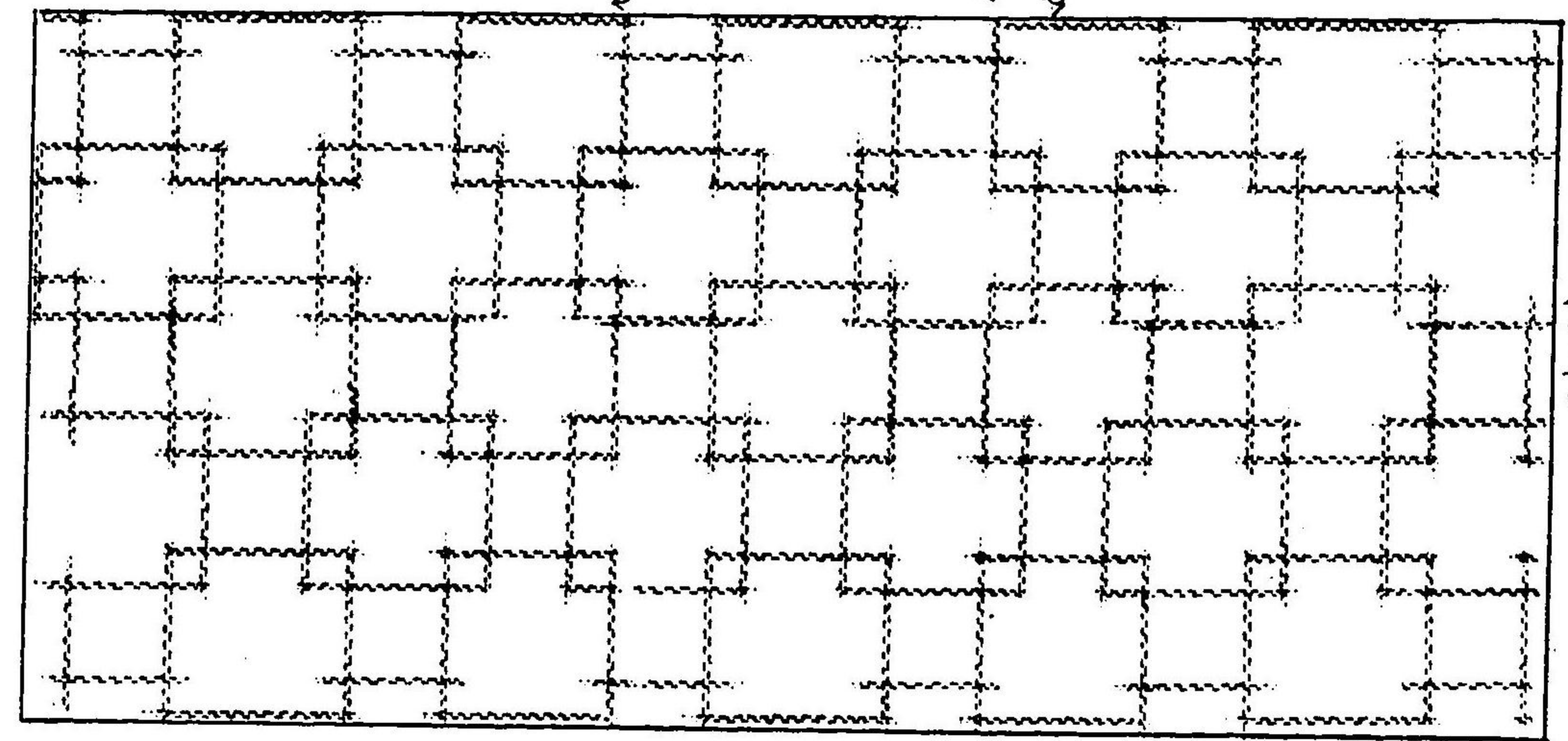
(有参牌九百二第) 一 牌二十八百五第



(有参号一十三百第) 一 牌三十八百五第

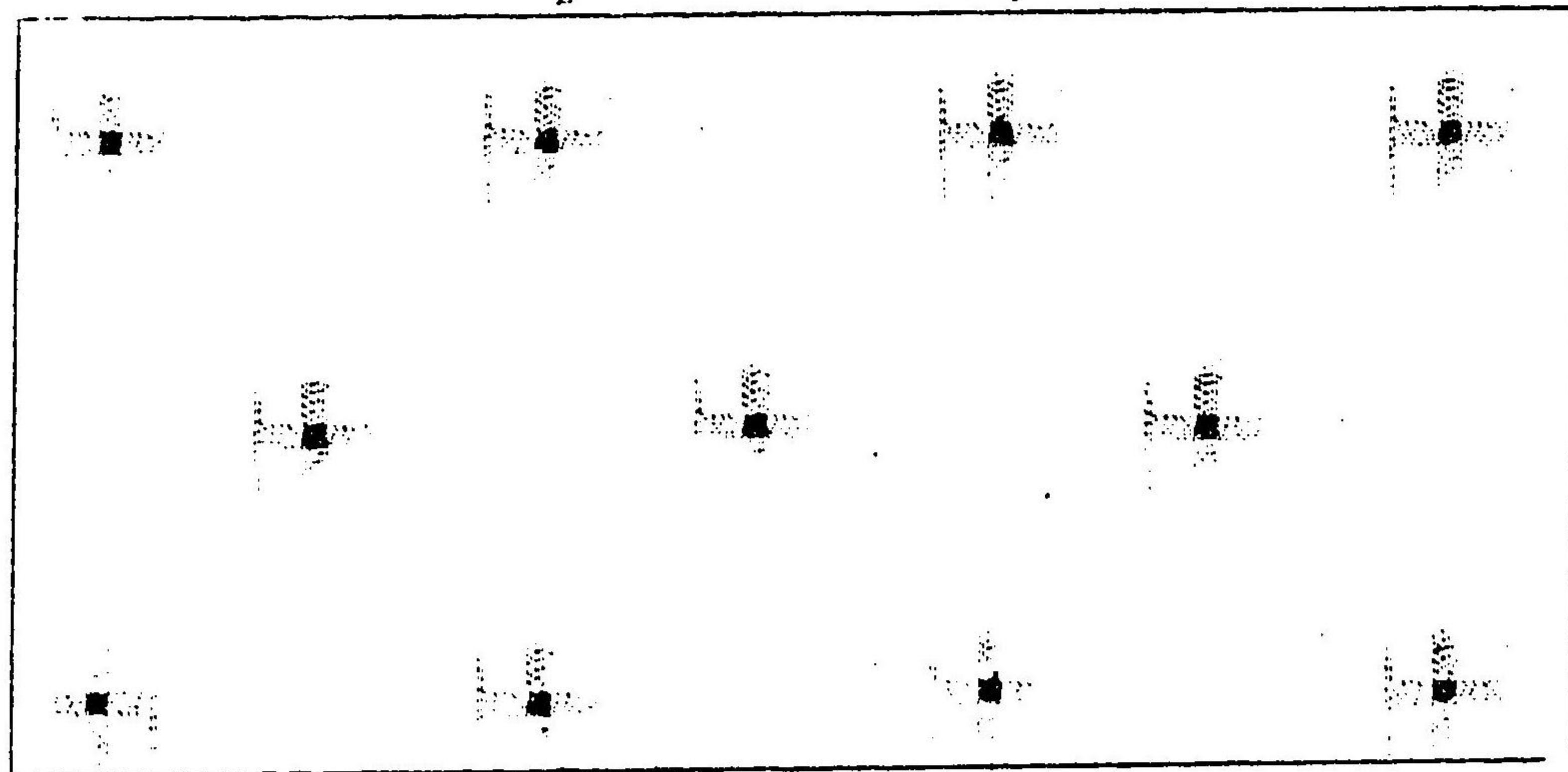


(有参号五十三百第) 一 牌四十八百五第

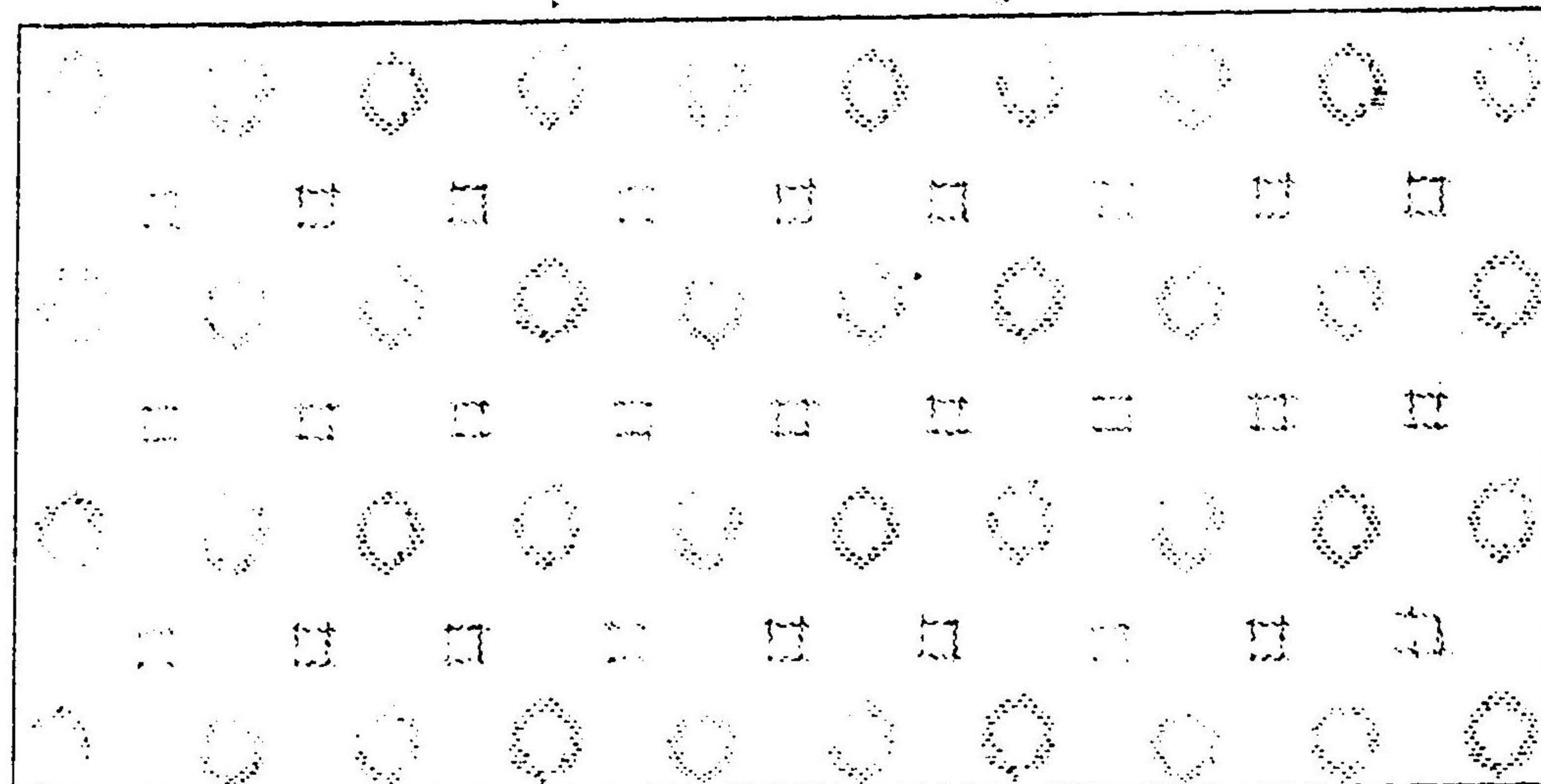


二百廿五

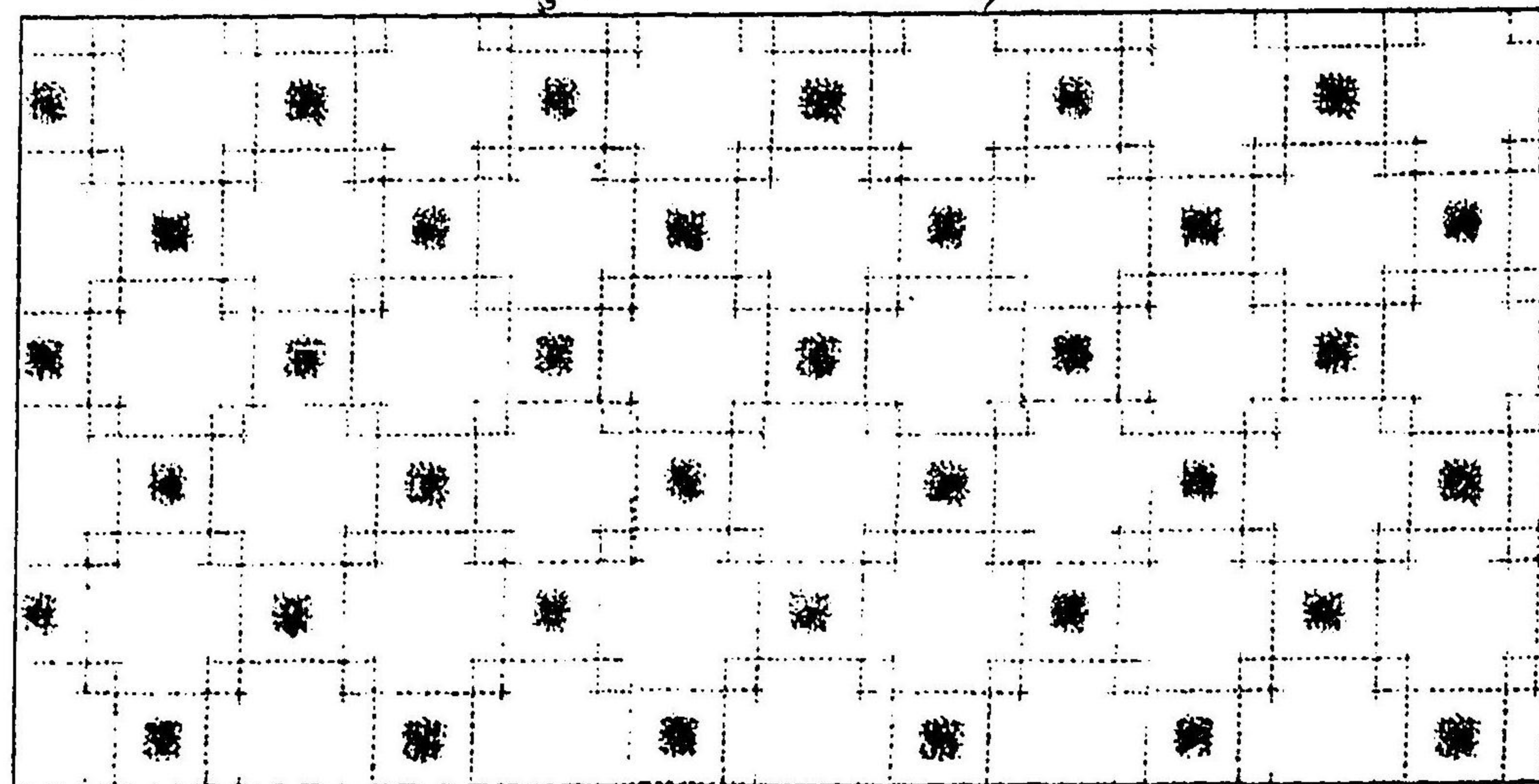
看参号九十五百四第 一十九百五第



號二十九百五第 球 琉 絳

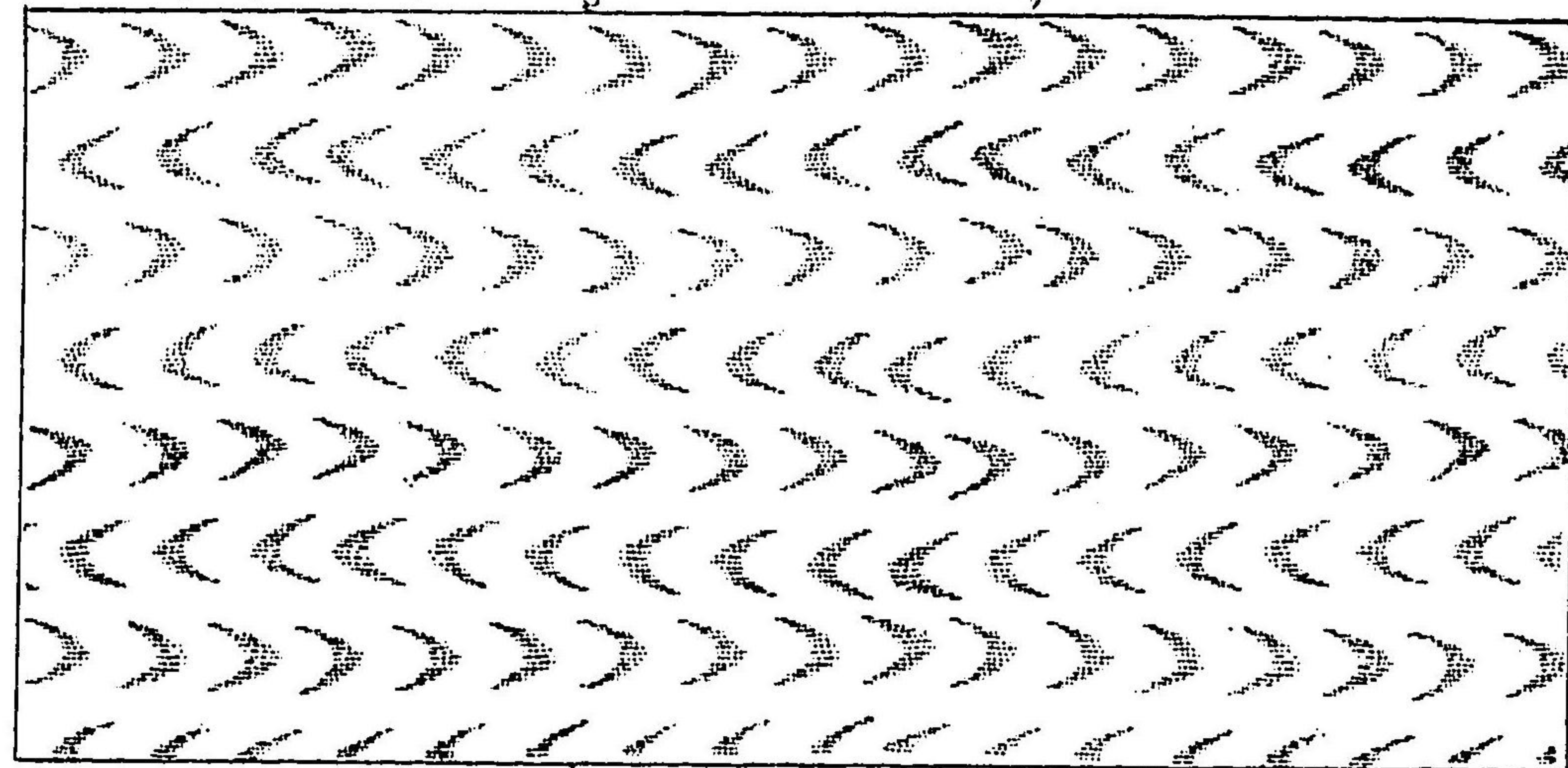


看参号五十三百五第 三十九百五第

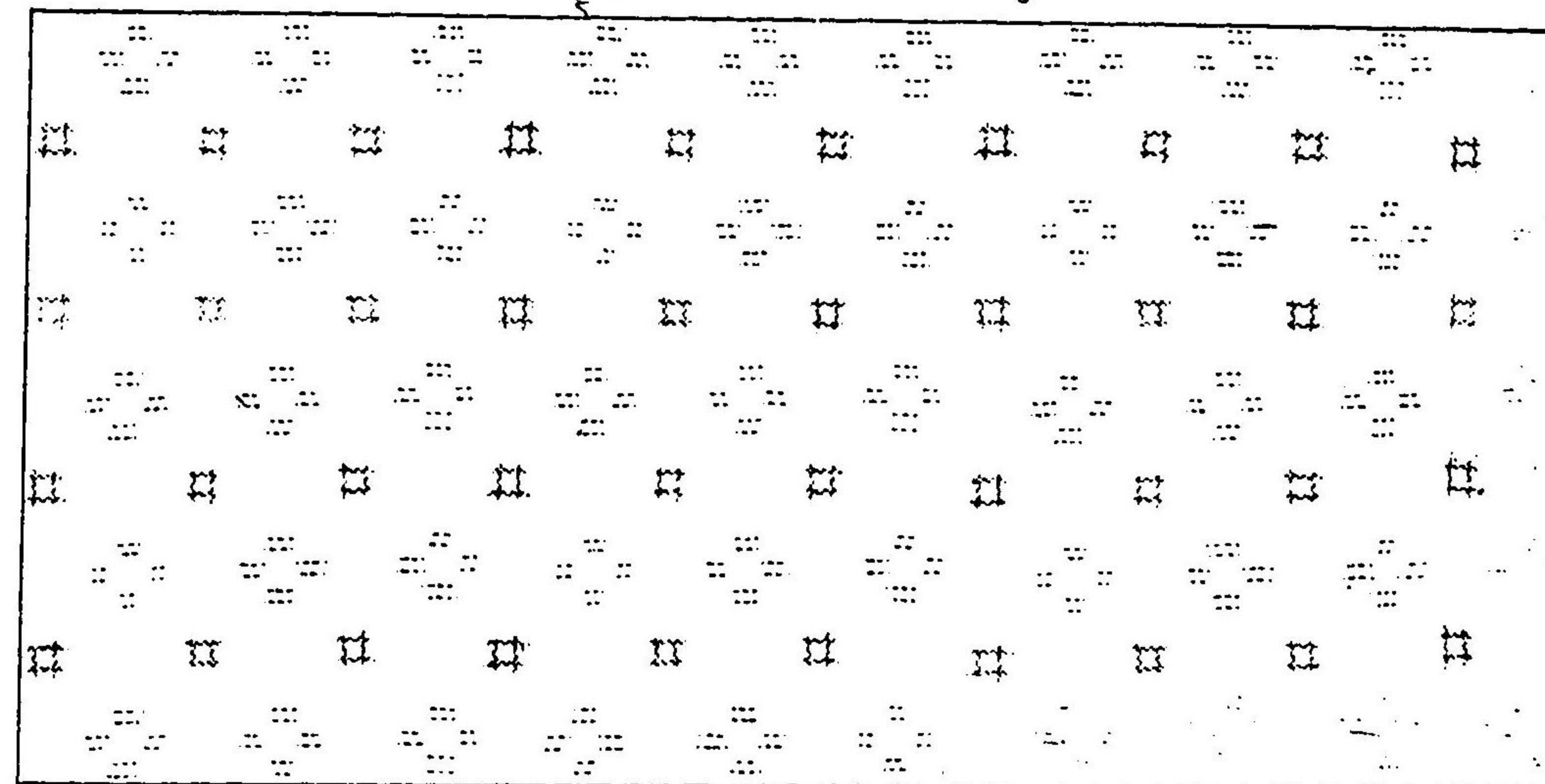


五十四百

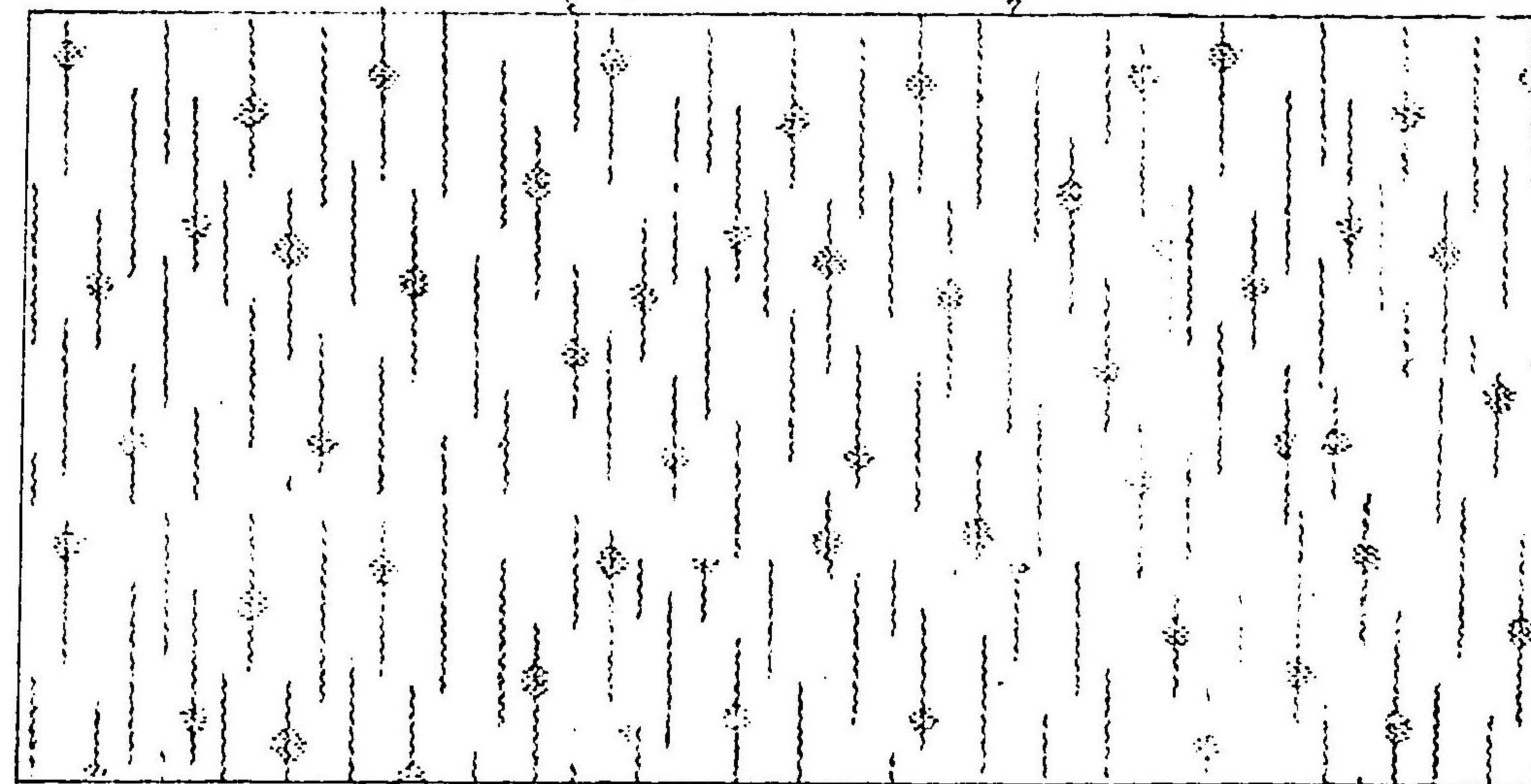
(看参号八十五第) 八十八百五第



號九十八百五第 球 琉 絳

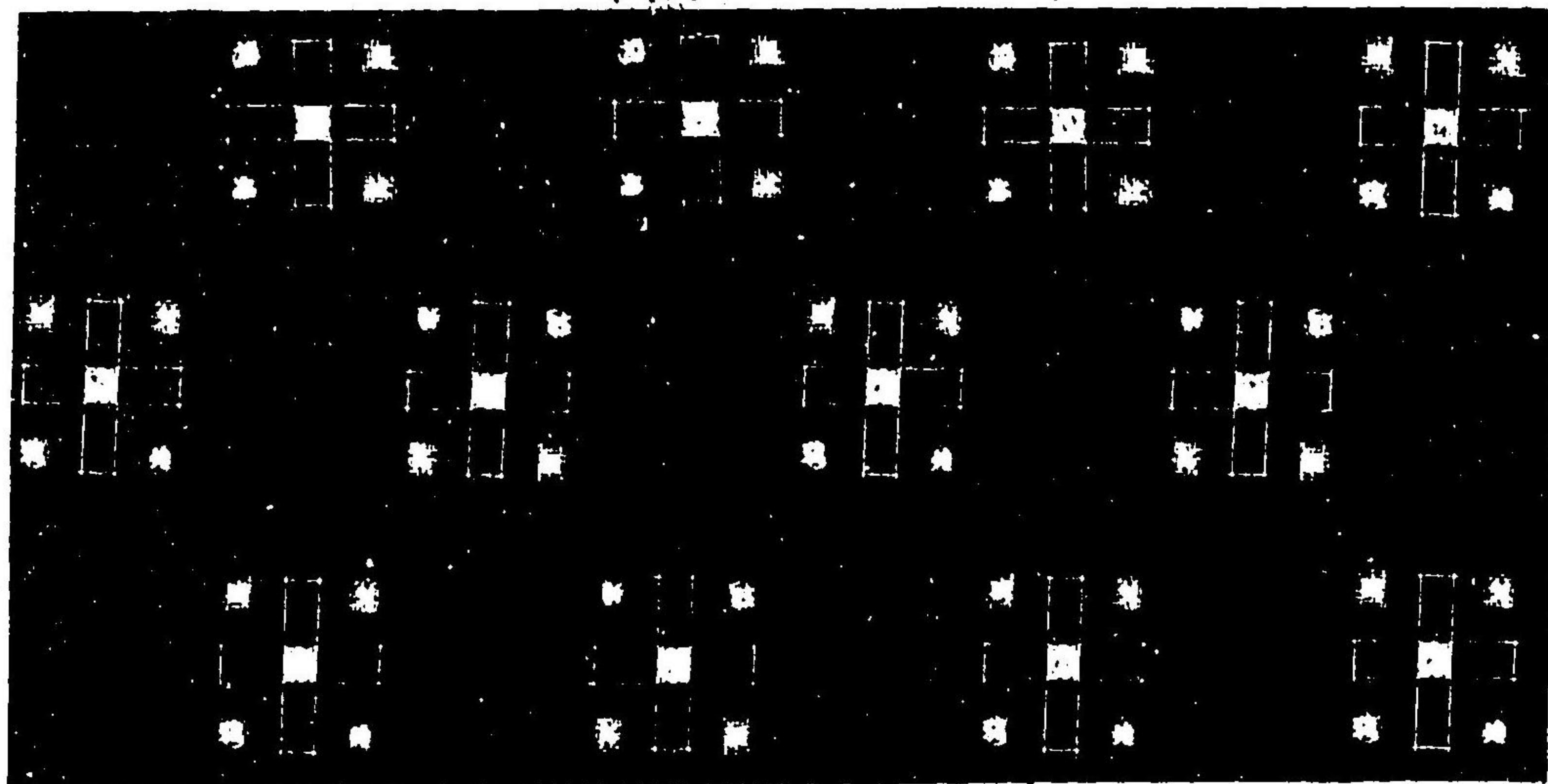


看参号九百三第 十九百五第

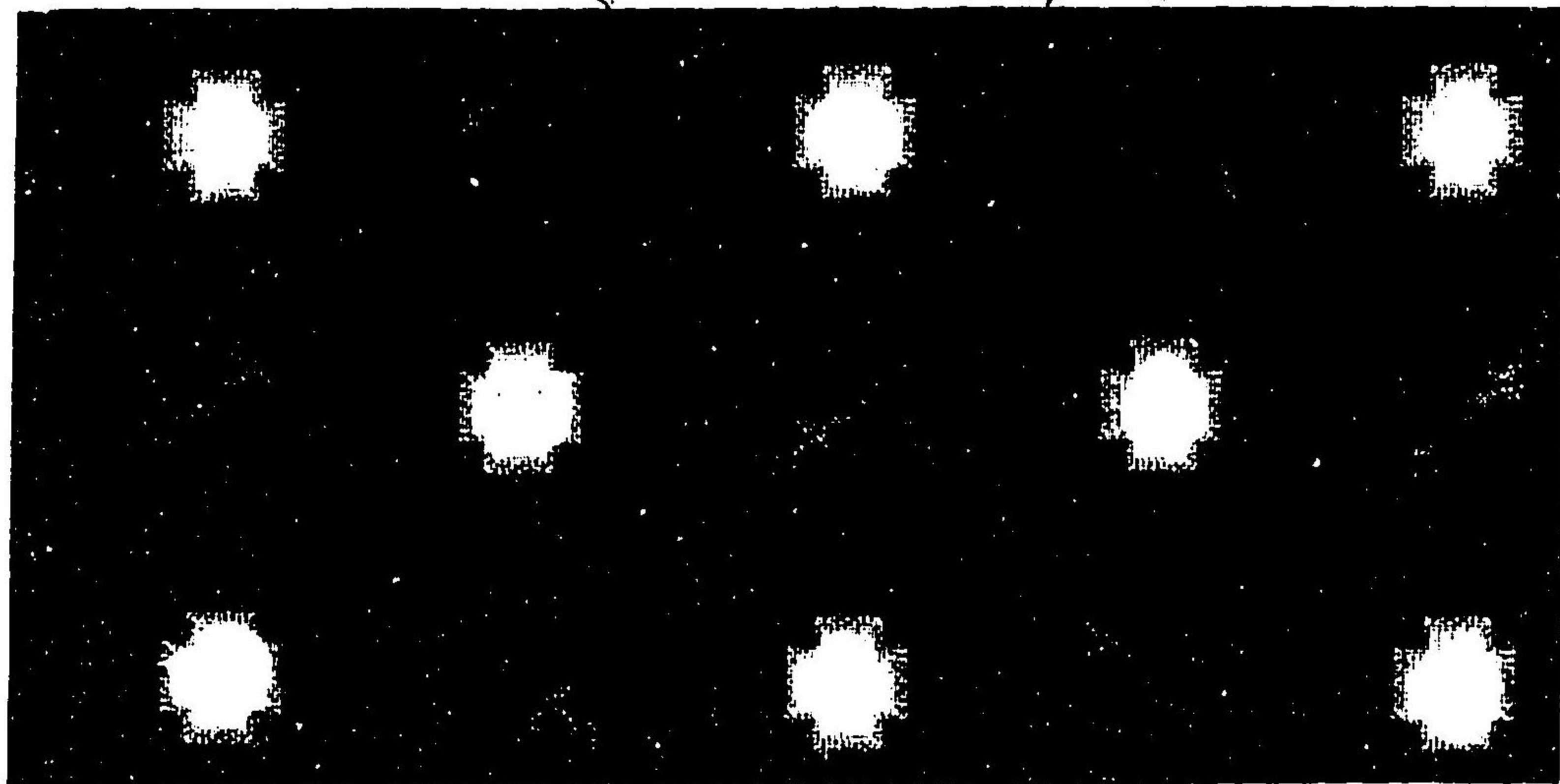


五十四百

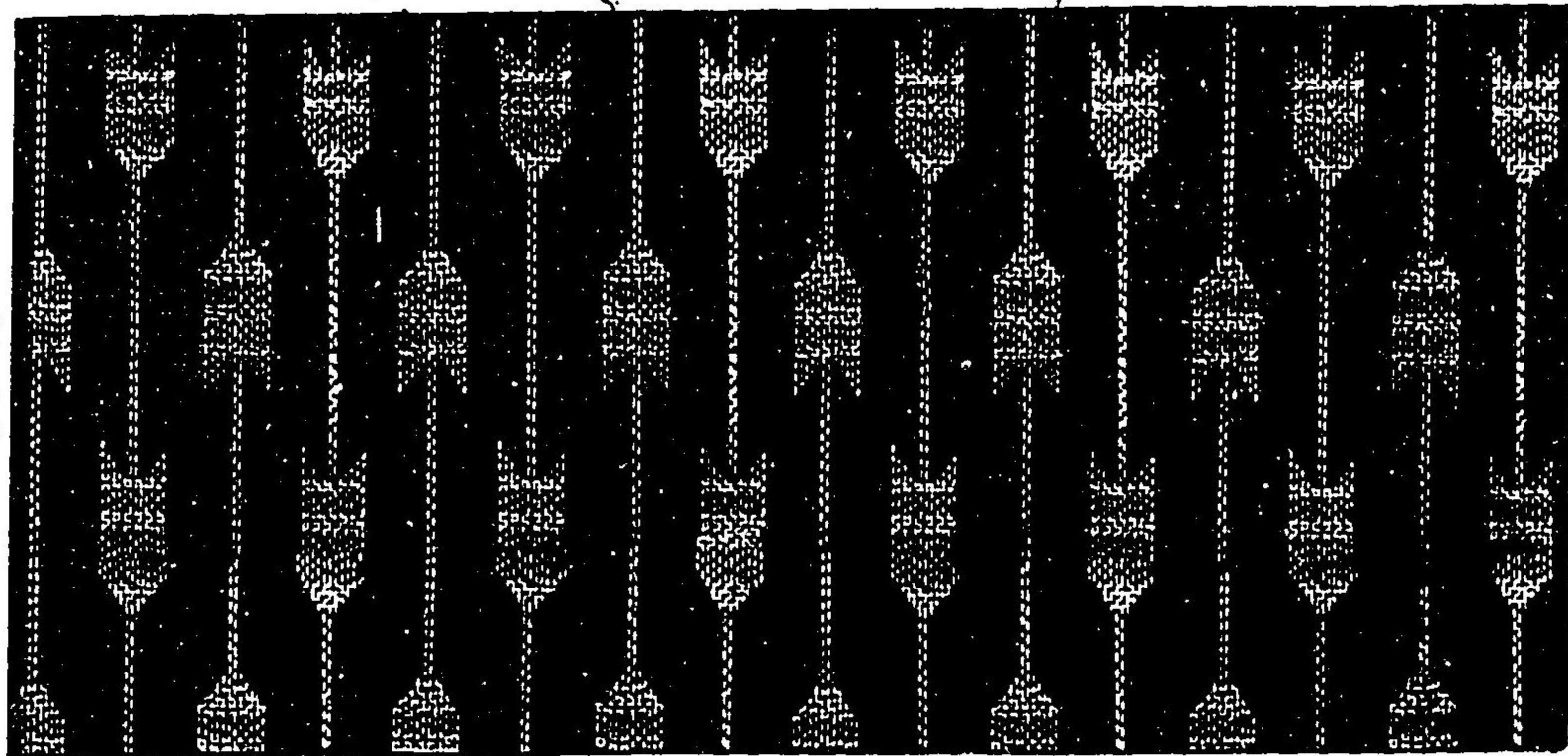
(看参号三十九百二第) 第五百九十七番



第五百九十八番 糸米留久



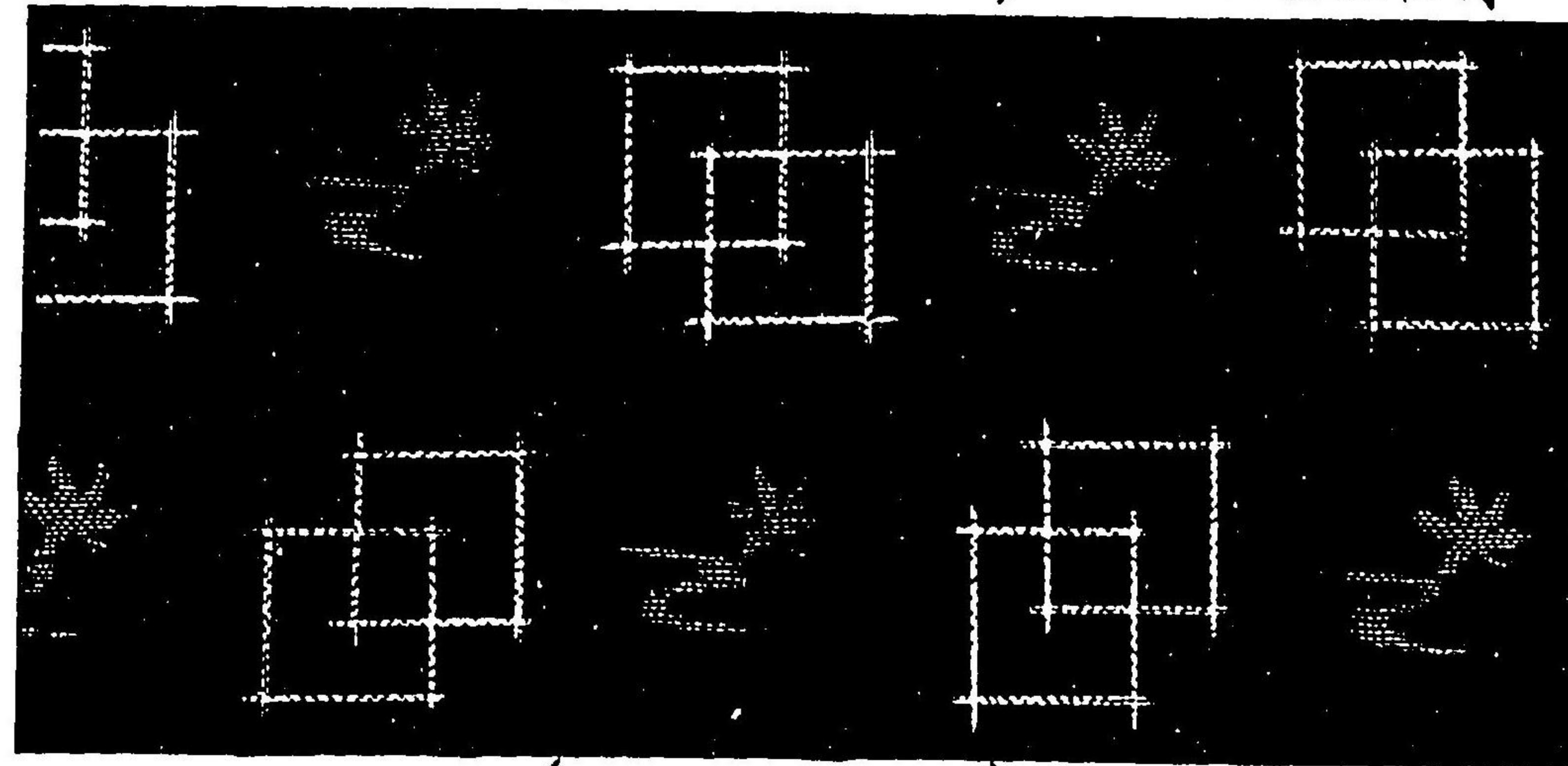
伊勢崎織(参号) 第五百九十九番 伊勢崎織(参号) 吉川之助氏



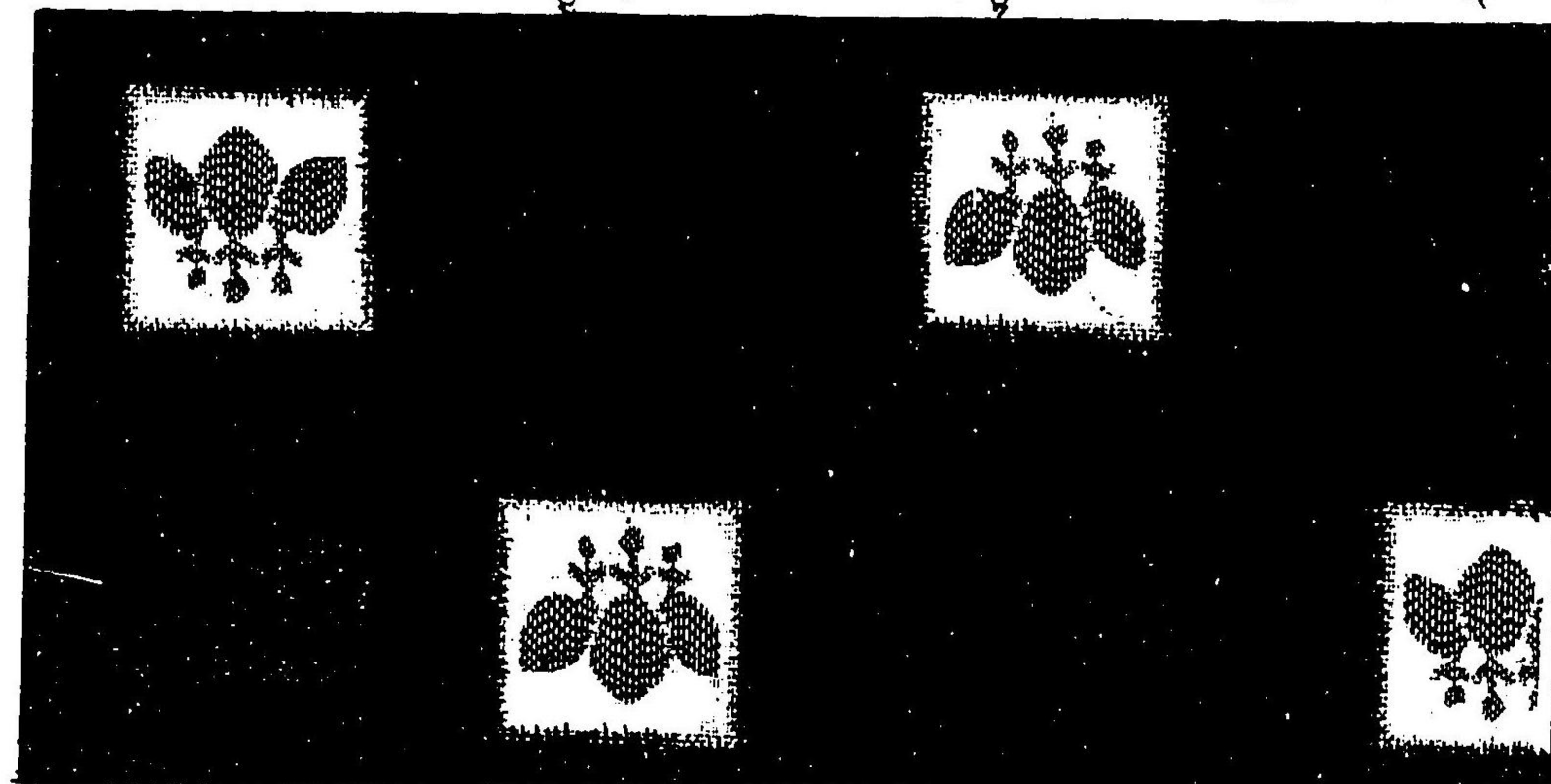
二百九

第五百九十四番

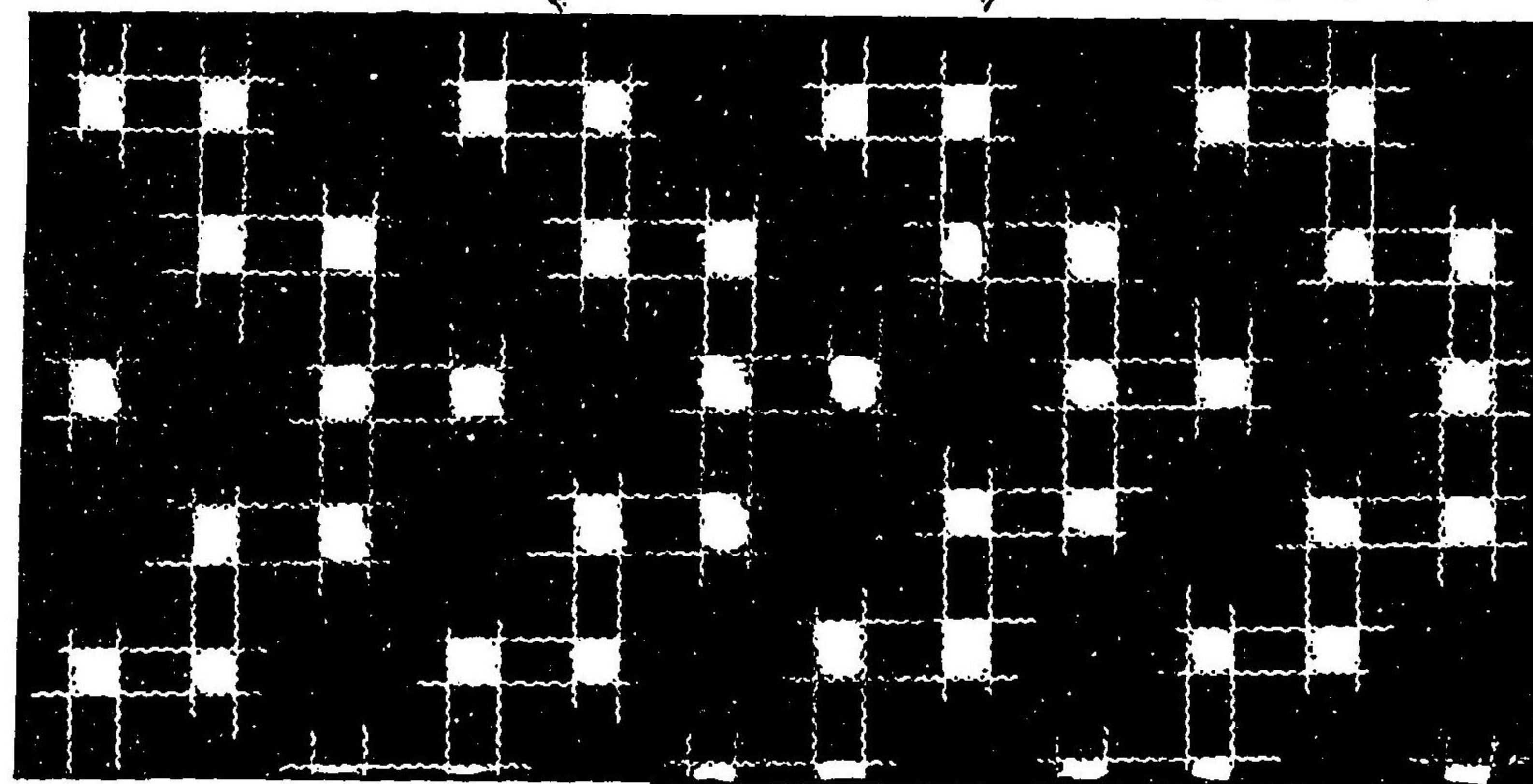
同仁社意匠



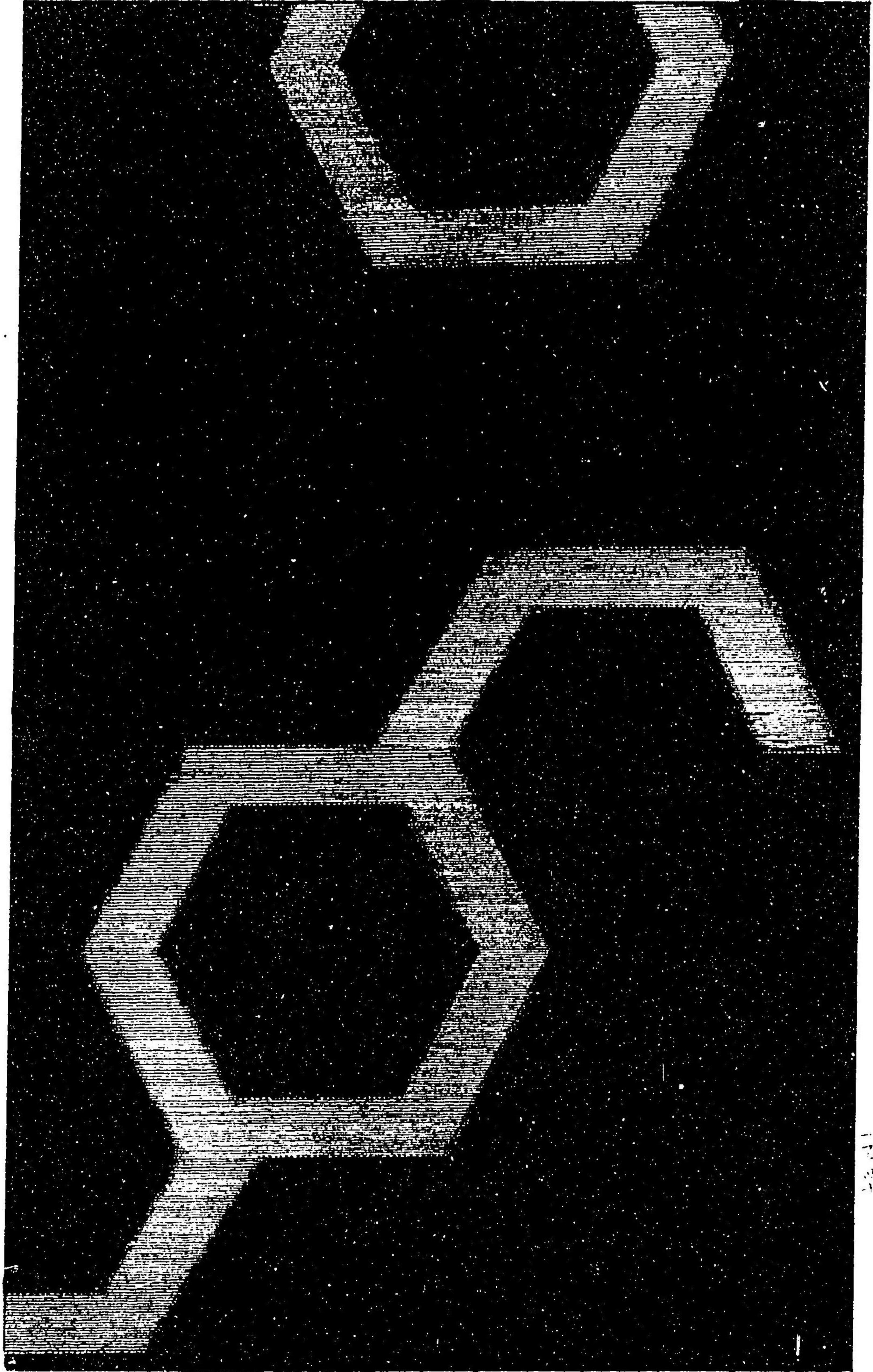
第五百九十五番 同仁社意匠



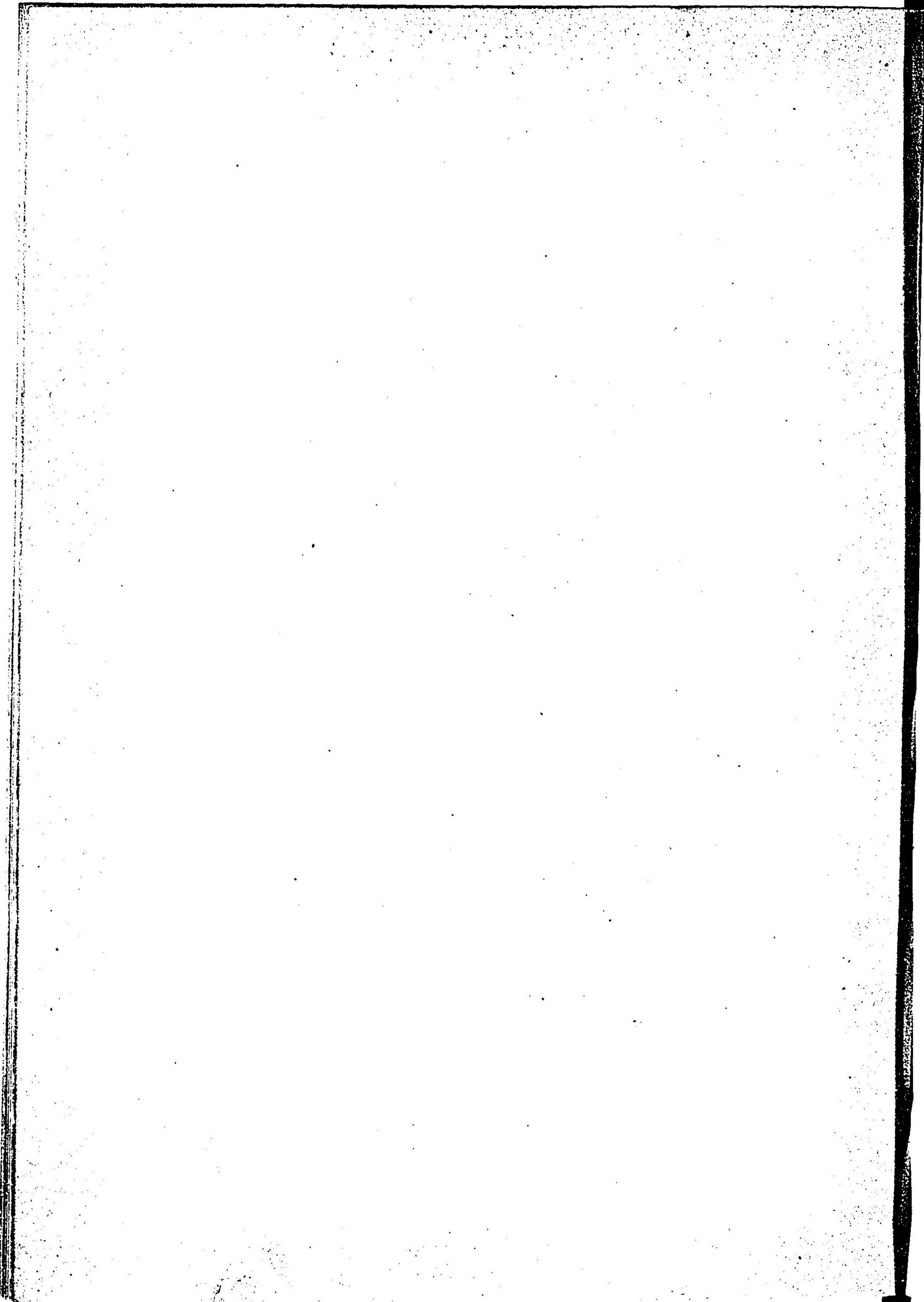
伊勢崎織 第六百九十五番



二百九



1001



絣之泉 下卷

井手馬太郎君校閱
賴本 剛編纂

第一章 総論

本邦ノ織物ハ其初メ韓土ヨリ傳來セル一種ノ技術ナル事ハ歴史ニ徴シテ略ホ明ナル所ナリト雖モ爾后ノ沿革ニ至リテハ其種類及產地ニ依リ各々之ヲ異ニセリ要スルニ其間幾多ノ獎勵者若シクハ發明者アリテ之カ事業ニ熱心シ能ク時代ノ趨勢世人ノ嗜好ニ伴ヒテ變遷運移シ漸ク其精采ヲ發揮シテ現今ノ如ク發達進歩セシメタルハ素ヨリ論テ俟タス然レバ方今其技術ノ獨リ先進國ヲ凌駕スルノミナラス歐米ノ各機業國ニ比シテ毫モ遜色ナキニ至レルハ實ニ斯界ニ於ケル獎勵家諸氏ノ賜ト謂ハサルヘカラス更ニ絣織物ニ就テ其起源ヲ尋メルニ本書ニ記載スル如ク傳説區々ニシテ其確説ヲ得ルニ由ナシト雖モ恐ラクハ琉球絣ハ其濫觴ニシテ相傳ヘ相學ヒテ以テ今日ノ如ク發達セシモノナラン而モ此種ノ織物ハ未タ世界何レノ國ニモ產出スルヲ聞カス即チ我國專有ノ技術ニシテ一種美術的ノ特質ヲ有スルヲ以テ近時大ニ社會ノ賞揚歡迎ヲ受クルト共ニ多大ノ需用ヲ來セルハ素ヨリ其所ナリ而テ其產地ハ年ヲ逐ヒテ増加

シ今ヤ殆ント全國ニ亘リ其産額實ニ一千萬圓(絹綿麻ヲ合ム)ニ達セリト云フト雖モ供給ハ未タ能ク需用ヲ充タスニ足ラサルヲ以テ各地爭フテ其産額ノ増加ヲ企圖シ居レリ蓋シ是レ一時ノ流行ヲ逐フテ然ルニアラス少クモ其審美觀念發展ノ結果ニ外ナラスト信ス其前途益々多望ナルヲ推知スルニ足ラン然レトモ本業ハ猶萌芽培養ノ期ニ屬シ隨テ其技術モ未タ幼稚ノ域ヲ脱セサルモノアルカ故ニ益々改善發達ヲ畫策シ内地需用ヲ充タスト共ニ大ニ用途ヲ考ヘ意匠ヲ凝ラシ彼ノ輸出品ニ應用シ販路ヲ海外ニ開拓セサル可ラノ然リ而シテ之カ改良發達ヲ圖ルノ方法ハ一ニシテ足ラス糸質ノ撰擇、染色ノ堅牢、組織ノ完全等ハ孰レモ論ヲ要セサル所ナリト雖モ殊ニ圖案ニ至ツテハ其關係最モ密接ニシテ其巧拙ハ適サニ嗜好ヲ左右シ需用ヲ増減スルノ楔子トナルヲ以テ其使用ト時好ニ應シテ適宜嶄新ノ意匠ヲ加フヘキハ最モ緊要ノ事トス且ツ本業カ既ニ我國重要物産トシテ多額ノ産出ヲナスニ拘ラズ其注意ノ疎漏ナル其組織ノ狭小ナル其機械器具ノ不完備ナル實ニ斯界ノ欠點ニシテ速ニ此不利益ヲ除去セサル可カラズ尙且時世ノ進運ハ民力ノ程度ヲ高メ總テノ需用増大スルニ隨ヒテ職工ノ不足ヲ告ケ工費ノ昂騰ヲ來スハ自然ノ勢トシテ免ル可ラサル所ナレハ將來益々工程ノ寡少ナル工夫ヲ要スヘキハ固ニ其所ナリ即チ完善ニシテ快敏ナル機械ノ發明創作ハ刻下ノ一大急務トスル所依テ以テ時間ト努力ヲ可成的省約シ工業經濟ノ旨ニ合フ事ヲ謀ル

等其他改善ヲ要スヘキ點枚舉ニ違アラサルモ今其重ナル事項ヲ摘記セハ大略左ノ如シ

- 一 織機及器具ハ舊慣ヲ排除シ進ンテ文明新式ニ法リ大ニ發明改良ヲナスヘキ事
- 一 緋ノ地色ヲ紺又ハ白色ニ限制セシメス一步ヲ進メテ各適當ノ配色ヲ施シ時季ニ相應セシメ或ハ四季併用ニ便ナラシメ及二色以上ノ配色ヲ用ヒ友染式ニ法ル事
- 一 經糸ヲシテ屈曲自在ノ飛白ヲ染込マシメ經緯相湊合シテ圖案ヲ完全ニ現出セシムヘキ研究發明ヲ要スル事
- 一 圖案ハ成ヘク嶄新ニシテ風致アリ趣味アルヲ要シ之ヲ内外各種ノ式ニ求メ風土氣候、流行ノ情勢等ヲ參酌シ或ハ有名ノ忠臣義士乃至巨人、名優若クハ勝地、古蹟、勳功アル軍艦名ノ類ヲ假名或ハ簡單ナル模様モテ抽出スル等充分意匠ニ留意シ社會ノ嗜好ヲ喚起スルノ工夫ヲナスヘキ事
- 一 日本産藍ト其競争品タル印度藍及、インヂゴビユアールトノ優劣ヲ根本的ニ比較研究シ其結果ニ依リ染色上將來ノ大方針ヲ定ムヘキ事
- 一 綿緋ヲシテ太絲ニノミ限ラス三十番内外或ハ五斯絲ヲ應用シ特ニ地質ノ精緻ナルモノヲ製織シ及絹織物ヲシテ盛ニ緋ヲ應用セシムヘキ事
- 一 各組合ハ常ニ海外各地ノ情況ヲ實査シ世界的眼識ヲ養成シ各適當ノ需用品ヲ撰ミ緋ヲ應用シ我カ特技ヲ世界ニ知ラシメ以テ新販路ヲ開拓スヘキ事

右ハ單ニ大體ニ就テ將來ノ希望ヲ述ヘタルモノニシテ此他詳論スヘキ點多々アリト雖モ夫等ハ第五回内國勸業博覽會審査報告ニ於テ各專門家諸士ノ論述アルヲ以テ本書ニ其要點ヲ拔抄轉載シ以テ本論ヲ補フ事トセリ覽者之ニ依テ過去及將來ヲ鑑ミ長短取捨其宜キヲ得テ本業ヲ大成セハ異日ノ發達隆盛夫レ期シテ俟ツヘク優ニ我國一大富源ヲ作りテ世界ニ雄飛スルニ難カラス斯業ノ前途モ亦有望ナルカナ

(附記) 本論ヲ草シ了ルニ臨ミ茲ニ一言讀者ノ注意ヲ促サントスルモノ有リ乃チ我機業界ニ必要缺ク可ラサル日本産藍ノ一事ナリ本品ハ古來我國特有ノ好染料トシテ賞用セラレ居ルモ其製造及用法ハ徒ニ舊慣ヲ墨守シテ更ニ進歩スル所ナク近年印度藍ノ輸入以來大ニ其需用ヲ減殺セラレ尋テ又「インダゴービユア」ノ發明アリ之ヲ使用ノ上ニ較シテ未タ日本藍ニ及ハサル點アリト雖モ其用法簡便ニシテ價格亦低廉ナルコト幾ント日本藍ノ二分一ニシテ足レル如キハ實ニ工業經濟ノ上ニ見テ一籌ヲ輸セサル可ラス宜ナル哉本品ハ日ニ月ニ其需用者増加シ逐年其輸入ヲ擴大ナラシメ今ヤ年額三百萬圓ニ達セリト云フニ至テハ日本藍ノ前途亦甚々寒心ス可ラスヤ即チ今ニ於テ大ニ學理的研究ヲ爲シ之レカ改良ヲ圖ラサレハ全然輸入品ニ壓倒セラレテ遂ニ我特有ノ織物ヲシテ其實半ハ外國産品タラシムルノ奇觀ヲ呈スルニ至ルモ亦測ル可ラス豈戒嚴セスシテ可ナランヤ

第二章 第五回内國勸業博覽會第六部審査報告拔抄

第一節 綿絳類

報告員審査官 相川規一

綿絳類ヲ出陳シタルハ三府三十四縣ニシテ福岡、愛媛ノ二縣其最多數ヲ占メ、廣島、沖繩、鹿兒島、奈良、東京、埼玉、愛知、德島等之レニ次ク而シテ出品總數ハ五千〇六十三點此人員千六百六十八人ナリ

今一般ノ出品ヲ通觀スルニ前回ニ比シテ著シキ進歩ヲ認メスト雖モ製産區域漸次擴張セラレ産額亦々年ヲ逐テ増加スルノ傾向アルノミナラス其染色上ニ機械ヲ利用スルモノアルト紺色ニ藍以外ノ染料ヲ使用スルモノアルトハ新現象ナリ即チ前回ニ於テハ其出品二十餘縣ニ止マリシモ今回ハ三府三十四縣ニ亘リ其總産額ハ一ヶ年約五百二十五萬反金額八百四十五萬圓ニ達セリ而シテ絳絲ヲ製スル從來ノ手縊法及板メ法ハ一變シテ織貫法トナリ再變シテ數多ノ特許器械ノ利用トナリ紺色ノ如キモ舊來ハ其地方ノ地藍又ハ阿州藍ヲ使用セリト雖モ近時印度藍及「インダゴービユア」ヲ混用シ或ハ全ク「アリザリン」屬ノ染料ノミ使用スルニ至レリ之レヲ要スルニ染色術ニ於テハ多少ノ進歩ヲ認ムト雖モ製織ノ方法ニ至リテハ舊來ノ地機又ハ高機ヲ用ヒ從テ適當ノ工賃ヲ要スルニモ拘ラス依然舊套ヲ墨守シ絶ヘテ之レカ改良ヲ企ツルモノナク實

二十數年來一ノ進歩ヲ見スト云フモ敢テ過言ニ非ラス蓋シ此種ノ織物ニ斬新ノ工風ヲ施スハ容易ノ業ニ非ラサルカ如クナレトモ文明ノ利器ハ如何ナル精緻ナル技術ヲ施スニモ難カラス將來當業者タルモノ宜シク此點ニ留意シ器械ヲ工風シ人力ヲ省キ以テ工費ヲ節減スルニ務メラレンコトヲ希望シテ止マサルナリ請フ主ナル府縣ニ就テ批評セシ

福岡縣 久留米紵ハ本縣ニ於ケル重要ノ物産ニシテ大ナル製産力ヲ有スル製造家尠カラス隨テ今回ノ出品ノ如キ夥多ナルモノ、一タリ前回ノ評ニ曰ク需用ノ廣キ産額ノ多キ世間ニ絶ヘテ匹儔ナシ而シテ其名聲モ又夙ニ遠近ニ籍キ海内到處本品ヲ見サルハナシト今ニ於テモ尙然リ蓋シ本品カ世人ノ嗜好ニ適スルハ染色組織二ツナカラ完全ニ價格又相當ニ即チ實用上適當ナル各種ノ要素ヲ具備セルニ據ルナランカ然レトモ之レヲ精査スルニ價格ニ於テハ伊豫紵ニ一步ヲ讓ルコトナキカ意匠ニ於テ琉球紵ニ劣ルコトナキカ技術ニ於テハ佐々紵ニ劣ルコトナキカ疑ナキ能ハス今ヤ久留米紵ハ守成ノ時期ニ際會セリ徒ラニ現況ニ甘シテ舊法ヲ墨守スルハ策ノ得タルモノニアラス當業者タルモノ此際奮發一番以テ益々改善ノ策ヲ講スヘシ又甘木紵及博多紵ハ技術ニ於テハ幾分ノ進歩ヲ認ムト雖モ優逸ナルモノナク概シテ平凡ニシテ出品者亦極メテ寡少ナルカ故ニ評スル程ノコトナシ

審査囑托向山小平次批評 久留米紵ハ原料一定シテ組織亦整然タリ染色濃薄種々アリト雖モ概シテ完全ナリ意匠斬新ニシテ風致アリ飛白モ白拔ニシテ高尙ナルハ頗ル時好ニ投シタルモノト云フヘシ蓋シ製造人及仲買人ノ熱心ナル研究ノ結果ナルヘク現時紺紵トシテ斬然頭角ヲ顯シツツアルモノハ實ニ久留米紵ナリトス只望ムラクハ價格ヲシテ一層低廉ナラシムルヲ得ハ販路モ益々擴張スヘキヲ信スルモノナリ

審査囑托國武喜次郎批評 久留米紵ハ經緯共紡絲十八手ヨリ二十手位ヲ使用シ地質堅牢ナルノミナラス紺色ノ變褪セスシテ飛白ノ鮮明ナルコトハ各府縣中優ニ第一位ヲ占ムヘキヲ認ム且ツ意匠ノ進歩大ニ見ルヘキモノアリト雖モ小柄ニ至リテハ其進歩遲延ノ觀アリ然レトモ概シテ前回ニ比スレハ其改良發達ノ著シキヲ認ム但今少シク價格ノ低廉ナランコトヲ望ムノミ

愛媛縣 伊豫紵ハ其出品甚多數ニシテ福岡縣ノ久留米紵ト共ニ出品中ノ首位ヲ占メタリ本縣ニ於テハ明治十九年伊豫織物改良組合ヲ組織シテ以來製品ハ一々検査ヲ爲シテ粗製濫造ヲ戒メ一面ニハ技師ヲ聘シテ講習會ヲ開キ以テ斬新ノ工風ヲ講スル等百方改善ノ計ヲ畫シタルノ結果近時需用月ニ増シ産額年ニ加フルニ至レリ就中小供川大柄ノ如キハ意匠巧妙價格低廉實ニ特得ノ技術ト稱スヘク蚊紵ノ如キ小柄

ニ至リテモ其技術大ニ進歩セリ只惜ムラクハ飛白ノ部分ハ淡褐色ヲ帶ヒテ純白ナラス其染色ニ多量ノ印度藍ヲ混用シ荒目ノ箆ヲ使用スルカ故ニ染色堅牢ナラス組織又タ粗糲トナリ爲メニ一二回洗濯スレハ或ハ脱色シ或ハ柔軟トナルノ傾キアリ元來緋ハ常用ノ服地ニ適スル方法ヲ講スルコト肝要ナルカ故ニ本品ノ如キ耐久ノ性ニ乏シキモノニアリテハ大ニ改良ヲ要スヘキモノナラン

審査囑託國武喜次郎批評 前回ニ比スレハ意匠ノ如キ進歩著シキモノアルヲ認ム然レトモ其紋様小柄ニ至リテハ久留米沖繩ニ及ハス且ツ染色法ニ於テ褪色ノ憂アルハ當業者ノ注意スヘキ要點ナリト信ス

審査囑託向山小平次批評 伊豫緋ハ原料組織染色意匠凡テノ點ニ於テ劣等ナリ隨テ價格モ低廉ニシテ品位相當ナルヘシ思フニ凡テノ點ニ於テ改良ヲ加ヘサレハ競争上勢ヒ販路ヲ縮少セラルヘシ同地方ノ爲メニ圖ルニ久留米緋ノ製造ニ法リ著々改良ヲ加フレハ將來益々名聲ヲ博スルコトヲ得ヘシト信ス

奈良縣 大和緋ハ元來白緋ヲ以テ名アリ今回ノ出品ヲ見ルニ輓近一層ノ進歩ニシテ其價格ノ低廉ナルニ拘ハラズ染色堅牢意匠巧妙到底他府縣ノ企テ及フ所ニアラス實ニ白緋ニ於テハ全國無比ト云フテ可ナリ然レドモ緋緋ハ製品區々ニシテ染色整理一定ナラス殊ニ染色ノ如キハ硫化屬或ハアニリン屬等ノ各種人造色素ヲ以テ下

染或ハ上染ヲ施シタルモノアリ是レ將ニ大ニ發達セントスル地方ニ於テハ免カレサルノ弊ナリト雖モ漫ニ改良ヲ唱ヘテ地方特得ノ物産ヲ區々ニ製スルハ策ノ得タルモノニ非ラス宜シク同業組合ニ於テ一定ノ方針ヲ設ケ著々之レカ改良發達ヲ促スノ必要アリト認ム又其原絲ハ細キニ失シ糊ヲ以テ堅牢ヲ粧ヒタレトモ地質薄弱ニシテ耐久ノ性ニ乏シキヲ免レス

審査囑託向山小平次批評 大和緋ハ白地ニ紺ノ緋ヲ織出シタルモノニシテ紺緋ト正反對ノ組織ナリ聞説一ケ年ノ產出高百萬反前後ナリト恐クハ全國最大ノ製產地ナルヘシ價格ハ廉ニシテ需用ニ適スルト雖モ其名稱ノ雜多ニシテ需要者ヲシテ其何レノ產物ナルカヲ知ル能ハサラシムルハ不得策ナリ而シテ緋ノ染色カ白地ニ浸潤シ居ルモノ多キハ頗ル遺憾ナリ此二點ニ就テ改良ヲ加フレハ販路モ隨テ増大ナルヘキヲ信ス

審査囑託國武喜次郎批評 奈良縣產紺緋ハ價格低廉ナルノ外別ニ賞賛スヘキ點ヲ認メス然レトモ白緋ニ至リテハ大ニ進歩發達ノ狀アリ是レ價格ノ低廉ナルハ各府縣ノ遠ク及ハサル所ニシテ本品ノ特色タルヘシ白緋ト紺緋トヲ問ハス仕上方法ハ各機業家區々ニ分レ殆ント一定セサルハ外觀上頗ル遺憾トスル所ナリ當業者ノ一考ヲ望ム

沖繩縣 本縣ノ琉球紵ハ其染料トシテ山藍ヲ使用スルカ故ニ他ノ模擬スヘカサル美妙ノ色相ト香氣トチ有シ地質ハ洒瀟トシテ流汗ニ濡フモ皮膚ニ密接スルコトナク甚タ着心地宜シク柄合ハ高尙ニシテ雅致ヲ存シ隨テ上流社會ニ歡迎セラル、ハ蓋シ本産ノ特長ナリ然レトモ之レヲ精査スルニ大體ニ於テハ前回ニ比シ著シキ進歩ヲ認メス只小紵ノ緻密ニシテ精巧ナル點ニ於テハ一般ノ進歩ヲ來タシ各縣ノ首位ヲ占ムルハ事實ナリト雖トモ近時柄合競争ノ結果經緯ニ絲ノ織度ニ不同アルト機拵ヘ不完全ナル爲メ經不整ヲ生セルト織立後ニ着色糊ヲ塗抹シ飛白ノ部鮮明ヲ缺クトハ實ニ本品ノ缺點トス是レ當業家ノ宜シク反省ヲ要スヘキ所ナリ

審査囑託國武喜次郎批評 琉球紵ハ意匠織立共之レヲ前回ニ比スレハ其進歩遅々タルノミナラス大中柄意匠ノ如キハ久留米及松山ニ及ハサルコト遠シ只小柄ノ緻密ニシテ精巧ナルノ點ニ至リテハ各縣ノ上位ヲ占ム是レ價格ノ不廉ナルニ拘ハラズ猶能ク名聲ヲ持續スル所以ナルヘシ其經緯ノ絲質同シカラサルト織立後着色糊塗セルハ一見美ナリト雖トモ洗滌スルニ當リ褪色スルヲ免カレサルナリ將來着色糊塗ノ廢止ヲ望ム

審査囑託向山小平次批評 琉球紵ハ原料ニ瓦斯絲ヲ用ヒタルモノト片絲ヲ混用シタルモノトアリ組織整然意匠卓拔ニシテ紺紵トシテ恐ク此右ニ出ルモノアラサルヘシ眞ニ琉球紵ノ名聲ニ耻ナサルモノト云フヘシ然レトモ價格不廉ニシテ所謂平民的ノ需要ニ適セス徒ラニ標本的ノ物品トシテ名聲ヲ博シツ、アルモノナリ故ニ今後大ニ價格ヲ低廉ナラシムルト飛白ヲ眞白ナラシムルヲ得ハ前途益々多望ナルヘシ

鹿兒島縣 本縣ノ薩摩紵ハ主トシテ授産場ニ於テ製織スルモノニシテ近時稍々面目ヲ改メ組織柄樣ハ前回ニ比シ幾分進歩ノ蹟アリト雖トモ其染色不完全ニシテ脱落シ易ク且ツ飛白ノ部鮮明ナラサルハ遺憾トスル處ナリ

審査囑託國武喜次郎批評 薩摩紵ノ製作方法ハ沖繩縣ト同一ナルヲ以テ品質相似タルノミナラス意匠又類セリ今回ノ出品ヲ前回ニ比較スレハ毫モ進歩ノ狀ヲ認メス本品ノ缺點トスル所ハ沖繩ト同シ

審査囑託向山小平次批評 薩摩紵ハ整理ノ技術ニ依リ品位ヲ保テツ、アルモノナリ故ニ一度洗滌ヲ加フレハ品質及縞柄ニ變化ヲ來シ甚タ不完全ナルモノト變スルノ憂アリ現今需用ノ減少セルモ之レカ原因ナルヘシ而シテ往々染色ノ不完全ナルモノヲ認ムルトノ評アリ故ニ原料タル綿絲及染色ニ改良ヲ加ヘ組織ヲ整然ナラシメ意匠ニ就テハ成ルヘク斬新ノ工風ヲ施シ飛白ノ染抜キモ亦眞白トナリ無整理ニテ販賣スルコト、セハ或ハ名聲ヲ挽回スルニ難カサルヘシ

埼玉縣 本縣ノ所澤紬ハ東京府ノ村山紬ト舊同一ノ來歴ヲ有シ今回ノ出品ニ徵スルモ其品質上兩者ノ間ニ大ナル差異ヲ認メス兩者共ニ前回ニ比スレハ染色意匠ノ如キハ多少進歩シタルノ形蹟アリ且ツ價格低廉ニ製品一定シ産額又少カラサルハ頗ル嘉スヘシト雖モ其組織ニ於テハ容易ニ首肯シ能ハサルモノアリ即チ經絲ハ片葉ナルカ故ニ飛白ノ部分鮮明ナラス其組織綿密ナラス爲メニ一二回ノ洗濯ニ遇ヘハ忽チ柔軟トナルノ缺點アリ將來此點ニ付テ改良ヲ加ヘナハ前途益々好望ナラン乎

審査囑託向山小平次批評 所澤紬ハ一名一本紬トモ稱シ其組織ハ他ノ普通織物ニ比シ緯絲半數ニシテ綜統二枚ニテ織成シ久留米紬ト伯仲ノ間ニアリ産額多大ニシテ本縣重要ノ物産ナリ然レトモ其多クハ原料粗悪ニシテ組織整然タラス染料ハ玉藍ヲ用フルト雖モ染法モ亦タ不完全タルノ評ヲ免レス意匠ハ輓近四五年以來大ニ進歩シタルカ如キモ未タ幼稚ノ域ヲ脱セス飛白ノ如キモ亦潤白ニシテ甚タ野鄙ナルモノ多ク只價格ノ低廉ナルニ依リ下層社會ノ需用ニ適スルノミ久留米紬ニ比シ一步ヲ輪セサルヲ得サルハ頗ル遺憾トスル所ナリ思フニ本品モ一

大改良ヲ加ヘサレハ遠カラズ販路ヲ縮少セラレルノ憂アルヘク之レカ改良ノ要素ハ原料タル絲質ヲ精選シ經緯ニ應シテ組織ヲ密ニシ染色ヲ堅牢ナラシメ益々斬新ナル意匠ヲ施スニアリ而シテ近時社會ノ趨勢ハ華美高尙ナルモノヲ尊ヒツ

、アルカ故ニ是亦久留米紬ノ如ク飛白ハ凡テ眞白トシ風韻ニ富ミ價格ノ如キモ成ルヘク低廉ニ製造スルヲ得ハ大ニ他ノ物産ト競争スルヲ得ヘシ

愛知縣 本縣出品中佐々紬ハ近時大ニ面目ヲ改メ染色組織意匠ノ三者共ニ殆ント完全ノ域ニ達シ殊ニ十字小紬ノ如キハ飛白ノ部分經緯共ニ二筋ヲ用ヒタルカ故ニ純白ノ權衡ヲ得テ頗ル鮮明ナリ熊澤謙太郎ノ出品亦佐々紬ニ比肩スヘキ程ノ優品ナリキ又近年ノ發明ニ係ル月影紬ハ經絲ノミニ捺染ヲ施シ力織機ニテモ製織シ得ヘキモノニシテ隨テ其價格非常ニ低廉ナルカ故ニ普通品トシテ至ツテ無難ナリ此種發明ニシテ將來大ニ發達セハ或ハ舊式ノ紬ニ一大變動ヲ與フルヤ亦知ルヘカラス其他中島郡葉栗郡ノ出品ニ至リテハ前回ニ比シ寧ロ劣レルノ觀アルハ甚タ遺憾トスル所ナリ

島根縣 本縣ノ廣瀨紬ハ染色意匠兩ナカラ大ニ進歩シタルヲ見ル殊ニ繪紬ノ如キハ其技術ノ精巧實ニ賞スヘク小紬ニ於テモ亦近時發達セリ然レトモ小供柄ノ如キハ原絲細キニ失シ且ツ丈巾ノ一定セサルヲ缺點トス將來若シ此等缺點ニ就キ意ヲ用ヒテ改良ヲ謀ラハ尙ホ一層ノ進歩ヲ見ルニ至ラン乎

審査囑託國武喜次郎批評 廣瀨紬ハ精巧ナル技術一點ノ非難ナシ大柄中意匠ノ見ルヘキモノアリト雖モ概シテ原絲細キニ過キ幼兒ノ實用品トシテ聊カ軟弱ノ

憂ナキニ非ラス當業者ノ一考ヲ要ス

審査囑托向山小平次批評 廣瀨緋ハ原料組織ノ點ニ於テハ相當ナルヘシト雖モ飛白ノ判然タラサルハ遺憾ナリ此點ニ改良ヲ加フレハ一層品位ヲ高尙ナラシメ嗜好ニ投スルヲ得ヘシ

群馬縣 本縣ノ中野緋ハ依然トシテ舊態ヲ存シ毫モ改良進步ノ蹟アルヲ見ス元來本縣ハ絹織物ヲ以テ重要ノ物産トナシ緋ノ如キハ重キヲ置カサルノ狀況ナルヨリ此結果ヲ來シタルニ外ナラサレトモ若シ今日ノ如クニシテ改良ヲ加ワルコト無クンハ將來數年ヲ出スシテ衰頽スルヤモ亦知ルヘカラス殊ニ刻下ノ急務トシテ改良ヲ要スル點ハ組織及意匠ニアリトス

廣島縣 本縣ノ綿緋ハ近時産額大ニ増加シ隨テ今回ノ出品モ亦尠カラスト雖モ内海緋株式會社製ヲ除キテハ概シテ著シキ進步ナク柄樣俗ニシテ染色白氣ヲ帶フルノ缺點ヲ認ム獨リ内海緋ハ染色著實ニシテ組織適用兩ナカラ間然スル處ナシ同縣ニ於テ將來若シ模範ヲ此ニ採リ品質ヲ一定セハ異日ノ隆盛期シテ待ツヘキナリ

熊本縣 本縣ノ木綿緋ハ同縣力織株式會社ニ於テ明治十一年ノ頃大和ヨリ三十六名ノ職工ヲ雇入レ斯業ヲ起シタルニ創マリ爾後漸次縣内ニ傳播シ明治二十七八年ノ頃ニ至リ稍々好望ノ域ニ達セシモ同三十年以後一旦經濟界ノ紊亂ニ伴ヒ多少ノ衰

運ニ向ヒシモ目下漸次回復ノ傾向アリ斯ノ如ク同縣ノ緋ハ尙ホ創製ノ時代ニ屬シ産額多カラスト雖モ今回ノ出品中組織意匠共ニ稍々佳良ニシテ染色又著實ナルモノ尠カラス只惜ム實用的普通品トシテ稍々高價ニ過クルトノ評アルコトヲ

審査囑托國武喜次郎批評 肥後緋ハ品質久留米廣島ニ類似シ是レニ糊引ヲ加ヘタルモノナリト雖モ琉球鹿兒島ノ如ク糊中ニ藍汁ヲ混入セサルカ故ニ緋ノ鮮明ヲ失ハス之レヲ各縣ノ出品ニ比スレハ別段ノ長所ヲ有セサルト同時ニ又別段ノ短所ナキカ如シ

山口、鳥取、徳島ノ木綿ハ染色柄樣等稍々佳良ナルモノナキニアラサレトモ別ニ特長アルヲ認メス普通品トシテ能ク其品格ヲ保ツアルノミ就中徳島縣ノ緋ハ近年ノ創始ニシテ日尙ホ淺キニモ拘ハラズ今回ノ出品多數ニシテ比較的優品尠カラズ元來同縣ハ藍ノ本場ナルノ故ヲ以テ斯ク急速ノ進步ヲ來シタルモノナレトモ亦當業者ノ措置宜シキヲ得タルニ由ラスンハアラス此勢ヲ以テ今後益々意ヲ凝ラシ熱心ニ從事シタラシニハ先進地方ヲ凌クコト蓋シ難キニアラサルヘシ

審査囑托向山小平次批評 徳島縣ノ綿緋ハ久留米緋ヲ模倣シテ製造セルモノナルヘク而シテ染色ノ濃厚ナルハ蓋シ藍ノ産地ニシテ染料ノ廉ナルニ依ルヘシ本品ノ創業ハ日尙ホ淺ク産額僅少ニシテ從テ組織意匠ノ點ニ於テモ未ダ幼稚ナル

ノ評ヲ免レスト雖モ價格相當ニシテ販賣ニ適ス若シ原料ヲ精選シ柄合ノ意匠ニ就キ講究スル所アラハ前途益々有望ナルヘク或ハ他縣物産ノ販路ヲ侵略シ得ヘシ蓋シ同縣ハ從來藍ノ生産地ニシテ全國ニ其販路ヲ開キツ、アリシカ輓近織物トシテ輸出スルノ得策ナルヲ認メ地方廳ニ於テ獎勵シツ、アリト云フ誠ニ地方經濟上嘉スヘキコトナリ

審査補助中野直朗意見抄 木綿紵ハ美術的觀念ヲ以テ製造シ意匠製作周到ニシテ社會ノ嗜好ヲ喚起スルノ工風ナカルヘカラス紵織現時ノ大體ニ就テ注意ノ必要トスヘキハ紺地ニ白色鮮明ナル飛白アルヲ貴シトスルモノナルニ近來各地製織スル所ノ製織ハ概シテ純白ナラス藍ノ鈍染アルヲ見ルハ遺憾トスル所ニシテ大ニ改良ヲ要スル點ナラント信ス然レトモ只精巧ヲ專ラトシテ工費ヲ嵩ミ價格ヲ高直ナラシムルハ不可ナリ故ニ現時工費ノ節略ヲ主トシ舊來ノ手絞紵ヲ廢シ織緯紵板ノ染紵ヲ用ユルノミナラス技術熟練ナラスシテ洋藍ヲ使用シ手數ヲ省キ工程ヲ誤ルヨリ鈍染ヲ來スコト、ナレリ然トモ今ヤ從來ノ手絞紵ヲ專用センカ職工用途ノ多々ナル今日ニ於テ獨リ綿織物界ニ安價ヲ以テ使用シ得ヘカラサル當然ナリ勢機械的方法ニ據ラサル可ラス又染料ニ在テモ然リトス固有内地藍如何ニ堅牢ニシテ鈍染ナシトスルモ舊慣ニ據ルトキハ又價ニ關係スルノミナラ

ス職工ノ使用多大ナルカ故ニ是等ノ迂遠ヲ演スヘキノ時ニアラサルヘシ然ラハ粗製ニ安スヘキカ然ラス其需用者如何ヲ顧慮スヘキモノニシテ決シテ一時ノ美ヲ好ムヘキニアラス木綿紵織ハ多ク中流以下ノ常用着ナラサルナシ果シテ然ラハ平常ニ洗濯ニ堪ヘ見榮ヲ失ハサラシムルノ方法ニ據ラサルヘカラス然ルニ現時ノ機械的織貫紵板ノ紵等鈍染ヲ恐ル、カ故ニ地絲纖維ニ藍ノ能ク染著ク能ハサラシメ其工程困難ナルヨリ手數ヲ省略シテ上塗りニ止メシムニ至リ實ニ染方ノ不完全ニシテ紵ノ名目ニ背クニ至ル因テ完全ナル染方機械ノ發明ヲ見ル迄ハ目下ノ狀況ニ鑑ミ工費ヲ省キ簡易ニシテ稍々改良品ヲラシムルニ満足セサルヘカラス即チ左ノ事項ヲ實行センコトヲ要ス

- 一、 紵目ヲ純白ナラシメ紵絲紺地部分ヲ堅牢ナラシムル爲メ織緯紵經絲及絞緒ニ防染糊料ヲ使用シ以テ鈍染ヲ防クコト
- 二、 紵板ヲ金屬ニ換ヘ目缺ナク柄模様ヲ完全ナラシムルコト
- 三、 原絲經緯ニ大差ナキモノヲ製造シ洗濯后伸縮スルノ憂ヒナカラシムルコト
- 四、 紵絲ト紵織スル地染色ヲシテ洗濯ヲナスモ色澤ノ差違ヲ生セサラシムルコトヲ勉ムルコト
- 五、 紵織ニ仕上ヲナスコトハ洗濯ノ後地質ヲ變スルノ憂ヒアレハ之レヲ廢止ス

ヘシ殊ニ米粉糊ノ使用ヲ廢止セサレハ白脱ケノ憂ヒアルヲ以テ之レヲ改良スヘキコト

審査囑托瀬川喜七意見抄

一、染色研究ノ事

木綿緋ハ重ニ夏期ノ需用ヲ最多ナリトス故ニ特ニ染色ニ注意シ幾度洗濯スルモ變褪色ノ憂ヒナカラシムコトヲ期セサルヘカラス近來印度藍ノ需用ハ日一日ヨリ急ニシテ各産出地ハ殆ント洋藍ヲ使用セサルナシ内地藍洋藍ノ割建各地ニ行ハル、カ故ニ此割建混合ノ歩合ヲ正準ナラシメ且ツ染上ノ工程ヲ確守セシムルコト最モ必要ナリ此實施ノ方法ハ各地事情差異アリト雖モ其産出地ノ工業試験場又ハ同業組合等ニ於テ充分取締ヲ勵行スルコトヲ期セシムルカ爲メ主務省ニ於テ省令ヲ發シ各地一樣ノ取締ヲナサシメ以テ此染色ノ變褪ヲ防止スルコトニ努メサルヘカラス

二、柄模様ノ意匠ヲ進歩セシメ且ツ色地緋製織ヲ獎勵スルコト

緋織柄模様ノ適否ハ實ニ其織物ニ對スル品格ニ非常ノ關係アルハ言ヲ俟タサルモノニシテ眞ニ緋織ハ織物中ニ於テ美術的ナルカ故ニ其柄模様ノ配合亦美術的ナラサルヘカラス而シテ各地緋織ノ柄模様ヲ通觀スルニ概シテ進歩斬新

ノモノニ乏シク斯業發達上ノ缺點ナリトス故ニ各地ニ於テ意匠圖案ヲ獎勵シ或ハ懸賞シ或ハ競進會ヲ開キ圖案意匠入開發ヲ獎勵スルヲ急務トス又緋織ハ舊來ヨリ重ニ紺地白緋白紺緋ニ限ラレタルヤノ觀アリ今ヤ氣運改進ノ時ニ當リ色地染ノ製織ヲ獎勵スル亦大ニ可ナルモノアルヲ信ス例セハ大柄緋ハ草色地ニ牡丹色地ニ白緋ヲ織出シ又小柄緋ハ草色地ニ鐵色地等ニ白緋ヲ織出ス等斯種ノ色地緋ハ將來大ニ時好ニ適シ世上ニ歡迎セラレ、モノナランカ而シテ之レカ染色上大ニ注意戒心シテ頗ル堅牢ノ染料ヲ用ヒサレハ必スヤ失敗ニ終ラン色地緋ノ製出ヲ必要トスルトキハ染色上ノ取締ニ付キ大ニ調査研究ノ上發表スルヲ可トス

三、丈巾改良ノ事

木綿緋ハ普通常衣又ハ蒲團等ニ用ユルモノ多數ニシテ度々ノ洗濯ニ遭遇シテ丈巾ノ短縮ヲ來シ間々需用ニ缺クルモノアリ依テ一般ノ丈巾ノ有尺ヲ廣長スルノ要アリ

審査補助三澤庄太郎意見抄

一、機織ノ業ハ一般ニ前數回ニ比シ著シキ進歩ヲ見ル其技術圖案共ニ改良進歩ノ狀歴歴タリ尙將來ニ於テモ益々改良ヲ加ヘ進歩發達ヲ期スヘキナリ

一、機織ノ進歩ニ似ス依然タル狀況タルハ染色ナリ愛媛縣奈良縣ノ如キ其産額ニ於テモ經歷ニ於テモ決シテ他ニ讓ルヘキニアサルニ其地絲ト紵糸トノ間ニ著シキ染ムラ見ユルハ遺憾ノ極ト云フヘシ其他沖繩縣ノ如キ德島縣ノ如キ共ニ改良ヲ要スヘキ點尠カラスト信ス

三、一般ニ紵ハ裝飾ヨリモ寧ロ實用ノモノナレハ價格低廉ニシテ地質堅牢ナルモノナルヘク此範圍内ニ於テ大ニ意匠圖案ヲ改良シテ美ヲ保ツヘキナリ然ルニ今回ノ出品ハ外觀ノ美麗ナルモノハ價不廉ニ價ノ廉ナルモノハ品質粗惡ナルモノ多キ觀アリ殊ニ東京ノ經絲一本入りノ如キハ實用ニハ稍々適シ難キモノナラムカ

四、凡ヘテ何ノ事業ヲ問ハス時勢ニ伴ハサルヘカラサルハ理ノ明ナル所ニシテ然ラサルモノハ早晚衰亡スヘキモノナレハ染織事業ノ如キ注意シテ時勢ニ後レサラシコトナ期スヘキナリ近年種々ノ器械事業著シキ進歩ヲナシ之レニヨリテ多クノ勞ヲ省キ工費ヲ低メ多大ノ利益ヲ得ルニ拘ハラス染織事業ノ割合ニ之レカ應用少キハ遺憾ナリ將來斯業者カ特ニ此點ニ注意セラレシコトヲ望ム

審査囑托向山小平次意見抄 近時木綿織物及ヒ絹綿交織物製造ノ業著シク發達

シ全國ヲ通シテ其産額無慮數千萬圓ヲ以テ算スルニ至レリ然ルニ戰後經濟界ノ變調ト共ニ物價次第ニ騰貴シ加フルニ三十五年度ニ於ケル農作物減收ノ結果民力疲弊シテ購買力減殺セラレ供給ハ需用ニ超過シ其權衡ヲ失ヒ價格愈下落シテ生産費ヲ償フニ足ラス製造者ハ益々困難ニ陥リ往々破産者ヲ出スノ悲運ニ沈淪セリ是レ或ハ一時經濟界ノ膨脹ニ眩惑セラレ過大ノ經營ヲナシタルノ結果此不況ニ遭遇シ倒産セルモノアルヘシト雖モ而モ其多クハ前者ノ原因ニ外ナラサルナリ若シ夫レ本年度ニ於ケル農作物ノ收穫幸ニ好結果ヲ告クルアラシカ多少ノ需用ヲ喚起シ價格ノ回復ヲ見ルコトナキニ非ルヘシト雖モ今ヤ織物製造ノ業ハ全國各府縣ニ散在シ至ル所斯業ノ發達ニ努メ逐年産額ヲ増加シツ、アルカ故ニ製造者ハ其價格ヲ維持スル能ハサルノミナラス寧ロ競争ノ弊ニ堪ヘザラントス事杞憂ニ似タリト雖モ斯業者ノ常ニ寒心スル處ナリ然ラハ之ヲ救済スルノ途如何他ナシ海外ニ向テ販路ヲ求ムルニアリ即チ支那四億ノ人口ヲ有スル一大寶庫ヲ開カシムルニアリ然リト雖モ事固ヨリ至難ノ業ニ屬シ個人獨力ノ能ク堪フヘキニアラス今全國生産地ニ於ケル製造者ヲ通觀スルニ資力微ニ規模小ニシテ之ヲ個人ニ求ムルモ到底企及スル所ニアラス況ンヤ其成功ヲヤ願フニ支那ニ向テ綿絲ノ輸出セラル、モノ頗ル巨額ニシテ紡績業者ノ據テ以テ好需要地トスル所

レリ其他ノ府縣ノ出品ニ就テハ特ニ稱揚スヘキモノヲ認メス

滋賀縣 本縣ノ出品ハ所謂近江麻布ト稱シ多クハ亞麻紡績絲ヲ用ヒタル普通品ニシテ敢テ品質及技術ノ卓越シタルモノヲ認ムルコト能ハサルモ需用ノ廣クシテ實用的ナル點ニ於テ此右ニ出ツルモノナシ元來手續ノ原料ヲ使用シタルモノハ一種ノ趣味アルト洗濯ニ對シ毛羽立チ易カラサル等ノ優點アルモ紡績綿絲カ手續絲ヲ壓倒シタル如ク絲質均齊供給ノ豊富價ノ低廉ナル等ノ諸點ニ於テ將來機械紡績絲ノ需用年ヲ追テ増加スヘキハ疑フヘカラサル事實ニシテ本縣當業者カ早ク之ヲ看破シ先鞭ヲ著ケタルハ賞賛スヘキ事ナリトス審査補助堤常太郎ノ語ル所ニヨレハ現今近江麻布ニ使用スル所ノ原料絲中大略其二分ノ一ハ外國産ノ亞麻紡績絲ニシテ四分ノ一ハ北海道製麻株式會社、近江麻絲紡績株式會社、大阪麻絲株式會社、下野製麻株式會社等ノ紡績絲ヲ使用シ其他ハ手續麻絲ナリト是素ヨリ概數ヲ示スニ過キスト雖モ以テ機械紡績絲ヲ使用スルコトノ比較的甚タ多キヲ知ルヘシ本縣ノ上布類中縞物ハ多クハ大名萬筋等ニシテ色相及柄合ノ變化極メテ少ナシ是レ獨リ本縣ニ止マラス他府縣ノ出品モ亦大同小異タルヲ免レス畢竟夏衣ニ使用スルモノナレハ從來ノ習慣上染色ノ一二少數ニ限ラレタルニ基因スヘシト雖モ而カモ線ノ配置ニ工夫ヲ凝ラシメラシニハ新奇ナル柄合ヲ造リ出スノ餘地ナキニアラサルヘク更ニ

原絲ノ細太染色ノ撰擇等ニ向テ一層ノ注意ヲ加ヘナハ大ニ改良發達ヲ見ルニ至ラン

緋類ハ柄合ノ變化多クシテ中ニハ赤色緋等ヲ施シタルアリ他府縣ノ出品ニ比シ模様ノ種類ニ富メルハ賞賛スルニ足ル然レトモ雅致ノ點ニ於テ沖繩縣ニ及ハス技術精巧ニ於テハ新潟縣ニ一步ヲ讓ラサルヲ得ス

白着尺類ハ細別シテ晒及生平ノ二種トス本縣ノ晒麻布ハ其漂白法宜シキヲ得タルモノ多ク之ヲ奈良晒ト比較スルニ其原因同シカラサルカ故ニ趣味大ニ異ナルト雖モ漂白ノ點ニ於テハ兩者相伯仲シ他府縣ノ出品ニ比シ嶄然頭角ヲ露ハセリ本縣當業者ハ去ル明治三十三年ニ於テ近江全國ヲ一地區トナシ近江麻布同業組合ヲ組織シ組合定款トシテ十七章百五十七條ノ事項ヲ規定シ斯業ノ改良發達ヲ企圖シ現ニ其效果ヲ收メツ、アルハ大ニ賞揚スヘキナリ今其條項ノ要點ヲ舉クレハ左ノ如シ

一 組合組織 本組合ハ麻布營業ニ從事スル左ノ同業者ヲ以テ組織ス

製造業、買賣業、綬業、染業、晒業、仕立業、小賣業、内機業、賃機業、

二 本組合ハ製造品ノ改良ヲ務メ營業上ノ弊害ヲ矯正シ販路ノ擴張ヲ圖ルヲ以テ目的トシ丈、巾、絲質等ノ制限ヲ規定ス

- 三 染色及晒白規定
- 四 證紙貼用規定
- 五 賞與規定
- 六 違約規定
- 七 賃織規定
- 八 検査規定
- 九 職工規定

沖繩縣 本縣産出ノ紺類ニ二様アリ紺地紺及ヒ白地紺是ナリ前者ハ主トシテ宮古郡ニ産シ後者ハ八重山郡ニ産ス其出品共ニ多ク縞類亦少數ノ出品アリ全體ヲ通シテ柄合組織共ニ新機軸ヲ出シタルモノナシト雖モ本縣上布ノ特質トシテ容易ニ柔軟トナラス大ニ彈力ニ富ミ縷ヲ生スルコト少ク亦其紺色染ノ如キハ特産ノ山藍ニテ染色シタ帶黑濃紺色ノ雅味ヲ有スルモノニシテ他ノ企及シ能ハサル所アリ然レトモ其價格甚タ貴ク唯僅カニ一部ノ需用ニ供スルニ過キスシテ寧ロ一種ノ名物タルヲ免カレス殊ニ織布ノ表面ニ光澤ヲ發揮セシメンカ爲メ一種ノ仕上ヲ施シタルモノ、如キハ其方法不完全ニシテ全面ニ線條ヲ顯ハシ品位ヲ墜シタルノ嫌アリ白地紺ハ漂白セサル原絲ヲ用ヒテ製織シタルモノナレハ其地質ハ勿論純白ニアラス

シテ白茶色ヲ呈シ紺ノ部分焦茶色ニ染メラレタルモノニシテ是亦一種ノ趣味アリ而シテ紺地紺ニ比スレハ價格亦大ニ低廉ナリ白地紺ト言ヒ紺地紺ト言ヒ本縣ノ上布ニ向テ最モ注意ヲ要ス可キハ工費ノ減省ヲ計ルコト是レナリ
白上布ハ僅ニ三點ノ出品アルノミニシテ其眞價ヲ知ルヘカラサレトモ出品ニ就キテ評スレハ漂白不良ニシテ暗色ヲ帶フ是レ單ニ從來ノ方法ヲ固守シ時勢ノ進歩ニ推移セサルニ依ルナラン

芭蕉布 本品ヲ出陳シタルハ沖繩鹿兒島ノ二縣トス沖繩ハ出品點數百七十六桐板布數點ヲ合算ス人員百五十九ニシテ茶紺紺ノ二様アリ茶紺ハ舊ニ依リテ其染色堅ク紺紺ハ意匠漸ク發達シタルコトヲ認ム紡織ノ技一層進歩シ價格低廉能ク需用ニ適スルヲ見ル從來本品ハ尺幅不同ノ弊甚シカリシモ今回ハ大ニ此點ニ留意シタルモノ、如シ然レトモ甲乙比較シ來ルトキハ未タ多少ノ逕庭アルヲ免レス尙一層ノ注意ヲ望マサルヲ得ス鹿兒島縣ノ出品ハ總テ大島郡ノ産ニ係リ出品點數僅ニ二十其品質沖繩産ニ下ルコト數等特ニ批評スヘキ價值ヲ認メス

奈良縣 本縣出品ノ縞類ハ組織精緻ナラス柄合亦巧妙ナラス他ノ四縣ニ比シ確カニ遜色アルヲ認ム唯僅ニ二三ノ比較的良好品アルヲ見タリ亦本縣ニ於テハ紺類ノ産出ナシトス

奈良晒布ハ古來著名ノ特産ニシテ其漂白ノ純潔ナル實ニ一種ノ妙味アリ晒布トシテハ滋賀縣産ト相竝ンテ他ニ誇ルニ足ルヘシ然レトモ組織ニ至テハ特ニ卓越シタル所アルヲ認メス

新潟縣 越後上布ノ出品中緋物ニハ紺地緋ト白地緋トノ二種アリ其出品點略ホ相半ハシ縞物ハ二十餘點ニ過キス本縣上布ノ原料ハ主トシテ山形地方ノ苧麻ヲ手續シタルモノニシテ組織染色等概シテ佳良ナリ特ニ細微ナル緋ヲ精密ニ製織シタルノ技術ハ他ノ府縣ノ容易ニ企及シ能ハサル所ニシテ此點ニ於テハ沖繩上布ト雖モ一步ヲ讓ラサルヲ得ス

白上布ノ出品ハ其點數甚ク少シ一二良品ナキニアラスト雖モ漂白ノ度ニ於テ尙ホ足ラサル所アルヲ認ム

石川縣 本縣出品ノ能登縮ハ鹿島羽咋ノ兩郡ニ産出シ數點ノ縮ヲ除クノ外ハ縞及緋縮ナリ能登縮ハ既ニ前記數縣ノ下ニ記シタル所ト同シク特ニ嶄新ノモノトテハナシ緋ハ稍々柄合ノ變化ニ富ミ組織ハ越後上布ニ似タル所アリ然レトモ其染色ハ多少摩擦ニ弱キモノアルヲ見タリ前回ノ評ニ曰ク紺緋ノ色澤ヲ増サンカ爲メニ多量ノ藍蠟ヲ施スカ如キハ實ニ默過スヘカラサルノ缺點ト謂フヘシ而シテ今回ノ出品中藍蠟ヲ施シタルモノ少キハ當業者カ忠言ヲ容レタルノ結果ナルヘシ

上布類ニ關スル審査補助高坂惣七ノ審査報告ヲ左ニ掲ケテ參考ニ資ス

縞及緋着尺物

沖繩縣 品質善良織製巧ニシテ柄合嗜好ニ適シ其紺性ノ純良ナルハ蓋シ本縣ノ特有ニシテ他府縣ノ之レニ比較スヘキモノナシ唯其價格高價ニシテ廣ク需用ニ適合セサルハ缺點ナリ

新潟縣 原料ニ山形縣産出ノモノヲ採用スルカ故ニ品質精良織製原絲ニ太手ヲ用ユルハ本縣ノ特産ニシテ沖繩縣産ハ原絲細口ニ屬ス其柄合ニ至テハ沖繩縣産ニ比シ優ルモノアルモ敢テ劣ラサルナリ而シテ其紺性ニ至テハ先ツ普通良質ノモノナリトス且ツ其價格ニ於テハ高カラス安カラスシテ相當ナリ之レヲ沖繩縣産出品ニ比較セハ同等ノ位地ヲ占ムルモノト思惟ス

石川縣 品質善良織製ノ巧ニシテ柄合可ナルモノアリ其紺性ハ普通製紺染ニ屬ス而シテ白地飛白物ハ當時世ノ嗜好ニ適シ需用者多ク且ツ其價低廉ナリト認ム是等沖繩新潟二縣ノ出品ニ比較セハ稍々劣ル所アリト思惟ス

滋賀縣 原料ニ亞麻ヲ用ヒタルモノ大部分ヲ占メツ、アリ故ニ沖繩新潟石川ノ三縣産出ノモノニ比シ大ニ異ル所アリ亞麻ハ代價低廉ニシテ眞苧ノ代價ニ比シ三割低キニ居ル而シテ織製柄合、染色共ニ善良ナリト認メ且ツ原料代價ノ低廉ヲ

ルヨリ現品價格ニ於テモ低クシテ廣ク需用者ノ意ニ適スルハ第一位ナリトス之
ヲ沖繩、新潟、石川ノ三縣出品ニ比シ其原料ヲ異ニスル故ニ稍々劣等ノ地位ニ置ク
ヘキモノト思惟ス

奈良縣 絛物ノ產出ナシ唯縞物ノミニシテ原料ハ山形縣產出ノモノヲ用ユルカ
故ニ品質善良ナレトモ織製ニ於テ其度合ノ宜シキヲ得サルハ一ノ缺點ト言フヘ
シ而シテ其紺性ハ普通善良ナルモノニ屬シ價格相當ナリ之ヲ沖繩、新潟、石川ノ三
縣ニ比スレバ價格ニ於テ稍々高價ナリト雖モ其製織原料經絲ノ數多キヲ以テ自
然價格ニ影響スルナラン而シテ其產額及販路ニ至テハ之ヲ滋賀ニ比シ其次位ニ
置クモノト思惟ス

第五節 圖案

報告員審查官

井手馬太郎

圖案ノ概況ヲ報告スルニ先チ内國勸業博覽會ニ於ケル圖案ナル一項カ今回ニ在リテ
始メテ設ケラレタルコトヲ永ク紀念セラレンコトヲ世ニ望ムト同時ニ之ヲ他ノ出品
ニ比較シテ其數ノ甚々僅少ナリシヲ告ケ以テ次回ニ於ケル出品ノ益々振ハンコトヲ
切望ス

今ヤ生産界ニ於ケル時局ノ趨勢ハ圖案ノ甚々急務ナルニモ拘ハラス何故ニ斯ル現象

ヲ呈シタルヤヲ考フルニ其原因蓋シニアリ一ハ圖案技術者ノ未タ多カラサルコト他
ハ當局者ノ獎勵全タカラサルコト是レナリ特ニ今回ニ於テ第十部ヲ除クノ外ハ圖案
出品項目ヲ世ニ紹介スルノ條理徹底セス出品者ヲシテ幾分其出品ノ範圍ヲ不明瞭ナ
ラシメタル傾キアリシモ亦慥カニ出品ノ寥々タリシ一原因ナルヘシ

而シテ出品數ノ最モ多キハ京都府ニシテ之ヲ他府縣ニ比スレハ優ニ頭角ヲ露ハスニ
足ル蓋シ此地ハ圖案技術者及ヒ各種ノ工藝家比較的多數ナルヲ以テ一般ニ需用ノ度
他府縣ニ比シ多キヨリ圖案ノ必要ヲ感シ獎勵ノ途モ亦タ能ク發達セルニ歸因スルナ
ラン出品ハ概シテ嶄新ト爲スヘカラサルモ實用ヲ重シ現今ノ製作技藝上ニ適應セサ
ルノ非難少ナシ就中山田直三郎出品ノ如キハ圖案帖之出版ニ意ヲ用ヒ工藝家ヲ裨益
スルコト大ナリ其出品「海路」ノ如キ意匠ニ富ミ印刷亦タ鮮明ナリ其外栗本保太郎、上野
靜江、本田市治郎、島村善助等出品見ルヘキ價值アリ

京都府ニ亞キ出品數ノ多キハ東京府ナリ此地ハ近來意匠發達ニ就テ見ルヘキモノ少
ナカラサルニモ拘ハラス其出品ニ至テハ點數技術共ニ京都府ニ及ハス僅カニ森田茂
樹出品稍々見ルヘキアルノミ

其他ノ各府縣ニアリテハ僅カニ一名宛ノ出品人ニ過キサレハ府縣別ノ比較考査ヲ成
シ難シ只新潟縣永井源治ノ顔料定量表及ヒ岩手縣千葉伊平ノ意匠圖ハ意匠技術共ニ

第六節 圖案出品並授賞統計表

府縣別	出品點數	出品人員	名譽金牌	名譽銀牌	一等賞牌	二等賞牌	三等賞牌	褒	狀	計
東京	一九	三								一
京都	四二	二								二
大阪	四	一								一
新潟	四	一								一
三重	三	一								一
愛知	一	一								一
山梨	二	一								一
岩手	一	一								一
計	七二	二〇								八

第三章 絣圖按綱領

小室信藏君述

絣ナルモノハ二様ニ解釋スルヲ得ヘシ一ハ或規則ノ下ニ縞ノ處々ヲ殘シテ飛白リ他ノ部分ヲ無地トナシタルモノ即白地絣ノ類ト他ハ無地物ノ處々ヲ或規則ノ下ニ飛白リテ白地(又ハ他ノ色)ニナシタルモノ即紺地(又ハ他ノ染地)絣ノ類ト見得ヘシ然レトモ圖按上其外觀ヨリシテハソノ何レタルヲ問ハス圖按構成上何ノ差アルナク成按ヲ用ルニ當リテ表裏ノ違アリト見ルノミ

外觀上區別シテ考フレハ圖按成立ノ基礎三種アルヲ見ルヘシ

第一 縱飛白ハ縱糸ニ飛白ヲ作りタルモノナレハ其外觀モ縱線ヲ各處ニ點在セルノ看ヲ呈セリ其複雑ナルモノハ尠カラズ製出シ得ヘシ

第二 横飛白ハ横糸ニ飛白ヲ作りタルモノニシテ其外觀モ横線ヲ各處ニ點在セルノ看アリ複雑ナルモノハ縱飛白ノ場合ト同シク尠カラズ製シ得ヘシ

第三 縱横ノ飛白ハ前二者ノ結合セル者ナイフ前二者ニアリテハ縱又ハ横ノ飛白ニ限り其レト交叉スヘキ横糸又ハ縱糸ハ無地ノ色ナレハ飛白ノ表ハル、モ純白ニアラザレバ強ク眼ヲ刺激スルコトナキモ第三ノ縱横飛白ニアリテハ飛白ノ部分ノ相互相合スルカ爲メニ前二者ニ比シテ白ク際立ナテ見ユ十字絣ハ其最單純ナルモノナリ縱飛白横飛白ニ無數ノ變化アレハ更ニ二者ヲ合シタル第三ノ縱横飛白ハ十字絣ノ變形ヲ無限ニ製作スル事ヲモ得ヘク又場合ニヨリテハ第一第二第三ヲ并用シ又第二ト第三トヲ用ヒ又ハ第一ト第二ト第一ト第三ヲ用フル等ノ場合モアルベク其表ハサル、形ニヨリテ亦其用方ヲ異ニスヘケレバ多數ノ種類ヲ製シ得ヘキナリ

圖按ノ割方 一釜ノ圖按ハ釜幅ヲ大クモ小クモ任意ニナスヲ得レドモ其柄行ニヨリ大ニシテ面白カラサルアリ小ニシテ面白キアリ柄合ニヨルユトナリサレドモ織リ上一幅ニ幾釜ノ模様ヲ要スルカヲ定メナバ從テ釜幅トソノ丈ケトヲ定ムルヲ得ヘシ一幅ニ十釜ノ模様ヲ作ラントセハ一幅ノ廣サヲ十分シテ釜ノ横幅トシ柄合ニ應シテ縱

ノ長サヲ決定セバ一釜ノ大サ決定マルヘシ
 此一釜ノ大サニ如何様ニモ模様ヲ配置スルヲ得ヘキナレドモ本來飛白ノ結合ニヨリ
 表ハスモノナレバ工作上ノ困難錯雜ヲ除イテ通常用フル處ノ圖按組織ハ餘リ多カラ
 ズ工作上ノ困難ヲダニ忍ブベクンバ散點模様組織ノ有ラユル組織ヲ用ヒ得ヘケレド
 モ困難ヲ排シテ果シテ悉ク有利ノ豫想ヲナスヲ得ストセバ暫ク從來用ヒ來レル範圍
 ノ組織ヲ用ヒテ其間ニ變化ヲ求ムルヲ以テ捷徑トナスヘキナリ
 日常用フル圖按組織ハ大休二様ニ分ツコトヲ得ヘシ

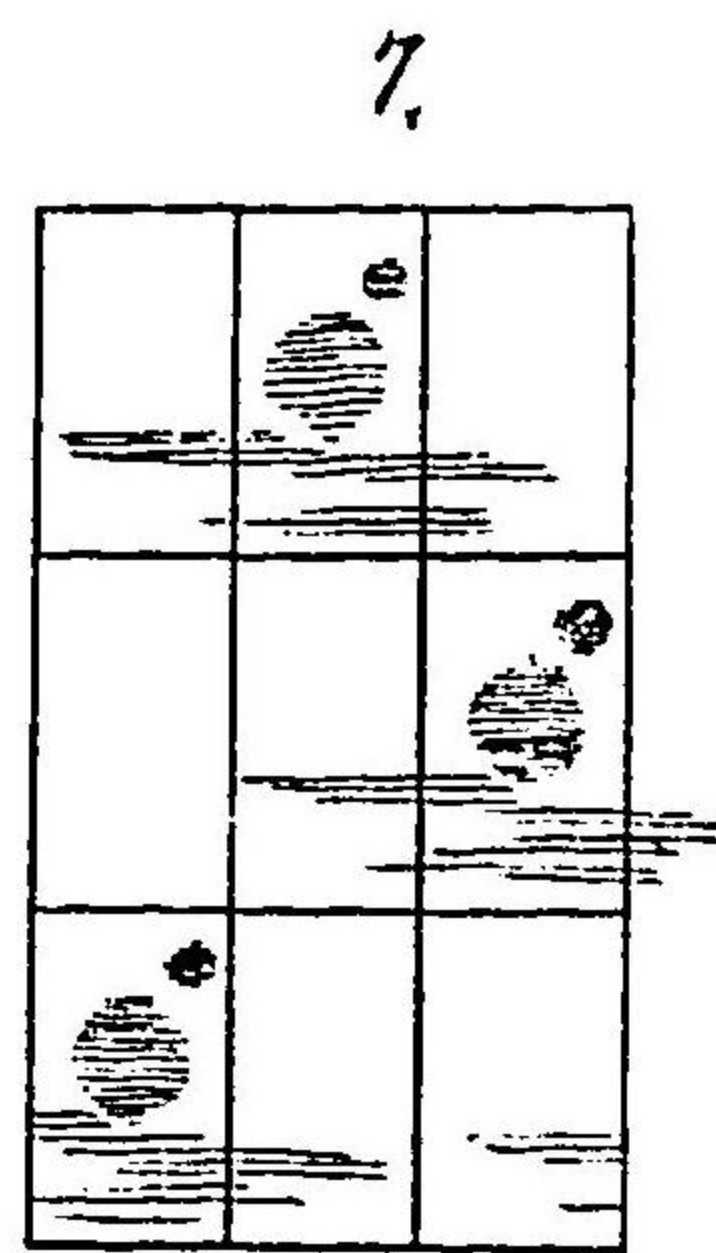
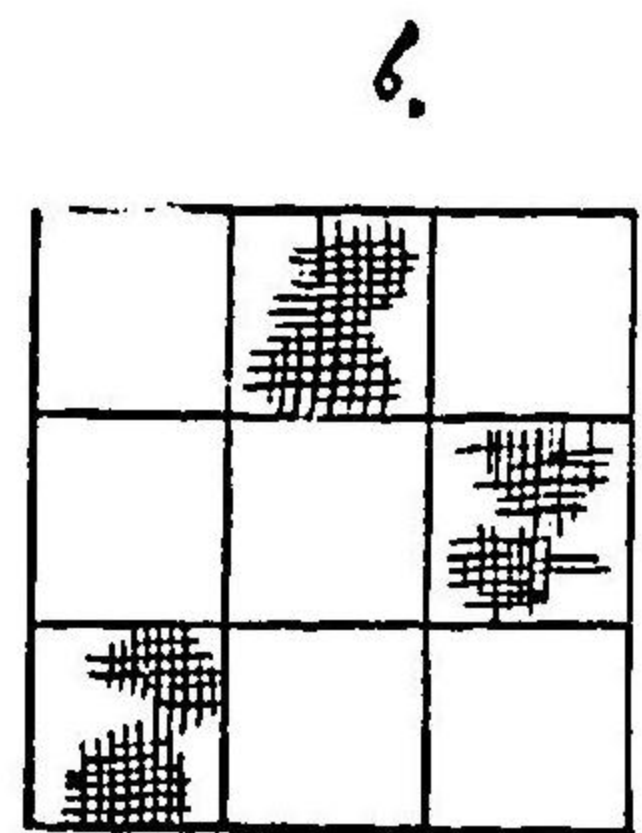
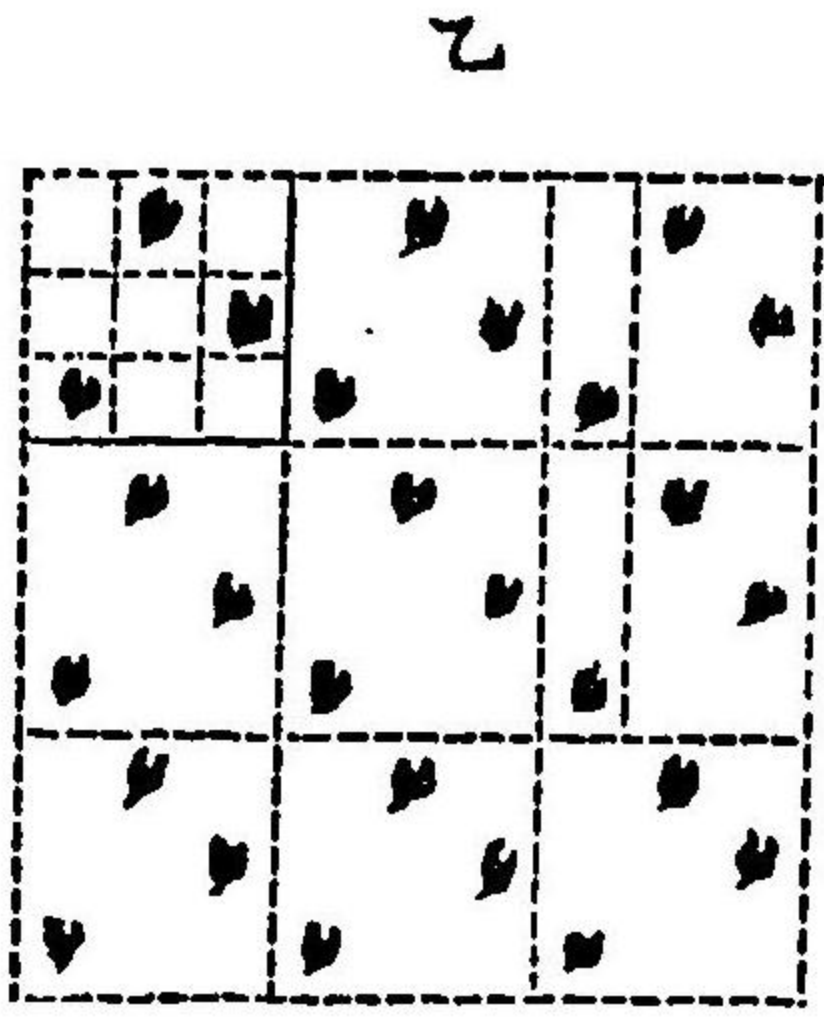
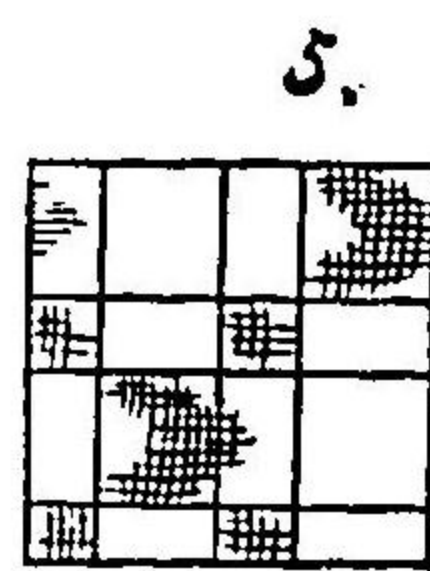
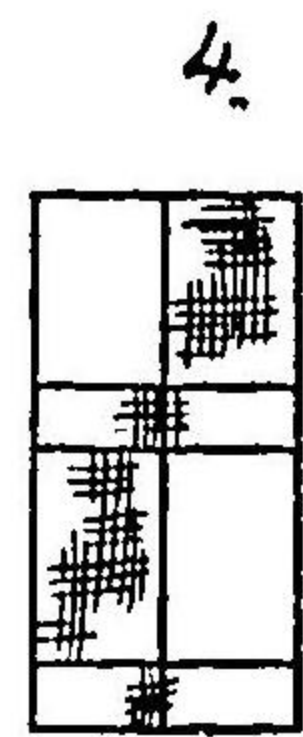
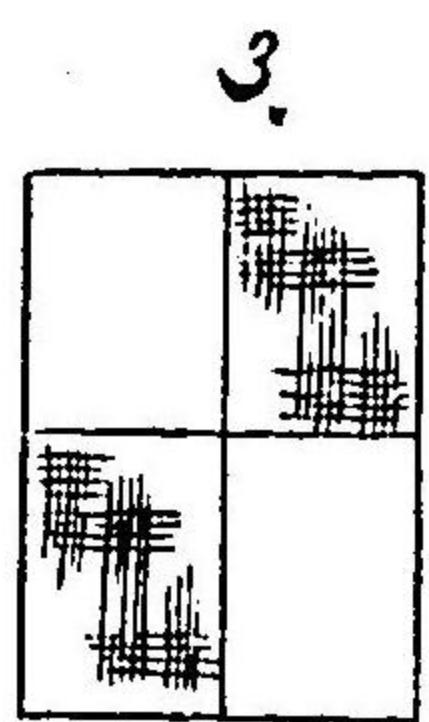
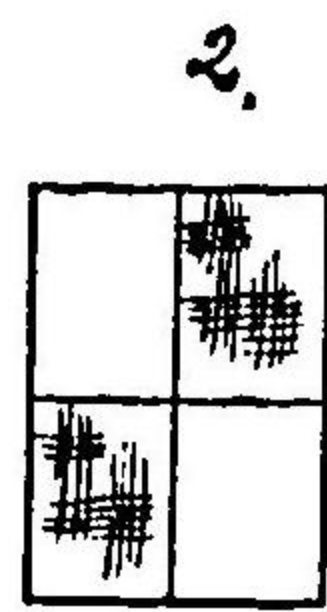
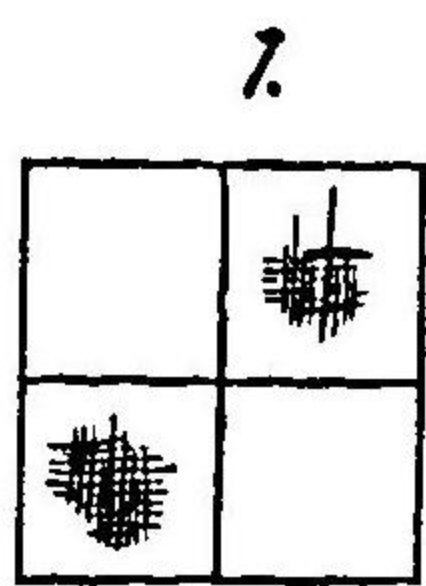
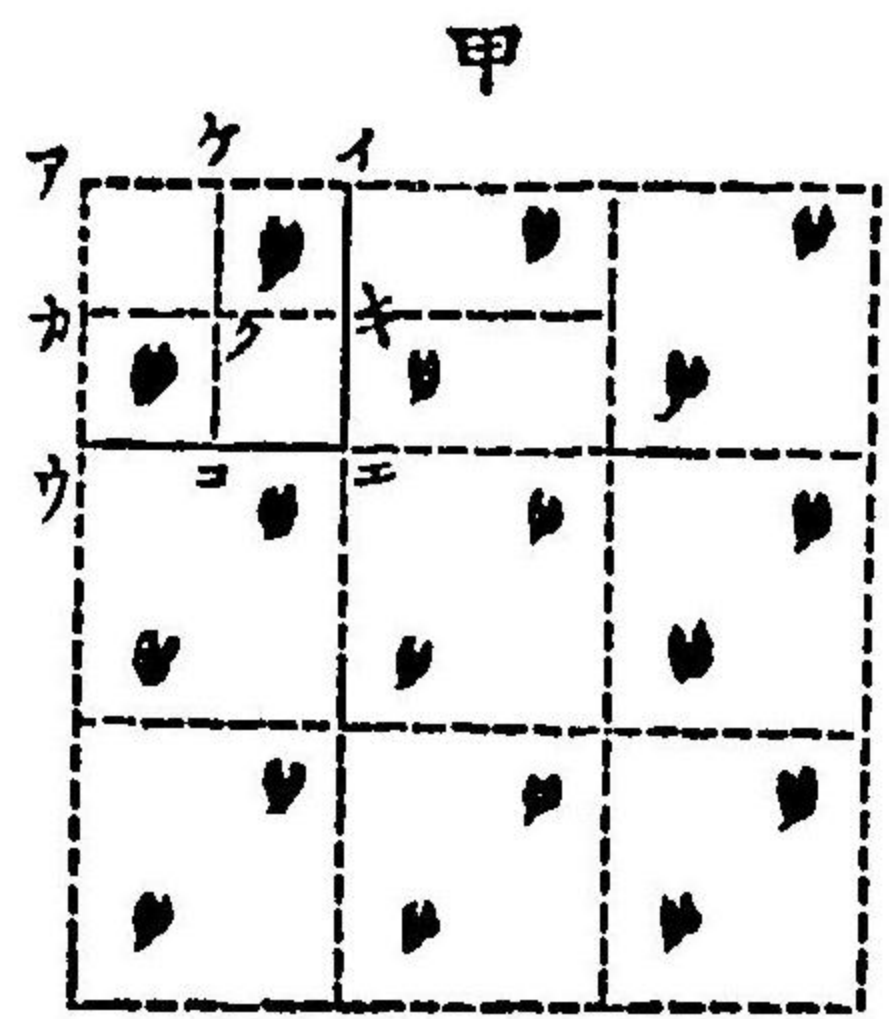
甲 一釜ヲ縱モ横モ二分シ飛白二ツヲ置クモノ

乙 一釜ヲ縱モ横モ三分シ飛白三ツヲ置クモノ

甲圖ノ如ク一釜ノ縱横トモ其長サ同シキ正方形ノ場合ニハ「カクウコ」又ハ「ケイクキ」ノ
 如キ小キ四角形内ニ當ハマル形トナルベク縱ヨリ横ノ短キ(又ハ長キ)場合ニハ2、3、ノ
 如ク1、ノ形ヨリ變化スルヲ得ベシ

乙圖モ亦變化シテ6、7、等ノ如ク諸種ノ圖形ヲ配置シ得ヘシ

總シテ飛白ノ圖按ニアリテ前圖ニ示セルカ如ク角形ノ内ニ當テハマル形ヲ以テ織上
 ニ都合ヨシトスルカ故ニ縱カ又ハ横ノ何レカ一方ハ角ノ範圍ヲ出テサルヤウニスル
 ハ緊要ナルコトナルヘシ是他ノ織物ト一様ニ圖按シ難キ點タルナリサレバ亦甲圖乙



圖等ノ如キ組織ニ變化ヲ與ヘントセバ4、5、圖等ノ如ク更ニソノ間ニ一線ヲ劃シテ適
 宜ノ飛白ヲ作成スルヲ得ヘシ

既ニ前述ノ如クシテ紺ヲ生スルカ故ニ縱横共ニ同形ヲ飛白ニ染メタル糸ヲ用フルト
 キハ其交叉點ハ眞白ク表スヲ得ヘシ然レトモ此ノ如クシテ周リヲ正確ニスルハ自然

工作上困難ナリサレバ形ヲ失ハザル丈ケノ度合ニテ白ク表ハスヲ以テ要件トスヘシ
 總シテ角ナルモノハ直角ニ圓キハ眞圓ニナルヘキハ當然ノコトナレドモ周リノ際立
 ナテ嚴格ナルハ多クハ外觀上比較的次位タルヘキモノナレバ絢ノ本來ノ性質ト習慣
 トニヨリテ周圍ノ正シキモ嚴格ナラヌヲ望ムベク朦朧ニ失スルハ避クベキコトナレ
 ドモ形ヲ失ハズシテ地色ト柔和ニ境ヲナスハ絢圖按テ製作スル人ノ特ニ注意スヘキ
 モノタラン又板締法ニヨルモノハ兎角周圍ノ際立ヲ以テ特色トスルカ如キモ既ニ以
 上ノ如ケレバ聲價ヲ高カラシメントスルニハ果シテ目的ノ通りナルヘキカ然レトモ
 板締ナル染法ハ染法トシテ一種ノ發達タルニ相違ナケレバ此方法ニヨリテ染メタル
 糸ヲ以テ織成スルニ當リ注意シテ成形ノ際立テ過クルヲ避ケナバ他ノ染法ニヨリ飛
 白ヲ巧ニ織成セルモノト外觀上ノ競争ヲ試ミ得ヘシ
 尙以上ノ如クシテ各種ノ變化ヲ生スルノ外縱橫線ノ交叉ニヨリテ濃部ヲ表ハシ縱線
 又ハ橫線ノミヲ單獨ニ用ヒテ淡部ヲ作り且模様トシテ或度迄ハ各種ノ形狀ヲ織成ス
 ルヲ得ヘケレハ紅葉輪違等ノ如キ獨立形ノ外濃淡ト縱橫線トニヨリテ複雑ナル模様
 ナ飛白ニテ表示スルヲ得ヘシ單純ナル例ヲ以テ言ヘバ縱橫線ヲ以テ籬形ヲ作り蔓草
 等ヲ配置連續シテ高尚優美ナル模様ヲ織成スルコト等發達スヘキ餘地猶大ナルモノ
 多カルベシ

第四章 絢織物各產地要録

第一節 東京府

村山絢 天保年間北多摩郡村山郷ニ一人ノ女アリ何處ヨリカ木綿ノ裁片ヲ持歸リ初
 メテ之ヲ模擬製織セシモノ即チ村山絢ノ起源ナリト云フ而シテ其裁片ノ何地産ナ
 ルカハ傳フルモノナキヲ以テ之ヲ審ニシ難キモ一説ニ依レハ其ハ恐ラク薩摩絢ナ
 ル可シト爾來其製織漸次盛況ニ赴キ慶應年間ニ至リテ地機ヲ廢シテ高機ニ代ヘ幾
 多ノ改良ヲ經テ顧客ノ信用ヲ博シ販路モ年ヲ追フテ擴張シ以テ今日ノ盛況ヲ見ル
 ニ至レリ

主產地 北多摩郡

品名 村山絢

染料 阿波産玉藍又ハ武藏産玉藍ヲ使用ス

販路 東京ヲ中心トシ其近縣ヲ最モ多シトス

第二節 埼玉縣

所澤絢 此織物モ村山絢全様其起源ハ天保年間ニシテ爾來逐年進歩シ明治三十六年
 各當業者ハ飛白織ノ改良及其販路ノ擴張ヲ圖ランカ爲メ武藏飛白同業組合ナルモ

ノヲ創立シ嚴重ナル規約ヲ設ケ大ニ改良發達ヲ圖レリ一説ニ曰フ此織物ハ文化ノ
頃薩摩絨ニ摸倣セシモノ其起源ナラント

主產地 入間郡所澤地方

品名 所澤絨

原系 内地紡績綿糸、英國製綿糸

染料 阿波産玉藍及武藏産藍ヲ用ユ

販路 東京、奥羽、信越地方

第三節 群馬縣

伊勢崎絨 伊勢崎ハ往古ヨリ太絹ト稱スル白絹ヲ産出セシカ享保年間ヨリ伊勢崎縞
ト稱スルモノヲ織出セシモ關西ニテハ其伊勢崎産出ノコトヲ知ラス專ラ秩父縞ト
稱シ來レリ此ハ元來該地方産出ノ秩父縞ト相混シテ他方ニ賣捌キタルカ故ナリ天
保初年ノ頃ヨリ黒地色ヲ藍紺色ニ代ヘ染色上ニ一生面ヲ開キ販路ヲ擴張シ伊勢崎
町ニ太織賣買市場ヲ設置シテヨリ漸次其名世間ニ知ラル、ニ至レリ維新後更ニ染
色法ヲ改良シ明治三十四年伊勢崎太織會社ヲ組織シ原料用品ヲ制限シ製品ニハ証
紙ヲ貼付セシム之レ該地織物同業組合ノ濫觴トス而シテ絨織物ヲ産出セシハ其起
源極メテ近ク去明治十七年頃一二ノ機業家卒先製織セシテ嚆矢トシ漸次幾多ノ改

良ヲ加ヘ以テ地質ノ堅緻染色ノ強固價格ノ低廉ヲ期シ本織物ノ光彩ヲ發揚セリ
本縣中野絨(木綿織)ノ産出アリ其由來スル所又甚々遠カラスト雖モ地質堅牢染色堅
固意匠嶄新ニシテ信用大ニ揚リ産額ハ逐年増進シ今ヤ盛況ノ期ニ進ミツ、アリ

主產地 伊勢崎町、佐波郡、邑樂郡(綿絨)

品名 伊勢崎織、中野絨(綿絨)

染料 日本産藍其他、アリサリン、色素ヲ用ユ

販路 三府其他各縣至ラサル所ナシ

第四節 山形縣

置賜絨 舊米澤藩主鷹山公上杉家ヲ繼襲セララル、ヤ特ニ意ヲ蠶桑ノ業ニ用平絹織物
細織物等ノ製造ヲ獎勵シ或ハ先進機業地ヨリ織師織工ヲ聘シ織機器具ノ改良職工
ノ養成等ニ努メ又國産役場ヲ設ケテ粗製濫造ノ弊ヲ防キ以テ國産ノ發達ヲ企劃セ
リサレハ今ノ細織物ノ如キ實ニ同公ノ賜ニ外ナラサルナリ其始メニ當リテハ現今
ノ如キ絨織ヲ製作スルノ途ヲ知ラザリシモ文化年中東五十川村牛澤重助氏ノ宅ニ
寄食セル流浪ノ客アリテ常ニ實業談ヲ口ニシケルカ偶々絨織物ノ事ヲ説クニ及ヒ
其言ニ從テ遂ニ絨ヲ製織スルニ至レリ是ヲ置賜絨ノ濫觴トス其後長井村ノ飯澤半
右衛門氏下總結城絨ノ製造法ヲ研究シ大ニ得ル處アリ更ニ同村白兔ノ高橋仁右衛

門氏ハ今ヲ去ル五十年前甫メテ横堅ノ絨ヲ發明シ次テ東五十川ノ重助(姓不明)ナル人横堅絨ヲ製造スルニ至リ爾後相傳ヘ相繼キテ之ヲ學フ者日々多キヲ加ヘ販路亦從テ擴張シ世ニ所謂「米琉」若クハ「米澤絨」ト稱シテ名ヲ關東ニ壇ニスルニ至レリ其染色組織ノ如キハ最モ町嚙親切ニシテ而モ之ニ加フルニ國産役場ニテ嚴重ナル監督ヲ施シ其粗製濫造ヲ防キ每品検査証ヲ貼付スルヲ以テ頗ル需用者ノ信用ヲ博スルニ至レリ然ルニ維新革命ト共ニ國産役場ハ廢止トナリ漸次粗製ニ移リ濫染ニ傾キタリ是ニ於テ荒砥町ノ人大友惣八氏大ニ之ヲ憤慨シ今日ノ如クニシテ捨テ、願ミサルニ於テハ將來其販路ハ杜絶スルニ至ルヘントシ各種ノ改良ヲ加フルト共ニ三井物産會社ニ依托シテ其販路ヲ擴張シ或ハ元琉球藩主尙氏ノ門ヲ叩キ琉球絨絨ノ製造法ヲ問ヒ之ニ依テ當業者ヲ裨益スル所甚々鮮少ナラス又長井町ノ竹田清五郎氏モ大友氏ト同シテ斯業ノ發達ヲ企圖シ十餘年前改良主唱トナリテ拾數名ノ同志ト圖リ改良組ヲ組織シ越後ノ西方某ヲ聘シテ技術ヲ練習シ更ニ三十六年有志大會ヲ開キ現今ノ西置賜郡絨織物同業組合ヲ設置シ着々改良發達ヲ企圖セリ又本縣ニ紋織機ノ應用ニ係ル風通絨或ハ綾絨等ト稱スルモノアリ其起源遠カラス從テ沿革ノ記スヘキモノナシ

主產地 西置賜郡

品名 置賜絨

原糸 袖糸、玉糸

染料 植物性染料ヲ第一トシ少許ノ「アニリン」又ハ「アリザリン」ヲ使用ス

販路 東京、京都、大阪、北海道、北越地方

第五節 愛知縣

佐々絨 名古屋市ニ於テ產出スル佐々絨ハ從四位少將陸奥守佐々成政ノ孫成善ノ創作スル所ナリ元和年間尾州丹羽郡森本村ニ住居シテ始メテ絹織物ノ錦綾ヲ製織シ五世ノ孫成達ニ至リ天明年間之ヲ木綿織ニ改メ其子成信ハ居テ名古屋ニ轉シテ文化年間緋織入法ヲ發明セリ下テ文政年間ニ至リ世人ハ之ヲ佐々絨ト稱シ大ニ珍重セシヨリ次第ニ流行シテ名聲四方ニ擴マレリ其子成重ハ染法其他ニ種々ノ改良ヲ加ヘ維新ノ後會社組織トナシ明治二十六年佐々絨株式會社ヲ起シ爾來絨器械ヲ發明シ圖案ニ意匠ヲ凝ラシ研究熟練ノ結果良好ノ品ヲ製出シ販路ノ擴張ヲ見ルニ至レリ

主產地 名古屋市

品名 佐々絨

染料 主トシテ尾州產玉藍ヲ用ユ

愛知縣佐々絨

販路 愛知縣ヲ中心トシ近方各縣

第六節 滋賀縣

近江麻布ノ起源ハ今ニ明カナラザレド一説ニハ天明ノ頃ナリトカ云フ其ノ舊幕府時代ニ在テハ彦根藩ニ於テ麻布改役所ヲ置キ其ノ検査ヲ受クルニアラサレハ他へ販賣スルヲ許ササリシヲ以テ自ラ良品ヲ製シ世人ノ需用多ク殊ニ當時ハ儀式用ニ供スル需用多カリシニ依リ其産額壹百萬反ト稱シタリシモ維新以來時勢ノ變遷ト共ニ儀式用ニ供スル需用ノ著シク減少シタルト前記検査法ノ解ケタルトニヨリ自然粗製濫造ノ弊ヲ生シ大ニ需用者ノ信用ヲ失ヒ隨テ販路縮少シ明治十六七年ノ頃ハ商業社界一般ノ恐慌ト共ニ製造家ノ倒産シタルモノ尠カラズ其ノ結果明治十八年ノ産額僅ニ二拾萬反ニ減少スルニ至レリ是ヨリ先地方ノ有志者本業ノ日ニ非ナルヲ憂ヒ相謀リテ粗製濫造ノ弊ヲ防ガン爲メ麻布改會所ナルモノヲ愛知川村ニ設ケ同業者ノ自治的取締法ヲ設ケタリト雖モ無制裁ナル申合セハ到底之ヲ防止スル能ハスシテ終ニ其目的ヲ達スルヲ得サリキ然ルニ同年本縣布達織物業取締規則ニ基キ組合ヲ組織シ嚴重ナル規約ヲ設ケ爾來專ラ粗品ノ防遏ニ力メ明治三十年重要輸出品同業組合法ニ依リ再ヒ其組織ヲ變更シ益々製品ノ改善ヲ圖ルト共ニ縣費ノ補助ヲ得テ染晒、試驗場ヲ設置シ晒及染料ノ試驗ヲ行ヒ種々時好ニ投スルノ品ヲ製出

スルニ至リシカハ大ニ需用者ノ信用ヲ回復シ今日ニ在テハ年々五十萬反已上ノ産額ヲ見ルニ至レリ然リ而シテ本組合ニ於ケル緋織物ニ就キ其沿革ヲ叙述センニ括リ緋ハ俗ニ天明緋ト稱スルヲ以テ之ヲ視レハ緋織物ノ起源ハ天明年間ナル事ハ信シテ疑ハサル所ナリ而シテ其當時白無地麻布ノ産額殊ニ多カリシカ其後犬上郡高宮村郡田新藏氏模様組織ニ熟中シ弘化年間ノ頃琉球越後等ニ遊ヒテ終ニ緋染板締器械ヲ發明シ始メテ水ニ菊花散シノ模様ヲ染出ス事ヲ案出セリ然シテ氏ノ發明セシ緋織物ハ天明緋(即チ括リ緋)ニ比シ意匠鮮明ニシテ價格低廉ナルヲ以テ大ニ世ノ好評ヲ博シ今ヤ同組合一般ノ緋染ハ總テ此板締器械ヲ用ヒルニ至レリ

主產地 神崎、愛知、犬上ノ三郡

品名 近江麻緋

原糸 亞麻糸、和麻糸

染料 紺花色ニ限リ日本産玉藍ヲ使用シ白緋ニハ「アリザリン」ヲ使用ス

販路 内地各縣至ラサル處ナク其重ナルハ山陽道、四國、九州ニシテ猶ホ朝鮮支那等ニ輸出ス

第七節 奈良縣

大和木綿緋 此織物ハ寶曆年間南葛城郡御所町淺田操氏ノ發明スル所ニシテ最初試
奈良縣大和木綿緋

ミニ同町吉川小七郎與野四郎平ノ兩氏ヲシテ織ラシメタリ之ヲ大和紵ノ濫觴トス其後同町和田平兵衛氏當時紵織物ノ意匠單純ニシテ品位ニ乏シキヲ憂ヒ以テ之カ改良ヲ企テ幾多ノ歲月ヲ積ミ文政五年工夫紵(畫紵)ヲ發明セシヨリ遠近相傳フルニ至レリ世ニ之ヲ扇屋紵ト稱ス又文化以前ニ白地紵ヲ發明セシモノアリ霜降紵ト稱シ現今ノ臘紵ノ如キ重ニ大紵ナリシカ明治年間ニ至リ蚊紵等ノ精巧品ヲ製出スルニ至リ大ニ社會ノ嗜好ニ適シ其產額今ヤ全國ニ冠タリ

主產地 南葛城郡、北葛城郡、高市郡

品名 大和紵

原糸 緯ハ紡績十六番、經ハ重ニ金中紡績二十八番ヲ用ユ

染料 阿波藍ト洋藍ノ併用ヲ最トシ「ブルー」又ハ「ブラツク」ヲ使用シ藍ノ節減ヲ爲スモノアリ

販路 東京、京都、大阪、愛知、静岡、北海道、九州

第八節 島根縣

廣瀬紵 文政年間能義郡廣瀬町長岡謙祥ノ妻某十四五歳ノ時紵製織ヲ伯耆國米子町ニ於テ習得シ歸郷後製織セシテ廣瀬紵ノ濫觴トス當時世人ノ多クハ此ノ機織ヲ知ラサリシカ天保年間ニ至リ之ヲ傳ヘ聞キ就テ教ヲ受クル者漸ク増加シ甲乙相遞傳

シテ製造ヲ試ミ隨テ種々工夫ヲ凝スモノ輩出シ中ニモ廣瀬町ノ高石某ハ經臺ヲ發明シ中村喜平氏ハ紋形紙ヲ案出シ從來紋樣ヲ附スルニ種糸ヲ用ヒシ繁ヲ省キ簡便ナルヲ得タリ下テ弘化嘉永ノ頃ニ至リテハ廣瀬町居住ノ婦女ノ多クハ殆ント斯業ヲ營マサルモノナキニ至レリ明治三四年ノ頃紵總盤打染ノ傳習ヲ受ケシモノアリテ從來得意トセシ手打染ノ拙ヲ脱セリ爾來產額ノ増加ト共ニ技術益進歩發達セシカ同七八年ノ頃ヨリ備後府中ニ於テ製造ノ唐糸紵輸入セラレ各地盛ニ流行セシヨリ大ニ其影響ヲ被リ需用減少シ衰運ニ傾キシモ同業者ノ苦心奮勵ニ依リ漸次販路ヲ擴張シ頽運ヲ挽回スルヲ得タリ當時恰モ廣瀬町ノ由良タカナルモノ紵總ヲ結束セシ荒苧ヲ解クニ割解ノ方法ヲ案出セル結果其收利ヲ多クセシヲ以テ人心機業ニ葵向シ同業者次第ニ増加シ三澤由兵衛氏ノ如キハ早ク既ニ高機織ノ利ヲ知テ之ヲ習得セシカ忽チ一般同業者ノ傾心スル處トナリ製造法大ニ進ミ同二十二年ノ間ニ於テ大ニ圖案ノ改良ニ留意シ原糸ヲ紡績糸ニ改メ品位高進ノ結果產額頓ニ増加シ能義郡重要物産ノ列ニ班入スル至レリ同二十五年廣瀬町山崎金次郎古浦爲太郎兩氏染方調査ノ爲メ各地巡回研究ノ末前年習得セシ盤打染ヲ綱打染ニ改メタリ蓋シ此方法ハ總ノ結際ニ藍色ヲ透徹セシムル最良ノ方法ナリ其他内國勸業博覽會聯合共進會等ニ出品シテ各地製品ト優劣ヲ競ヒ明治二十八年能義郡十六村ノ組合補

助ヲ受ケ久留米其他へ視察員ヲ派シ調査研究ノ結果三澤庄太郎氏ハ織貫法ヲ案出セシモ未タ完全ナラス再ヒ田中榮兵衛氏ヲ久留米地方ニ派遣シテ調査セシメ終ニ完成スルヲ得タリ之ト同時ニ柄合織製方法等ノ改善ヲ爲シ以テ技藝ノ進歩ニ一階梯ヲ與ヘタリ二十九年廣瀨町秦莊右衛門野津倉三郎川井源三郎ノ三氏發起シテ能義郡同業組合ヲ設ケ粗製濫造ノ弊ヲ禦キ三十一年同業者及有志ノ士ト共ニ廣瀨絨合資會社ヲ起シ販賣上ノ機關ヲ完備シ及絨傳習所ヲ起シ工女ヲ養成シ斯業ノ發達ヲ圖レリ全年重要輸出品全業組合法ノ發布アルヤ是ニ依リテ組織ヲ變改シ益々基礎ヲ鞏固ニセシヲ以テ大ニ社會ノ信用ヲ博シ逐年隆運ニ向フニ至レリ

主產地 能義郡廣瀨町

品名 廣瀨絨

原系 内地各紡績糸ヲ混用ス

染料 日本産正藍ヲ使用シ外國産藍ハ一切使用ヲ嚴禁ス

販路 島根縣、鳥取縣、山口縣、大阪、四國、九州

第九節 德島縣

鳴門絨 今ヲ去六十餘年前即チ弘化ノ頃本縣ニ於テ多少ノ絨織物ヲ產出セシガ明治元年ニ至リ麻植郡ノ斯業有志者其規模ヲ擴張シ續テ二十八年ノ頃縞織物業緊縮セ

ルヨリ麻植郡桑村ノ市原與平氏ヲ久留米ニ遣ハシ紺絨織ノ方法ヲ研究セシメ歸郷后試織セシモ猶未ダ完全ナラザルヲ以テ山崎村桑村ノ織物全業者更ニ久留米ヨリ清田堅吉氏ヲ聘シテ小規模ノ傳習所五ヶ所ヲ設ケ以テ稍々其實蹟ヲ舉ゲタリ三十二年ニ至リ當局者同業者ト相計リ大ニ本縣特産ノ藍ヲ利用スルノ目的ヲ以テ全年ヨリ本年ニ至ル間引續縣費ヲ以テ久留米地方ヨリ教師ヲ雇聘シ各郡ニ一ヶ所若クハ二ヶ所ノ傳習所ヲ設置シ斯業ノ方法ヲ教授獎勵シ更ニ郡費ヲ以テ教師ヲ增聘シ巡回教授セル結果大ニ見ルベキモノアリ産額年ト共ニ増加シ世人ヲシテ能ク阿波絨アルヲ知ラシメ以テ今日アルニ至レリ

主產地 德島市、麻植郡、板野郡

品名 鳴門絨

原系 内地紡績糸

染料 阿波産ノ正藍ノミヲ使用ス

販路 三府、兵庫縣、岡山縣、廣島縣、愛知縣、靜岡縣、和歌山縣、山口縣、宮崎縣、北海道

第十節 愛媛縣

伊豫絨 享和三年(一説ニハ文政五年)伊豫郡垣生村西垣生字今出ノ鍵谷清吉ノ女辻讚州金比羅社參詣ノ際偶マ同船セル久留米ノ人ノ着衣絨木綿ヲ見嘆賞ノ餘リ心窃カニ之ヲ摸

織セシコトヲ期シ歸國後試ニ木綿糸ノ處々ヲ絞リ染草ノ搾リ汁ニテ染成シ地機ニ卷上ゲ製織シタルニ頗ル好成績ヲ得タリシヨリ之ヲ比隣ニ傳ヘ爾來其業漸次各地ニ弘マリ世間ヨリ今出絛ノ稱呼ヲ受クルニ至レリ後松山藩廳ニ於テ大ニ之ヲ督勵セシヨリ事業ノ發達ト共ニ販路擴張シ遂ニ伊豫絛ノ稱呼ヲ以テ世ニ聲價ヲ博シ今ヤ伊豫物産中ノ主位ヲ占ムルニ至レリ

主產地 松山市、溫泉郡、伊豫郡

品名 伊豫絛

原糸 内地紡績糸十六番、十八番、二十番ニシテ大柄モノハ經緯共十八番ヲ用ヒ

小絛ハ經十八番緯十六番ヲ用ユルヲ普通トス

染料 阿波産正藍ヲ最トシ印度藍及「インジゴピユール」ヲ使用高ノ三步弱ヲ

日本藍ニ混用ス

販路 三府、中國、九州ニシテ就中大阪ヲ最要地トス

第十一節 廣島縣

備後絛 此織物ノ主產地芦品郡服部村ハ古昔之レヲ織部ノ郷ト稱シ遠ク仁徳天皇ノ御宇既ニ機織ノ業ニ從事セル事古史ノ傳フル所ナリ然レモ絛織物ノ起源ニ至テハ其何レノ時又何レノ處ヨリ傳ハリシヤ詳ナラス古老ノ言ヲ徵スルニ今ヨリ八十年

以前即チ文政年間ノ頃既ニ絛織物ヲ製造シテ各自ノ使用ニ供セリト而シテ其後幾多ノ變遷ヲ經テ文久年間ニ至リ同郡有磨村富田久三郎氏(存命中)ノ發明スル處アリ是レヨリ郡内所々之レカ業ニ從事スルモノアルニ至レリ明治三十年頃迄ハ其間多少ノ盛衰ヲ免レカリシモ要スルニ産額少許ニシテ弘ク世人ニ認識セラレズ是ニ於テ郡内新市村吉田中氏以テ遺憾トシ地方ノ重要物産タラシメン事ヲ主唱シテ大ニ幹旋盡カスル所アリ遂ニ同業者ト相謀リ新市村ヲ中心トシ明治三十二年六月始メテ備后芦品織物組合ナルモノヲ組織シ製品ヲ検査シ或ハ各產地ノ視察又ハ品評會ノ開設等ニ種々ナル機會ヲ利用シ專ラ改良進歩ニ務メ數年以前ヨリ漸次隆盛ノ幸運ニ向ヘリ而シテ明治三十四年七月重要物産同業組合法ニ基キ芦品郡一圓ヲ以テ西備織物同業組合ト改メントシ吉田中、吉田三太郎、河村大吉、森田誠一、高尾清市、山手與四郎、大平熊太郎ノ七氏發起トナリ種々畫策ノ末漸ク明治三十六年一月其筋ノ認可ヲ得以テ現今ニ至レリ

又本縣内海絛ハ明和年間初メテ製織セラレタルモノニシテ備後絛ト全ク其系統ヲ異ニセリト云フ傳説區々ニシテ其確説ヲ知ル能ハス

主產地 芦品郡、深安郡、賀茂郡

品名 備后絛、内海絛(賀茂郡産ヲ云フ)

染料 日本産藍ヲ専用ス

販路 東京、大阪、京都、北海道

第十二節 熊本縣

力食社絣 本縣ニテ産出ノ絣ハ専ラ縣下ノ力食織物株式會社ニテ製織セルモノニシテ其創業ハ明治十一年ニシテ資金五萬圓ヲ政府ヨリ借入レ大和ヨリ三十六名ノ職工ヲ雇聘シ以テ斯業ヲ起セリ爾來一盛一衰アリシモ同二十年假入金ヲ償却シタル後業務漸次盛大ニ趣キ二十七八年ニ至リテハ優ニ一割以上ノ利益配當ヲ爲スヲ得タリト云フ

主產地 熊本市

品名 熊本力食絣

原系 内地紡績二十番

染料 阿州藍ヲ専用ス

販路 京都、大阪、廣島縣、長崎縣

第十三節 福岡縣

久留米絣 此織物ハ筑後ノ特有物産ニシテ其名夙ニ世間ニ聞ユ今其沿革ヲ尋マルニ天明八年ノ頃久留米通外町ニ井上阿傳ト云フ女アリ幼少ノ頃ヨリ新規ノ織物ヲ製

織センコトヲ思ヒ立チ種々工夫ノ未或時白糸ヲ絞リ之ヲ紺染トシ其糸ヲ解キ機ニ掛ケテ織試ミシニ珍奇ニシテ甚タ妙ナリ人之ヲ名ツケテ雪降又ハ霰織ト云フ依テ阿傳ハ發明ノ功アルヲ喜ヒ此織物ヲシテ益々盛ナラシメン事ヲ企テ加壽利ト唱ヘテ販賣ヲナシタリ是實ニ久留米絣ノ起源ニシテ阿傳十五歳ニ及フ頃ハ略其効ヲ極メタルヲ以テ門ニ入りテ之ヲ習フモノ貳拾餘名ニ及ヘリ斯クテ次第ニ盛大トナリ其四十歳ノ頃ハ就業織工殆ンド四百人ヲ算セリト云フ是ヨリ久留米絣ノ名四方ニ傳ハリ今ハ能ク筑後物産中ノ主位ヲ占ムルニ至レリ

主產地 久留米市、三井郡、浮羽郡、八女郡、三潞郡

品名 久留米絣

原系 紡績糸、十八番、二十番

染料 純粹日本藍ノ外印度、ピニア等外國藍人造藍ノ使用ヲ嚴禁ス

販路 三府、愛知縣、四國、九州

第十四節 鹿兒島縣

薩摩絣 舊來ノ織物ハ孰レモ皆純乎タル薩摩ノ産出ニ非ズ其初メ琉球ヨリ薩摩ニ入り夫レヨリ各地ニ輸出セラレシモノニシテ其薩摩絣ト稱スルハ即チ琉球絣ヲ呼ビタルモノナリシガ明治十一年士族授産ノ目的ヲ以テ鹿兒島授産場ナルモノヲ設置

鹿兒島縣薩摩絣

シ琉球絨ニ法リ大ニ製織ニ勉メ圖案意匠其他各種ノ改善ニ依リ社會ノ嗜好ニ適ヒ
優ニ木綿絨中ノ首位ヲ占有セリ

產地 鹿兒島市、肝屬郡、大島郡、川邊郡

品名 薩摩絨

原糸 內地産紡績糸十八番、二十番

染料 山藍ニシテ俗ニ泥藍ト稱スルモノヲ専用ス

販路 東京、大阪ヲ最トシ其他各府縣ニ多少輸出ス

第十五節 沖繩縣

琉球絨 此織物ノ起源沿革ハ未タ之ヲ詳ニセズ舊クヨリ多額ニ産出シ來レルカ其鹿

兒島ヲ經テ各地ニ賣捌キシヲ以テ世人ハ之ヲ薩摩絨ト呼ヘドモ其實ハ琉球絨ナル
ヲ知ルベシ

產地 首里區、那覇區、島尻郡、八重山郡

品名 琉球絨、芭蕉布

染料 山藍ノミヲ使用ス

販路 東京、大阪ヲ最トス

第五章 絨織物年次産額統計表（最近三ヶ年間調査）

府縣名	名稱	年次	産額	價額	平均價格	製造戸數	機臺數	摘要
東京府	村山絨	三十四年	一三六、五〇八	一六八、六〇〇	一、二三三			
		三十五年	一四三、〇四三	一六〇、五九四	一、二三三			
		三十六年	一四一、〇四八	一七二、二五三	一、二三三			
埼玉縣	所澤絨	三十四年	二四〇、三五六	二八六、九三二	一、一八一			
		三十五年	二四二、〇六三	三一四、四二五	一、三一			
		三十六年	四〇八、七五二	四〇五、二三四	九九			
群馬縣	伊勢崎絨	三十四年	一八五、八八八	九七五、九一一	五、二五			
		三十五年	二六〇、八八六	一、四三四、八七三	五、五〇			
		三十六年	二七四、一九六	一、二三三、八八二	四、五〇			
山形縣	置賜絨	三十四年	五、五一四	三〇九、〇八四	六、〇〇			
		三十五年	五、一六五	三〇二、五五七	五、八〇			
		三十六年	四、七三二	二二九、五三六	五、五〇			戸ハ三十七年調査
愛知縣	佐々絨	三十四年	一七、四二〇	四八、九五〇	二、八一			
		三十五年	二一、四八〇	六八、二四〇	三、一七			
		三十六年	二四、一〇五	七二、〇五〇	二、九八			
滋賀縣	近江麻布	三十四年	五、一五二	七三、二〇八	一、四〇			
		三十五年	五、九四八	八六、八七二	一、四〇			
		三十六年	四、二九八	五九、〇七六	一、三八			
奈良縣	大和絨	三十四年	六、五〇〇	八七、五〇〇	一、三五			
		三十五年	六、〇〇〇	九一、〇〇〇	一、五〇			
		三十六年	五、〇〇〇	八一、〇〇〇	一、六〇			
鳥取縣	鳥取絨	三十五年	九七、二五四	一三六、九五五	一、四〇			
島根縣	廣瀨絨	三十四年	一五三、五〇〇	二五八、九〇〇	一、七〇			
		三十五年	一五四、一〇〇	二八八、二〇〇	一、九〇			
		三十六年	二七二、五〇〇	五一四、九〇〇	一、九〇			

廣島縣	備後絣	廣島縣	內海絣	德島縣	鳴門絣	愛媛縣	伊豫絣	福岡縣	久留米絣	熊本縣	熊本絣	鹿兒島縣	薩摩絣	沖繩縣	琉球絣	合計	
三十四年	三十五年	三十四年	三十五年	三十四年	三十五年	三十四年	三十五年	三十四年	三十五年	三十四年	三十五年	三十四年	三十五年	三十四年	三十五年	三十四年	三十五年
六二、〇〇〇	四九六、八〇〇	二八、三一七	三七、七五六	五〇、一八〇	一〇、二四三五	一〇、三三五〇	一〇、三三五〇	九四、五二〇	九四、五二〇	一二、二〇〇	一三、〇〇〇	一三、〇〇〇	一三、〇〇〇	八七、五四七	六四、五二五	三三、三三三	三三、三三三
九三一、五〇〇	六九五、三二〇	四八四、三八〇	五五、六三五	七五、五二二	九四、三九二	一〇五、三七八	二〇四、八七〇	二二、三七五	二二、三七五	三三、九四〇	三六、四〇〇	三六、四〇〇	三六、四〇〇	一八七、九八九	一五一、一五八	三三、三三三	三三、三三三
一、五〇〇	二、四〇〇	二、四〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇	二、一五〇	二、一五〇	二、一五〇	二、一五〇
五、二八七	六、五〇〇	六、五〇〇	八、五〇〇	八、五〇〇	八、五〇〇	八、五〇〇	八、五〇〇	八、五〇〇	八、五〇〇	八、五〇〇	八、五〇〇	八、五〇〇	八、五〇〇	八、五〇〇	八、五〇〇	八、五〇〇	八、五〇〇
二、四二〇	二、四二〇	二、四二〇	二、四二〇	二、四二〇	二、四二〇	二、四二〇	二、四二〇	二、四二〇	二、四二〇	二、四二〇	二、四二〇	二、四二〇	二、四二〇	二、四二〇	二、四二〇	二、四二〇	二、四二〇

本表中各年度ノ通知ニ接セサルモノアルニ付キ
 正確ノ合計ヲ得ル能ハス看者之ヲ諒セヨ

絣之泉 大尾

明治三十七年七月二日印刷
 明治三十七年七月五日發行

絣之泉 全一冊
 定價金 六圓

不許複製

編輯者兼
 發行者

賴本剛

東京市日本橋區元柳町三十一番地

印刷者

吉田吉太郎

東京市淺草區猿屋町十七番地

印刷所

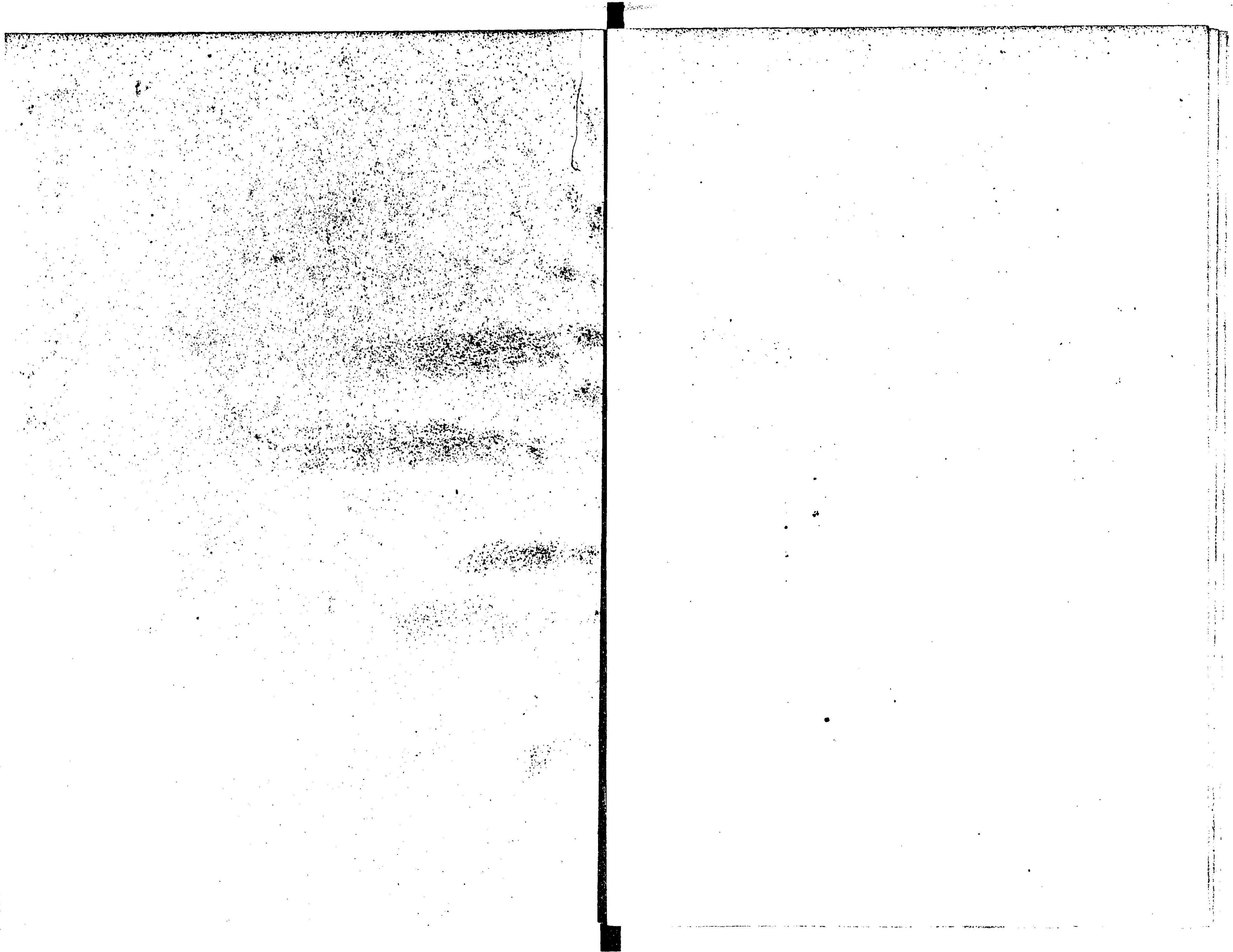
吉田石版印刷所

東京市淺草區猿屋町十七番地

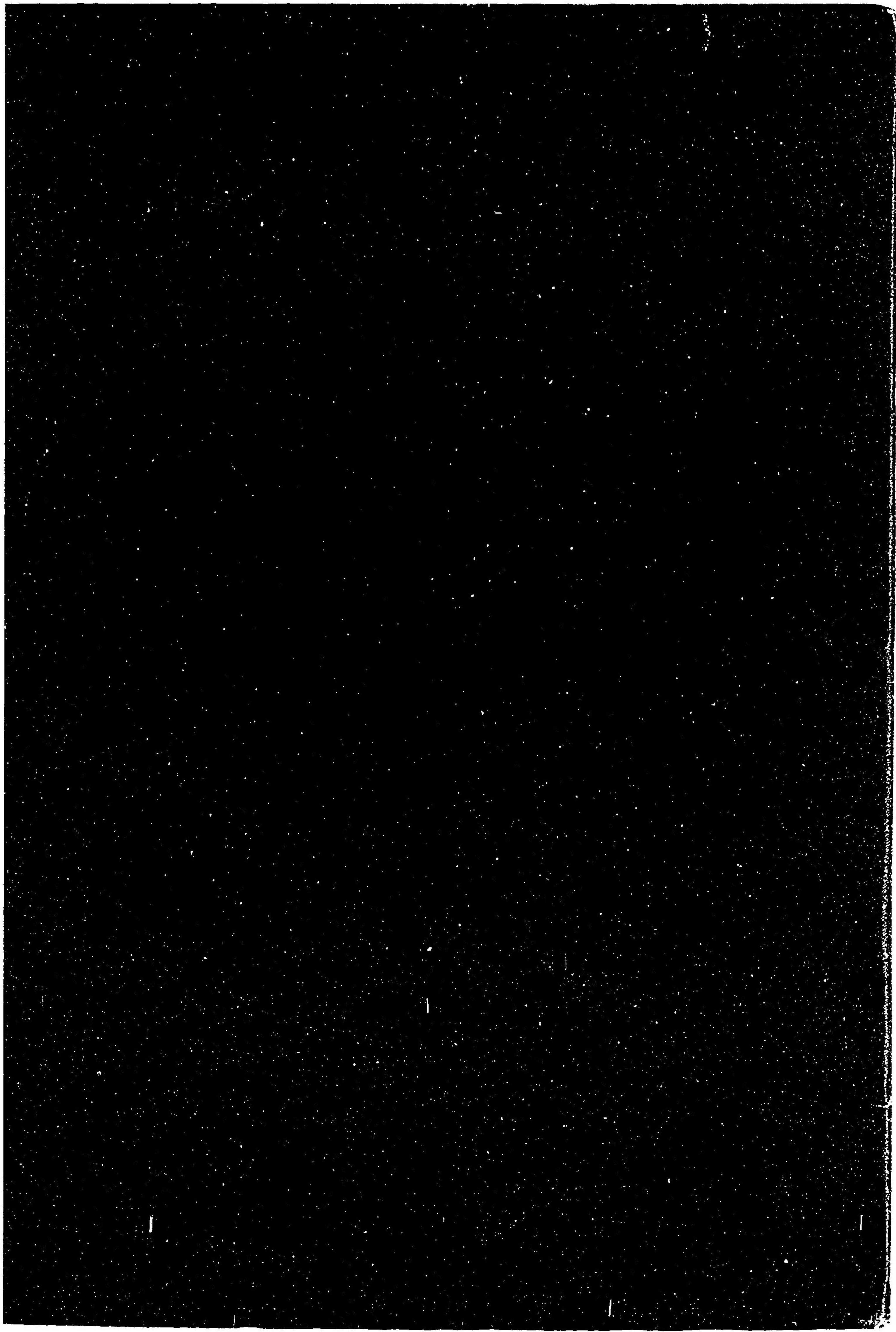
發行所

東京市淺草區猿屋町十七番地

同仁社



34
263



34

263

072304-000-2

34-263

絣之泉 (絣柄組立応用)

頼本 剛 / 編

M37

CEG-0054



